

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		研究科の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン トウヨウダイガク 学校法人 東洋大学							
フリガナ 大学の名称		トウヨウダイガクダイガクイン 東洋大学大学院 (TOYO UNIVERSITY Graduate School)							
大学本部の位置		東京都文京区白山5丁目2番20号							
大学の目的		本学大学院は、本学建学の精神に則り、東西学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		①本学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を受け継ぐとともに、理学に基づいた基礎的な自然科学の法則や考え方を理解し、それを科学・技術の分野に応用することにより、環境と調和のとれた高度な専門能力・創造力・人間性豊かな倫理観を備えた、高度の専門的職業人材および研究者・教育者を養成する。 ②教育研究上の習得目標は、以下の2つになる。 1. 理学と工学を融合した理工学の専門知識を養う。 ・理学的思考に基づいた問題発見能力 ・科学的問題解決能力 ・境界領域や新しい分野をも開拓しうる柔軟性 2. 実践能力を獲得する。 ・グローバルな視点とローカルな価値観を理解する国際的視野 ・専門技術者・研究者・教育者としての社会的役割の理解と行動 ・自らの考えを伝えるコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力 ・研究活動を自ら推進できる実践能力 ③博士前期課程においては、ものづくりを基盤とした製造業や建設業等の専門技術職・研究職、公務員、教員を主要職種として想定している。 ものづくり基盤技術などの次世代の産業見通しに取り上げられたフロンティア分野へ、専門的な技術者としての就職を目指す。 博士後期課程においては、それぞれの分野に特化した研究職としての進路を想定している。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 理工学部
	理工学研究科 (Graduate School of Science and Engineering) (博士前期課程)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	生体医工学専攻 (Master Course of Biomedical Engineering)	2	18	—	36	修士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	応用化学専攻 (Master Course of Applied Chemistry)	2	12	—	24	修士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上	
	機能システム専攻 (Master Course of Advanced Mechatronics Systems)	2	15	—	30	修士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上	
	電気電子情報専攻 (Master Course of Electricity, Electronics and Communications)	2	11	—	22	修士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上	
	都市環境デザイン専攻 (Master Course of Civil and Environmental Engineering)	2	8	—	16	修士 (工学)	平成26年4月 第1年次	同上	
	建築学専攻 (Master Course of Architecture)	2	14	—	28	修士 (工学)	平成26年4月 第1年次	同上	

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
理工学研究科 (Graduate School of Science and Engineering) (博士後期課程)							
生体医工学専攻 (Doctor Course of Biomedical Engineering)	3	3	—	9	博士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上
応用化学専攻 (Doctor Course of Applied Chemistry)	3	3	—	9	博士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上
機能システム専攻 (Doctor Course of Advanced Mechatronics Systems)	3	3	—	9	博士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上
電気電子情報専攻 (Doctor Course of Electricity, Electronics and Communications)	3	3	—	9	博士 (理工学)	平成26年4月 第1年次	同上
建築・都市デザイン専攻 (Doctor Course of Architecture, Civil and Environmental System Design)	3	3	—	9	博士 (工学)	平成26年4月 第1年次	同上
計		93		201			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		工学研究科(廃止) (△109) ※平成26年4月学生募集停止					
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	理工学研究科 生体医工学専攻 (博士前期課程)	27科目	17科目	0科目	44科目	30単位	
	応用化学専攻 (博士前期課程)	30科目	25科目	0科目	55科目	30単位	
	機能システム専攻 (博士前期課程)	23科目	17科目	0科目	40科目	30単位	
	電気電子情報専攻 (博士前期課程)	26科目	25科目	0科目	51科目	30単位	
	都市環境デザイン専攻 (博士前期課程)	20科目	9科目	0科目	29科目	30単位	
	建築学専攻 (博士前期課程)	21科目	16科目	0科目	37科目	30単位	
	生体医工学専攻 (博士後期課程)	6科目	1科目	0科目	7科目	0単位	
	応用化学専攻 (博士後期課程)	6科目	1科目	0科目	7科目	0単位	
	機能システム専攻 (博士後期課程)	6科目	1科目	0科目	7科目	0単位	
	電気電子情報専攻 (博士後期課程)	6科目	1科目	0科目	7科目	0単位	
	建築・都市デザイン専攻 (博士後期課程)	6科目	1科目	0科目	7科目	0単位	

		学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
教 員 組	新 設 分	理工学研究科 生体医工学専攻 (博士前期課程)	10人 (10)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	0人 (0)
		生体医工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		応用化学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		応用化学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		機能システム専攻 (博士前期課程)	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		機能システム専攻 (博士後期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		電気電子情報専攻 (博士前期課程)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		電気電子情報専攻 (博士後期課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		都市環境デザイン専攻 (博士前期課程)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (7)	0 (0)	0 (0)
		建築学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	2 (2)
		建築・都市デザイン専攻 (博士後期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		計	44 (43)	16 (16)	1 (1)	0 (0)	61 (60)	0 (0)	6 (6)
組 の 概 要	既 設 分	大学院 文学研究科 哲学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	9 (9)
		哲学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (2)
		インド哲学仏教学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	6 (6)
		インド哲学仏教学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		国文学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		国文学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		中国哲学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	3 (3)
		中国哲学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		英文学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		英文学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		史学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
		史学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		教育学専攻 (博士前期課程)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	8 (8)
		教育学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		英語コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (2)
		英語コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		社会学研究科 社会学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	5 (5)
		社会学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	1 (1)
		社会心理学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)
		社会心理学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科 私法学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	4 (4)

	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等			
		教授	准教授	講師	助教	計		助手		
教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	私法学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	
		公法学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
		公法学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	
		経営学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	
		経営学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		ビジネス・会計ファイナンス専攻 (博士前期課程)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	33 (33)	
		ビジネス・会計ファイナンス専攻 (博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		マーケティング専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
		マーケティング専攻 (博士後期課程)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	
		経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	21 (21)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	3 (3)	
		経済学専攻 (博士後期課程)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
		公民連携専攻 (修士課程)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	13 (13)	
		国際地域学研究科 国際地域学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	1 (1)	
		国際地域学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
		国際観光学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
		国際観光学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		生命科学研究科 生命科学専攻 (博士前期課程)	25 (25)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	0 (0)	
		生命科学専攻 (博士後期課程)	23 (23)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)	
		福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	4 (4)	
		社会福祉学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	
		福祉社会システム専攻 (修士課程)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	10 (10)	
		ヒューマンデザイン専攻 (博士前期課程)	20 (20)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	4 (4)	
		ヒューマンデザイン専攻 (博士後期課程)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	
		人間環境デザイン専攻 (博士前期課程)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)	
		人間環境デザイン専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
		学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻 (博士前期課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
		バイオ・ナノサイエンス融合専攻 (博士後期課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		専門職大学院法務研究科 法務専攻 (法科大学院)	15 (15)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (19)	
			計	279 (279)	63 (63)	2 (2)	0 (0)	344 (344)	0 (0)	149 (149)
			合 計	323 (322)	79 (79)	3 (3)	0 (0)	405 (404)	0 (0)	155 (155)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体						
	事 務 職 員		326 人 (326)		117 人 (117)		443 人 (443)								
	技 術 職 員		0 (0)		61 (61)		61 (61)								
	図 書 館 専 門 職 員		31 (31)		10 (10)		41 (41)								
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		9 (9)		9 (9)								
	計		357 (357)		197 (197)		554 (554)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体				
	校 舎 敷 地		290,970.80㎡		0㎡		0㎡		290,970.80㎡						
	運 動 場 用 地		471,911.81㎡		0㎡		0㎡		471,911.81㎡						
	小 計		762,882.61㎡		0㎡		0㎡		762,882.61㎡						
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡		0㎡						
	合 計		762,882.61㎡		0㎡		0㎡		762,882.61㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体				
			233,150.22㎡ (233,150.22㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		233,150.22㎡ (233,150.22㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体			
		269室		87室		476室		34室 (補助職員10人)		6室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数							
				理工学研究科				61 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		電子ジャーナルは 大学全体での共用分
	理工学研究科		51,376 [10,398] (46,877 [10,044])		1,169 [791] (1,169 [791])		50,924 [50,407] (50,924 [50,407])		6,484 (6,052)		2,609 (2,359)		0 (0)		
	計		51,376 [10,398] (46,600 [10,044])		1,169 [791] (1,169 [791])		50,924 [50,407] (50,924 [50,407])		6,484 (6,052)		2,609 (2,359)		0 (0)		
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体			
			17,154.34㎡			2,644			2,090,700						
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要									
			24,950.01㎡			野 球 場 、 サ ッ カ ー 場 テ ニ ス コ ー ト 等									
経費の見積り及び維持方法の概要	理工学研究科 (博士前期課程)	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			教員1人当たり研究費等			(千円) 教 授 : 694 准教授 : 641 講 師 : 589	(千円) 教 授 : 694 准教授 : 641 講 師 : 589	—	—	—	—				
			共 同 研 究 費 等			55,000千円	55,000千円	—	—	—	—				
			図 書 購 入 費			0千円	601千円	1,400千円	—	—	—		—		
			設 備 購 入 費			0千円	318千円	634千円	—	—	—		—		
		学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
				1,070千円	800千円	—	—	—	—						
	理工学研究科 (博士後期課程)	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			教員1人当たり研究費等			(千円) 教 授 : 694 准教授 : 641 講 師 : 589	(千円) 教 授 : 694 准教授 : 641 講 師 : 589	(千円) 教 授 : 694 准教授 : 641 講 師 : 589	—	—	—				
			共 同 研 究 費 等			55,000千円	55,000千円	55,000千円	—	—	—				
			図 書 購 入 費			0千円	601千円	1,400千円	1,612千円	—	—		—		
			設 備 購 入 費			0千円	318千円	634千円	683千円	—	—		—		
		学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
				1,020千円	750千円	750千円	—	—	—						
	学生納付金以外の維持方法の概要					手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。									

	大 学 の 名 称 東洋大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
既	大学院 修士・博士前期課程 文学研究科 哲学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	1.40	昭和27年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
	インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	1.50	昭和27年度	同上
設	国文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.50	昭和27年度	同上
	中国哲学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.50	昭和29年度	同上
	英文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.30	昭和31年度	同上
	史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.74	昭和42年度	同上
	教育学専攻	2	20	—	40	修士(教育学)	0.22	平成6年度	同上
	英語コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士 (英語コミュニケーション)	0.40	平成16年度	同上
	社会学研究科 社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.60	昭和34年度	同上
大	社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士 (社会福祉学)	—	昭和41年度	同上
	福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)	—	平成8年度	同上
	社会心理学専攻	2	12	—	24	修士 (社会心理学)	0.24	平成16年度	同上
	法学研究科 私法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.80	昭和39年度	同上
	公法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.85	昭和51年度	同上
	経営学研究科 経営学専攻	2	10	—	20	修士(経営学)	1.00	昭和47年度	同上
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.52	平成18年度	同上
	マーケティング専攻	2	10	—	20	修士 (マーケティング)	0.95	平成22年度	同上
	工学研究科 機能システム専攻	2	24	—	48	修士(工学)	0.83	平成17年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地
	バイオ・応用化学専攻	2	20	—	40	修士(工学)	0.52	平成17年度	同上
の	環境・デザイン専攻	2	18	—	36	修士(工学)	0.88	平成17年度	同上
	情報システム専攻	2	23	—	46	修士(工学)	0.60	平成17年度	同上
	経済学研究科 経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.45	昭和51年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
	公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.54	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
	国際地域学研究科 国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域学)	0.69	平成13年度	同上
	国際観光学専攻	2	10	—	20	修士 (国際観光学)	0.50	平成17年度	同上
	生命科学研究科 生命科学専攻	2	20	—	35	修士 (生命科学)	1.70	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号
	福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又 は修士(ソーシャル ワーク)	0.55	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
	福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会学)又は修 士(社会福祉学)	0.30	平成18年度	同上
	ヒューマンデザイン専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又 は修士(健康デザイ ン学)	0.30	平成18年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
状									
況									

平成18年4月より
学生募集停止

平成18年4月より
学生募集停止

平成25年4月入学
定員変更(15→
20)

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既	人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境デザイン学)	0.50	平成21年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
	学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナノサイエンス融合)	1.29	平成23年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	大学院 博士後期課程 文学研究科 哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
設	インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和29年度	同上	
	国文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	1.10	昭和29年度	同上	
	中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上	
大	英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和39年度	同上	
	史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	平成11年度	同上	
	教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
学	英語コミュニケーション専攻	3	5	—	15	博士 (英語コミュニケーション)	0.13	平成19年度	同上	
	社会学研究科 社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.77	昭和34年度	同上	
	社会心理学専攻	3	5	—	15	博士 (社会心理学)	0.13	平成18年度	同上	
等	社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士 (社会福祉学)	—	昭和53年度	同上	平成18年4月より 学生募集停止
	法学研究科 私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.13	昭和41年度	同上	
	公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.20	平成12年度	同上	
の	経営学研究科 経営学専攻	3	5	—	15	博士(経営学)	0.13	平成11年度	同上	
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	5	—	15	博士(経営学)又は博 士(会計・ファイナ ンス)	0.20	平成22年度	同上	
	マーケティング専攻	3	3	—	6	博士 (マーケティング)	0.00	平成24年度	同上	
状	工学研究科 機能システム専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.10	平成17年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	バイオ・応用化学専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.22	平成17年度	同上	
	環境・デザイン専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.10	平成17年度	同上	
況	情報システム専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.22	平成17年度	同上	
	経済学研究科 経済学専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	0.55	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際地域学研究科 国際地域学専攻	3	5	—	15	博士 (国際地域学)	0.26	平成15年度	同上	
	国際観光学専攻	3	3	—	9	博士 (国際観光学)	0.55	平成23年度	同上	
	生命科学研究科 生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (生命科学)	0.41	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又は博 士(リハビリテーション)	0.73	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ヒューマンデザイン専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又は博 士(健康デザイン学)	0.60	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
	人間環境デザイン専攻	3	4	—	12	博士 (人間環境デザイン学)	0.08	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.83	平成19年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	専門職大学院 法務研究科 法務専攻(法科大学院)	3	40	—	120	法務博士 (専門職)	0.22	平成16年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既	文学部 第1部 哲学科	4	100	—	250	学士(文学)	1.15	昭和24年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成25年4月入学 定員変更 (50→ 100)
	東洋思想文化学科	4	100	—	100	学士(文学)	1.19	平成25年度	同上	
設	インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和24年度	同上	平成25年4月より 学生募集停止
	中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和24年度	同上	平成25年4月より 学生募集停止
大	日本文学文化学科	4	190	—	760	学士(文学)	1.21	平成12年度	同上	
	英米文学科	4	120	—	480	学士(文学)	1.15	昭和24年度	同上	
学	英語コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.19	平成12年度	同上	
	史学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.20	昭和24年度	同上	
等	教育学科人間発達専攻	4	60	—	240	学士(教育学)	1.24	平成20年度	同上	
	教育学科初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.97	平成20年度	同上	
の	経済学部 第1部 経済学科	4	230	—	920	学士(経済学)	1.14	昭和25年度	同上	
	国際経済学科	4	175	—	700	学士(経済学)	1.19	平成12年度	同上	
状	総合政策学科	4	170	—	680	学士(経済学)	1.17	平成20年度	同上	
	経営学部 第1部 経営学科	4	310	—	1,240	学士(経営学)	1.19	昭和41年度	同上	
況	マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.13	昭和41年度	同上	
	会計ファイナンス学科	4	210	—	840	学士(経営学)	1.21	平成18年度	同上	
	法学部 第1部 法律学科	4	250	—	1,000	学士(法学)	1.19	昭和31年度	同上	
	企業法学科	4	250	—	1,000	学士(法学)	1.18	昭和40年度	同上	
	社会学部 第1部 社会学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.14	昭和34年度	同上	
	社会文化システム学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	
	メディアコミュニケーション学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.18	平成12年度	同上	
	社会心理学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.18	平成12年度	同上	
	社会福祉学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.15	平成4年度	同上	
	理工学部 機械工学科	4	150	—	600	学士(理工学)	1.15	昭和36年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	生体医工学科	4	100	—	400	学士(理工学)	1.24	平成21年度	同上	
	電気電子情報工学科	4	110	—	440	学士(理工学)	1.20	昭和36年度	同上	
	応用化学科	4	120	—	480	学士(理工学)	1.12	昭和36年度	同上	
	都市環境デザイン学科	4	100	—	340	学士(工学)	1.24	昭和37年度	同上	
	建築学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.21	昭和37年度	同上	平成25年4月入学 定員変更 (80→ 100)
	工学部 情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和51年度	同上	
	コンピュータショナル工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成13年度	同上	平成21年4月から 学生募集停止
	機能ロボティクス学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	同上	平成21年4月から 学生募集停止

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既	国際地域学部 国際地域学科国際地域専攻	4	180	—	720	学士 (国際地域学)	1. 16	平成22年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際地域学科学地域総合専攻	4	110	—	440	学士 (国際地域学)	0. 98	平成22年度	同上	
	国際観光学科	4	200	—	800	学士 (国際観光学)	1. 21	平成13年度	同上	
設	生命科学部 生命科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1. 20	平成 9 年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	応用生物科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1. 13	平成21年度	同上	
	食環境科学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成21年度	同上	
大	ライフデザイン学部 生活支援学科生活支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	1. 19	平成21年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	平成25年4月より 学生募集停止
	生活支援学科学子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0. 99	平成21年度	同上	
	健康スポーツ学科	4	150	—	600	学士 (健康スポーツ学)	1. 20	平成17年度	同上	
学	人間環境デザイン学科	4	150	—	600	学士 (人間環境デザイン 学)	1. 18	平成18年度	同上	
	総合情報学部 総合情報学科	4	260	—	1,040	学士(情報学)	1. 06	平成21年度	埼玉県川越市大字 鯉井字中野台2100番地	
	食環境学部 食環境科学科フード・サイエンス専攻	4	70	—	70	学士 (食環境科学)	1. 18	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
等	食環境科学科スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	50	学士 (食環境科学)	1. 16	平成25年度	同上	
	健康栄養学科	4	100	—	100	学士 (食環境科学)	1. 00	平成25年度	同上	
	文学部 第2部 東洋思想文化学科	4	30	—	30	学士(文学)	0. 96	平成25年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
の	インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和31年度	同上	平成25年4月より 学生募集停止
	日本文学文化学科	4	80	—	320	学士(文学)	1. 03	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	—	160	学士(教育学)	1. 01	昭和39年度	同上	
状	経済学部 第2部 経済学科	4	150	—	600	学士(経済学)	1. 07	昭和32年度	同上	
	経営学部 第2部 経営学科	4	110	—	440	学士(経営学)	1. 04	昭和41年度	同上	
	法学部 第2部 法律学科	4	120	—	480	学士(法学)	1. 02	昭和31年度	同上	
況	社会学部 第2部 社会学科	4	130	—	520	学士(社会学)	1. 00	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	45	3年次 10	200	学士(社会学)	0. 79	平成13年度	同上	
	通信教育部 文学部 日本文学文化学科	4	1,000	—	4,000	学士(文学)	0. 11	昭和39年度	同上	
	法学部 法律学科	4	1,000	—	4,000	学士(法学)	0. 04	昭和41年度	同上	
附属施設の概要		特になし								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
授業工 科学 目 共 通 分 野	解析学	1・2後		2		○			1					兼1 兼1	隔年
	光科学	1・2後		2		○									
	シミュレーション学	1・2後		2		○									
	応用物理学	1・2前		2		○			1					兼1 兼2 兼2	隔年 隔年 隔年
	プラズマ物理学	1・2前		2		○				1					
	物性物理学	1・2前		2		○									
	ナノサイエンス	1・2後		2		○									
	エコロジーと化学	1・2前		2		○									
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	1	0	0	0	兼6	—
授生 業物 科学 目 分 野	数理生物学特論	1・2前		2		○			1						
	生物模倣特論	1・2前		2		○			1						
	生体流体力学特論	1・2後		2		○			1						
	運動科学特論	1・2後		2		○			1						
	人間工学特論	1・2前		2		○			1						
	生理学特論	1・2前		2		○			1						
	生物学特論	1・2後		2		○			1						
	生体防御学特論	1・2前		2		○			1						
	分子・遺伝生物学特論	1・2後		2		○			1						
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			5	0	0	0	0	0	—
授医 業工 科学 目 分 野	医用システム工学特論	1・2前		2		○			1						
	医療機器安全学特論	1・2後		2		○			1						
	医工学特論	1・2後		2		○			1						
	基礎医学特論	1・2前		2		○			1						
	計測科学特論	1・2後		2		○			1						
	生体情報工学特論	1・2前		2		○			1						
	ナノメディスン特論	1・2後		2		○			1						
	医工材料力学特論	1・2前		2		○			1						
	量子ビーム医工学特論	1・2後		2		○				1					
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			4	1	0	0	0	0	—
科共 目通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○			1					兼1	集中
	ベンチャー・サイエンス特論	1・2後		2			○							兼2	集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0	兼3	—

研究指導科目	生物科学分野	生物科学特別研究Ⅰ	1前	2			○		5								
		生物科学特別研究Ⅱ	1後	2			○		5								
		生物科学特別研究Ⅲ	2前		2		○		5								
		生物科学特別研究Ⅳ	2後		2		○		5								
		生物科学特別輪講Ⅰ	1前	2			○		5								
		生物科学特別輪講Ⅱ	1後	2			○		5								
		生物科学特別輪講Ⅲ	2前		2		○		5								
		生物科学特別輪講Ⅳ	2後		2		○		5								
	小計（8科目）		—	8	8	0	—		5	0	0	0	0	0	—		
	医工学分野	医工学特別研究Ⅰ	1前	2				○		4	1						
		医工学特別研究Ⅱ	1後	2				○		4	1						
		医工学特別研究Ⅲ	2前		2			○		4	1						
		医工学特別研究Ⅳ	2後		2			○		4	1						
		医工学特別輪講Ⅰ	1前	2				○		4	1						
		医工学特別輪講Ⅱ	1後	2				○		4	1						
		医工学特別輪講Ⅲ	2前		2			○		4	1						
		医工学特別輪講Ⅳ	2後		2			○		4	1						
	小計（8科目）		—	8	8	0	—		4	1	0	0	0	0	—		
合計（44科目）			—	16	72	0	—		10	1	0	0	0	0	兼9		
学位又は称号		修士（理工学）			学位又は学科の分野			理学関係・工学関係									
修了要件及び履修方法								授業期間等									
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、理工学共通分野2単位を含む30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 1．研究指導科目の履修は、生物科学分野もしくは医工学分野のどちらかの分野を選択し、原則として、特別研究Ⅰ～Ⅳおよび特別輪講Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 2．研究指導科目の履修分野は、修了まで変更することはできない。 3．本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。 修得した単位は修了要件の単位に充当する。								1 学年の学期区分				2 学期					
								1 学期の授業期間				1 5 週					
								1 時限の授業時間				9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科生体医工学専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特殊 研究	生体医工学特殊研究Ⅰ	1前				○			8	1				
	生体医工学特殊研究Ⅱ	1後				○			8	1				
	生体医工学特殊研究Ⅲ	2前				○			8	1				
	生体医工学特殊研究Ⅳ	2後				○			8	1				
	生体医工学特殊研究Ⅴ	3前				○			8	1				
	生体医工学特殊研究Ⅵ	3後				○			8	1				
	小計(6科目)	—	0	0	0	—	—	—	8	1	0	0	0	—
研究 指導	生体医工学研究指導	1～3 前・後					○		8	1				
	小計(1科目)	—	0	0	0	—	—	—	8	1	0	0	0	—
合計(7科目)		—	0	0	0	—	—	—	8	1	0	0	0	
学位又は称号		博士(理工学)		学位又は学科の分野			理学関係・工学関係							
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
【修了要件】 博士後期課程においては、5年（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 博士論文の作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。 原則として生体医工学特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 生体医工学研究指導は、各学期で履修登録しなければならない。 授業科目は指導教授の指示により履修することができる。 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻もしくは他の研究科の授業科目を履修することができる。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学研究科応用化学専攻博士前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
授業工 科学 目 共 通 分 野	解析学	1・2後		2		○									兼1	隔年
	光科学	1・2後		2		○									兼1	
	シミュレーション学	1・2後		2		○									兼1	
	応用物理学	1・2前		2		○									兼1	隔年
	プラズマ物理学	1・2前		2		○									兼1	
	物性物理学	1・2前		2		○									兼1	
	ナノサイエンス	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	エコロジーと化学	1・2前		2		○			2							隔年
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	0	0	0	0	兼7	—	
授基 業礎 科目 化学 系	無機化学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	有機化学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年・集中
	物理化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	分析化学特論	1・2前		2		○			1						兼1	隔年・集中
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			4	0	0	0	0	兼2	—	
授環 業境 科目 化学 系	大気化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	環境化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	フォトケミストリー特論	1・2後		2		○			1							隔年
	グリーンエンジニアリング特論	1・2前		2		○			1							隔年・集中
	グリーン合成化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	反応化学特論	1・2後		2		○									兼1	隔年・集中
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	0	0	0	0	兼1	—	
授バ 業イ 科オ 目・ 健康 化学 系	遺伝子工学特論	1・2前		2		○				1						隔年
	応用生物有機化学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	バイオプロセスエンジニアリング特論	1・2後		2		○			1							隔年・集中
	応用微生物化学特論	1・2前		2		○									兼1	隔年
	バイオ・食品機器分析特論	1・2前		2		○									兼1	隔年
	食品・バイオ特論	1・2前		2		○				1						隔年
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			2	1	0	0	0	兼1	—	
授物 業質 科目 化学 系	有機材料科学特論	1・2前		2		○			1						兼1	隔年
	無機材料化学特論	1・2後		2		○			1							隔年・集中
	結晶化学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	固体材料化学特論	1・2後		2		○			1							隔年・集中
	高分子材料科学特論	1・2前		2		○									兼1	隔年・集中
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			3	0	0	0	0	兼2	—	
科共 目通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○									兼2	集中
	ベンチャー・サイエンス特論	1・2後		2			○								兼2	集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	

研究指導科目	環境化学分野	環境化学特別研究Ⅰ	1前	2			○		2								
		環境化学特別研究Ⅱ	1後	2			○		2								
		環境化学特別研究Ⅲ	2前		2		○		2								
		環境化学特別研究Ⅳ	2後		2		○		2								
		環境化学特別輪講Ⅰ	1前	2			○		2								
		環境化学特別輪講Ⅱ	1後	2			○		2								
		環境化学特別輪講Ⅲ	2前		2		○		2								
		環境化学特別輪講Ⅳ	2後		2		○		2								
		小計（8科目）	—	8	8	0		—		2	0	0	0	0			—
	バイオ・健康化学分野	バイオ・健康化学特別研究Ⅰ	1前	2				○		2	1						
		バイオ・健康化学特別研究Ⅱ	1後	2				○		2	1						
		バイオ・健康化学特別研究Ⅲ	2前		2			○		2	1						
		バイオ・健康化学特別研究Ⅳ	2後		2			○		2	1						
		バイオ・健康化学特別輪講Ⅰ	1前	2				○		2	1						
		バイオ・健康化学特別輪講Ⅱ	1後	2				○		2	1						
		バイオ・健康化学特別輪講Ⅲ	2前		2			○		2	1						
		バイオ・健康化学特別輪講Ⅳ	2後		2			○		2	1						
		小計（8科目）	—	8	8	0		—		2	1	0	0	0	0		—
	物質化学分野	物質化学特別研究Ⅰ	1前	2				○		3							
		物質化学特別研究Ⅱ	1後	2				○		3							
		物質化学特別研究Ⅲ	2前		2			○		3							
		物質化学特別研究Ⅳ	2後		2			○		3							
		物質化学特別輪講Ⅰ	1前	2				○		3							
		物質化学特別輪講Ⅱ	1後	2				○		3							
		物質化学特別輪講Ⅲ	2前		2			○		3							
		物質化学特別輪講Ⅳ	2後		2			○		3							
		小計（8科目）	—	8	8	0		—		3	0	0	0	0	0		—
合計（55科目）			—	24	86	0	—		8	1	0	0	0	0	兼15		
学位又は称号		修士（理工学）			学位又は学科の分野			理学関係・工学関係									
修了要件及び履修方法									授業期間等								
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、理工学共通分野2単位を含む30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 1．研究指導科目の履修は、環境化学分野またはバイオ・健康化学分野または物質化学分野のいずれかの分野を選択し、原則として、特別研究Ⅰ～Ⅳおよび特別輪講Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 2．研究指導科目の履修分野は、修了まで変更することはできない。 3．本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。 修得した単位は修了要件の単位に充当する									1 学年の学期区分			2 学期					
									1 学期の授業期間			1 5 週					
									1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科応用化学専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特殊 研究	応用化学特殊研究Ⅰ	1前				○			6	1				
	応用化学特殊研究Ⅱ	1後				○			6	1				
	応用化学特殊研究Ⅲ	2前				○			6	1				
	応用化学特殊研究Ⅳ	2後				○			6	1				
	応用化学特殊研究Ⅴ	3前				○			6	1				
	応用化学特殊研究Ⅵ	3後				○			6	1				
	小計（6科目）	—	0	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	—
研究 指導	応用化学研究指導	1～3 前・後					○		5	1				
	小計（1科目）	—	0	0	0	—	—	—	5	1	0	0	0	—
合計（7科目）		—	0	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	
学位又は称号		博士（理工学）		学位又は学科の分野			理学関係・工学関係							
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
【修了要件】 博士後期課程においては、5年（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 博士論文の作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。 原則として応用化学特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 応用化学研究指導は、各学期で履修登録しなければならない。 授業科目は指導教授の指示により履修することができる。 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻もしくは他の研究科の授業科目を履修することができる。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科機能システム専攻博士前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
授理 業工 科学 目共 通分 野	解析学	1・2後		2		○								兼1	隔年
	光科学	1・2後		2		○				1					
	シミュレーション学	1・2後		2		○				1					
	応用物理学	1・2前		2		○								兼1	
	プラズマ物理学	1・2前		2		○								兼1	
	物性物理学	1・2前		2		○								兼1	
	ナノサイエンス	1・2後		2		○								兼2	
	エコロジーと化学	1・2前		2		○								兼2	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	2	0	0	0	兼7	—
授機 械科 科学 目分 野	ダイナミクス特論	1・2前		2		○			1						隔年
	材料科学特論	1・2後		2		○			1						
	エアロスペース科学特論	1・2前		2		○				1					隔年
	流体物理学特論	1・2前		2		○				1					隔年
	熱統計力学特論	1・2後		2		○			1						隔年
	電磁気学特論	1・2前		2		○				1					
	形の科学特論	1・2後		2		○				1					隔年
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			3	3	0	0	0	0
授機 械融 合科 目分 野	ロボット工学特論	1・2前		2		○			1						隔年
	制御工学特論	1・2後		2		○				1					
	知能システム工学特論	1・2前		2		○					1				隔年
	先端生産加工システム特論	1・2後		2		○			1						
	センシング工学特論	1・2後		2		○			1						隔年
	マイクロメカトロニクス特論	1・2前		2		○			1						
	情報記憶機構特論	1・2前		2		○			1						隔年
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			4	1	1	0	0	0
科共 目通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○			1					兼1	集中
	ベンチャー・サイエンス特論	1・2後		2			○		1					兼1	集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			2	0	0	0	0	兼2	—

研究指導科目	機械科学分野	機械科学特別研究Ⅰ	1前	2			○		3	3					
		機械科学特別研究Ⅱ	1後	2			○		3	3					
		機械科学特別研究Ⅲ	2前		2		○		3	3					
		機械科学特別研究Ⅳ	2後		2		○		3	3					
		機械科学特別輪講Ⅰ	1前	2			○		3	3					
		機械科学特別輪講Ⅱ	1後	2			○		3	3					
		機械科学特別輪講Ⅲ	2前		2		○		3	3					
		機械科学特別輪講Ⅳ	2後		2		○		3	3					
	小計（8科目）		—	8	8	0	—		3	3	0	0	0	0	—
	機械融合分野	機械融合特別研究Ⅰ	1前	2			○		4	1	1				
		機械融合特別研究Ⅱ	1後	2			○		4	1	1				
		機械融合特別研究Ⅲ	2前		2		○		4	1	1				
		機械融合特別研究Ⅳ	2後		2		○		4	1	1				
		機械融合特別輪講Ⅰ	1前	2			○		4	1	1				
		機械融合特別輪講Ⅱ	1後	2			○		4	1	1				
		機械融合特別輪講Ⅲ	2前		2		○		4	1	1				
		機械融合特別輪講Ⅳ	2後		2		○		4	1	1				
	小計（8科目）		—	8	8	0	—		4	1	1	0	0	0	—
合計（40科目）			—	16	64	0	—		7	4	1	0	0	兼9	
学位又は称号		修士（理工学）			学位又は学科の分野			理学関係・工学関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、理工学共通分野2単位を含む30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 1. 研究指導科目の履修は、機械科学分野もしくは機械融合分野のどちらかの分野を選択し、原則として、特別研究Ⅰ～Ⅳおよび特別輪講Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 2. 研究指導科目の履修分野は、修了まで変更することはできない。 3. 本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。 修得した単位は修了要件の単位に充当する。								1 学年の学期区分			2 学期				
								1 学期の授業期間			1 5 週				
								1 時限の授業時間			9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科機能システム専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特殊 研究	機能システム特殊研究Ⅰ	1前				○			5	2				
	機能システム特殊研究Ⅱ	1後				○			5	2				
	機能システム特殊研究Ⅲ	2前				○			5	2				
	機能システム特殊研究Ⅳ	2後				○			5	2				
	機能システム特殊研究Ⅴ	3前				○			5	2				
	機能システム特殊研究Ⅵ	3後				○			5	2				
	小計（6科目）	—	0	0	0	—	—	—	5	2	0	0	0	—
研究 指導	機能システム研究指導	1～3 前・後					○		4					
	小計（1科目）	—	0	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	—
合計（7科目）		—	0	0	0	—	—	—	5	2	0	0	0	
学位又は称号		博士（理工学）		学位又は学科の分野		理学関係・工学関係								
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
【修了要件】 博士後期課程においては、5年（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 博士論文の作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。 原則として機能システム特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 機能システム研究指導は、各学期で履修登録しなければならない。 授業科目は指導教授の指示により履修することができる。 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻もしくは他の研究科の授業科目を履修することができる。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
授業工 科学 目共 通分 野	解析学	1・2後		2		○								兼1	隔年
	光科学	1・2後		2		○								兼1	
	シミュレーション学	1・2後		2		○								兼1	
	応用物理学	1・2前		2		○								兼1	
	プラズマ物理学	1・2前		2		○								兼1	隔年
	物性物理学	1・2前		2		○			1					兼2	
	ナノサイエンス	1・2後		2		○								隔年	
	エコロジーと化学	1・2前		2		○								兼2	隔年
小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	1	0	0	0	兼8	—	
授基 業礎 科分 目野	電磁気学特論	1・2前		2		○			1						隔年
	電気回路特論	1・2前		2		○			1						隔年
	電子回路特論	1・2後		2		○				1					隔年
	応用解析学特論	1・2後		2		○				1					—
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0	0	—
授制エ 御ネ 科分 目野 ギー ・	高電圧・放電物理特論	1・2前		2		○			1						隔年
	パワーエレクトロニクス特論	1・2後		2		○			1						隔年
	電力システム工学特論	1・2前		2		○			1						—
	エネルギー変換工学特論	1・2後		2		○			1						隔年
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			3	0	0	0	0	0	—
授クエ 業スレ 科分 目野 トロ ニ	半導体工学特論	1・2前		2		○			1						隔年
	光エレクトロニクス特論	1・2後		2		○			1						
	固体電子物性特論	1・2前		2		○				1					
	電子デバイス特論	1・2後		2		○			1						
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			3	1	0	0	0	0	—
授情 業報 科通 目信 分野	情報通信科学特論	1・2前		2		○			1						隔年
	画像情報処理特論	1・2後		2		○			1						
	電磁波工学特論	1・2前		2		○			1						
	色彩科学特論	1・2後		2		○				1					
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			3	1	0	0	0	0	—
科講専 目義攻 授特 業別	電気電子情報特別講義	1・2前		2		○			1						隔年
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			1	0	0	0	0	0	—
科共 目通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○								兼2	集中
	ベンチャー・サイエンス特論	1・2後		2			○							兼2	集中
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—

研究指導科目	エネルギー・制御分野	エネルギー・制御特別研究Ⅰ	1前	2			○		2							
		エネルギー・制御特別研究Ⅱ	1後	2			○		2							
		エネルギー・制御特別研究Ⅲ	2前		2		○		2							
		エネルギー・制御特別研究Ⅳ	2後		2		○		2							
		エネルギー・制御特別輪講Ⅰ	1前	2			○		2							
		エネルギー・制御特別輪講Ⅱ	1後	2			○		2							
		エネルギー・制御特別輪講Ⅲ	2前		2		○		2							
		エネルギー・制御特別輪講Ⅳ	2後		2		○		2							
		小計（8科目）	—	8	8	0	—		2	0	0	0	0	0	—	
	エレクトロニクス分野	エレクトロニクス特別研究Ⅰ	1前	2			○		3	1						
		エレクトロニクス特別研究Ⅱ	1後	2			○		3	1						
		エレクトロニクス特別研究Ⅲ	2前		2		○		3	1						
		エレクトロニクス特別研究Ⅳ	2後		2		○		3	1						
		エレクトロニクス特別輪講Ⅰ	1前	2			○		3	1						
		エレクトロニクス特別輪講Ⅱ	1後	2			○		3	1						
		エレクトロニクス特別輪講Ⅲ	2前		2		○		3	1						
		エレクトロニクス特別輪講Ⅳ	2後		2		○		3	1						
	小計（8科目）	—	8	8	0	—		3	1	0	0	0	0	—		
	情報通信分野	情報通信特別研究Ⅰ	1前	2			○		3	2						
情報通信特別研究Ⅱ		1後	2			○		3	2							
情報通信特別研究Ⅲ		2前		2		○		3	2							
情報通信特別研究Ⅳ		2後		2		○		3	2							
情報通信特別輪講Ⅰ		1前	2			○		3	2							
情報通信特別輪講Ⅱ		1後	2			○		3	2							
情報通信特別輪講Ⅲ		2前		2		○		3	2							
情報通信特別輪講Ⅳ		2後		2		○		3	2							
小計（8科目）	—	8	8	0	—		3	2	0	0	0	0	—			
合計（51科目）			—	24	78	0	—		9	3	0	0	0	兼12		
学位又は称号		修士（理工学）			学位又は学科の分野			理学関係・工学関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等								
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、基礎分野2単位および理工学共通分野2単位を含む30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				1 5 週				
								1 時限の授業時間				9 0 分				
【履修方法】 1. 研究指導科目の履修は、エネルギー・制御分野またはエレクトロニクス分野または情報通信分野のいずれかの分野を選択し、原則として、特別研究Ⅰ～Ⅳおよび特別輪講Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 2. 研究指導科目の履修分野は、修了まで変更することはできない。 3. 本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる。（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。 修得した単位は修了要件の単位に充当する。																

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科電気電子情報専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特殊 研究	電気電子情報特殊研究Ⅰ	1前				○			6	2				
	電気電子情報特殊研究Ⅱ	1後				○			6	2				
	電気電子情報特殊研究Ⅲ	2前				○			6	2				
	電気電子情報特殊研究Ⅳ	2後				○			6	2				
	電気電子情報特殊研究Ⅴ	3前				○			6	2				
	電気電子情報特殊研究Ⅵ	3後				○			6	2				
	小計（6科目）	—	0	0	0	—	—	—	6	2	0	0	0	—
研究 指導	電気電子情報研究指導	1～3 前・後					○		4	2				
	小計（1科目）	—	0	0	0	—	—	—	4	2	0	0	0	—
合計（7科目）		—	0	0	0	—	—	—	6	2	0	0	0	
学位又は称号		博士（理工学）		学位又は学科の分野		理学関係・工学関係								
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
【修了要件】 博士後期課程においては、5年（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 博士論文の作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。 原則として電気電子情報特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 電気電子情報研究指導は、各学期で履修登録しなければならない。 授業科目は指導教授の指示により履修することができる。 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻もしくは他の研究科の授業科目を履修することができる。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
授業科目	コンクリート工学特論	1・2前		2		○			1					隔年
	都市メンテナンス特論	1・2前		2		○			1					隔年
	耐震設計特論	1・2後		2		○			1					隔年
	都市ライフライン工学特論	1・2後		2		○			1					隔年
	地盤工学特論	1・2後		2		○			1					隔年
	地盤環境学特論	1・2後		2		○			1					隔年
	小計（6科目）	—	0	12	0	—	—	—	3	0	0	0	0	—
授業科目	水圏環境工学特論	1・2後		2		○			1					隔年
	流域圏環境システム特論	1・2前		2		○			1					隔年
	環境材料工学特論	1・2前		2		○			1					隔年
	都市環境政策学特論	1・2前		2		○				1				隔年
	環境経済特論	1・2前		2		○				1				隔年
	環境分析特論	1・2後		2		○				1				隔年
	小計（6科目）	—	0	12	0	—	—	—	3	1	0	0	0	—
授業科目	リモートセンシング特論	1・2後		2		○			1					隔年
	都市計画デザイン特論	1・2後		2		○				1				隔年
	交通マネジメント特論	1・2前		2		○				1				隔年
	社会経営学特論	1・2後		2		○				1				隔年
	プロジェクトマネジメント特論	1・2前		2		○				1				隔年
	小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	1	2	0	0	0	—
	小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	1	2	0	0	0	—
授業科目	都市環境デザイン特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					隔年・集中
	都市環境デザイン特別講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					隔年・集中
	小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	—	2	0	0	0	0	—
科目共通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○								兼2 集中
	ベンチャー・サイエンス特論	1・2後		2			○							兼2 集中
	小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	—
研究指導科目	都市環境デザイン特別研究Ⅰ	1前	2				○		5	2				
	都市環境デザイン特別研究Ⅱ	1後	2				○		5	2				
	都市環境デザイン特別研究Ⅲ	2前		2			○		5	2				
	都市環境デザイン特別研究Ⅳ	2後		2			○		5	2				
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅰ	1前	2				○		5	2				
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅱ	1後	2				○		5	2				
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅲ	2前		2			○		5	2				
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅳ	2後		2			○		5	2				
	小計（8科目）	—	8	8	0	—	—	—	5	2	0	0	0	—
合計（29科目）		—	8	50	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼4

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
修了要件及び履修方法		授業期間等	
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 1. 原則として、都市環境デザイン特別研究Ⅰ～Ⅳおよび都市環境デザイン特別演習Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 2. 本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。 修得した単位は修了要件の単位に充当する。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学研究科建築学専攻博士前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
授 業 系 画 ・ デ ザ イ ン	空間デザイン特論	1・2前		2		○			1					隔年 隔年 隔年 隔年	
	都市・建築特論	1・2後		2		○			1						
	建築計画特論	1・2前		2		○				1					
	生活空間計画特論	1・2前		2		○				1					
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		1	1	0	0	0	0	—
授 業 系 画 ・ デ ザ イ ン	構造デザイン特論	1・2後		2		○			1					隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年	
	木質構造学特論	1・2後		2		○			1						
	構造解析学特論	1・2後		2		○			1						
	構造材料学特論	1・2前		2		○				1					
	防災構造特論	1・2前		2		○									
	設備システムデザイン特論	1・2後		2		○							兼1		
	建築環境工学特論	1・2前		2		○			1						
	ファシリティマネジメント特論	1・2前		2		○			1						
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		3	1	0	0	0	兼1	—
授 業 系 画 ・ 都 市 マ ナ ジ メ ン ト	建築ストックマネジメント特論	1・2前		2		○			1					隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年	
	地域生産システム特論	1・2前		2		○			1						
	まちづくり計画特論	1・2前		2		○				1					
	建築・都市法規特論	1・2前		2		○									
	ビルディングシステム特論	1・2後		2		○			1						
	建設産業経営特論	1・2後		2		○			1						
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		2	1	0	0	0	0	—
授 業 系 画 ・ 専 攻 特 別	建築学特別講義Ⅰ	1・2後		2		○							兼1	隔年・集中 隔年・集中	
	建築学特別講義Ⅱ	1・2後		2		○							兼1		
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0		兼1
	科 目 通	サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前		2		○								兼2
ベンチャー・サイエンス特論		1・2後		2			○		1					兼1	集中
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		1	0	0	0	0	0	兼3
授 業 系 画 ・ シ ン タ ー ン シ ッ プ	特別設計演習Ⅰ	1前		2			○		3					集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中	
	特別設計演習Ⅱ	1後		2			○		3						
	インターンシップⅠ	1前		2			○		3						
	インターンシップⅡ	1前		2			○		3						
	インターンシップⅢ	2前		2			○		1						
	インターンシップⅣ	2前		2			○		1						
	インターンシップⅤ	2前		2			○		1						
		小計（7科目）	—	0	14	0	—		3	0	0	0	0	0	—
研 究 指 導 科 目	建築学特別研究Ⅰ	1前	2				○		6	3					
	建築学特別研究Ⅱ	1後	2				○		6	3					
	建築学特別研究Ⅲ	2前		2			○		6	3					
	建築学特別研究Ⅳ	2後		2			○		6	3					
	建築学特別演習Ⅰ	1前	2				○		6	3					
	建築学特別演習Ⅱ	1後	2				○		6	3					
	建築学特別演習Ⅲ	2前		2			○		6	3					
	建築学特別演習Ⅳ	2後		2			○		6	3					
		小計（8科目）	—	8	8	0	—		6	3	0	0	0	0	—
合計（37科目）		—	8	66	0	—		6	3	0	0	0	0	兼5	

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
修了要件及び履修方法		授業期間等	
【修了要件】 本課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査または特別研究課題（修士設計）の審査、および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 1. 原則として、建築学特別研究Ⅰ～Ⅳ・建築学特別演習Ⅰ～Ⅳは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。修士論文執筆もしくは特定課題研究（修士設計）の作成にあたっては、主指導教授の指導を受け修了見込セメスタ履修登録時に確定し、その後は変更できない。 2. 本表に掲げたものの他、主指導教授が教育研究上必要と認める時は、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。修得した単位は修了要件の単位に充当する。 3. 一級建築士受験の学歴要件を満たす学生で、大学院において一級建築士実務認定経験認定（意匠系は1年または2年、構造系・設備系は1年）を希望する場合、主指導教授の指導のもと別表に示す「財団法人 建築技術教育普及センター」より認定された、「インターンシップ（学内、あるいは学外）」「インターンシップ関連科目（演習）」「インターンシップ関連科目（講義）」の所定の単位数を履修する必要がある。 なお、「インターンシップⅠ～Ⅴ」のうち、博士前期課程の修了単位としてカウントすることができるのは4単位までである。		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学研究科建築・都市デザイン専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特殊 研究	建築・都市デザイン特殊研究Ⅰ	1前				○			10	3				
	建築・都市デザイン特殊研究Ⅱ	1後				○			10	3				
	建築・都市デザイン特殊研究Ⅲ	2前				○			10	3				
	建築・都市デザイン特殊研究Ⅳ	2後				○			10	3				
	建築・都市デザイン特殊研究Ⅴ	3前				○			10	3				
	建築・都市デザイン特殊研究Ⅵ	3後				○			10	3				
	小計（6科目）	—	0	0	0	—	—	—	10	3	0	0	0	—
研究 指導	建築・都市デザイン研究指導	1～3 前・後					○		6	1				
	小計（1科目）	—	0	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	—
合計（7科目）		—	0	0	0	—	—	—	10	3	0	0	0	
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野		工学関係								
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
【修了要件】 博士後期課程においては、5年（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したもの）にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上に在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 博士論文の作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。 原則として建築・都市デザイン特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各学期に1科目ずつ順を追って履修登録しなければならない。 建築・都市デザイン研究指導は、各学期で履修登録しなければならない。 授業科目は指導教授の指示により履修することができる。 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻もしくは他の研究科の授業科目を履修することができる。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 生体医工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前	2		○								兼1
		哲学	1・2・3・4前・後	2		○								兼3
		倫理学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		論理学	1・2・3・4前・後	2		○								兼4
		美術史	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		社会思想論	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		数学と思想	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		小計(8科目)	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼12
	自然・生命・環境・	天文学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		環境科学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		工学概論	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼8
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後	2		○			1					兼1
		歴史学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		文明論	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		科学史	1・2・3・4前・後	2		○								
		英語と文化	1・2・3・4前・後	2		○			1		1			オムニバス
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		中国語と文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前	2		○			1	1	1			オムニバス
		科学について英語で考える	1・2・3・4後	2		○			1		1			オムニバス
		小計(10科目)	—	0	20	0	—		1	1	1	0	0	兼7
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		社会学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		法学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		政治学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		日本国憲法	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		心理学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		小計(6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	兼8
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前	1				○			1			兼3
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後	1				○		1	1			兼7
		スポーツ健康科学講義(身体の健康)	1・2・3・4前・後	2		○				1				兼1
		スポーツ健康科学講義(心の健康)	1・2・3・4前・後	2		○								兼1
		小計(4科目)	—	0	6	0	—		0	1	1	0	0	兼8
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前	1				○						兼1
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後	1				○						兼1
		総合A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前	2		○								兼2
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後	2		○								兼2
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計(8科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼10
	社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本語リテラシー	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		社会と企業の仕組み	1・2・3・4後	2		○								兼1
		起業とマーケティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		実践職業論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前	2		○				1				
		キャリアデベロップメント実践	3・4後	2		○				1				
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	1	0	0	0	兼6

基盤教育	留学支援科目	教養 基礎 科目 目別	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後		2			○							兼1	
			Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		日本 語科 目	Integrated Japanese I	1・2・3・4後		5			○							兼9	
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前		5			○							兼9	
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後		2			○							兼5	
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前		2			○							兼5	
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Project Work I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Project Work II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Culture I	1・2・3・4後		1			○							兼1	
			Japanese Culture II	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		小計(14科目)		—		0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼11	—
理工学 共通科目	数学	数学基礎演習A	1前・後		1				○		1					兼3	
		数学基礎演習B	1前・後		1				○							兼2	
		微分積分学基礎	1前・後		2			○								兼4	
		微分積分学基礎演習	1前・後		1				○		1					兼2	
		微分積分学A	1前・後		2			○								兼4	
		微分積分学A演習	1前・後		1				○		1					兼2	
		微分積分学B	1後		2			○								兼1	
		微分積分学B演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学基礎	1後		2			○								兼2	
		線形数学基礎演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学	1後		2			○								兼1	
		離散数学	1後		2			○								兼1	
		確率統計基礎	2・3・4前	2				○			1						
		確率と統計	2・3・4後		2			○								兼1	
		微分方程式	2・3・4前		2			○			1						
		ベクトル解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		複素解析	2・3・4前		2			○								兼1	
		フーリエ解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		小計(18科目)		—		2	28	0	—		3	0	0	0	0	兼15	—
	物理学	物理学A	1前・後		2			○				1					
		力学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		力学基礎演習	1前		1				○							兼1	
		物理学B	1前・後		2			○			1					兼1	
		電磁気学基礎	1後		2			○								兼1	
		振動・波動	1後		2			○								兼1	
		力学総合演習	2・3・4前		1				○							兼1	
		物理学実験	1前		2					○	1					兼6	共同
		統計力学	2・3・4後		2			○								兼1	
		熱力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		量子力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(11科目)		—		0	20	0	—		0	1	0	0	0	兼9	—
	化学	化学I	1前・後		2			○								兼3	
		化学II	1後		2			○								兼2	
		化学実験	1後		2					○						兼5	共同
		量子化学入門	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(4科目)		—		0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼7	—
	生物学	生物学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		生命科学概論	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学実験	2・3前・後		1					○	1			1		兼1	共同
		小計(4科目)		—		0	7	0	—		1	0	0	1	0	兼2	—
	地学	地学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		地学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		地学実験	2・3後		1					○						兼1	
		小計(3科目)		—		0	5	0	—		0	0	0	0	0	兼1	—
	情報 処理	情報処理基礎	1前・後		2			○				1					
		情報処理基礎演習	1前・後		1				○			1	1				
		小計(2科目)		—		3	0	0	—		0	1	1	0	0	0	—

理工学共通科目	外国語	Writing I	1・2前・後	1			○									兼5	
		Writing II	1・2前・後	1			○									兼6	
		Writing III	1・2前				○						1			兼1	
		Reading I	1・2前・後				○									兼4	
		Reading II	1・2前・後	1			○			1						兼6	
		Reading III	1・2後				○			1							
		Speaking I	1・2前・後				○										
		Speaking II	1・2前・後	1			○				1	1				兼5	
		Speaking III	1・2後				○					1	1			兼5	
		Speaking IV	1・2・3・4後	1			○					1	1				
		Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後	1			○			1							
		Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前	1			○				1						
		Academic English	1・2・3・4前	1			○			1		1					
	日本語	日本語ⅠA	1前	1			○									兼1	
		日本語ⅠB	1後	1			○									兼1	
		日本語ⅡA	1前	1			○									兼1	
		日本語ⅡB	1後	1			○									兼1	
		日本語ⅢA	2前	1			○									兼1	
		日本語ⅢB	2後	1			○									兼1	
専門科目	必修	小計(19科目)	—	9	10	0	—			1	1	1	0	0		兼19	—
		プロジェクトⅠ	1前	1			○			3			1				共同
		プロジェクトⅡ	1後	1			○			3			1				共同
		生体医工学序論	1前	2		○				1							共同
		プロジェクトⅢ	2前	1			○			2			2				共同
		プロジェクトⅣ	2後	1			○			2			2				共同
		生体医工学実験Ⅰ	2後	2			○			6							共同
		プロジェクトⅤ	3前	2			○			5	1		1				共同
		プロジェクトⅥ	3後	2			○			10	2						共同
		生体医工学実験Ⅱ	3前	2			○			4	1						共同
専門科目	選択	小計(9科目)	—	14	0	0	—			10	2	0	2	0	0		—
		生物の科学	1前		2		○			1							
		人体の科学	1後		2		○			1							
		機械工学	1前		2		○			1							
		解剖学	1後		2		○			1							
		バイオメテイクス	2前		2		○			1							
		生理学	2前		2		○			1							
		科学哲学	2前		2		○			1							
		センサ工学	2後		2		○			1							
		医用工学概論	2後		2		○			1							
		脳・神経科学	2後		2		○			1							
		生体工学	3前		2		○			1							
		ナノテクノロジー	3前		2		○			1							
		非線形の科学	3前		2		○			1							
		知能情報処理	3後		2		○			1							
		臨床医学概論	3後		2		○			1							
		医工学研究Ⅰ	4前		4			○		5	2						
		医工学研究Ⅱ	4後		4			○		5	2						
		臨床工学研究Ⅰ	4前		4			○		5							
		臨床工学研究Ⅱ	4後		4			○		5							
		電気工学	1後		2		○			1							
		プログラミング	2前		2		○			1							
		バイオフィジックス	2前		2		○			1							
		細胞生物学	2前		2		○			1							
		福祉工学	2前		2		○									兼1	
		人間工学	2後		2		○			1							
		システム工学	2前		2		○			1							
		生化学	2後		2		○			1							
		バイオマテリアル	3前		2		○			1							
		生体流体力学	3前		2		○			1							
		免疫学	3前		2		○			1							
		医用電子工学	3後		2		○			1							
		運動生理学	3前		2		○			1							
		エレクトロニクス	3後		2		○			1							
		システム生物学	3後		2		○			1							
		薬理学	3後		2		○			1							
		保健技術学	3後		2		○				1						
		小計(36科目)	—	0	80	0	—			10	2	0	0	0		兼1	—

副専攻科目	バイオ・ナノサイエンス融合コース	バイオ・ナノサイエンス融合概論	1前		2	○			1					兼2	共同	
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅠ	1後		2	○								兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅠ	1後		2	○					1			兼1	共同	
		基礎バイオテクノロジー	1前		2	○								兼4		
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅰ	2後		2			○			1			兼2	共同	
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅡ	2前		2		○							兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅡ	2前		2		○				1			兼1	共同	
		半導体工学	2後		2		○							兼1		
		生物環境化学	2後		2		○							兼1	共同	
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅱ	3前		2			○			1			兼4		
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅰ	3前		2			○		1						
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅱ	3後		2			○		1						
		集積回路	3・4前		2		○								兼1	
		生体科学	2・3・4前		2		○								兼1	
小計(14科目)			—	0	28	0	—			1	0	0	1	0	兼9	—
副専攻科目	ロボティクスコース	ロボティクス概論	1前		2	○								兼2	オムニバス	
		機械力学Ⅰ	2前・後		2	○								兼1		
		計測工学Ⅰ	2前・後		2	○								兼1		
		制御工学Ⅰ	3前		2	○								兼1		
		制御工学Ⅱ	3後		2	○								兼1		
		メカトロニクスⅠ	2・3・4前・後		2	○								兼1		
		メカトロニクスⅡ	3・4後		2	○								兼1		
		ロボット工学	3・4後		2	○								兼1		
		ディジタル信号処理	3・4後		2	○								兼1		
		コンピュータ工学	3・4前		2	○								兼1		
		画像情報処理	3・4前		2	○								兼1		
小計(11科目)			—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—
合計(192科目)			—	28	324	0	—			11	4	2	3	0	兼134	—
学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野			工学関係 理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目から28単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目14単位、選択必修科目24単位以上を含む選択科目を56単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分				2学期						
						1学期の授業期間				15週						
						1時限の授業時間				90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 応用化学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		倫理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		論理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼4	
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		社会思想論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		数学と思想	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		小計(8科目)	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼12	—	
	自然・生命・環境・	天文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		環境科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		工学概論	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—	
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		歴史学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		文明論	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		科学史	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		英語と文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	オムニバース
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		中国語と文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前		2		○								兼3	オムニバース
		科学について英語で考える	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバース
	小計(10科目)	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼10	—		
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		社会学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		法学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		政治学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—		
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4後		1				○						兼4	
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○						兼8	
		スポーツ健康科学講義(身体・健康)	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		スポーツ健康科学講義(心の健康)	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		小計(4科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼10	—	
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		総合A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前		2		○								兼2	メディア
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後		2		○								兼2	メディア
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア
全学総合ⅡB		1・2・3・4後		2		○								兼1	メディア	
小計(8科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼10	—			
社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	日本語リテラシー	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
	社会と企業の仕組み	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	起業とマーケティング	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	実践職業論	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	キャリアデベロップメント実践	3・4後		2		○								兼1		
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼7	—		

基盤教育	留学支援科目	教養 基礎 科目 目録	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後		2			○							兼1	
			Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		日本 語科 目	Integrated Japanese I	1・2・3・4後		5			○							兼9	
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前		5			○							兼9	
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後		2			○							兼5	
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前		2			○							兼5	
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Project Work I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Project Work II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Culture I	1・2・3・4後		1			○							兼1	
			Japanese Culture II	1・2・3・4前		1			○							兼1	
			小計(14科目)	—	0	26	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—
理工学 共通 科目	数 学	数学基礎演習A	1前・後		1				○							兼2	
		数学基礎演習B	1前・後		1				○							兼1	
		微分積分学基礎	1前・後		2			○								兼3	
		微分積分学基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		微分積分学A	1前・後	2				○								兼5	
		微分積分学A演習	1前・後		1				○							兼3	
		微分積分学B	1後		2			○								兼1	
		微分積分学B演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		線形数学基礎演習	1前・後		1				○							兼2	
		線形数学	1後		2			○								兼1	
		離散数学	1後		2			○								兼1	
		確率統計基礎	2・3・4前・後		2			○								兼1	
		確率と統計	2・3・4後		2			○								兼1	
		微分方程式	2・3・4前		2			○								兼1	
		ベクトル解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		複素解析	2・3・4前		2			○								兼1	
		フーリエ解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		小計(18科目)	—	2	28	0		—		0	0	0	0	0	0	兼16	—
	物 理 学	物理学A	1前・後		2			○								兼1	
		力学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		力学基礎演習	1前		1				○							兼1	
		物理学B	1前・後		2			○								兼2	
		電磁気学基礎	1後		2			○								兼1	
		振動・波動	1後		2			○								兼1	
		力学総合演習	2・3・4前		1				○							兼1	
		物理学実験	1後	2						○						兼7	共同
		統計力学	2・3・4後		2			○								兼1	
		熱力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		量子力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(11科目)	—	2	18	0		—		0	0	0	0	0	0	兼13	—
	化 学	化学 I	1前・後		2			○			1	1					
		化学 II	1後		2			○			1		1				
		化学実験	1前		2				○		2		1			兼3	共同
		量子化学入門	2・3・4前		2			○			1						
		小計(4科目)	—	6	2	0		—		2	1	1	0	0	0	兼3	—
	生 物 学	生物学 I	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学 II	1・2・3後		2			○								兼1	
		生命科学概論	1・2・3前		2			○			1					兼3	共同
		生物学実験	2・3前・後		1				○								
		小計(4科目)	—	0	7	0		—		1	0	0	0	0	0	兼4	—
	地 学	地学 I	1・2・3前		2			○								兼1	
		地学 II	1・2・3後		2			○								兼1	
		地学実験	2・3後		1				○							兼1	
		小計(3科目)	—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
	情 報 処 理	情報処理基礎	1前・後		2			○			1						
		情報処理基礎演習	1前・後		1				○		1						
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		1	0	0	0	0	0	0	—

理工学共通科目	外国語	Writing I	1・2前・後	1			○								兼4	
		Writing II	1・2前・後	1			○								兼7	
理工学共通科目	英語	Writing III	1・2前				○								兼4	
		Reading I	1・2前・後	1			○								兼3	
		Reading II	1・2前・後	1			○								兼8	
		Reading III	1・2後	1			○								兼3	
		Speaking I	1・2前・後	1			○								兼6	
		Speaking II	1・2前・後	1			○								兼8	
		Speaking III	1・2前・後	1			○								兼1	
		Speaking IV	1・2・3・4後	1			○								兼1	
		Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後	1			○								兼1	
		Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前	1			○								兼1	
		Academic English	1・2・3・4前	1			○								兼2	
	日本語	日本語ⅠA	1前	1			○								兼1	
		日本語ⅠB	1後	1			○								兼1	
		日本語ⅡA	1前	1			○								兼1	
		日本語ⅡB	1後	1			○								兼1	
		日本語ⅢA	2前	1			○								兼1	
		日本語ⅢB	2後	1			○								兼1	
専門科目	必修	小計(19科目)	—	9	10	0	—			0	0	0	0	0	兼23	—
		分析化学	1前	2			○			2						
		有機化学Ⅰ	1前・後	2			○			2						
		有機化学Ⅱ	2前・後	2			○			2						
		物理化学Ⅰ	2前・後	2			○				2					
		物理化学Ⅱ	2前・後	2			○				2					
		無機化学Ⅰ	2前・後	2			○			2						
		生物化学	2前・後	2			○				2					
		有機化学実験	2前・後	2				○		1	1				兼4	共同
		無機化学実験	2前・後	2				○		2		1			兼1	共同
		物理化学実験	3前・後	2				○		2					兼2	共同
		生物化学実験	3前・後	2				○		2	1				兼2	共同
		卒業研究	4前	2			○			10	1	2				
		卒業論文	4後	2			○			10	1	2				
		応用化学輪講Ⅰ	4前	2			○			10	1	2				
		応用化学輪講Ⅱ	4後	2			○			10	1	2				
		小計(15科目)	—	30	0	0	—			10	1	2	0	0	兼9	—
	選択	安全化学	1前	2			○					1				
		レポート作成法	1前	2			○								兼1	
		基礎バイオテクノロジー	1前	2			○			1						
		環境化学	1後	2			○			1						
		無機化学Ⅱ	2後	2			○			1						
		有機化学Ⅲ	2後	2			○			1						
		レポート作成演習	2前・後	1			○								兼2	
		量子化学	2前・後	2			○			1					兼1	
		化学工学	2前	2			○			1						
		生体高分子	2前	2			○								兼1	
		エネルギー化学	2後	2			○								兼1	
		食品分析化学	2後	2			○								兼1	
		食品科学	2前	2			○								兼1	
		大気化学	2前	2			○			1						
		水環境化学	2後	2			○								兼1	
		生物環境化学	2後	2			○				1					
		環境化学工学	2後	2			○			1						
		機器分析Ⅰ	3前	2			○			1						
		機器分析Ⅱ	3後	2			○			1						
		無機化学Ⅲ	3前	2			○			1						
		物理化学Ⅲ	3前	2			○								兼1	
		有機化学Ⅳ	3前	2			○			1						
		先端化学	3後	2			○			1						
		PCによる化学計算	3前	2			○			1						
		特許法	3前	2			○								兼1	
		応用有機化学	3前	2			○								兼1	
		高分子化学	3後	2			○			1						
		先端無機材料化学	3後	2			○			1						
		先端有機材料化学	3後	2			○			1						
		栄養化学	3前	2			○				1					
		酵素化学	3後	2			○			1						
		微生物工学	3後	2			○			1						
		遺伝子工学	3後	2			○								兼1	
		地球環境化学	3後	2			○								兼1	
		バイオリアクター	3前	2			○								兼1	
		小計(35科目)	—	0	69	0	—			8	1	1	0	0	兼13	—

副専攻科目	バイオ・ナノサイエンス融合コース	バイオ・ナノサイエンス融合概論	1前		2	○								兼1	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅠ	1後		2	○								兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅠ	1後		2	○								兼3		
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅰ	2後		2			○						兼5		
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅡ	2前		2	○								兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅡ	2前		2	○								兼3		
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅱ	3前		2			○						兼5		
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅰ	3前		2		○							兼1		
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅱ	3後		2		○							兼1		
		生体科学	2・3・4前		2	○								兼1		
		非線形の科学	3前		2	○								兼1		
		バイオフィジックス	2前		2	○								兼1		
		半導体工学	2後		2	○								兼1		
		集積回路	3・4前		2	○								兼1		
小計(14科目)		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—	
合計(186科目)			—	49	286	0	—			10	1	2	0	0	兼158	—
学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野			工学関係 理学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目から24単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目30単位、選択科目を40単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分					2学期				
							1学期の授業期間					15週				
							1時限の授業時間					90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部 機械工学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前		2		○			1						兼3 兼1 兼4 兼1 兼1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○										
		倫理学	1・2・3・4前・後		2		○										
		論理学	1・2・3・4前・後		2		○										
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○										
		社会思想論	1・2・3・4前・後		2		○										
		数学と思想	1・2・3・4前・後		2		○			1							
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
	小計(8科目)		—	0	16	0	—			2	0	0	0	0	兼10	—	
	自然・生命・環境・	天文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	—
		環境科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		工学概論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(4科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	オムニバース
		歴史学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		文明論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		科学史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		英語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		中国語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前		2		○									兼3	
		科学について英語で考える	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	—
		社会学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		法学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		政治学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(6科目)		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前		1				○							兼4	—
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○							兼8	
		スポーツ健康科学講義(身体・健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		スポーツ健康科学講義(心・健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前		1			○								兼1	メディア メディア メディア メディア
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		総合A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2	
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2	
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計(8科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後		2		○									兼1	—
		日本語リテラシー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		社会と企業の仕組み	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		起業とマーケティング	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		実践職業論	1・2・3・4前		2		○			1							
		キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント実践	3・4後		2		○									兼1	
		小計(7科目)		—	0	14	0	—			1	0	0	0	0	兼6	

基盤教育	留學支援科目	日本語科目	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後		2			○							兼1	
			Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前		2			○							兼1	
			Integrated Japanese I	1・2・3・4後		5			○							兼9	
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前		5			○							兼9	
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後		2			○							兼5	
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前		2			○							兼5	
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Project Work I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Project Work II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Culture I	1・2・3・4後		1			○							兼1	
			Japanese Culture II	1・2・3・4前		1			○							兼1	
			小計(14科目)	—		0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼11	—
理工学共通科目	数学	数学基礎演習A	1前・後		1				○							兼3	
		数学基礎演習B	1前・後		1				○							兼2	
		微分積分学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		微分積分学基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		微分積分学A	1前・後	2				○								兼5	
		微分積分学A演習	1前・後	1					○		1					兼4	
		微分積分学B	1後	2				○								兼2	
		微分積分学B演習	1後	1					○		1					兼1	
		線形数学基礎	1前・後	2				○								兼3	
		線形数学基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		線形数学	1後	2					○							兼1	
		離散数学	1後	2					○							兼1	
		確率統計基礎	2・3・4前・後	2					○							兼1	
		確率と統計	2・3・4後	2					○							兼1	
		微分方程式	2・3・4前	2					○							兼1	
		ベクトル解析	2・3・4後	2					○							兼1	
		複素解析	2・3・4前	2					○							兼1	
		フーリエ解析	2・3・4後	2					○							兼1	
		小計(18科目)	—	6	24	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼16	—
	物理学	物理学A	1前・後	2					○		1						
		力学基礎	1前・後	2					○							兼2	
		力学基礎演習	1前	1					○							兼1	
		物理学B	1前・後	2					○		1					兼1	
		電磁気学基礎	1後	2					○							兼1	
		振動・波動	1後	2					○							兼1	
		力学総合演習	2・3・4前	1						○						兼1	
		物理学実験	1後	2							○		1			兼6	共同
		統計力学	2・3・4後	2					○							兼1	
		熱力学	2・3・4前	2					○							兼1	
		量子力学	2・3・4前	2					○							兼1	
		小計(11科目)	—	2	18	0	—	—	—	2	0	1	0	0	0	兼9	—
	化学	化学I	1前・後		2				○							兼3	
		化学II	1後	2					○							兼2	
		化学実験	1前	2						○						兼5	共同
		量子化学入門	2・3・4前	2					○							兼1	
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
	生物学	生物学I	1・2・3前		2				○							兼1	
		生物学II	1・2・3後		2				○							兼1	
		生命科学概論	1・2・3前		2				○							兼1	
		生物学実験	2・3前・後	1						○						兼3	共同
		小計(4科目)	—	0	7	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—
	地学	地学I	1・2・3前		2				○							兼1	
		地学II	1・2・3後		2				○							兼1	
		地学実験	2・3後	1							○					兼1	
		小計(3科目)	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—
	情報処理	情報処理基礎	1前・後	2					○			1					
		情報処理基礎演習	1前・後	1						○		1	1				
		小計(2科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	2	1	0	0	0	0	—

理工学共通科目	外国語	English I	Writing I	1・2前・後	1	1			○								兼6	
		English II	Writing II	1・2前・後	1	1			○								兼8	
		English III	Writing III	1・2前					○								兼3	
		English IV	Reading I	1・2前・後	1	1			○								兼3	
		English V	Reading II	1・2前・後	1	1			○								兼9	
		English VI	Reading III	1・2後		1			○								兼2	
		English VII	Speaking I	1・2前・後	1	1			○								兼7	
		English VIII	Speaking II	1・2前・後	1	1			○								兼9	
		English IX	Speaking III	1・2前・後	1	1			○								兼1	
		English X	Speaking IV	1・2・3・4後	1	1			○								兼1	
		English XI	Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後	1	1			○								兼1	
		English XII	Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前	1	1			○								兼1	
		English XIII	Academic English	1・2・3・4前	1	1			○								兼2	
	日本語	Japanese I A	日本語 I A	1前	1				○								兼1	
		Japanese I B	日本語 I B	1後	1				○								兼1	
		Japanese II A	日本語 II A	1前	1				○								兼1	
		Japanese II B	日本語 II B	1後	1				○								兼1	
		Japanese III A	日本語 III A	2前	1				○								兼1	
		Japanese III B	日本語 III B	2後	1				○								兼1	
		小計(19科目)		—	9	10	0		—		0	0	0	0	0	0	兼23	—
	必修	Mechanical Engineering I	機械工学序論	1前	2				○		2	5	1				兼1	共同
		Mechanical Engineering II	機械工学実験 I	2前・後	2						2	1	1					
		Mechanical Engineering III	設計論の基礎と製図	2前・後	3								2					
		Mechanical Engineering IV	卒業研究 I	4前	2				○		7	5	1					
		Mechanical Engineering V	機械工学輪講 I	4前	2				○		7	5	1					
		Mechanical Engineering VI	卒業研究 II	4後	2				○		7	5	1					
		Mechanical Engineering VII	機械工学輪講 II	4後	2				○		7	5	1					
		小計(7科目)		—	15	0	0		—		7	5	2	0	0		兼1	—
	専門科目	Material Science I	材料力学 I	2前・後	2				○			1						
		Mechanics I	機械力学 I	2前・後	2				○		1							
		Fluid Mechanics I	流体力学 I	2前・後	2				○			1						
		Measurement Engineering I	計測工学 I	2前・後	2				○		1							
		Thermodynamics I	熱力学 I	2前・後	2				○		1							
		Control Engineering I	制御工学 I	3前	2				○			1						
		Industrial Engineering I	工業力学	1後	2				○			1						
		Material Science II	材料力学 II	2前・後	2				○			1						
		Mechanics II	機械力学 II	2前・後	2				○		1							
		Fluid Mechanics II	流体力学 II	2後	2				○			1						
		Measurement Engineering II	計測工学 II	2前・後	2				○		1							
		Mechanical Systems Modeling	機械システムのモデリング	2前・後	2				○		1							
		Mathematics for Mechanics I	機械のための数学 I	2前・後	2				○			1						
		Mathematics for Mechanics II	機械のための数学 II	2前・後	2				○		1							
		Computer Programming	コンピュータプログラミング	2前・後	2				○			1						
		Control Engineering II	制御工学 II	3後	2				○			1						
		Thermodynamics II	熱力学 II	3後	2				○		1							
		Heat Transfer	伝熱工学	3前・後	2				○			1						
		Mechanical Design and Practice	機械設計法および演習	3前・後	3				○		1						兼1	共同
		Mechanical Engineering II	機械工学実験 II	3前	2						2	3	1					共同
		Technical Illustration and Drawing	テクニカルイラストと図学	1・2・3・4前・後	2				○								兼1	
		Industrial Design	工業デザイン	1・2・3・4後	2				○								兼1	
		Frontier Technology	先端技術	1・2・3・4後	2				○		1							
		Environmental Engineering	環境工学	1・2・3・4前	2				○								兼1	
		Human Engineering	人間工学	1・2・3・4後	2				○								兼1	
		Biomedical Science	生体科学	2・3・4前	2				○			1						
		Electromagnetism	電磁気学	2・3・4後	2				○			1						
		Mechatronics I	メカトロニクス I	2・3・4前・後	2				○		1							
		Mechatronics II	メカトロニクス II	3・4後	2				○		1							
		Robotics Engineering	ロボット工学	3・4後	2				○		1							
		Signal Sensing and Analysis	信号センシングと解析	3・4前	2				○		1							
		Internship	インターンシップ	3・4前	3								1				兼1	共同
		Mechanical Materials I	機械材料 I	3・4前	2				○			1						
		Mechanical Materials II	機械材料 II	3・4前	2				○								兼1	
		Electrical Circuits	電気回路	3・4前	2				○		1							
		Functional Materials	機能性材料	3・4後	2				○		1							共同
		Production and Processing Systems	生産・加工システム	3・4後	2				○		1							
		CAD/CAM Practice	CAD/CAM演習	3・4前・後	2				○				2				兼1	
		Project Management	プロジェクトマネジメント	3・4前	2				○								兼1	
		Intellectual Property and Practice	知的財産権および演習	3・4前・後	3												兼2	
		Fluid Machinery	流体機械	3・4前	2				○				1					
		Applied Mechanics	応用力学	3・4後	2				○				1					
		小計(42科目)		—	0	87	0		—		7	5	2	0	0		兼11	—

副専攻科目	バイオ・ナノサイエンス融合コース	バイオ・ナノサイエンス融合概論	1前	2	○									兼1	共同 共同 共同 共同 共同	
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅠ	1後	2	○									兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅠ	1後	2	○									兼3		
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅰ	2後	2			○							兼5		
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅡ	2前	2		○								兼2		
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅡ	2前	2		○								兼3		
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅱ	3前	2			○							兼5		
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅰ	3前	2			○							兼1		
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅱ	3後	2			○							兼1		
		非線形の科学	3前	2		○								兼1		
		バイオフィジックス	2前	2		○								兼1		
		半導体工学	2後	2		○								兼1		
		集積回路	3・4前	2		○								兼1		
		基礎バイオテクノロジー	1前	2		○								兼1		
生物環境化学	2後	2		○								兼1				
小計(15科目)			—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—
副専攻科目	ロボティクスコース	ロボティクス概論	1前	2	○				1	1					オムニバス	
		バイオミメティクス	2前	2	○									兼1		
		プログラミング	2前	2	○									兼1		
		センサ工学	2後	2	○									兼1		
		福祉工学	2前	2	○									兼1		
		生体工学	3前	2	○									兼1		
		知能情報処理	3後	2	○									兼1		
		エレクトロニクス	3後	2	○									兼1		
		デジタル信号処理	3・4後	2	○									兼1		
		コンピュータ工学	3・4前	2	○									兼1		
		画像情報処理	3・4前	2	○									兼1		
		小計(11科目)			—	0	22	0	—			1	1	0		0
合計(197科目)			—	35	327	0	—			7	5	2	0	0	兼154	—
学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野			工学関係 理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目から26単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目15単位、選択必修科目24単位以上を含む選択科目を55単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分					2学期					
						1学期の授業期間					15週					
						1時限の授業時間					90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部 電気電子情報工学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		倫理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		論理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会思想論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		数学と思想	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼12	—	
	境・自然・生命・環境	天文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		環境科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		工学概論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(4科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		歴史学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		文明論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		科学史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		英語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	オムニバス
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		中国語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前		2		○									兼3	オムニバス
		科学について英語で考える	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
	小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		法学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		政治学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(6科目)		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前		1				○							兼4	
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○							兼8	
		スポーツ健康科学講義(身体(の)健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		スポーツ健康科学講義(心の健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		総合A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1	メディア
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1	メディア
	小計(8科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		日本語リテラシー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		社会と企業の仕組み	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		起業とマーケティング	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		実践職業論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント実践	3・4後		2		○									兼1	
	小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—	

基盤教育	留学支援科目	教育活動科目別	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後	2			○								兼1		
		Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前	2			○								兼1			
		日本語科目	Integrated Japanese I	1・2・3・4後	5			○								兼9		
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前	5			○								兼9		
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後	2			○								兼5		
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前	2			○								兼5		
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後	1			○								兼3		
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前	1			○								兼3		
			Project Work I	1・2・3・4後	1			○								兼3		
			Project Work II	1・2・3・4前	1			○								兼3		
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後	1			○								兼3		
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前	1			○								兼3		
			Japanese Culture I	1・2・3・4後	1			○								兼1		
			Japanese Culture II	1・2・3・4前	1			○								兼1		
			小計(14科目)				—	0	26	0	—			0	0	0	0	0
理工学共通科目	数学	数学基礎演習A	1前・後	1				○								兼2		
		数学基礎演習B	1前・後	1				○								兼1		
		微分積分学基礎	1前・後	2			○									兼2		
		微分積分学基礎演習	1前・後	1				○								兼3		
		微分積分学A	1前・後	2				○								兼5		
		微分積分学A演習	1前・後	1				○			1					兼2		
		微分積分学B	1後	2				○				1				兼2		
		微分積分学B演習	1後	1					○			1				兼1		
		線形数学基礎	1前・後	2				○								兼4		
		線形数学基礎演習	1前・後	1					○			1				兼1		
		線形数学	1後	2				○								兼1		
		離散数学	1後	2				○								兼1		
		確率統計基礎	2・3・4前・後	2				○								兼2		
		確率と統計	2・3・4後	2				○								兼1		
		微分方程式	2・3・4前	2				○								兼1		
		ベクトル解析	2・3・4後	2				○								兼1		
		複素解析	2・3・4前	2				○								兼1		
		フーリエ解析	2・3・4後	2				○								兼1		
	小計(18科目)				—	6	24	0	—			0	1	0	0	0	兼14	—
	物理学	物理学A	1前・後	2				○			1	1						
		力学基礎	1前・後	2				○			1					兼1		
		力学基礎演習	1前	1					○		1							
		物理学B	1後	2				○								兼1		
		電磁気学基礎	1後	2				○			1							
振動・波動		1後	2				○			2								
力学総合演習		2・3・4前	1					○							兼6			
物理学実験		1前	2							1						共同		
統計力学		2・3・4後	2				○			1								
熱力学		2・3・4前	2				○			1								
量子力学		2・3・4前	2				○								兼1			
小計(11科目)				—	2	18	0	—			3	1	0	0	0	兼7	—	
化学	化学Ⅰ	1前・後	2				○								兼3			
	化学Ⅱ	1後	2				○								兼2			
	化学実験	1後	2						○						兼6			
	量子化学入門	2・3・4前	2				○								兼1			
小計(4科目)				—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
生物学	生物学Ⅰ	1・2・3前	2				○								兼1			
	生物学Ⅱ	1・2・3後	2				○								兼1			
	生命科学概論	1・2・3前	2				○								兼1			
	生物学実験	2・3前・後	1						○						兼3			
	小計(4科目)				—	0	7	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—
地学	地学Ⅰ	1・2・3前	2				○								兼1			
	地学Ⅱ	1・2・3後	2				○								兼1			
	地学実験	2・3後	1						○						兼1			
	小計(3科目)				—	0	5	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
情報処理	情報処理基礎	1前・後	2				○			2								
	情報処理基礎演習	1前・後	1					○		1					兼1			
	小計(2科目)				—	3	0	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—

理工学共通科目	外国語	Writing I	1・2前・後	1	1			○									兼5	
		Writing II	1・2前・後	1	1			○									兼6	
		Writing III	1・2前		1			○									兼3	
		Reading I	1・2前・後	1	1			○									兼6	
		Reading II	1・2前・後	1	1			○									兼2	
		Reading III	1・2後		1			○									兼5	
		Speaking I	1・2前・後	1	1			○									兼7	
		Speaking II	1・2前・後	1	1			○									兼1	
		Speaking III	1・2前・後	1	1			○									兼1	
		Speaking IV	1・2・3・4後	1	1			○									兼1	
		Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後	1	1			○									兼1	
		Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前	1	1			○									兼1	
		Academic English	1・2・3・4前	1	1			○									兼2	
	日本語	日本語ⅠA	1前	1				○									兼1	
		日本語ⅠB	1後	1				○									兼1	
		日本語ⅡA	1前	1				○									兼1	
		日本語ⅡB	1後	1				○									兼1	
		日本語ⅢA	2前	1				○									兼1	
		日本語ⅢB	2後	1				○									兼1	
	小計(19科目)		—	9	10	0		—		0	0	0	0	0	0	0	兼20	—
専門科目	必修	電気回路A	1前・後	4				○			2	1						
		コンピュータプログラミングA	1後	2				○			2							
		電磁気学A	2前・後	4				○			3							
		電子回路A	2前	4				○			1	1						
		電気電子情報実験A	2後	2						○	3	1					兼2	
		電気電子情報実験B	3前	2						○	2	1					兼2	
		電気電子情報実験C	3後	2						○	3						兼3	
		卒業研究Ⅰ	4前	2							11	2						
		卒業研究Ⅱ	4後	2							11	2						
		輪講Ⅰ	4前	2							11	2						
		輪講Ⅱ	4後	2							11	2						
	小計(11科目)		—	28	0	0		—		11	2	0	0	0	0	0	兼5	—
専門科目	選択	電気電子情報工学概論	1前		2			○			1							
		電気回路B	1後	4				○			1						兼1	
		電気電子計測	2前	2				○									兼2	
		電磁気学B	2後	4				○			2							
		応用解析学A	2前	4				○			2							
		応用解析学B	2後	4				○			2							
		コンピュータプログラミングB	2後	2				○			2							
		過渡現象論	3前	2				○			1							
		情報理論	3前	2				○									兼1	
		電子回路B	2後	2				○				1					兼1	
		電気機器学Ⅰ	2前	2				○			1							
		電気機器学Ⅱ	2後	2				○			1							
		電力応用	2後	2				○									兼1	
		送配電工学Ⅰ	2後	2				○			1							
		情報通信工学Ⅰ	2前	2				○			1							
		情報通信工学Ⅱ	2後	2				○			1							
		固体電子物性	2前	2				○			1							
		半導体工学	2後	2				○			1							
		電気電子情報工学演習	3・4後	1					○		4							
		数値計算アルゴリズム	3・4前	2				○			1							
		伝送回路理論	3・4前	2				○			1							
		パワーエレクトロニクス	3・4前	2				○			1							
		送配電工学Ⅱ	3・4前	2				○									兼1	
		制御システム	3・4後	2				○			1							
		高電圧工学	3・4前	2				○			1							
		発変電工学Ⅰ	3・4前	2				○									兼1	
		発変電工学Ⅱ	3・4後	2				○									兼1	
		電波工学	3・4後	2				○			1							
		ディジタル論理回路	3・4前	2				○									兼1	
		ディジタル信号処理	3・4後	2				○			1							
		無線通信機器	3・4後	2				○									兼1	
		コンピュータ工学	3・4前	2				○			1							
		電気電子材料	3・4前	2				○									兼1	
		光エレクトロニクス	3・4後	2				○									兼1	
		電気機器設計および製図	3・4後	2					○								兼1	
		電気法規電気施設管理	3・4後	2				○									兼1	
		電波法規無線施設管理	3・4前	2				○									兼1	
		オーディオビデオ工学	3・4後	2				○									兼1	

専 門 科 目	選 択	集積回路	3・4前		2		○								兼1		
		画像情報処理	3・4前		2		○			1							
		情報通信セキュリティ	3・4後		2		○									兼1	
		カーエレクトロニクス	3・4前		2		○			1							
		小計(42科目)	—	0	91	0	—			9	1	0	0	0		兼15	—
副 専 攻 科 目	バイ オ・ ナ ノ サイ エ ン ス 融 合 コ ー ス	バイオ・ナノサイエンス融合概論	1前		2		○								兼1	共同 共同 共同 共同 共同	
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅠ	1後		2		○										兼2
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅠ	1後		2		○										兼3
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅰ	2後		2				○								兼5
		バイオサイエンス・バイオテクノロジーⅡ	2前		2		○										兼2
		ナノサイエンス・ナノテクノロジーⅡ	2前		2		○										兼3
		バイオ・ナノサイエンス融合実験Ⅱ	3前		2				○								兼5
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅰ	3前		2			○									兼1
		バイオ・ナノサイエンス融合Ⅱ	3後		2			○									兼1
		生体科学	2・3・4前		2		○										兼1
		非線形の科学	3前		2		○										兼1
		バイオフィジックス	2前		2		○										兼1
		基礎バイオテクノロジー	1前		2		○										兼1
		生物環境化学	2後		2		○										兼1
	小計(14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0		兼9	—	
副 専 攻 科 目	ロボ ティ ク ス コ ー ス	ロボティクス概論	1前		2		○								兼2	オムニバス	
		機械力学Ⅰ	2前・後		2		○										兼1
		計測工学Ⅰ	2前・後		2		○										兼2
		制御工学Ⅰ	3前		2		○										兼1
		制御工学Ⅱ	3後		2		○										兼1
		メカトロニクスⅠ	2・3・4前・後		2		○										兼1
		メカトロニクスⅡ	3・4後		2		○										兼1
		ロボット工学	3・4後		2		○										兼1
		バイオメティクス	2前		2		○										兼1
		プログラミング	2前		2		○										兼1
		センサ工学	2後		2		○										兼1
		福祉工学	2前		2		○										兼1
		生体工学	3前		2		○										兼1
		知能情報処理	3後		2		○										兼1
		エレクトロニクス	3後		2		○										兼1
	小計(15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0		兼9	—	
合計(204科目)			—	48	337	0	—		11	3	0	0	0		兼155	—	
学位又は称号		学士(理工学)	学位又は学科の分野				工学関係 理学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目から25単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目28単位、選択必修科目16単位以上を含む選択科目を46単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分					2学期					
							1学期の授業期間					15週					
							1時限の授業時間					90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部 都市環境デザイン学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		倫理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		論理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会思想論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		数学と思想	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		小計(8科目)	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	0	兼12	—	
	自然・生命・環境・	天文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		環境科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後		2		○			1						兼1	
		工学概論	1・2・3・4前・後		2		○			2							
		小計(4科目)	—	0	8	0	—		3	0	0	0	0	0	兼5	—	
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		歴史学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		文明論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		科学史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		英語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	オムニバース
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		中国語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前		2		○									兼3	オムニバース
		科学について英語で考える	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバース
		小計(10科目)	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	0	兼10	—	
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		法学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		政治学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		小計(6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	0	兼8	—	
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前		1					○						兼4	
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後		1					○						兼8	
		スポーツ健康科学講義(身体の健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		スポーツ健康科学講義(心の健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		小計(4科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	0	兼10	—	
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前		1				○							兼1	
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後		1				○							兼1	
		総合A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1	メディア
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1	メディア
		小計(8科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼10	—	
	社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		日本語リテラシー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		社会と企業の仕組み	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		起業とマーケティング	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		実践職業論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント実践	3・4後		2		○									兼1	
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	—	

基盤教育	留学支援科目	日本語科目	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後		2			○							兼1	
			Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前		2			○							兼1	
			Integrated Japanese I	1・2・3・4後		5			○							兼9	
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前		5			○							兼9	
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後		2			○							兼5	
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前		2			○							兼5	
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Project Work I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Project Work II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Culture I	1・2・3・4後		1			○							兼1	
			Japanese Culture II	1・2・3・4前		1			○							兼1	
			小計(14科目)	—	0	26	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—
理工学共通科目	数学	数学基礎演習A	1前・後		1				○							兼3	
		数学基礎演習B	1前・後		1				○							兼2	
		微分積分学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		微分積分学基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		微分積分学A	1前・後	2				○								兼6	
		微分積分学A演習	1前・後		1				○		1					兼3	
		微分積分学B	1後		2			○								兼1	
		微分積分学B演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学基礎	1後		2			○								兼1	
		線形数学基礎演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学	1後		2					○						兼1	
		離散数学	1後		2			○								兼1	
		確率統計基礎	1前・後		2			○								兼1	
		確率と統計	2・3・4後		2			○								兼1	
		微分方程式	2・3・4前		2			○								兼1	
		ベクトル解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		複素解析	2・3・4前		2			○								兼1	
		フーリエ解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		小計(18科目)	—	2	28	0		—		1	0	0	0	0	0	兼17	—
	物理学	物理学A	1前・後		2			○				1				兼1	
		力学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		力学基礎演習	1前		1				○							兼1	
		物理学B	1後		2			○				1					
		電磁気学基礎	1後		2			○								兼1	
		振動・波動	1後		2			○								兼1	
		力学総合演習	2・3・4前		1				○							兼1	
		物理学実験	1前		2					○						兼7	共同
		統計力学	2・3・4後		2			○								兼1	
		熱力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		量子力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(11科目)	—	0	20	0		—		0	0	1	0	0	0	兼11	—
	化学	化学I	1前・後		2			○								兼3	
		化学II	1後		2			○								兼2	
		化学実験	1後		2					○						兼6	共同
		量子化学入門	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(4科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	兼8	—
	生物学	生物学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		生命科学概論	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学実験	2・3前・後		1					○						兼3	共同
		小計(4科目)	—	0	7	0		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—
	地学	地学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		地学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		地学実験	2・3後		1					○						兼1	
		小計(3科目)	—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
	情報処理	情報処理基礎	1前・後	2				○			1	1					
		情報処理基礎演習	1前・後		1				○		1						
		小計(2科目)	—	2	1	0		—		2	1	0	0	0	0	0	—

理工学共通科目	外国語	Writing I	1・2前・後	1	1			○								兼4	
		Writing II	1・2前・後	1	1			○								兼5	
	英語	Writing III	1・2前					○								兼2	
		Reading I	1・2前・後	1	1			○								兼3	
	英語	Reading II	1・2前・後	1				○								兼6	
		Reading III	1・2後		1			○								兼1	
	英語	Speaking I	1・2前・後	1	1			○								兼5	
		Speaking II	1・2前・後	1				○								兼7	
	英語	Speaking III	1・2後		1			○								兼1	
		Speaking IV	1・2・3・4後	1	1			○								兼1	
	英語	Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後	1	1			○								兼1	
		Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前	1	1			○								兼1	
	英語	Academic English	1・2・3・4前	1	1			○								兼2	
	日本語	日本語 I A	1前	1				○								兼1	
		日本語 I B	1後	1				○								兼1	
	日本語	日本語 II A	1前	1				○								兼1	
		日本語 II B	1後	1				○								兼1	
	日本語	日本語 III A	2前	1				○								兼1	
		日本語 III B	2後	1				○								兼1	
小計(19科目)			—	9	10	0		—		0	0	0	0	0	0	兼21	—
	必修	都市環境デザイン学概論	1前	2				○		2							
		都市環境デザイン学演習	2前	2				○		2							
	必修	卒業研究 I	4前	2				○		7	2	1					
		卒業研究 II	4後	2				○		7	2	1					
	必修	都市環境デザイン学輪講 I	4前	2				○		7	2	1					
		都市環境デザイン学輪講 II	4後	2				○		7	2	1					
小計(6科目)			—	12	0	0		—		7	2	1	0	0	0		—
	選択	都市環境コース演習	3後		2			○		1	1						
		都市創造コース演習	3後		2			○									
	選択	都市経営コース演習	3後		2			○		1		1					
		水環境学	2前		2		○			1							
	選択	都市環境実験	2後		2			○		1						兼1	共同
		構造力学	2前		2		○			1							
	選択	地盤工学	2前		2		○			1							
		水工水理学	2前		2		○					1					
	選択	建設材料学	2前		2		○			1							
		コンクリート工学	2後		2		○					1					
	選択	建設リサイクル学	2前		2		○			1							
		建設経営の基礎	2後		2		○									兼1	
	選択	地域経済学	2前		2		○					1					
		都市再生学	3後		2		○					1					
	選択	地盤環境学	3前		2		○			1							
		環境分析学	3前		2		○			1							
	選択	環境シミュレーション	3前		2		○					1					
		水理土質実験	3前		2			○		2		1					共同
	選択	構造設計学	3前		2		○			1							
		構造物維持管理工学	3前		2		○			1							
	選択	国際建設マネジメント	3後		2		○									兼1	
		都市経営管理学	3前		2		○			1							
	選択	都市解析	3前		2		○			1							
		材料とかたち	1後		2		○			1							
	選択	水と土の科学	1後		2		○			2							オムニバース
		地球環境学	1後		2		○					1					
	選択	都市デザインの数理	1前		2		○					1					
		地域文化史	1後		2		○			1							
	選択	図形処理	2前		2		○			1							
		環境都市計画	2後		2		○					1					
	選択	測量学基礎	2前		2		○			1							
		測量学基礎実習	2後		2			○		1						兼1	共同
	選択	測量学応用	2後		2		○			1							
		環境数値解析	2後		2		○					1					
	選択	水・大気循環工学	2前		2		○			1							
		構造力学演習	2後		1			○		1							
	選択	廃棄物処理学	2後		2		○			1							
		地盤工学演習	2後		1			○		1							
	選択	水工水理学演習	2後		1			○				1					
		デザイン論	3後		2		○			1						兼1	オムニバース
	選択	地理情報システム	3後		2		○					1					
		交通計画	3前		2		○					1					
	選択	インターンシップ	3前		2			○		2		1					共同
		測量学応用実習	3前		2			○		1						兼1	共同

専門 科目	選 択	河川・海岸工学	3後		2		○			1						
		エコビジネス	3後		2		○			1	1					
		資源リユース	3後		2		○			1						
		都市防災学	3後		2		○			1						
		鉄筋コンクリート工学	3前		2		○			1						
		材料構造実験	3後		2				○	1					兼2	共同
		小計(50科目)	—	0	97	0	—			7	2	1	0	0	兼6	—
		副 専 攻 科 目	地 域 学 コ ー ス	地域学概論	1前		2		○				1			
東洋建築史	1後				2		○								兼1	
耐震安全と地域防災	2後				2		○								兼1	
まちづくり計画	2前				2		○								兼1	
都市計画	2後				2		○								兼1	
都市・建築企画Ⅰ	2後				2		○								兼1	
都市・建築企画Ⅱ	3前				2		○								兼1	
小計(7科目)	—			0	14	0	—			0	1	0	0	0	兼5	—
合計(185科目)			—	25	306	0	—			7	2	1	0	0	兼141	—
学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野			工学関係 理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目から24単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目12単位、選択必修科目14単位以上を含む選択科目を58単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分					2学期					
						1学期の授業期間					15週					
						1時限の授業時間					90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部 建築学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育	哲学・思想	エンジニアのための哲学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		倫理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		論理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会思想論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		数学と思想	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		井上円了と東洋大学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	小計(8科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼12	—	
	自然・生命・環境・	天文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		環境科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		資源とエネルギー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		工学概論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(4科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	日本と世界の歴史・文化	文学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		歴史学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		文明論	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		科学史	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		英語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	オムニバス
		ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		中国語と文化	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本の文化と思考様式	1・2・3・4前		2		○									兼3	オムニバス
		科学について英語で考える	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
	小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	現代・社会	経済学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		社会学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		法学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		政治学	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
	小計(6科目)		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
	スポーツと健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4後		1				○							兼4	
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○							兼8	
		スポーツ健康科学講義(身体・健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		スポーツ健康科学講義(心・健康)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	総合教養	教養ゼミナールA	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		教養ゼミナールB	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		総合A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2	メディア
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1	メディア
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1	メディア
	小計(8科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—	
	社会人基礎科目	技術作文	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		日本語リテラシー	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		社会と企業の仕組み	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		起業とマーケティング	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		実践職業論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリアデベロップメント実践	3・4後		2		○									兼1	
	小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—	

基盤教育	留学支援科目	日本語科目	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4後		2			○							兼1	
			Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前		2			○							兼1	
			Integrated Japanese I	1・2・3・4後		5			○							兼9	
			Integrated Japanese II	1・2・3・4前		5			○							兼9	
			Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4後		2			○							兼5	
			Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4前		2			○							兼5	
			Kanji Literacy I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Kanji Literacy II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Project Work I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Project Work II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4後		1			○							兼3	
			Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前		1			○							兼3	
			Japanese Culture I	1・2・3・4後		1			○							兼1	
			Japanese Culture II	1・2・3・4前		1			○							兼1	
			小計(14科目)	—		0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼11	—
理工学共通科目	数学	数学基礎演習A	1前・後		2				○		1					兼2	
		数学基礎演習B	1前・後		1				○							兼2	
		微分積分学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		微分積分学基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		微分積分学A	1前・後	2				○								兼6	
		微分積分学A演習	1前・後		1				○							兼4	
		微分積分学B	1後		2			○								兼1	
		微分積分学B演習	1後		1				○							兼1	
		線形数学基礎	1後		2			○								兼3	
		線形数学基礎演習	1後		1				○							兼2	
		線形数学	1後		2						1						
		離散数学	1後		2			○			1						
		確率統計基礎	2・3・4前・後		2			○								兼2	
		確率と統計	2・3・4後		2			○								兼1	
		微分方程式	2・3・4前		2			○								兼1	
		ベクトル解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		複素解析	2・3・4前		2			○								兼1	
		フーリエ解析	2・3・4後		2			○								兼1	
		小計(18科目)	—		2	28	0	—		2	0	0	0	0	0	兼16	—
	物理学	物理学A	1前・後	2				○			1					兼1	
		力学基礎	1前・後		2			○								兼2	
		力学基礎演習	1前		1				○							兼1	
		物理学B	1前・後		2			○								兼1	
		電磁気学基礎	1後		2			○								兼1	
		振動・波動	1後		2			○								兼1	
		力学総合演習	2・3・4前		1				○							兼1	
		物理学実験	1前		2					○						兼7	共同
		統計力学	2・3・4後		2			○								兼1	
		熱力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		量子力学	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(11科目)	—		2	18	0	—		0	1	0	0	0	0	兼11	—
	化学	化学I	1前・後		2			○								兼3	
		化学II	1後		2			○								兼2	
		化学実験	1後		2					○						兼5	共同
		量子化学入門	2・3・4前		2			○								兼1	
		小計(4科目)	—		0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	—
	生物学	生物学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		生命科学概論	1・2・3前		2			○								兼1	
		生物学実験	2・3前・後		1					○						兼3	共同
		小計(4科目)	—		0	7	0	—		0	0	0	0	0	0	兼4	—
	地学	地学I	1・2・3前		2			○								兼1	
		地学II	1・2・3後		2			○								兼1	
		地学実験	2・3後		1					○						兼1	
		小計(3科目)	—		0	5	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
	情報処理	情報処理基礎	1前・後		2			○								兼3	
		情報処理基礎演習	1前・後		1				○							兼3	
		小計(2科目)	—		0	3	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	—

理工学共通科目	外国語	Writing I	1・2前・後	1			○								兼5	
		Writing II	1・2前・後	1			○								兼5	
理工学共通科目	英語	Writing III	1・2前				○								兼3	
		Reading I	1・2前・後				○								兼4	
		Reading II	1・2前・後	1			○								兼8	
		Reading III	1・2後				○								兼2	
		Speaking I	1・2前・後				○								兼3	
		Speaking II	1・2前・後	1			○								兼8	
		Speaking III	1・2前				○								兼1	
		Speaking IV	1・2・3・4後				○								兼1	
		Prep for TOEIC Test I	1・2・3・4前・後				○								兼1	
		Prep for TOEIC Test II	1・2・3・4前				○								兼1	
		Academic English	1・2・3・4前				○								兼2	
	日本語	日本語 I A	1前	1			○								兼1	
		日本語 I B	1後	1			○								兼1	
		日本語 II A	1前	1			○								兼1	
		日本語 II B	1後	1			○								兼1	
		日本語 III A	2前	1			○								兼1	
		日本語 III B	2後	1			○								兼1	
専門科目	必修	小計(19科目)	—	9	10	0	—			0	0	0	0	0	兼24	—
		環境工学	1前	2			○			1					兼1	
		環境設備工学	1後	2			○			1					兼1	
		建築の形態とちから I	1前	2			○				1					
		建築の形態とちから II	1後	2			○									
		建築設計製図 I	2前	3				○		1	1	1			兼7	共同
		建築設計製図 II	2後	3				○		2	2	1			兼5	共同
		建築設計製図 III	3・4前	3				○		4		1			兼5	共同
		卒業研究 I	4前	2			○			9	3	3				
		卒業研究 II	4後	2			○			9	3	3				
		小計(9科目)	—	21	0	0	—			9	3	3	0	0	兼17	—
	選択	卒業論文	4後	4			○			9	3	3				
		卒業設計	4後	4			○			1						
		建築概論	1前	2			○			1						
		空間計画	1前	2			○			1						
		西洋建築史	1前	2			○				1					
		建築構法	1後	2			○			1						
		東洋建築史	1後	2			○			1						
		建築製図基礎演習	1後	2				○		2		1			兼3	共同
		建築の形態とちから演習	1後	1				○		1					兼1	共同
		構造計画	2前	2			○			1						
		耐震安全と地域防災	2後	2			○			1						
		産学協同実習 I	2前	2				○		1						
		建築材料 I	2前	2			○				1					
		建築材料 II	2後	2			○				1					
		環境計画	2前	2			○			1						
		産学協同実習 II	3・4前・後	2				○				1				
		建物管理保全計画	3・4後	2			○								兼1	
		建築都市法規 I	3・4前	2			○								兼1	
		建築都市法規 II	3・4後	2			○								兼1	
		総合設計演習	4前	3				○				1			兼1	共同
		測量実習	4前	2					○	1						
		建築計画 I	2前	2			○				1					
		建築計画 II	2後	2			○			1						
		インテリアデザイン	2後	2			○					1				
		建築計画 III	3・4前	2			○			1						
		建築計画 IV	3・4後	2			○				1					
		建築意匠	3・4前	2			○			1						
		歴史意匠	3・4後	2			○				1					
		計画・設計演習	3・4前	3				○		2					兼2	共同
		木質構造	2後	2			○			1						
		構造解析学	2後	2			○				1					
		鉄筋コンクリート構造	2後	2			○				1					
		構造設計法	3・4前	2			○			1						
		鋼構造	3・4前	2			○				1					
		構造・材料実験	3・4前	2				○		1	1				兼1	共同
		木質構造設計演習	3・4前	2				○		1					兼1	共同
		構造設計演習	3・4後	2				○		1						
		設備計画	2後	2			○			1						
		環境設備実験実習	2前	2				○		1		1			共同	
		環境マネジメント	3・4前	2			○			1						
		環境設備設計演習 I	3・4前	2			○			1		1			共同	

専門科目	選択	環境設備設計演習Ⅱ	3・4後	2		○	○		1		1					共同	
		構法計画	2前	2		○			1								
		建築施工	2後	2		○			1								
		建築経済	2後	2		○			1								
		まちづくり計画	2前	2		○				1							
		都市計画	2後	2		○				1							
		都市・建築企画Ⅰ	2後	2		○					1						
		建築生産	3・4前	2		○			1								
		建築産業	3・4前	2		○			1								
		住宅生産	3・4後	2		○			1								
		都市・建築企画Ⅱ	3・4前	2		○					1						
		建築プロジェクトマネジメント演習	3・4後	2			○		1						兼1	共同	
副専攻科目	地域学コース	都市・建築企画設計演習	3・4後	3			○	○		1	1				共同		
		構法・生産設計演習	3・4前	2			○	○		1		1			共同		
		小計(55科目)	—	0	116	0		—	9	3	3	0	0	兼12	—		
		地域学概論	1前	2			○				1				兼1	オムニバス	
		環境都市計画	2後	2			○								兼1		
		都市再生学	3後	2			○								兼1		
		地盤環境学	3前	2			○								兼1		
		交通計画	3前	2			○								兼1		
		都市防災学	3後	2			○								兼1		
		小計(6科目)	—	0	12	0		—	0	1	0	0	0	兼4	—		
		合計(192科目)			—	34	323	0		—	10	3	3	0	0	兼151	—
		学位又は称号		学士(理工学)		学位又は学科の分野			工学関係 理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
基盤教育から選択科目を10単位以上を修得し、理工学共通科目群から24単位以上を修得し、専門科目においては、必修科目21単位、選択必修科目4単位以上を含む選択科目を49単位以上を修得し、かつ副専攻科目群を含めた全体で124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分				2学期						
							1学期の授業期間				15週						
							1時限の授業時間				90分						

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	理工学共通分野	解析学	イプシロン・デルタ論法を用いて実数や複素数を解析し、数学的な知見を深め論理的な思考を実践することを目的とする。数列・級数の収束性、関数の連続性の精密な定義とその応用について解説する。収束性の判定方法として、優級数・劣級数を用いた不等式評価による判定法、交代級数に関するライプニッツの判定法、正項級数に対する比のテストと根のテスト、実級数に対するオイラー・マクローリンの方法などを紹介する。	
授業科目	理工学共通分野	光科学	本講義の目的は複屈折や円複屈折を有する光学結晶における光伝搬のイメージを与えることにある。授業ではまず、ベクトル演算子や波動の複素表記を用いて波動方程式、マックスウェルの方程式を解説し、媒質の屈折率と光の位相速度、誘電率の関係を明らかにした後に、一軸結晶とその光伝搬について詳述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	シミュレーション学	本講義は、理工学への応用を念頭に置いて、主に確率論を基礎にしたシミュレーション技法を体系的に学ぶことを目的としている。これは、理工学の多くの分野でランダムであることが本質的なシステムが多くあるためである。さらに、実際にプログラミング言語でシミュレーションを行うことで理解を深める。決定論的なシミュレーションの方法を議論したあとで、確率論的なシミュレーションの方法を議論し、その違いを明らかにする。更に、確率論的なシミュレーション固有の問題点を解決するために行われる各種のアプローチについて学ぶ。	
授業科目	理工学共通分野	応用物理学	21世紀を支える先端技術としてマイクロマシンやマイクロ分析システムなどマイクロテクノロジーを取り上げる。マイクロテクノロジーとは、各種の微細加工、組立製造、評価・計測に関連する幅広い技術である。微細加工では、半導体プロセス、三次元サブミリ加工、ナノメーターレベル加工など従来の機械加工では不可能である高度加工技術が要求されている。そこで、このような高度加工技術やマイクロデバイスの原理、特徴、工業応用について講義する。また、マイクロデバイスを設計する指針についても簡単に講義する。	
授業科目	理工学共通分野	プラズマ物理学	プラズマは固相、液相、気相に次ぐ物質の第四の相と呼ばれている。その現象は原子・分子のミクロなレベルから恒星や星間空間に至る広大なレベルにまで広範囲に見られ、これを理解するためには量子力学や電磁気学の基礎的な知識が不可欠である。本講義では、プラズマを構成する各種のミクロ粒子（素粒子・原子核・原子・分子・イオン）の振舞いと、電磁流体としてのマクロな現象をつなぐプラズマの素過程について学ぶと共に、それが現代産業にどのように応用されているかを概観する。	
授業科目	理工学共通分野	物性物理学	物性物理学は物質の巨視的な性質を、物理学の（力学、熱力学、統計力学、電磁気学、量子力学）の知見をもとに、微視的に理解する学問であり、現在の物質科学、エレクトロニクスの基礎を支える重要な分野である。多くの物質は原子が規則正しく配列しており結晶構造を有している。このような系の比熱や伝導特性などを理解するためには、そこに含まれる多数の原子及び電子の量子力学的な振る舞いやエネルギー状態を理解しなければならない。本講義ではこのような物質の巨視的な性質を物理学及び数学の手法を用いて講述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	ナノサイエンス	最先端のナノサイエンスを支える基礎科学、特に、化学反応が関わる合成・加工技術、およびナノ構造や物性を評価する技術とその原理を前半に講義する。これらを通じてナノマテリアルを学ぶ基礎を教授する。後半は最先端分野であるナノサイエンスのナノマテリアルへの応用事例を紹介する。特に、応用事例は英語で講義が行われ、受講者も英語によるプレゼンテーションを行う。これらを通じて、受講者に国際化へのモチベーションを与える。	隔年
授業科目	理工学共通分野	エコロジーと化学	人類による大量生産・大量消費は、地球温暖化をはじめとする地球規模環境問題の原因であり、廃棄物問題なども引き起こしている。さらに、環境ホルモン・化学物質過敏症の問題など、人類生存のためには解決しなければならない難題が山積している。本講義ではそれらの幾つかを取り上げ、生態系と化学との関わりの観点から論じ、環境問題の本質を理解することを目的とする。受講者に課題を課して、調査結果のプレゼンテーションを行わせ、その内容についてディスカッションする。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業 科目	生 物 科 学 分 野	数理生物学特論	数学（グラフ理論）を用いた生体ネットワークの解析を行う。特に、細胞内におけるDNA（RNA）転写の仕組みを学び、それによって形成される転写ネットワークについて、その特徴を学ぶ。生物が他の対象と異なる点は、あらゆる生体が自然淘汰された結果であるということである。そのため、生体ネットワークの構成要素（ネットワークモチーフ）には、他のネットワークやグラフに比べ、生体だけが持つ特殊な性質がみられる。生体ネットワークの特徴的な「形」を数学的に表現し、それが生命の生き残りにどのように有効であるのかを解明する。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	生物模倣特論	生命体の働き・機能および構造を力学的観点から把握し、それらを生物が外界の変化を感知しそれに反応する仕組みを理解することを目的とする。このために、いくつかの動物及び植物の環境応答を取り上げ、それらについて議論し合うゼミ形式で進め、問題の取り組み方、解決の仕方を考えさせることで生命体に関わる力学の基礎、エネルギー利用方法を学び、生物や生物現象に対する探求心を高める。力のバランス、運動方程式を使えるようにし、生命体の機能を理解できる能力を身につける。これを基に医療用、および機能補助機器の設計ができる能力を習得する。国際化を鑑み最低5回は英語でのゼミ形式とする。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	生体流体力学特論	生物の運動能力及び体内循環の仕組みを流体力学から把握する能力を身につけることを目的とする。このために、生物の代表的運動である走る、泳ぐ、飛ぶといった運動を取り上げる。それらについて議論し合い、問題の取り組み方、解決の仕方考えさせることで生命体に関わる力学の基礎、エネルギー利用方法を学び、生物や生物現象に対する探求心を高める。力のバランス、運動方程式を使えるようにし、生物の運動機能を理解できる能力を身につける。これを基に医用、および生体機能補助機器などの設計ができる能力を習得する。国際化を鑑み最低5回は英語でのゼミ形式とする。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	運動科学特論	学部で学んだ解剖学、生理学及び運動生理学の知識を基礎として、運動やトレーニングなどの外部環境の変化に対するホメオスタシスについて学ぶ。生物の特性や環境変化に対する適応能など運動科学分野の最先端の研究内容から生命機能の知識を深める。特に、運動生理学分野の先行研究の論文を用いて、輪読形式により学んでいく。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	人間工学特論	人間工学は、労働医学（人が利用するものを快適にする探究）やバイオメカニクス（動作や身体的特徴からヒトの生理機能を探究）、生理反応の計測・解析など様々な領域に必要な学問であり、本授業では生物の科学を学ぶために必要な工学的な知識を身に着けることを目的とする。人間の生物としての生理的・認知的・精神的特性を理解しながら、仕事、機械、道具、コンピューター、環境、組織、社会システム、組織文化などの適正化を図るための人間工学の手法、アプローチについて輪読形式で学ぶ。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	生理学特論	生理学は広範な領域を含むが、二つの「生体の構造と機能」の総合的な理解を担当している。まずは、脳神経系や感覚・運動に代表される機能であり、脊髄延髄レベルにおける反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中枢神経機能の理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系を学習する。また、記憶や学習などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。次に、生物の生命維持に必須な機能である血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝内分泌の構造と機能を学習する。これらは、自律神経およびホルモンによる調節を受け恒常性の維持に関連しており、これらの調節系の系統的かつ相互的理解を目指す。	
授業 科目	生 物 科 学 分 野	生物学特論	生物学特論では「生命とは何か」をテーマに、その成り立ちと仕組みとそれを取り巻く地球環境を含め総合的に講義する。「生命」が宿る生物のミクロからマクロまでの構造とその機能を学習し、それらの構造と機能が維持され、次世代へ伝えられる仕組み、さらにその継続性のある生命体を取り巻く地球環境に関して基礎から最新の知見を網羅しながら理解するように努める。特に、エネルギーの循環と代謝機能に関しては細胞レベルから地球環境レベルまで、系統的な理解を促す。人間を含む生物を分子生物学的、生化学的、生理学的、生態学的、環境科学的な側面から総合的かつ多角的に学習し、生命の不思議と貴さと環境保全の重要性を考える機会となるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業 科目	生物 科学 分野	生体防御学特論	免疫系は昆虫から哺乳類まで幅広く存在している生体防御系であるが、この免疫の基礎概念、免疫系の進化、自然免疫の重要性について授業の前半3分の1を費やして理解してもらう。次に個々の外敵に適応させた特異的な免疫応答である獲得免疫系の認識メカニズムや担当細胞・分子を理解する。後半3分の1を費やして免疫システムが関連する様々な疾患（アレルギー、移植、癌、自己免疫）について説明し生体防御における重要性を理解してもらう。本授業を通じて生物の恒常性の維持機構、環境・外刺激に対する対する適応機構を学ぶ。	
授業 科目	生物 科学 分野	分子・遺伝生物学特論	分子生物に関して細胞構成要素である遺伝子を中心に、生化学的特性、遺伝情報の伝達の仕組み、転写制御機構、細胞間相互作用に重要なシグナル伝達分子、細胞周期の制御機構などについて前半の授業で理解してもらう。後半の授業では遺伝子制御の観点から生物・生命体の発生、分化、再生のメカニズムを理解してもらう。特に組織の再生や遺伝子制御による発生・分化のメカニズム、およびバイオテクノロジー技術による生物利用の実用例を調査しながら科学技術イノベーションの理解を深める。	
授業 科目	医工 学 分野	医用システム工学特論	社会を支えるシステムのうち医用システムに関する先端的な工学技術を概観する。 主に医用画像診断装置や治療機器を中心に、文献による知識の吸収をおこなうだけでなく、ディスカッションを通じて知識を更に深化する。また、生体信号や医用画像処理を実際に演習形式で行うことで、医用システム構築にあたって必要となる実際的な知識を獲得する。 なお国際化を鑑み、テキストおよび資料は基本的に英語で記述されたものを用いる。	
授業 科目	医工 学 分野	医療機器安全学特論	臨床の場で医療に貢献するための境界領域の学問である臨床工学において、患者及び医療スタッフが医療機器を安全に使用できるよう、医療機器・設備の安全管理に加え、関係法規、システム安全などを含めた知識を学ぶ。 本講義の内容は安全で有効な医療機器の開発に役立つだけでなく、生体医工学学会の実施するME検定（第1種・第2種）の試験対策としても有効である。	
授業 科目	医工 学 分野	医工学特論	分子から組織、器官、個体に至る系を統合的に把握し、生体機能の理解を深め、医療における検査機器、治療器械、人工臓器などの医用機器に関する知識を習得させる。疾病の診断、治療、予防、リハビリテーション、さらには健康の増進につくす研究領域の基礎となる教育を行う。工学の医学への応用にとどまらず、「科学技術と、人間を含む生物との共生と環境との調和」という考え方を身につけ、かつそれを可能にする技術開発の基礎知識および教育者としての素養を習得できるプログラムとする。	
授業 科目	医工 学 分野	基礎医学特論	教育や医療に携わる者にとってその基礎をなす、人体の精緻な構造と巧妙な成り立ちを学び、生命の尊厳とその重さを思う心を養うことを目的とする。人体構造の系統を把握し、器官と部位の解剖用語を正確に述べられ、生理機能と関連づけられ、説明できることを目指す。また、発生に関する講義では、受精から出産まで生命の神秘を感じ得る教材を準備し、生命の尊厳について真摯に考えられる機会となるようにする。	
授業 科目	医工 学 分野	計測科学特論	生体計測の基本事項（計測対象、計測法、計測精度、計測確度、揺らぎ等）について概念的に理解させるとともに具体的な計測への応用力を養う。脳機能計測を題材に選び、その特徴と問題点、各種計測法の原理、装置上の工夫等について発表形式で学ぶ。代表的な脳機能計測の信号処理および統計処理について演習を交えて学び、計測データを取り扱う基本的な手続きを習得させる。さらに、いくつかの具体的テーマに関する計測事例の研究によって習得した知識の統合を図り、技術者あるいは教育者としての科学的素養を確かなものとする。	
授業 科目	医工 学 分野	生体情報工学特論	情報の定義、符号化、信号解析など情報理論・情報工学の基礎からはじめて情報の物理学側面、生物学的側面について学ぶ。生体システムとしては脳を取りあげる。記憶、感覚情報処理を中心に推論の問題やブレイン・マシン・インタフェース等の応用を扱い、生体システムにおける情報の特徴、情報処理について理解を深め、技術者あるいは教育者としての生物現象理解のための科学的素養を確かなものとする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	医工学分野	ナノメディシン特論	21世紀の重要科学技術分野は情報技術、バイオテクノロジー、それにナノテクノロジーである。ナノメートルの極微世界を舞台に、原子・分子精度の物質制御による超微細、高性能、高効率の創造を材料、素子、システムの観点から学ぶ。また、バイオ、医療、生物にも知見を広げ、境界・融合分野の最前線の研究も紹介することにより、「先端医療・バイオ・ナノ融合研究」に触れ、学生が将来「国際性を有する先端科学技術者」となるための教育を行う。	
授業科目	医工学分野	医工材料力学特論	医療における「ものづくり」を支える学問分野に生体材料工学がある。生体材料は、高分子バイオマテリアル、人工関節、再生医療から人工細胞やナノカプセルまで、幅広く研究されている。しかし、これらを実際に使用するとすると、物性や合成法だけでなく、材料の持つ力学特性を知っておく必要もある。そこで、本講義では、材料の変形挙動を正しく理解するため、力学的な基礎理論について講義するとともに、材料科学的な立場から生体設計原理を解説する。	
授業科目	医工学分野	量子ビーム医工学特論	粒子性と波動性を併せ持つミクロな物体を量子(Quantum)という。加速器の技術開発の進展に伴い、従来は純粋基礎物理学の範疇でしか扱うことのできなかった様々な量子をビームとして取り出し、これを他の分野に応用する研究が進んでいる。核医学分野でも量子ビームを積極的に診断・治療に応用する研究が進んでいる。本講義では、放射線物理学の基礎を習得し、量子の性質と振舞いをミクロな視点で学ぶと共に、その人体への影響を生物学的なマクロな視点で概観し、量子ビームの医工学応用について考えることを目的とする。	
共通科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担う人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中
研究指導科目	生物科学分野	生物科学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 生物科学分野に関して、研究の実践、指導を行い、生物科学分野の研究について論文指導を行う。 （1 小河 繁彦） 循環生理学及び運動生理学領域での方法論（生体情報計測や分析法など）や研究手法（論理立て、論文作成など）の習得を目的とした研究指導を行う。 （2 小山 信也） 生体システムにおける数学的考察を行いながら、数学的な『ものの見方・考え方』を養うことを目標に研究を行う。 （4 加藤 和則） 免疫学、腫瘍学、細胞工学、検査医工学、創薬科学に関する研究を行う。実験環境構築、実験、データ集積・解析、論文作成、成果発表など一連の流れを習得し、各研究テーマに即して研究指導を行う。 （6 堀内 城司） ストレスと運動時の脳内ネットワークの解明をメインテーマに、実験仮説の設定、実験計画の作成、実験実施、データ集積・解析、論文作成、学会等で発表など、神経科学研究の一連の流れを習得する。 （7 望月 修） バイオミメティクス分野の現状把握に基づいた研究目的の設定、実験計画の作成、学術的討議ができ、実験、データ集積・解析、論文作成、成果発表など一連の流れを習得し、学会発表できるように研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	生 物 科 学 分 野	生物科学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) 生物科学分野に関して研究背景および動向調査を行い、生物科学分野における問題点の把握が出来るよう指導を行う。 (1 小河 繁彦) 血圧及び脳循環調節機能に関するゼミを行う。院生個人により対応の仕方、指導は異なるが、輪読での質問等により個人の文献読解能力を向上させ、さらに研究で必要な既知情報の取得を促す。このように研究指導する。 (2 小山 信也) 生体システムにおける数学的考察を目標に研究を行う。既知の定理や諸結果の概観。研究課題の創出と設定。研究課題に従い、定理の証明・具体例の計算を行う。このように研究指導する。 (4 加藤 和則) 研究の進捗報告、研究テーマに関する学術論文、専門書の調査結果などを発表する。研究に関連した新たな技術動向について常に吟味するために関連文献等の調査をし、新たな知見を得るように研究指導する。 (6 堀内 城司) ストレスと運動時の脳内ネットワークと自律機能をテーマに、関連する学術論文の輪講を行う。選択したテーマに関する英語文献を読めるようになり、さらに問題点を把握できるようになるように研究指導する。 (7 望月 修) バイオメディクス研究の進捗報告、テーマに関する学術論文、専門書の調査結果などを発表する。各テーマに関連する英語の専門書あるいは学術論文を読み、それらから問題点を把握できるように指導する。	
研究 指導 科目	医 工 学 分 野	医工学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) 医工学分野に関して、研究の実践、指導を行い、医工学分野の研究について論文指導を行う。 (3 田中 尚樹) 脳背景活動の機能等に関するテーマについて、研究目的・実験計画の設定、実験、データ集積・解析を実行し、論文作成、さらに学会発表できるように研究指導を行う。 (5 寺田 信幸) 高齢者社会における医療・健康・福祉に寄与できる研究に取り組んでいる。選択したテーマについて、研究プロトコルの吟味が論理的に行え、実験環境構築、実験、データ集積・解析、論文作成、成果発表などができるように研究指導を行う。 (8 吉田 善一) 研究・開発を中心に、設定されたテーマに対して社会人や他の院生や学部学生とグループを組み、文献調査、実験、まとめ、発表を行うことを目標にする。 (9 山内 康司) 本研究では、機械工学や情報工学といった工学技術を医療福祉の発展に貢献できるようにすることを目指し、実験企画、実験、データ解析、論文作成、成果発表など一連の流れを習得する。このように研究指導を行う。 (11 本橋 健次) 粒子性と波動性を兼ね備えた基本粒子を量子と呼ぶ。量子ビームと物質との反応における高い選択性と制御性を利用し、新たな医用材料の創出や核医学分野の装置開発を目指した研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科生体医工学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容
研究 指導 科目	医 工 学 分 野	医工学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 医工学分野に関して研究背景および動向調査を行い、医工学分野における問題点の把握が出来るよう指導を行う。 （3 田中 尚樹） 脳背景活動の機能等に関連する専門書あるいは学術論文の輪講を行う。到達目標は選択したテーマについて、当該分野の英語文献を辞書等の助けを借りて読めるように研究指導する。 （5 寺田 信幸） 少子化・高齢者社会における医療・健康・福祉に寄与できる研究に取り組んでいる。幅広い視野をもって様々な問題の発見、解決ができるように、現実的・実践的なケーススタディを通して総合的な能力を育成する。ゼミ形式で文献を読み、発表する。このように研究指導する。 （8 吉田 善一） 吉田善一著『企業研究者のキャリア・パス』をテキストとして研究・開発力と人格の育成を図ることを目標にする。また、技術分野の動向や技術者精神に加え人文社会分野を取り入れ、技術予見力や国際感覚を養う。 （9 山内 康司） 医用工学に関する輪講を行う。各自の研究に関連する「適切な」論文を検索すること、論文をまとめ、理解するための自発的な力を養うことを目標とする。研究の体系化、文献検索、発表をおこなう。このように研究指導する。 （11 本橋 健次） 原子物理学や放射線医学に関連する輪講を行い、実験手法や装置のオリジナリティー（独自性）に対して議論する。電子・多価イオン・プラズマ励起による物質の選択的改質・加工に関する研究指導を行う。

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科生体医工学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特殊 研究	生体医工学特殊研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	（概要）生体医工学分野に関して、研究の実践、指導を行い、様々な問題の発見、解決ができるように研究指導する。 （1 小河 繁彦） 運動生理学、医科学、運動時の循環調節機能に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （2 小山 信也） 生体システムへの数学的応用に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （3 田中 尚樹） 脳背景活動の機能等に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （4 加藤 和則） 免疫学、腫瘍生物学、遺伝子解析学、バイオ創薬に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （5 寺田 信幸） 医工学、ユビキタス医療診断システムの開発に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （6 堀内 城司） 脳・神経科学、ストレスの生体反応と調節に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （7 望月 修） バイオメテイクス、マイクロ医療機器の開発、生物流体力学に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （8 吉田 善一） マイクロ・ナノ流体素子の開発およびマイクロ加工に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。 （11 本橋 健次） 原子分子物理学、表面物理学に関する研究を提案させるとともに、文献調査、進捗報告などを経て内容の一層の具体化とスケジュール策定を行わせ、研究指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科生体医工学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	生体医工学研究指導	（概要）生体医工学分野に関して、研究の実践、指導を行い、学術論文および博士論文を書けるよう研究指導を行う。 （1 小河 繁彦） 運動生理学、医科学、運動時の循環調節機能に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （2 小山 信也） 数学、代数学、ゼータ関数に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （3 田中 尚樹） 脳背景活動の機能等に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （4 加藤 和則） 免疫学、腫瘍生物学、食品機能学、診断技術開発などの各研究テーマに関して学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （5 寺田 信幸） 医工学、ユビキタス医療診断システムの開発に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （6 堀内 城司） 脳・神経科学、ストレスの生体反応と調節に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （7 望月 修） バイオメディクス、マイクロ医療機器の開発、生物流体力学に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （8 吉田 善一） マイクロ・ナノ流体素子の開発およびマイクロ加工に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。 （11 本橋 健次） 原子分子物理学、表面物理学に関する研究を企画、実施し、学術論文および博士論文を書けるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科応用化学専攻博士前期課程)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	理工学共通分野	解析学	イプシロン・デルタ論法を用いて実数や複素数を解析し、数学的な知見を深め論理的な思考を実践することを目的とする。数列・級数の収束性、関数の連続性の精密な定義とその応用について解説する。収束性の判定方法として、優級数・劣級数を用いた不等式評価による判定法、交代級数に関するライプニッツの判定法、正項級数に対する比のテストと根のテスト、実級数に対するオイラー・マクローリンの方法などを紹介する。	
授業科目	理工学共通分野	光科学	本講義の目的は複屈折や円複屈折を有する光学結晶における光伝搬のイメージを与えることにある。授業ではまず、ベクトル演算子や波動の複素表記を用いて波動方程式、マックスウェルの方程式を解説し、媒質の屈折率と光の位相速度、誘電率の関係を明らかにした後に、一軸結晶とその光伝搬について詳述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	シミュレーション学	本講義は、理工学への応用を念頭に置いて、主に確率論を基礎にしたシミュレーション技法を体系的に学ぶことを目的としている。これは、理工学の多くの分野でランダムであることが本質的なシステムが多くあるためである。さらに、実際にプログラミング言語でシミュレーションを行うことで理解を深める。決定論的なシミュレーションの方法を議論したあとで、確率論的なシミュレーションの方法を議論し、その違いを明らかにする。更に、確率論的なシミュレーション固有の問題点を解決するために行われる各種のアプローチについて学ぶ。	
授業科目	理工学共通分野	応用物理学	21世紀を支える先端技術としてマイクロマシンやマイクロ分析システムなどマイクロテクノロジーを取り上げる。マイクロテクノロジーとは、各種の微細加工、組立製造、評価・計測に関連する幅広い技術である。微細加工では、半導体プロセス、三次元サブミリ加工、ナノメーターレベル加工など従来の機械加工では不可能である高度加工技術が要求されている。そこで、このような高度加工技術やマイクロデバイスの原理、特徴、工業応用について講義する。また、マイクロデバイスを設計する指針についても簡単に講義する。	
授業科目	理工学共通分野	プラズマ物理学	プラズマは固相、液相、気相に次ぐ物質の第四の相と呼ばれている。その現象は原子・分子のミクロなレベルから恒星や星間空間に至る広大なレベルにまで広範囲に見られ、これを理解するためには量子力学や電磁気学の基礎的な知識が不可欠である。本講義では、プラズマを構成する各種のミクロ粒子（素粒子・原子核・原子・分子・イオン）の振舞いと、電磁流体としてのマクロな現象をつなぐプラズマの素過程について学ぶと共に、それが現代産業にどのように応用されているかを概観する。	
授業科目	理工学共通分野	物性物理学	物性物理学は物質の巨視的な性質を、物理学の（力学、熱力学、統計力学、電磁気学、量子力学）の知見をもとに、微視的に理解する学問であり、現在の物質科学、エレクトロニクスの基礎を支える重要な分野である。多くの物質は原子が規則正しく配列しており結晶構造を有している。このような系の比熱や伝導特性などを理解するためには、そこに含まれる多数の原子及び電子の量子力学的な振る舞いやエネルギー状態を理解しなければならない。本講義ではこのような物質の巨視的な性質を物理学及び数学の手法を用いて講述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	ナノサイエンス	最先端のナノサイエンスを支える基礎科学、特に、化学反応が関わる合成・加工技術、およびナノ構造や物性を評価する技術とその原理を前半に講義する。これらを通じてナノマテリアルを学ぶ基礎を教授する。後半は最先端分野であるナノサイエンスのナノマテリアルへの応用事例を紹介する。特に、応用事例は英語で講義が行われ、受講者も英語によるプレゼンテーションを行う。これらを通じて、受講者に国際化へのモチベーションを与える。	隔年
授業科目	理工学共通分野	エコロジーと化学	人類による大量生産・大量消費は、地球温暖化をはじめとする地球規模環境問題の原因であり、廃棄物問題なども引き起こしている。さらに、環境ホルモン・化学物質過敏症の問題など、人類生存のためには解決しなければならない難題が山積している。本講義ではそれらの幾つかを取り上げ、生態系と化学との関わりの観点から論じ、環境問題の本質を理解することを目的とする。受講者に課題を課して、調査結果のプレゼンテーションを行わせ、その内容についてディスカッションする。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科応用化学専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	基礎化学系	無機化学特論	スカンジウム、イットリウムにランタンからルテチウムまでのランタノイド元素を加えた17元素は、総称して希土類金属元素（レア・アース）と呼ばれている。希土類金属元素のf軌道電子がもたらす、興味深い磁気的性質、光学的性質を応用した、磁石や、レーザー光源などが先端技術分野で重要な役割を果たしている。講義では、ランタノイド元素の性質とf軌道電子の関係、希土類化合物の合成と光学物性を中心に解説する。希土類金属元素の化学的性質を学び、光学的性質や磁気的性質に与えるf軌道電子の役割を理解することを目標とする。	隔年
授業科目	基礎化学系	有機化学特論	現代の有機化学は精密合成等の手法で数々の生理活性物質、医薬品等を世に送り出しており、化学の分野において極めて重要な位置を占めている。はじめに基礎的な有機反応の解説を行い、後半では先端の新しい有機化学についても解説する。また、反応機構の推定や有機化合物の機能性発現メカニズムの解明には、それらの立体構造など、高次構造の理解も不可欠となるので、先端分析機器による構造解析についても触れる。	隔年・集中
授業科目	基礎化学系	物理化学特論	各種の化学的現象を理解するための基礎知識の多くは量子化学によってもたらされている。学部において導入された理論的取り扱いをさらに掘り下げて、基本となる物質の二重性とそれに伴う不確定性原理、波動方程式とそれから導かれる量子数を使い原子の電子構造を明らかにし、原子から分子が形成されることを理論的に取り扱う。原子の配置によって生じる対称性を分子軌道に加味した取り扱いとその効果を講義する。応用として、分子が与える各種のスペクトルについて実例を基に解説を加え、スペクトル測定が化学の研究において重要な手段となっていることを説明する。	隔年
授業科目	基礎化学系	分析化学特論	現在多くの分野で利用されている可視・紫外および赤外分光法、蛍光分析や核磁気共鳴分光法の基本原理と応用について理解することを目的とする。可視・紫外分光法においては、その原理となる光の吸収や放出の理論を初めに解説し、吸収スペクトルと蛍光スペクトルについて説明してから、これらのスペクトルを利用した分析法を詳述し、その他の化学分野への応用例についても解説する。赤外分光法ではその基礎である分子の振動・回転から化学への応用までを、核磁気共鳴分光法では、その基礎となる核磁気共鳴現象や実験法の概要、およびこの分光法に特有の化学シフト、スピン結合、核磁気緩和現象等の理論的取り扱いと化学への応用について解説する。	隔年・集中
授業科目	環境化学系	大気化学特論	大気の大気構造や大循環、組成について説明し、大気が熱輸送や気候維持および気象現象に果たす役割を明らかにする。さらに、大気中の微量成分の性質とそれらが気候維持にどのように関わっているかも説明する。そのうえで、環境問題として重要な大気汚染、特にスモッグについて解説し、汚染大気中における窒素酸化物や二酸化硫黄、炭化水素などの微量成分がどのように化学変化して、オゾンのような酸化性物質を生成するのかを説明する。これらの解説を通じて、酸性雨や地球温暖化、オゾン層破壊などの地球規模大気汚染のメカニズムを理解できるようにする。	隔年
授業科目	環境化学系	環境化学特論	大気中には様々な酸性物質や塩基性物質が存在し、これらのバランスにより我々の環境が維持されている。しかし、環境の酸性化が顕著となり、「酸性雨」現象が社会問題として関心を集めている。この酸性雨問題を化学の側面から理解することを目的として、汚染物質が化学反応によって大気中で酸性物質に変わるとともにエアロゾルになり、汚染を広範囲に広げることがを明らかにする。沈着や雲核形成など、エアロゾルの性質と大気環境における役割を詳しく解説する。また、最近問題となっている東アジアの大気環境の状況や、新しい研究の動向についても説明する。	隔年
授業科目	環境化学系	フォトケミストリー特論	光化学は光子の吸収により生じた励起状態の特徴、励起状態からの化学反応など励起状態分子の挙動について研究する学問分野であり、内容が物理化学、無機・有機化学、生化学の領域に及ぶ。本講義では、学部では部分的にしか扱われなかった光化学を体系的に扱う。分子の光吸収について説明し、光を吸収した分子（励起状態分子）の反応以外の挙動、励起状態分子の反応挙動と光を吸収していない分子の反応挙動の相違点と類似点を解説し、さらに光化学反応の反応機構の解析法などについても講義する。光を利用した環境中の化学物質の検出についても言及する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科応用化学専攻博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業科目 環境化学系	グリーンエンジニアリング特論		環境プロセスの設計及び操作に関する講義を通して、化学工学的手法がグリーンエンジニアリングの手法としてどのように役立つのかを解説する。水処理技術を例として、化学工学的アプローチ、つまり物質収支、熱収支、そして反応速度論が実際にどのようにプロセスの設計そして操作に使われるかを論じる。実験データを定量化し実際の化学プロセスの設計および運転に適用するアプローチを演習を通して解説する。	隔年・集中
授業科目 環境化学系	グリーン合成化学特論		グリーンケミストリーとは何かを明らかにし、その重要性を認識させるとともに、グリーンケミストリーの観点から最新の様々な環境低負荷な有機化合物や有機合成法の例を理論的・反応機構的立場から解説し、今後の有機合成化学の進むべき道を考えられるようになることを目的とする。特に、バイオ触媒や有機触媒などの環境に低負荷で効率よく反応を進行させる反応触媒、および水を溶媒に使用する反応や無溶媒系に関する反応例、マイクロ波や光のエネルギーを利用した反応を中心に講義を進めていく。	隔年
授業科目 環境化学系	反応化学特論		エネルギー物質の基礎を含めてエネルギー材料一般に関して講義形式で講義を行う。その後、具体的に、エネルギー物質の合成とその構造に由来する物性を理解し、エネルギー物質の熱分解特性を含めた反応特性について課題を討論しながら講義する。受講学生にはエネルギー物質に関する課題を与えて調査させ、その発表を全員で行い、質疑討論を行う。また、エネルギー物質の分子設計やエネルギー物質の現状と応用を含めて将来展望を中心に総括する。	隔年・集中
授業科目 バイオ・健康化学系	遺伝子工学特論		遺伝子工学とはバイオテクノロジーの一分野であり、遺伝子を人工的に操作する学問分野を指す。授業では、まず、DNA、RNAの構造・性質、およびその基本的な取り扱い、続いて、遺伝子のクローニング・塩基配列解析・遺伝子導入などの基本的技術を講義する。さらに、これらの知識・技術を応用した最新のバイオ技術である遺伝子組み換え作物・食品、遺伝子診断、遺伝子治療、iPS細胞などを紹介し、そのポテンシャルとリスクについて議論を行う。	隔年
授業科目 バイオ・健康化学系	応用生物有機化学特論		生体を維持するための生命現象の多くは、タンパク質、核酸、糖、脂質などの生体を構成する主要な分子群により達成されている。まず、これら分子群の基本的な構造や性質について解説した後、生体中で行われている酵素反応・レセプターと情報伝達等の生命現象、特に、酵素反応機構や分子認識機構について解説する。その後、触媒機能や分子認識能などを持つ人工モデル化合物やそのバイオメディカル分野への応用などの研究例を紹介し、現在のバイオミメティック化学の現状を解説する。本講義では、有機化学と生物化学の境界領域に関する知見を講義し、バイオミメティック材料の設計法や機能について説明する。	隔年
授業科目 バイオ・健康化学系	バイオプロセスエンジニアリング特論		バイオプロセスとして、微生物を用いた水処理プロセスの設計及び操作に関する講義を行い、その重要性を具体的に解説する。特に、微生物が関わる過程の反応速度解析がどのようにバイオプロセスの設計に役立つか、またどのように実際の操作に使われるかを論じる。酵素反応、微生物増殖、活性汚泥生成量等の反応速度論的解析の基礎から好気および嫌気処理バイオリクターの設計そして操作まで解説する。演習を通じて、実験データの解析方法や実際のバイオプロセスの設計および運転に関わる要点を講義する。	隔年・集中
授業科目 バイオ・健康化学系	応用微生物化学特論		分子生物学やバイオテクノロジーなどの進歩による微生物の基礎的研究と工業化の持つ無限の可能性により、応用微生物学は生命科学の最前線において極めて重要な位置を占めている。本講義では微生物の中で近年特にその応用に関して注目を集めている極限環境微生物を中心に微生物の多様性、産業的応用などを解説する。微生物の多様性、分離源、培養方法、構造、増殖因子などの生理・生化学ならびに分子遺伝学などの専門的な知識を教授し、さらに、将来バイオテクノロジー関連の研究に進む場合の創造的思考能力の育成も目指して講義する。	隔年
授業科目 バイオ・健康化学系	バイオ・食品機器分析特論		バイオ技術は食品、医薬品、環境、エネルギー等、日常生活の様々な分野で我々と密接にしかも複雑に絡んでいる。講義では、伝統的バイオ、ニューバイオの成果である色々な産物・製品を概観し、解説する。さらに、学部レベルの生命科学、機器分析の講義を踏まえて、バイオ製品の高機能化、高品質化、品質安全性確保等において機器分析がどのように応用されているかを実例を挙げて解説する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科応用化学専攻博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業科目	バイオ・健康化学系	食品・バイオ特論	本講義では、「食の安全」を中心的テーマとして、食品中に混入する微生物、ウィルス、プリオン（伝染性タンパク質）、発癌物質、内分泌攪乱物質等について前半に講義し、そのリスクをどのように捉えるべきかについて議論する。さらに後半では、遺伝子組換え作物や家畜クローンの作製などのバイオ技術を紹介する。今後の私たちの食のあり方について多面から解説し、より安全な食について自ら考えることを促す。後半の3回程度は、指定したテーマについて受講者が調査し、プレゼンテーションを行い、その内容をディスカッションする。	隔年
授業科目	物質化学系	有機材料科学特論	有機材料として最も重要な高分子材料を中心に講義する。前半では基礎として、高分子合成法と材料特性を支配する物性について解説する。引き続き、さまざまな分野で使用される機能性材料とその機能について説明する。後半では、有機材料にさまざまな機能を付与する応用例を紹介する。特に、応用例では、英語による講義とプレゼンおよび討論を行い、国際化対応を目指す。	隔年
授業科目	物質化学系	無機材料化学特論	材料化学とは、有用物質の製造法やそれらの物性（光学的性質、熱的性質、電気的性質、磁気的性質、力学的性質）を化学の視点から扱う学問である。本講義では、原子や分子等の化学の概念に基づいて、物質と光の相互作用を説明し、様々な無機材料の色と光学的性質について解説する。その後、電気的性質にも注目して、バンド理論などに基づいて絶縁体、半導体、導体の電気伝導性を説明する。半導体を利用した素子や、超伝導体についても、合成法を含めて触れる。	隔年・集中
授業科目	物質化学系	結晶化学特論	結晶化学は、雪や胆石の成長などの身近な現象から、工業的に大きな成功をおさめた半導体シリコン結晶まで数多くの実例がある。本講義では、結晶化学の基礎を十分説明するとともに、単結晶の成長メカニズム、単結晶薄膜の成長メカニズム、エピタキシャル成長メカニズムや成長過程での不純物の挙動、結晶欠陥の発生などの項目を解説する。立方晶、六方晶などの比較対称性の良い結晶を題材に、結晶の構造および物理的・化学的特徴、結晶成長の仕組みについて解説し、結晶化学の基礎的な事項を講義する。	隔年
授業科目	物質化学系	固体材料化学特論	固体化学とは、固体の電子物性及び化学結合との関係に注目して構築された化学の一分野である。固体の電子的性質・構造と化学的性質との関係を知ることは、様々な固体材料に関する研究開発の基本である。本講義では、現代の科学技術の発展に大きく寄与した固体物質、今なお活発な議論の対象となっている固体物質を取り上げ、軌道や化学結合に対する考え方を用いて、固体の電子的性質について解説する。固体材料の物性発現が、固体中での原子や分子の配列の仕方、化学結合、さらに電子状態とどのように関係するのかを説明するため、固体物理学の基礎についても解説する。	隔年・集中
授業科目	物質化学系	高分子材料科学特論	高分子材料の物性として重要な強度、耐衝撃性、結晶性、電気特性、光学特性などについて説明し、高分子の構造とそれらの特性がどのように関連付けられるかを解説する。その後で、高分子材料のトピックスとしてスーパーエンジニアリングプラスチックを取り上げて、耐熱性や強度と構造特性などを説明する。また、高付加価値高分子材料についても、具体例を挙げて機能特性を解説する。講義においては、受講学生に高分子材料の特性に関する課題を毎回与え、その個別報告を受けて、質疑応答も行う。また、高分子材料の現状と将来展望を総括する。	隔年・集中
共通科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担う人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科応用化学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	環境 化学 分野	環境化学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （概要） 環境汚染は自然環境への化学物質の過剰な負荷により引き起こされる。このことから、環境における化学物質の動態解明と負荷を軽減させることを目的として、野外調査、測定手法の開発、環境汚染の改善手法などの研究を行う。修士論文作成を念頭に置いた指導を行い、その成果を関係学会で発表できるレベルに引き上げることが目標となる。 （1 泉 克幸） 大気汚染物質の動態解明のため、野外調査などの研究を行う。また、それに必要な二酸化窒素やオキシダントなどの汚染物質の測定手法開発の研究も行う。 （6 吉田 泰彦） 地球温暖化の原因物質と言われている二酸化炭素の固定反応の新規開発、廃棄物問題を生じている高分子物質―有機材料―の自然環境下での分解、環境汚染物質の分析法の開発や環境低負荷化合物の新規合成研究を行う。	
研究 指導 科目	環境 化学 分野	環境化学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （概要） 環境研究の個別テーマに関する文献調査結果、研究計画、研究結果などについて受講者にプレゼンテーションを行わせ、論理性やその妥当性を議論し、学力を向上させるとともに、研究プロセスに必須なプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。また、専門分野の文献調査を通じて、修士論文作成や専門学会での発表に必要な高度な学力を修得させる。 （1 泉 克幸） 環境における大気汚染物質の動態解明と測定手法開発の研究を行うのに必要な基礎学力を育成する。そのために文献調査した結果をもとに、プレゼンテーションとしてまとめ、討論を行う。討論を通じてスケジュールを含め、研究の内容および方法などの妥当性も指導する。 （6 吉田 泰彦） 環境問題解決方法の開発研究を行うのに必要な基礎学力を育成する。そのために文献を広く調査してプレゼンテーションを行い、教員との討論を通じて研究内容の妥当性も確認する。	
研究 指導 科目	バイ オ・ 健康 化学 分野	バイオ・健康化学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （概要） 生体および生物が示す性質や特異的な機能を化学的に調べ、その機能を応用する研究を行う。また、食品に含まれる毒や遺伝子組み換え食品などの食の安全を化学の側面から研究する。修士論文作成を念頭に置いた指導を行い、研究内容を関係学会で発表できるレベルにすることが目標となる。 （4 川瀬 義矩） バイオプロセスに関連したテーマの研究を行ってもらおう。バイオリアクターによる排水処理技術、気泡塔バイオリアクターの設計など、バイオプロセスに関連したテーマを取り上げる。 （5 福島 康正）人工機能性タンパク質や生体分子を認識する光化学センサーなどのバイオミメティック材料に関する研究を行い、材料設計から合成、機能評価までの一連の研究を進める中で、研究者として必要とされる能力を習得する。 （9 安藤 直子） 食品に混入する微生物毒を対象に研究を行う。研究に必要な実験技術を教授し、得られたデータの正しい解析方法を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科応用化学専攻博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
研究指導科目	バイオ・健康化学分野	バイオ・健康化学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） バイオ・健康化学研究の個別テーマに関する文献調査結果、研究計画、研究結果などについて受講者にプレゼンテーションを行わせ、論理性やその妥当性を議論し、学力を向上させるとともに、研究プロセスに必須なプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。また、専門分野の文献調査を通じて、修士論文作成や専門学会での発表に必要な高度な学力を修得させる。 （4 川瀬 義矩） バイオプロセスの設計およびシミュレーションについて最新のテーマであるバイオフィルター、光触媒と生物処理の組み合わせによる排水処理などをおもに取り上げ、これらに関連する学力を身に付けさせる。 （5 福島 康正）バイオミメティック材料を中心とした文献の調査を通して、文献調査の研究テーマへの活用のしかたを習得する。また、研究進捗や文献調査資料を利用して、ポスター作成や口頭発表のしかたを習得する。 （9 安藤 直子） 微生物毒の研究に必要な原著論文の検索法と入手法を教授し、その読解・要約の仕方を教授する。また、要約を発表するプレゼンテーションを行わせ、効果的なプレゼン技術を身につけさせる。	
研究指導科目	物質化学分野	物質化学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 無機および有機材料が示す性質や機能を化学的に調べ、その機能を応用する研究を行う。特に、結晶材料や炭素系材料などの合成方法および生成物の特性を詳細に調べる研究を実施する。修士論文作成を念頭に置いた指導を行い、研究内容を関係学会で発表できるレベルにすることが目標となる。 （2 勝亦 徹） 無機結晶材料をテーマに、結晶構造や不純物と光学特性の関係を結晶化学的に研究する。 （3 蒲生 美香） 接触反応による新炭素系材料合成研究への取り組みにおいて、テーマの位置づけと背景を理解することに始まり、最終的には研究活動におけるPDCAサイクルを自発的に回せるよう、実践に基づく研究指導を行う。 （7 田島 正弘）色素の光化学反応を含む光化学的挙動の解明等の基礎的研究を、紫外可視吸収・蛍光スペクトル測定や蛍光寿命測定により行う。	
研究指導科目	物質化学分野	物質化学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 物質化学研究の個別テーマに関する文献調査結果、研究計画、研究結果などについて受講者にプレゼンテーションを行わせ、論理性やその妥当性を議論し、学力を向上させるとともに、研究プロセスに必須なプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。また、専門分野の文献調査を通じて、修士論文作成や専門学会での発表に必要な高度な学力を修得させる。 （2 勝亦 徹） 無機結晶材料の研究を実施するために必要な、文献調査、実験計画、データ解析、発表技術などの一連の指導を行う。 （3 蒲生 美香） 本講義では、テキスト「化学英語演習」を用いて、基礎的英文法知識及び英語学術表現に対する知識を増やすことに始まり、論文調査の考え方と方法論を身につけ、国際会議発表資料作成まで、実践的指導を行う。 （7 田島 正弘）「物質化学特別研究」の途中経過報告をしてもらい、それについての討論を行う。最新の化学情報は外国語文献から得られることが多いので、充分に時間をかけて外国語文献の輪読も行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科応用化学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特 殊 研 究	応用化学特殊研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	（概要） 応用化学特殊研究では、個別の研究テーマについて各教員の指導のもとで、博士（理工学）の学位取得に必要なオリジナルで高度な研究を行う。受講者は教員の実地指導を受けて実験や調査を行い、結果の取りまとめと論文作成の作業を行う。指導教員との頻繁な議論を通じて、研究のオリジナリティー、妥当性、当該学問領域での位置づけなどを確認する。作成された論文が、当該領域をカバーする学術誌に掲載される水準にあることが目標になる。また、この過程で、研究の進め方を受講者に身につけてもらうことも目的の一つである。 （1 泉 克幸） 大気酸性物質の環境への沈着、オキシダントや二酸化窒素などの気体状汚染物質の測定手法開発などについて研究する。 （2 勝亦 徹） 無機固体蛍光材料を題材に結晶構造や不純物と結晶の光学特性の関係について、化学的研究を実施する。 （3 蒲生 美香） 気相、液相における新規炭素系材料の化学的合成法の開発及びその合成法を用いた材料の応用研究に取り組む。研究活動を通じて、論文作成、投稿、掲載に至る一連の考え方および手法を身につけるよう指導を行う。 （4 川瀬 義矩） 実際の化学プロセスの設計および運転に役立つ研究テーマを選び、オリジナリティー豊かな研究を行う。 （6 吉田 泰彦） 二酸化炭素の新規固定反応の開発、環境汚染物質の新規分析法の開発、有機化合物のグリーン合成反応の開発などについて研究する。 （7 田島 正弘） 本研究では、有機化合物の光化学（化学反応、吸収・蛍光スペクトル）に関わるテーマについて研究を進めながら、研究を推進するのに必要な能力を養うことを目標にする。 （9 安藤 直子） 微生物毒の制御の研究において、研究テーマの考案、研究の実施、原著論文の作成を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科応用化学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	応用化学研究指導	（概要） 博士（理工学）の学位に相応しいオリジナルで高度な研究を遂行できるよう、指導を行う。受講者は、個別の研究テーマについて研究の背景、問題点の提起、問題点解決のためのアプローチ、研究計画の立案、結果の取りまとめを行い、研究を進める。引き続き、研究の成果を一般論文として纏め上げ、専門領域の学会誌等に投稿する。これらの課程で、指導教員は受講者と議論を繰り返し、内容のオリジナリティーと論理性を確認し、投稿論文の当該学問領域における位置づけの確認を行わせて、投稿論文が採択されるよう指導する。また、博士学位論文の作成も指導する。 学位取得後は研究者として独自に研究できる能力が必要となるので、研究推進に関わる方法論やアプローチの方法を身につけさせることも目標となる。 （1 泉 克幸） 大気汚染物質の動態解析、測定手法の開発に関わる研究をテーマとする。具体的には、酸性物質の環境への沈着、オキシダントや二酸化窒素などの気体状汚染物質の測定手法開発などについて指導する。 （2 勝亦 徹） 無機固体蛍光材料の研究をテーマとして、文献調査、実験計画、データ解析、論文作成などの一連の指導を行う。 （3 蒲生 美香） 気相および液相における接触反応を利用した、新炭素系材料の合成法開発ならびにそれらの合成に関する研究を通じて、材料化学の知見と方法論を身につけられるよう研究指導を行う。 （4 川瀬 義矩） 化学およびバイオプロセスの設計および運転に役立つテーマについて、基礎および応用分野の研究指導を行う。 （6 吉田 泰彦） 二酸化炭素の固定化反応、環境低負荷材料の開発、環境汚染物質の新規分析法について、基礎から論文作成まで指導する。 （9 安藤 直子） 微生物毒の制御をテーマとし、生物化学・分子生物学・分析化学にまたがる広い範囲での研究を指導する。また、理工学博士号取得のための論文作成を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科機能システム専攻博士前期課程)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業科目 理工学共通分野	解析学		イプシロン・デルタ論法を用いて実数や複素数を解析し、数学的な知見を深め論理的な思考を実践することを目的とする。数列・級数の収束性、関数の連続性の精密な定義とその応用について解説する。収束性の判定方法として、優級数・劣級数を用いた不等式評価による判定法、交代級数に関するライプニッツの判定法、正項級数に対する比のテストと根のテスト、実級数に対するオイラー・マクローリンの方法などを紹介する。	
授業科目 理工学共通分野	光科学		本講義の目的は複屈折や円複屈折を有する光学結晶における光伝搬のイメージを与えることにある。授業ではまず、ベクトル演算子や波動の複素表記を用いて波動方程式、マックスウェルの方程式を解説し、媒質の屈折率と光の位相速度、誘電率の関係を明らかにした後に、一軸結晶とその光伝搬について詳述する。	隔年
授業科目 理工学共通分野	シミュレーション学		本講義は、理工学への応用を念頭に置いて、主に確率論を基礎にしたシミュレーション技法を体系的に学ぶことを目的としている。これは、理工学の多くの分野でランダムであることが本質的なシステムが多くあるためである。さらに、実際にプログラミング言語でシミュレーションを行うことで理解を深める。決定論的なシミュレーションの方法を議論したあとで、確率論的なシミュレーションの方法を議論し、その違いを明らかにする。更に、確率論的なシミュレーション固有の問題点を解決するために行われる各種のアプローチについて学ぶ。	
授業科目 理工学共通分野	応用物理学		21世紀を支える先端技術としてマイクロマシンやマイクロ分析システムなどマイクロテクノロジーを取り上げる。マイクロテクノロジーとは、各種の微細加工、組立製造、評価・計測に関連する幅広い技術である。微細加工では、半導体プロセス、三次元サブミリ加工、ナノメーターレベル加工など従来の機械加工では不可能である高度加工技術が要求されている。そこで、このような高度加工技術やマイクロデバイスの原理、特徴、工業応用について講義する。また、マイクロデバイスを設計する指針についても簡単に講義する。	
授業科目 理工学共通分野	プラズマ物理学		プラズマは固相、液相、気相に次ぐ物質の第四の相と呼ばれている。その現象は原子・分子のミクロなレベルから恒星や星間空間に至る広大なレベルにまで広範囲に見られ、これを理解するためには量子力学や電磁気学の基礎的な知識が不可欠である。本講義では、プラズマを構成する各種のミクロ粒子（素粒子・原子核・原子・分子・イオン）の振舞いと、電磁流体としてのマクロな現象をつなぐプラズマの素過程について学ぶと共に、それが現代産業にどのように応用されているかを概観する。	
授業科目 理工学共通分野	物性物理学		物性物理学は物質の巨視的な性質を、物理学の（力学、熱力学、統計力学、電磁気学、量子力学）の知見をもとに、微視的に理解する学問であり、現在の物質科学、エレクトロニクスの基礎を支える重要な分野である。多くの物質は原子が規則正しく配列しており結晶構造を有している。このような系の比熱や伝導特性などを理解するためには、そこに含まれる多数の原子及び電子の量子力学的な振る舞いやエネルギー状態を理解しなければならない。本講義ではこのような物質の巨視的な性質を物理学及び数学の手法を用いて講述する。	隔年
授業科目 理工学共通分野	ナノサイエンス		最先端のナノサイエンスを支える基礎科学、特に、化学反応が関わる合成・加工技術、およびナノ構造や物性を評価する技術とその原理を前半に講義する。これらを通じてナノマテリアルを学ぶ基礎を教授する。後半は最先端分野であるナノサイエンスのナノマテリアルへの応用事例を紹介する。特に、応用事例は英語で講義が行われ、受講者も英語によるプレゼンテーションを行う。これらを通じて、受講者に国際化へのモチベーションを与える。	隔年
授業科目 理工学共通分野	エコロジーと化学		人類による大量生産・大量消費は、地球温暖化をはじめとする地球規模環境問題の原因であり、廃棄物問題なども引き起こしている。さらに、環境ホルモン・化学物質過敏症の問題など、人類生存のためには解決しなければならない難題が山積している。本講義ではそれらの幾つかを取り上げ、生態系と化学との関わりの観点から論じ、環境問題の本質を理解することを目的とする。受講者に課題を課して、調査結果のプレゼンテーションを行わせ、その内容についてディスカッションする。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科機能システム専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業科目 機械科学分野	ダイナミクス特論		学部で学んだ1自由度振動系の知識を基礎に、2自由度振動系および一般の多自由度振動系での固有振動数と固有振動モードの解析方法と固有モードの物理的意味を学習する。さらに、無限自由度振動系である、弦、棒、はり为例に偏微分方程式で表現されるこれらの運動方程式の解法を学習する。さらに、無限自由度運動方程式の波動解を理解することで境界条件のもつ物理的意味を学習し、振動と波動の関係を理解する。最後に、運動を伴う振動系を学習し、運動と振動の関係を理解する。	
授業科目	材料科学分野	材料科学特論	近年、フララーレン、カーボンナノチューブ、高温超伝導体などの様々な新物質が発見され、材料科学、物性物理と呼ばれる分野は、激変ともいえる発展を遂げつつある。微細加工技術、原子レベルの実験技術などの飛躍的な進展に伴います興味深い分野となっている。このような状況の中、膨大な知識と複雑な技術の上に立つ材料科学の一般的な講義を行うのは困難である。従って、この講義では、最近の特に注目すべき新材料、ナノ物質を中心に、実験家的な観点からそれらの物性物理に焦点をあて、現在の様々な最先端の研究、技術を紹介する。	
授業科目	機械科学分野	エアロスペース科学特論	航空宇宙工学に関する理論とその技術について講義する。航空宇宙技術の歴史に始まり、大気および宇宙環境について述べた後、航空機と宇宙機に分けて講義する。航空機では機体の空気力学特性と飛行時の安定性や操縦性がどのように関連するのか、基本設計を意識して説明する。宇宙機では、機体の飛行力学と飛行軌道について述べた後、ロケット推進では基礎理論と燃焼現象、化学ロケットと非化学ロケットの推進システムと利用目的の違いについて説明する。宇宙機の誘導・姿勢制御は、その電気電子システムと関連付けて述べる。	隔年
授業科目	機械科学分野	流体物理学特論	流体力学における非線形現象を理解することが目的である。講義では、特に、乱流と波動をとりあげる。これらは流体力学において基本的な現象であると同時に、工学的応用においても重要な現象である。非線形現象を数学的に、もしくは数値的に解く方法を説明する。乱流に関する講義では、その概要と基礎方程式の導出、乱流の統計的性質、数値解析における乱流モデルなどを扱う。波動に関する講義では、波動の非線形現象の基礎となる浅水波ソリトンの伝播、水面波に始まり、大気と海洋、宇宙における流体の非線形現象などについて講義する。	隔年
授業科目	機械科学分野	熱統計力学特論	本講義では、熱統計力学に関する様々な重要なトピックスについて詳しく論じる。熱統計力学の基礎付けのために物理学の重要課題として浮かび上がったエルゴード問題は、数学の問題として発展し、コンピュータの発達によってカオスという数理物理学の学問分野を確立し、再び物理学として実験研究が行われるまで発展した。このエルゴード問題を中心に、カオス・量子カオス・波動カオスについての理論・実験について論じる。	
授業科目	機械科学分野	電磁気学特論	包括的な古典電磁気学の世界に接し、それを再構築するマックスウェルの方程式を理解させることを目的とする。講義では、平易な教科書をもとに、電磁気学の諸法則の復習し、マックスウェルの方程式に到達する。さらに、講義の最後のほうで、光速不変の原理とマックスウェルの方程式の関係について述べ、電磁気学と特殊相対性理論の関係について簡単に述べる。	隔年
授業科目	機械科学分野	形の科学特論	本講義で議論されるのは、「形」というキーワードで特徴づけられる対象への様々なアプローチ手法（横断型研究の方法）とその結果である。ここでは、この「形の科学」に関するいくつかのトピックについて、講義と演習を通じて、理解することを目的とする。毎回異なるテーマについて検討する。各回のテーマは形の科学としては基本的なものでありながら、その応用範囲はとても広い。それぞれのテーマについて理解を深めることで、「形」が示す情報をどのように捉えれば良いのかを習得する。	隔年
授業科目	機械融合分野	ロボット工学特論	ロボットのハードウェアからソフトウェアまで、ロボットシステム全般について学ぶ。題材としては産業用ロボットのように商品化されているものから、研究用に試作されているものまで、いわゆる「ロボット」として扱われている機械を扱うが、形は異なっても機能的にはロボットと言える機器についても言及し、関連性を扱う。具体的には、生産の自動化のために使われている機器、物流の自動化のために使われている機器、福祉応用として用いられつつある機器などへの応用を想定している。これらの知能機械システムのシステム設計や運用をできるようにするための、理論や技術の理解を進めることが本講義の目的である。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科機能システム専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	機械融合分野	制御工学特論	機械等の運動や物理現象を表わす動的システムの特徴を捉え、解析し、動かす制御工学の考え方は、機械やロボットの運動制御に限らず、生体活動の解析や制御などにも広く応用できる。本科目では、複数の入出力を持つ複雑なシステムを取り扱うのに適した理論である現代制御理論を学ぶ。近年、企業においても制御系の解析・設計にコンピュータソフトウェアを用いることが多くなっている。そこで、本講義では現代制御理論の講義に制御系設計支援ソフトウェアMATLABを用いた演習を取り入れ、受講者のより深い理解を促す。	
授業科目	機械融合分野	知能システム工学特論	本講義は知能システムを構築するためにこれまでに提案されている様々な意思決定手法を体系的に講義し、そのメカニズムや経済学、工学、生命科学などへの適応事例について学ぶことを目的とする。知能システムを実現するためには、入力データを基に状況を判断し、適切な出力を決定する意思決定機構の設計が重要な課題となる。これまでの意思決定に関する研究は、オペレーションズ・リサーチ（OR）や人工知能（AI）の分野において進められている。本講義では、数理統計的な手法であるORとヒューリスティックな手法であるAIの両方を扱い、その利点と課題について解説する。	
授業科目	機械融合分野	先端生産加工システム特論	本講義の目的は、生産工学に関する技術を体系的に理解し、それを支える基盤技術を学ぶことにより21世紀のもののづくりのあり方を考えることである。生産の歴史を学ぶことは次世代の「もののづくり」のあり方を考えるうえで大切である。さらに生産加工技術を学ぶことは生産の基盤を理解するうえで重要である。マイクロマシン等に代表される新しい生産技術の基礎と応用について理解し、最後に、新しい生産環境の変化に伴うセル生産システム、環境対応型生産システム、ヴァーチャル・マニュファクチャリングの動向について学ぶ。	
授業科目	機械融合分野	センシング工学特論	本講義では、信号処理の課題を理解し、信号抽出の技術を習得することを目的とする。信号センシングには、つねに雑音がともなう。信号と雑音をいかに分離するか、雑音をいかに排除するか、という信号処理の考え方が信号センシングにおいては重要である。たとえば、周波数スペクトル解析を応用すると、雑音に埋もれた信号を鮮やかに取り出すことができる。講義では各種センシングの実用例をいくつかとりあげ、センサの原理と信号処理の方法を学ぶ。	
授業科目	機械融合分野	マイクロメカトロニクス特論	本講では、機械振動という単純な現象に基本原理を置きながら、原子・分子オーダの形状計測が可能な走査型プローブ顕微鏡を、先端機械分野における代表的な計測、加工、および新規デバイス開発のためのプラットフォームとして取りあげる。ここでは、これを一貫した「センシング—処理—操作」の流れを包含する高度な知的マイクロメカトロニクスと捉え、その歴史的背景と技術的発展、マイクロ機構の動力学、きわめて基本的な信号処理と、システム構成から制御との関わり、さらに周辺技術とそれらの展開を包含しつつ、今後の技術展開を鳥瞰する。	隔年
授業科目	機械融合分野	情報記憶機構特論	本講では、磁気記憶を代表とする記憶機構の実用と桁オーダの密度や転送速度、ビットコスト等の基本性能の飛躍において、機械工学の基幹分野の果たした貢献大であることに鑑み、情報記憶を支える主要技術を取り上げること、機構動力学、希薄気体力学、材料科学とトライボロジー、計測工学や制御工学の本質や原理原則を逆に浮き彫りにする。同時に、情報記憶を牽引してきた磁気記憶装置の分野では、性能に直結するディメンションが原子・分子オーダに迫っている背景も併せ、新たな性能向上の創案とともに今後の技術展望を鳥瞰する。	隔年
共通科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担う人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科機能システム専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	機械科学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 本科目群においては、特別輪講と連携して、基本的な支配法則や発現する現象背後にあるメカニズムを重視する観点で、解析・実験・プレゼンなどの汎用的な研究基盤となる手法を修める。これらの修得の客観的な証として、国内外の講演会や国際会議・シンポジウム等において、講演論文（とくに厳格な査読などがない）がまとめられる総合的な能力レベルを養う。 （2 西郷 宗玄） ダイナミックス（主として振動学）関連分野の研究を進める過程において、産業界の技術ニーズと公表されている技術や論文を調査して、課題を解決するための独自性と独創性をもつ研究課題を提案させる。テーマの実行を通して新しい技術開発や研究能力を習得する。 （4 原山 卓久） 非線形科学は物理学から生物学や経済学まで様々な科学の基礎問題に関係しており、また、先端テクノロジーやそれを用いて作製されるデバイスにも応用できる。そこで、研究を通じて広く非線形科学について学ぶことを目的に、カオスなどの非線形現象に関する基礎および応用研究を行う。 （7 和田 昇） インターカレーション化合物、半導体ナノ構造物に関する物性とその応用（太陽電池、燃料電池や半導体デバイス）に関する研究を行う。特に、基本的な実験方法や解析方法を学び、その上で総合的な研究能力を養う。 （8 物部 秀二） 講演会発表や論文発表に至るため、近接場光学用プローブに関する文献調査を出発点として、研究テーマに関する計画立案能力と実験遂行能力を育成する。 （10 吉野 隆） 本研究指導科目では、「形の科学」に関連するテーマについての研究を進める。その過程において、物理学といった科学（理学）と数学の関係を意識することによって、最先端の研究（学術雑誌に掲載された最新の論文）に対する理解を深めていくことを目指す。 （11 藤松 信義） 研究を通じて、問題解決能力を養成する。特別輪講と連携して研究の進め方を話し合い、実験方法、解析方法を検討することで、研究課題に取り組む。研究成果を発表、報告するために、講演スライドや論文執筆を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科機能システム専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	機械科学特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 本科目群においては、特別研究と連携して、基本的な支配法則や発現する現象背後にあるメカニズムを重視する観点で、文献調査とその分析、技術動向調査などを礎とする研究企画の核となる力を育む。これの修得の客観的な証として、国内外の講演会や国際会議・シンポジウム等において、講演論文（とくに厳格な査読などがない）がまとめられる総合的な能力レベルを養う。 （2 西郷 宗玄） ダイナミックス（動力学；主として振動学）分野の研究を進める過程において、産業界での技術ニーズと公表されている技術や論文を調査し、自己の研究課題を掘り下げて研究の意義を明らかにすることが目的である。 （4 原山 卓久） 非線形科学は様々な科学の基礎問題に関係しており、また、先端テクノロジーやそれを用いて作製されるデバイスにも応用できる。そこで、国際学術雑誌に掲載されている非線形科学に関する様々な重要論文・先端研究論文等を読むことで、非線形科学の基礎と先端研究を理解する。 （7 和田 昇） 機能性材料に関わる実験的研究を進める上で必要な基礎的な知識、考え方、創造力を養うことを目的とする。具体的には、材料開発、研究や応用に関連する原著論文を読み、研究計画、研究手順、研究内容等を議論・検討する。 （8 物部 秀二） 近接場光学プローブとその周辺技術に関連する話題の原著論文を検索し、その要旨を作成して、研究室にて発表を行い、論理的でわかりやすい文章の作成能力とプレゼンテーション能力を育成する。話題は光、ナノテクノロジー、表面処理等などのキーワードを含むことが望ましい。 （10 吉野 隆） 本科目では、「形の科学」に関連するテーマについての理解を深めるための議論を行う。その過程において、最先端の研究（学術雑誌に掲載された最新の論文）に対して理解を深めるための知識を獲得すること（およびそのために必要なことの確認）を目指す。 （11 藤松 信義） 文献調査を通じて、航空宇宙工学に関する研究を進めるために必要な知識を身に付ける。特別研究と併行して、研究方針を話し合い、問題解決のために理論的に考える力を養う。講演スライド及び講演論文、修士論文としてまとめるための指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科機能システム専攻博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	機械融合特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) 本科目群においては、特別輪講と連携して、学問分野間の知識融合やシンセシスを重視する観点で、解析・実験・プレゼンなどの汎用的な研究基盤となる手法を修める。これらの修得の客観的な証として、国内外の講演会や国際会議・シンポジウム等において、講演論文（とくに厳格な査読などがない）がまとめられる総合的な能力レベルを養う。 (1 大久保 俊文) 輪講において徹底して根幹となる研究企画の流れを身につけ、付随する文献・研究調査を意欲的に行った上で、モデル化と解析・実験・プレゼンの汎用手法を修める。こうした取り組みの格好の検証の場として、学会の部門レベルの講演発表や国内開催の国際会議・シンポジウム等において、講演論文（厳格な査読なし）がまとめられる総合的な能力を養う。 (3 尼子 淳) 光波制御 (wavefront engineering) という学問領域から研究テーマを選び、産学への貢献を視野に入れた研究諸活動を推進する。とくに、研究の進め方に重点を置いて指導し、課題解決の能力を養うことを目標とする。研究の進捗に応じて適宜、研究計画の見直しを履修生へフィードバックする。研究成果に関してはむしろ something new を求める。 (5 神田 雄一) 「生産工学」を主体とした研究を実施するが、ソフトとハードの技術を学習すると共に、「ものづくり原論」「工学とエンジニア」「デザイン力」などについても修得することを目的とする。 (6 松元 明弘) ロボットシステム・メカトロニクスシステムのための機構・力学・計測制御・知能化に関わるテーマについて研究を進めながら、問題解決能力、解析と総合の能力、論文や発表における表現力を養うことが目標である。 (9 山川 聡子) 機械やロボットを動かすための制御工学に関する研究を行う。研究を進める過程において、研究計画や解析・実験方法、および発表方法を修得し、学会の部門レベルの講演発表等の講演論文がまとめられる能力を養う。 (12 山田 和明) 本講義は、複数の自律ロボットから構成されたマルチロボットシステムの研究を通して研究・技術開発者を養成することを目的とする。そのため、ゼミや学会発表を通して文献調査、実験機器およびシミュレーションの作成、実験結果の整理・考察、研究成果のまとめ方・説明方法を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科機能システム専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	機械融合特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 本科目群においては、特別研究と連携して、学問分野間の知識融合やシンセシスを重視する観点で、文献調査とその分析、技術動向調査などを礎とする研究企画の核となる力を育む。これの修得の客観的な証として、国内外の講演会や国際会議・シンポジウム等において、講演論文（とくに厳格な査読などがない）がまとめられる総合的な能力レベルを養う。 （1 大久保 俊文） 本講では根幹となる研究企画の流れを身につけ、付随する文献・先行研究調査を意欲的に行うことで、続く解析・実験・プレゼンの汎用かつ基本手法修得の足がかりとする。この取り組みの検証の場として、学会の部門レベルの講演発表や国内開催の国際会議・シンポジウム等において、講演論文（厳格な査読なし）をまとめられる総合的な能力を養う。 （3 尼子 淳） 一流の原著論文の多読により、批判的に読む力そして論理的に書く力を身につける。興味のある問題について考察した結果をわかりやすくプレゼンテーションする技能を習得する。こうしたインプットの成果を学会講演や論文発表というアウトプットへ結実させる。 （5 神田 雄一） 「機械融合特別研究」と対をなす位置づけを有している。研究指導のスケジュールに合わせて各自がまとめた内容や関連論文の内容紹介、新技術の紹介等についてプレゼンテーションを行い、これに関してディスカッション、ブレーンストーミングを行い、新たな知見を見出し、創造的思考力を身につける。 （6 松元 明弘） ロボットシステム・メカトロニクスシステムのための機構・力学・計測制御・知能化に関わるテーマについて、その研究に必要な研究現状の文献調査と、関連基礎技術の修得と社会の動向やニーズの理解を目標とする。 （9 山川 聡子） 制御工学に関する輪講を行い、研究に必要な知識と論理的な思考を身につけることを目的とする。関連する国内外の専門書や研究論文に関する議論を通じて、学会の講演発表等の講演論文をまとめられる能力を養う。 （12 山田 和明） 本講義は、人工知能分野の基礎知識の獲得と、論文の読み方・書き方、発表資料の作成や発表方法などを修得することを目的とする。そのため、国内外の文献調査を通して論文の読み方・書き方などを学び、学会発表を通して発表資料の作成や発表方法、質疑応答の仕方などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科機能システム専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特殊 研究	機能システム特殊研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	（概要） 本科目群においては、研究指導と連携して、従来より蓄積・涵養した研究企画・研究手法のインフラ基盤の強化を図る。これの修得の客観的な証として、国内外の「主要な学会」レベルの論文投稿を前提とした研究企画立案とその遂行をOJT視点で行い、原著論文を「筆頭」でかつ「継続的」に著すことができる能力の醸成を目指す。 （1 大久保 俊文） 当科目においては、メカトロニクス分野のテーマに関わる研究を進める過程において、前期課程で蓄積・涵養した研究企画・研究手法のインフラ基盤の再強化を図る。その上で、国内外の「主要な学会」における論文投稿を前提とした研究企画立案とその遂行をOJT視点で行い、厳正な査読を経た原著論文を、しかも「筆頭」で著す能力の醸成を目指す。 （2 西郷 宗玄） ダイナミクス（振動学）の研究に関して、産業界での技術ニーズと公表されている技術や論文を調査し、研究課題を掘り下げて研究の意義を明らかにする。さらに、関連する文献を理解するための力学、振動学、数学、制御の高度な知識を習得する。 （3 尼子 淳） 光波制御（wavefront engineering）という学問領域からテーマを選び、産学への貢献を目的とした諸研究を推進する。研究テーマの設定には熟慮し、事前に十分時間をかけて履修生と相談する。研究者として自立できるように、研究の進め方は基本的に履修生の自主性と判断に任せる。もちろん、学位取得という目標に向けて研究成果の質と量は重視する。 （4 原山 卓久） 非線形科学の最先端の研究を行う。対象の数値モデルを構築することができ、それに非線形力学系理論を適用して理論解析を進めるとともに、数値解析に基付いた現象論の確立も重要である。そして、このようにして得られた成果を原著論文として発表できることを目指す。 （6 松元 明弘） 当科目においては、ロボティクス・メカトロニクス分野の知見を元に、生産システムの自動化や福祉応用機器などの知能機械システムの設計・運用に必要な知識や方法論を身につけ、論文やプレゼンテーションのための表現力を養うと共に、その展開に必要な『ものの見方・考え方』や社会性を養うことを目標とする。 （9 山川 聡子） 後期研究指導と連携して、制御工学分野に関する国内外の主要学会の査読付論文になり得る新規性、有用性を持った研究を行う。研究を進める過程において、前期課程で蓄積した研究企画・研究手法の向上を図る。 （10 吉野 隆） 本研究指導科目では、「形の科学」に関連するテーマについての研究を深く進める。その過程において、最先端の研究（学術雑誌に掲載された最新の論文）の学問体系における位置を確認し、その重要性を受講者自身が判断できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科機能システム専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	機能システム研究指導	（概要） 本科目においては、特殊研究と強固に連携して、これまで蓄積・涵養した研究企画・研究手法のインフラ基盤をフルに生かし、国内外の「主要な学会」レベルの論文投稿を前提とした研究企画立案とその遂行をOJT視点で行うことで、原著論文を「筆頭」でかつ「継続的」に著すことができる能力の醸成を目指す。 （1 大久保 俊文） 特殊研究と強固に連携し、メカトロニクス分野のテーマにおいて、これまで蓄積・涵養した研究企画・研究手法のインフラ基盤をフルに生かし、海外の「主要な学会」における論文講演を前提とした研究企画立案とその遂行をOJT視点で行う。その成果として、厳正な査読を経た原著論文を、「筆頭」でかつ継続的に著すことができる能力の醸成を目指す。 （2 西郷 宗玄） 振動学の知識を広く身につけ、技術と論文の調査を行い、新規性と独創性のある課題と解決手段を提案し、国内外における学会講演会、シンポジウム、国際会議などにおいて講演発表と国内外の主要な論文集への投稿・掲載（著名なJournalへの2編の掲載）を目指す。 （3 尼子 淳） 研究者として自立するために必要な力を習得できるように指導する。後期課程では研究テーマが進路を決める場合もあるため、履修生の意向にも十分配慮する。国内外の学術誌へ原著論文を発表することを研究指標とし、健全な競争心をもちながら研究を推進してもらう。 （4 原山 卓久） カオスや複雑系などの非線形科学に関する最先端の研究を行い、国際会議や国際学術雑誌で発表できる高度なレベルの研究成果の達成を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	理工学共通分野	解析学	イプシロン・デルタ論法を用いて実数や複素数を解析し、数学的な知見を深め論理的な思考を実践することを目的とする。数列・級数の収束性、関数の連続性の精密な定義とその応用について解説する。収束性の判定方法として、優級数・劣級数を用いた不等式評価による判定法、交代級数に関するライプニッツの判定法、正項級数に対する比のテストと根のテスト、実級数に対するオイラー・マクローリンの方法などを紹介する。	
授業科目	理工学共通分野	光科学	本講義の目的は複屈折や円複屈折を有する光学結晶における光伝搬のイメージを与えることにある。授業ではまず、ベクトル演算子や波動の複素表記を用いて波動方程式、マックスウェルの方程式を解説し、媒質の屈折率と光の位相速度、誘電率の関係を明らかにした後に、一軸結晶とその光伝搬について詳述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	シミュレーション学	本講義は、理工学への応用を念頭に置いて、主に確率論を基礎にしたシミュレーション技法を体系的に学ぶことを目的としている。これは、理工学の多くの分野でランダムであることが本質的なシステムが多くあるためである。さらに、実際にプログラミング言語でシミュレーションを行うことで理解を深める。決定論的なシミュレーションの方法を議論したあとで、確率論的なシミュレーションの方法を議論し、その違いを明らかにする。更に、確率論的なシミュレーション固有の問題点を解決するために行われる各種のアプローチについて学ぶ。	
授業科目	理工学共通分野	応用物理学	21世紀を支える先端技術としてマイクロマシンやマイクロ分析システムなどマイクロテクノロジーを取り上げる。マイクロテクノロジーとは、各種の微細加工、組立製造、評価・計測に関連する幅広い技術である。微細加工では、半導体プロセス、三次元サブミリ加工、ナノメーターレベル加工など従来の機械加工では不可能である高度加工技術が要求されている。そこで、このような高度加工技術やマイクロデバイスの原理、特徴、工業応用について講義する。また、マイクロデバイスを設計する指針についても簡単に講義する。	
授業科目	理工学共通分野	プラズマ物理学	プラズマは固相、液相、気相に次ぐ物質の第四の相と呼ばれている。その現象は原子・分子のミクロなレベルから恒星や星間空間に至る広大なレベルにまで広範囲に見られ、これを理解するためには量子力学や電磁気学の基礎的な知識が不可欠である。本講義では、プラズマを構成する各種のミクロ粒子（素粒子・原子核・原子・分子・イオン）の振舞いと、電磁流体としてのマクロな現象をつなぐプラズマの素過程について学ぶと共に、それが現代産業にどのように応用されているかを概観する。	
授業科目	理工学共通分野	物性物理学	物性物理学は物質の巨視的な性質を、物理学の（力学、熱力学、統計力学、電磁気学、量子力学）の知見をもとに、微視的に理解する学問であり、現在の物質科学、エレクトロニクスの基礎を支える重要な分野である。多くの物質は原子が規則正しく配列しており結晶構造を有している。このような系の比熱や伝導特性などを理解するためには、そこに含まれる多数の原子及び電子の量子力学的な振る舞いやエネルギー状態を理解しなければならない。本講義ではこのような物質の巨視的な性質を物理学及び数学の手法を用いて講述する。	隔年
授業科目	理工学共通分野	ナノサイエンス	最先端のナノサイエンスを支える基礎科学、特に、化学反応が関わる合成・加工技術、およびナノ構造や物性を評価する技術とその原理を前半に講義する。これらを通じてナノマテリアルを学ぶ基礎を教授する。後半は最先端分野であるナノサイエンスのナノマテリアルへの応用事例を紹介する。特に、応用事例は英語で講義が行われ、受講者も英語によるプレゼンテーションを行う。これらを通じて、受講者に国際化へのモチベーションを与える。	隔年
授業科目	理工学共通分野	エコロジーと化学	人類による大量生産・大量消費は、地球温暖化をはじめとする地球規模環境問題の原因であり、廃棄物問題なども引き起こしている。さらに、環境ホルモン・化学物質過敏症の問題など、人類生存のためには解決しなければならない難題が山積している。本講義ではそれらの幾つかを取り上げ、生態系と化学との関わりの観点から論じ、環境問題の本質を理解することを目的とする。受講者に課題を課して、調査結果のプレゼンテーションを行わせ、その内容についてディスカッションする。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	基礎分野	電磁気学特論	19世紀半ばに電磁気学はその基礎が確立され、その後今日の電気・電子工学、情報通信工学へと発展してきている。電磁気現象を理解するためには、時にはやや複雑な数学的取り扱いに依存する場合がある。前半では、基本的な静電界と電流、電流と静磁界、磁界中の電流が受ける力等の電磁現象について説明する。後半では、時間的に変化する現象を取り入れた電磁誘導の法則、変位電流について説明する。次に、マクスウェル方程式から導かれる電磁波の波動としての一般的性質（電波と光の反射と屈折、偏波）についても講述する。	隔年
授業科目	基礎分野	電気回路特論	キルヒホッフの法則を使用した線形回路理論は複雑な回路解析を効率よく行うことができ、本講義ではそれを電力システムを対象とする回路に取り上げる。定常特性よりも複雑な変化をするため、予測が困難な過渡現象の解析法としてEMTPプログラム、また、最近開発されたMaxwellの式から計算式を導出する電磁界解析法を、過渡回路解析に応用する手法の基礎と使用上の注意について講義する。	隔年
授業科目	基礎分野	電子回路特論	電子回路の機能および特性を物理学的な側面から述べる。それに基づいて回路の基本的な設計方法を示す。また、その際に使用する回路シミュレータの機能と操作方法、仕様についても理解する。講義ではまず、電子回路の基本回路として増幅回路について電圧や電流の特性を述べ、その設計法を講述する。次に、集積電子回路について機能と特性を述べ、その設計法を説明する。また、それぞれの電子回路について、基本的な回路と実用的な回路の設計演習も行う。	隔年
授業科目	基礎分野	応用解析学特論	本講義ではヒルベルト空間の一般論とヒルベルト空間上の有界線形作用素に関する基礎的な内容について説明をする。 ヒルベルト空間とは無限次元のユークリッド空間のことで、基底が存在し、すべてのベクトルが基底の一次結合で表現される。三角関数を基底としたとき、その一次結合がフーリエ級数である。また、ヒルベルト空間上の有界線形作用素は無限次の行列であり、作用素のスペクトルは行列の固有値に相当する。その作用素の代数的な性質などについても触れる。	
授業科目	エネルギー・制御分野	高電圧・放電物理特論	高電圧工学における高電圧機器の絶縁や放電・プラズマ生成には電界が重要な役割をしている。電界中の電子やイオンの運動、電離による放電現象の相違、絶縁設計の基本的な考えを説明する。さらに、電界設計に必要な電界計算法について述べる。解析的な電界計算法に加え、Maxellの式から計算式を導出する数値電界計算法から、有限要素法、境界要素法、モーメント法、電荷重量法の講義の後に、各種計算法のプログラムを使用して簡単な電界設計を行う。	隔年
授業科目	エネルギー・制御分野	パワーエレクトロニクス特論	パワーエレクトロニクスは電気エネルギーを変換し、制御する技術である。また、電気機器、制御、パワー素子、電気・電子回路が統合された技術でもある。本講義では、パワーエレクトロニクスの考え方や原理を述べ、さらに、構成と制御について説明する。また、応用として、電気自動車や鉄道に適用されるモータドライブ回路と制御を中心に講述する。さらに、最新のパワーエレクトロニクスについても触れ、将来の研究開発動向についても述べる。	隔年
授業科目	エネルギー・制御分野	電力システム工学特論	電力系統は、発電所・送電線・変電所および負荷などの構成要素からなる一つのシステムである。本講義では、電力系統を構成する個々の機器ではなく、システム工学的な観点から見た電力系統の周波数および電圧の制御、経済的な運用、供給の信頼性をとりあげる。システム全体としての特性はどのようなものであるか、システムとして所望の性能特性を持たせるにはどうすべきか、いかなる構成要素をいかに組合わせて計画・運用すればよいか、などという問題に対する解決方法を説明する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	エネルギー・制御分野	エネルギー変換工学特論	モータ、発電機はエネルギー変換機器として、電気エネルギー、産業装置、自動車・鉄道システム、家電、ロボット・アクチュエータなど社会の多くの分野で活躍している。本講義では、エネルギー変換機器であるモータと発電機に関して、古典理論と多様化電源に対応した現代理論を解説する。さらに、最新技術の永久磁石モータドライブについても触れ、さらに将来の研究開発動向も述べる。	隔年
授業科目	エレクトロニクス分野	半導体工学特論	本特論では、既存のデバイスおよび将来新しく開発されるデバイスの原理や応用について、円滑に学ぶことができる基礎的な能力を身が身に付くよう講義する。特に(1)代表的な半導体の結晶構造と物性?、(2)半導体のエネルギーバンド理論、(3)真性・不純物半導体のキャリア密度、(4)半導体中の電子および正孔の輸送の4テーマについて詳細に講述する。	
授業科目	エレクトロニクス分野	光エレクトロニクス特論	レーザー技術の発展の結果として、光通信、光記録・再生などの基本技術がオプトエレクトロニクスの主要な分野となっている。また、高機能化が要請される次世代光通信網実現には、高性能光制御デバイス実現が不可欠である。オプトエレクトロニクス分野の基本技術である光デバイスは、固体中の電子と光との相互作用現象が主である。本特論では、光と電子の相互作用には、電磁気学の分極を考慮して理解し易い説明を心がける。固体中で、光がどの様に吸収、放出、増幅されるかを現象論的に説明する。	
授業科目	エレクトロニクス分野	固体電子物性特論	固体電子物性工学はエレクトロニクスの基礎を支える重要な分野である。例えば、半導体などの動作特性を理解するためには、そこに含まれる多数の電子の量子力学的な振る舞いを理解する必要がある。本講義の目的は、電磁気学、統計力学、量子力学などの物理学の基礎を復習しながら、固体電子物性工学を学ぶことである。また、この分野の最近の研究の紹介も行う。	隔年
授業科目	エレクトロニクス分野	電子デバイス特論	電子デバイスとは、その働きにおいて狭義では整流、増幅、発振、検波、表示、記憶などの能動的デバイスのみを指すが、広義では、能動機能のほかに抵抗、コンデンサ、コイルなどの受動機能を有しているデバイスとして捉えることができる。これらのエレクトロニクスの展開とともに、光（発光ダイオード、レーザー）を利用した光エレクトロニクス分野も目覚ましい進歩を遂げている。本講義では、光エレクトロニクスを含めたエレクトロニクス関連全般のデバイスを対象として、それらの構造、動作原理、応用について講義する。	
授業科目	情報通信分野	情報通信科学特論	情報通信科学は我々の生活を支える身近な存在であるが、その本質を理解するためには、無線伝送では電磁波の性質と電波利用、光ファイバ伝送では光の反射・屈折に伴う信号伝送形態、衛星通信システムでは万有引力の法則に従って運動する通信衛星が自転している地球を周回していること等、広範にわたる様々な情報通信科学の概要、基礎技術、現状を学習することが不可欠である。 本科目では、情報通信科学の基礎、実際の情報伝送システム、通信プロトコル等について講義形式、及び、学生によるプレゼンテーション形式で学ぶ。	
授業科目	情報通信分野	画像情報処理特論	画像情報処理をコンピュータ等で実行することに関する次の二つのテーマを扱う。（1）画像情報処理のためのアルゴリズム：具体例としてモルフロジーをとりあげ、まず、その基本概念と演算法を解説し、次に、それを用いた画像処理について述べる。（2）画像情報処理をソフトウェアで行うためのコンピュータプログラミング：まず、画像情報をコンピュータのメモリ上に表すためのデータ構造について述べ、次に、高速な演算法や高速化プログラミング、省メモリのためのプログラミング技法などについて講述する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	情報通信分野	電磁波工学特論	見えない電磁波の放射・伝搬形態について、その諸原理や概念を明確に理解することに主眼をおく。そのため、マクスウェル方程式から導かれる波動現象の基本的性質、解析手法を体得できるようにする。特に、波としての異種境界面での反射、屈折問題、電磁波の出口と入り口である電波の放射とアンテナの特性、更に情報を他の地点に伝達する導波路における伝送特性と大気中の伝搬等の基本的原理と概念を中心に、実例を示しながら講義を行なう。	隔年
授業科目	情報通信分野	色彩科学特論	画像機器は入力系と伝達・変換処理系、出力系に分類され、それらの間で画像が伝送されている。画像は人間の視覚により最終認識されることから、画像システムの設計・評価には色彩科学の修得が不可欠となる。本特論においては色彩科学の基礎理論を解説し、これがどのようにして電子ディスプレイに活用されているのかについて講義する。	隔年
授業科目	専攻特別講義	電気電子情報特別講義	電気電子情報工学では電気・電子・情報通信の各分野で技術が進展するとともに、それらの技術が融合して今日の産業・生活システムを構築している。このようなシステムに携われるエンジニアを目指して、本講義では電気電子情報工学をグローバルに身につけることを目的とし、エネルギー・制御分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野の各分野における基礎技術から応用技術までを学び、また、技術動向、最新のトピック、将来展望などを把握する。	隔年
共通科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担う人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中
研究指導科目	エネルギー・制御分野	エネルギー・制御特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） エネルギー・制御分野のテーマで研究を行い、それによって、研究の進め方、すなわち、文献調査、問題点の発見・設定、研究・実験方法の構成、結果の検証などを指導する。また、成果の取り纏め、発表、さらに、修士論文作成の指導を行う。 （2 加藤 正平） 電力工学で問題となる過電圧、雷サージについて、現象の基礎となる電磁界現象に関する研究指導を行う。研究テーマに、変圧器やリアクトル、雷サージ解析、接地や電力設備における過電圧解析などがある。 （5 堺 和人） エネルギー変換技術に関して、モータ・発電機やパワーエレクトロニクスを対象とするテーマで研究指導と論文指導を行う。研究テーマには、電気自動車用モータ、ワイヤレス電力伝送などがある。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	エネルギー・制御特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） エネルギー・制御分野に関連する知識や学力の習得、研究動向の調査などのための輪講を行う。また、エネルギー・制御特別研究を実施するために必要なもの（実験機器や実験資料の扱い方、コンピュータリテラシー（解析ツールの使い方など）やコンピュータプログラミングなど）を習得するための演習を行う。 （2 加藤 正平） 過電圧の発生原因となる回路の過渡現象について理解を深めるために、等価回路と電磁界問題からのアプローチ、シミュレータに関する文献や使用法の資料で輪講を行う。歴史的に重要な論文についても取り上げる。 （5 堺 和人） 電気機器やパワーエレクトロニクスに関する知識や研究動向を学ぶために資料や文献を輪講する。さらに、電気機器の電磁界解析技術、制御・回路の計算機シミュレーションやプログラミングの基本の習得と演習を行う。	
研究指導科目	エレクトロニクス特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） エレクトロニクス分野のテーマで研究を行い、それによって、研究の進め方、すなわち、文献調査、問題点の発見・設定、研究・実験方法の構成、結果の検証などを指導する。また、成果の取り纏め、発表、さらに、修士論文作成の指導を行う。 （4 小室 修二） 可視および近赤外域発光・受光用シリコン系新機能素子材料の開発に関して研究指導と論文指導を行う。研究テーマとして、希土類元素高濃度添加Si薄膜の研究、蓄光型蛍光体薄膜の作成と応用などがある。 （7 中野 秀俊） 高度に進化した光源技術に立脚し、光波の超高速、超広帯域特性を最大限に活用する「超高速光波エレクトロニクス技術」に根差した高密度情報処理・通信を実現するための基盤技術確立を目指した研究を進める。 （8 吉本 智巳） 真空ナノエレクトロニクスに関して、デバイス作製および特性評価を対象とする研究指導と論文指導を行う。研究にはデバイスの製作などの実験を中心に行うテーマと、電子放射などの理論解析を行うテーマがある。 （11 柴田 絢也） スピントロニクスに関するテーマの研究を行い、その成果を修士論文としてまとめるための指導をおこなう。また、研究に必要な物理学の知識を深めること、解析計算法及び数値計算法を習得することも目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	エ レ ク ト ロ ニ ク ス 分 野	エレクトロニクス特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) エレクトロニクス分野に関連する知識や学力の習得、研究動向の調査などのための輪講を行う。また、エレクトロニクス特別研究を実施するために必要なもの（実験機器や実験資料の扱い方、コンピュータリテラシー（解析ツールの使い方など）やコンピュータプログラミングなど）を習得するための演習を行う。 (4 小室 修二) 光エレクトロニクスデバイスに関する知識や研究動向を知るために資料や文献を輪講する。文献調査方法、および要点のまとめ方や研究発表の方法を指導する。また、技術英文の読み方や書き方に慣れるように指導する。 (7 中野 秀俊) 高度に進化した超高速レーザー技術を支える基礎物理の習得ならびにこれに根ざした研究動向調査のための論文輪講を行う。また、研究に必要な安全教育や、レーザー周辺装置の取り扱い方の実技指導を行う。 (8 吉本 智巳) 真空ナノエレクトロニクスの一分野である電界放射電子源に関する文献を輪講する。主に英文で書かれた文献を対象とする。また、輪講時には研究に関する議論を行い、研究の方向性やスケジュールを明確にする。 (11 柴田 絢也) スピントロニクスに関するテーマの研究を行い、その成果を修士論文としてまとめるための輪講を行う。研究に必要な物理学の知識を深め、解析計算手法及び数値計算手法を習得することを目的とする。	
研究 指導 科目	情 報 通 信 分 野	情報通信特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) 情報通信分野のテーマで研究を行い、それによって、研究の進め方、すなわち、文献調査、問題点の発見・設定、研究・実験方法の構成、結果の検証などを指導する。また、成果の取り纏め、発表、さらに、修士論文作成の指導を行う。 (1 伊藤 繁夫) マイクロ波・ミリ波や光周波数帯における電磁波の大気中伝搬と物体による散乱問題の解明に対する研究指導を行う。文献調査、テーマの設定、数値計算用プログラミング、実験方法、成果のまとめ方等を指導する。 (3 木本 伊彦) マルチメディア信号処理技術に関して、画像信号やオーディオ信号を対象とするテーマで研究指導と論文指導を行う。研究テーマには、数学的な信号理論や信号解析、アルゴリズム、主観評価実験などがある。 (6 篠永 英之) 情報通信ネットワークに関するテーマの研究を行って成果を修士論文としてまとめるための指導を行う。また、それによって、本分野に関連した知識を深めることや、本分野の研究動向を把握することも目的とする。 (10 佐野 勇司) 人や地球に優しい電子機器の実現に向けて、その高性能化の研究を進める。研究過程において、与えられた指示を確実に行っていくための知識を修得し、積極的に実験を行う姿勢を身に付ける。 (12 山崎 文明) 情報数学、もしくは作用素論のどちらかに関するテーマの研究を行って成果を修士論文としてまとめるための指導を行う。また、この分野の研究動向を把握することも目的とする。なお、本研究は実験を行わない。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科電気電子情報専攻博士前期課程）			
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容
研究 指導 科目	情報 通信 分野	情報通信特別輪講 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 情報通信分野に関連する知識や学力の習得、研究動向の調査などのための輪講を行う。また、情報通信特別研究を実施するために必要なもの（実験機器や実験資料の扱い方、コンピュタリテラシー、解析ツールの使い方、コンピュータプログラミングなど）を習得するための演習を行う。 （1 伊藤 繁夫） マイクロ波帯やミリ波帯以上の電磁波の散乱と伝搬の基礎的な現象を正しく理解するために輪講を行う。数値計算問題の解法と並行して、散乱問題における各種基本的な物理量の求め方を習得させる。 （3 木本 伊彦） マルチメディア信号処理に関する知識や研究動向を学ぶために資料や文献を輪講する。また、画像・オーディオ信号処理に関する計算機シミュレーションやプログラミングの演習を行う。 （6 篠永 英之） 情報通信ネットワークに関連した計算機シミュレーション、実験を行い、結果を評価・分析する能力を養うための演習を行う。また、関連資料を輪講により学ぶ。 （10 佐野 勇司） 研究を進める過程において電子機器の研究・開発を行えるだけの電子工学と色彩科学の知識を、論文や特許明細書、参考書、技術雑誌などを理解して養い、他の研究状況も把握する。 （12 山崎 丈明） 情報数学に関する演習を行う。シャノンによって数学的に定式化された通信の数学的理論を中心に、情報理論の基礎的な部分や一般論を理解する。また、ヒルベルト空間上の有界線形作用素論も扱う。

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科電気電子情報専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特殊 研究	電気電子情報特殊研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	（概要） 電気・電子・情報通信分野のテーマで学位研究に相応しい成果を得るための研究指導を行う。そのために、問題点の分析と研究テーマの設定、実験やシミュレーション、その結果の検証、さらに、結論の推論・導出など、研究を進める上での要点を示して指導する。また、それらを研究の実施を通じて体得させることも目的とする。 （3 木本 伊彦） 画像信号またはオーディオ信号を対象として、信号処理や情報処理に関するテーマで研究を行う。また、研究テーマに応じて必要な知識や、実験法、解析手法などを習得するために講述と演習を行う。 （4 小室 修二） エレクトロニクス分野の研究として、光・電子集積回路の実現を目指してS i系材料において可視から近赤外域における発光・受光用機能素子材料およびデバイスの開発に関するテーマで研究を行う。 （5 堺 和人） 電気機器とパワーエレクトロニクス分野の研究として、可変速モータやインバータ・ドライブ制御を対象として、省エネルギーと高性能化に関するテーマで研究を行う。研究を始めてから成果を得るまでを指導する。 （6 篠永 英之） 情報通信ネットワーク分野の研究として、電力線通信、無線LAN、衛星通信等を対象として、通信品質評価・分析、干渉に関するテーマで研究を行う。様々な仮定を想定し、推論により、本質を導出する能力を育成する。 （7 中野 秀俊） 超高速光波エレクトロニクス技術に根差した高密度情報処理・通信を実現するための基盤技術確立を目指した取り組みを進める。研究遂行に必要な知識、実験技術を習得するための輪講を適宜実施する。 （8 吉本 智巳） 真空ナノエレクトロニクスに関して、特に電界放射電子源を対象に、デバイス作製および特性評価を行う。研究手順の設定や結果の解析法等を指導する。また、研究を進めるうえで必要な情報検索方法等も指導する。 （11 柴田 絢也） スピントロニクスの物理に関する研究を行なう。特に電子スピンと磁化が相互に起因する現象に関する研究を厳密に行う。研究成果を国際会議で発表し、英語論文にまとめる。 （12 山崎 文明） 情報数学、もしくは作用素論の研究として、情報の数学的理論、もしくはヒルベルト空間上の有界線形作用素に関するテーマで研究を行う。なお、本研究は実験を行わない。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科電気電子情報専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	電気電子情報研究指導	（概要） 電気・電子・情報通信分野で研究や開発を主体的に企画し遂行できるだけの、また、研究や開発を指導できるだけの素養を養う。そこでは、独創的な着眼から問題点を設定し、問題解決の方法や合理的で妥当な実験方法を考案し、さらに、実施予定を立てて研究を進める。担当教員はこれらを指導する。また、学会等への研究発表や、学会誌論文、英語論文、さらに、学位論文の作成の指導を行う。 （3 木本 伊彦） マルチメディア信号処理に関わるテーマについて研究を行いながら、学位請求論文としてのまとめ方・構成と作成を指導する。それを通じて情報システムの研究や開発を行えるだけの素養を養う。 （4 小室 修二） 可視から近赤外域における発光・受光用機能素子材料およびデバイスの開発に関する研究を遂行することで、エレクトロニクス全般の研究や開発を行えるだけの技術と素養を養う。 （7 中野 秀俊） 超高速光波技術に関するテーマ（光波電界制御技術の高密度情報処理・通信への応用、時間分解計測技術の開発）で研究を進めながら、研究者として独立する基礎力を身につけることを目指す。 （8 吉本 智巳） 真空ナノエレクトロニクスに関して、特に電界放射電子源の研究を行いながら、これを通して研究成果のまとめ方を指導し、学会発表や学会誌論文投稿を行う。さらに、学位論文をまとめるための指導を行う。 （11 柴田 絢也） スピントロニクスの物理に関する研究を行なう。特に電子スピンと磁化が相互に起因する現象に関する研究を、場の量子論による厳密な手法やマイクロマグネティックシミュレーションを用いて行なう。 （12 山崎 文明） 情報の数学的理論、もしくは作用素論に関するテーマについて研究を行いながら、学位請求論文としてのまとめ方・構成と作成を指導する。それを通じて情報数学研究を行えるだけの素養を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	コンクリート工学特論	社会資本整備に不可欠なコンクリートおよび鉄筋コンクリートの性質・挙動を知り、性能照査型設計法を用いて部材を設計するために必要な知識・応用力を習得する。またコンクリートの性能に大きな影響を及ぼすひび割れのメカニズムについて理解する。さらにプレストレストコンクリートおよびコンクリート分野における各種新材料、リサイクル材料に関する最新の技術動向について理解する内容とする。	隔年
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	都市メンテナンス特論	高度成長期に建設され、戦後の我が国の発展を支えてきた社会資本の多くが、今、更新期を迎えようとしている。 また社会資本のマネジメントのあり方は、今後続いていく人口減少時代に対応するよう「ダウンサイジング」、「用途変更」も念頭に置くことも強く要請されている。 このように、安定成長期のわが国ではこれまでに整備された社会資本のマネジメントが今後極めて重要になる。社会資本のメンテナンスに関する幅広い知識と応用力を、アセットマネジメントの観点に立脚して、ハードソフト両面から育成する内容とする。	隔年
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	耐震設計特論	21世紀に入り日本の地震活動が活発になったが、社会インフラはこれまでの被災を教訓に地震に対する設計を強化しており、壊滅的な被害は減りつつある。社会インフラを建設・保守するエンジニアにとって耐震設計の知識は必須であり、安心・安全・快適な社会を実現する基本素養となる。本講義では耐震設計の基礎となる振動と波動現象の理解からはじめて、橋やトンネルの耐震設計指針類が理解できるレベルまで講義を行う。	隔年
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	都市ライフライン工学特論	水道、下水、ガス、電力、通信などの都市ライフラインは都市の活動を支えるインフラであり、よく似た特徴を持っている。近年では高度経済成長期に建設したライフラインの老朽化などが問題になっているが、本講義では都市ライフラインの構造と機能、防災対策、維持管理の問題に焦点を当てて、エンジニアが果たす役割について解説する。	隔年
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	地盤工学特論	土が発揮する力はクーロンの破壊規準によって説明される。その適用や真の意味を十分に理解するには、圧密現象、応力履歴と同時に、土の間隙水圧の発生特性についても考慮しなくてはならない。実際に土の問題に対処するには、透水性と圧密やせん断が相互に関連して複雑な現象を扱い実際の地盤の変形挙動や破壊挙動を予測するので、基本条件を関連させて総合現象を把握していく能力と思考法を習得できることを目標とする。	隔年
授業 科目	サ ス テ イ ナ ブ ル 工 学 系	地盤環境学特論	昨今は色々な造語が氾濫しているが、この科目名称もその一つである。地盤環境という言葉が使い始めたのは、1994年12月に環境基本計画が閣議決定された。そのときに地盤環境という用語が公式に使われ始めた。ここでは従来の地盤工学の範疇に捉われず、地盤災害、地盤汚染、地下水汚染、災害廃棄物、地下空間の利用、地域環境、地球環境などの地盤と環境とを結びつけた諸問題とそれらによる地盤環境への負荷の度合いを考え、各種の取り組みや保全を図るための対策について議論し、地盤環境全体の保存について模索することを目的とする。	隔年
授業 科目	環 境 シ ス テ ム 系	水圏環境工学特論	近年、河川・湖沼・海岸では様々な環境問題が生じてきている。本講義では、まず水質の汚染について水銀汚染、富栄養化などの基礎知識を学ぶ。つぎに、河川・湖沼・海岸での水の流れを規定する支配方程式の物理的意味を理解できるように話を進める。さらに、水圏環境がかかえる具体的水環境問題について講義する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目	環境システム系	流域圏環境システム特論	水、例えば地上に降った雨は、そのまま池や湖に溜まったり、川に流れ込んだり、地中に浸透する。川は集まった水を海へと運ぶ。水は、池や湖や地表面や、流下途中の川から、あるいは最終的な到着地である海から蒸発をして、大気中に戻り、雨などになって再び地表に降ってくる。そのような、循環をしている間に、水は我々人類の生活を支える命の水となったり、洪水など厄介な災害をもたらす。このような水の循環気候を理解すると共に、その利用実態や有効利用について考える。	隔年
授業科目	環境システム系	環境材料工学特論	講義内容は廃棄物より発生した材料および溶鉱炉より発生する鉄鋼スラグや石炭火力発電所より発生する石炭灰等の産業副産物材料の特性を述べ、またその応用例を紹介する。さらに実際の施工現場を見学し、その施工方法の実態を調査する。これにより社会人としての実践的なエンジニアを養成することが可能となる。	隔年
授業科目	環境システム系	都市環境政策学特論	都市環境政策の概要を国土形成から地域計画にわたって解説した上で、持続可能な都市の構築に向けてどのような政策が行われているか、政策の立案において研究者がどのように関わっているか教授する。持続可能な社会の構築に向けて、都市環境デザイン領域の専門家として知るべき政策システムに関する知識を得るとともに、その中でエンジニアが果たすべき役割を明確に意識することを目的とする。	隔年
授業科目	環境システム系	環境経済特論	多様化・複雑化する環境問題の解決に向けては、技術的対応だけでは限界があり、市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みの形成が不可欠となっている。そこで本講義では、経済学の基礎的な考え方について教授した上で、環境政策手段や土地利用分布の理論的裏付けを解説することを通じて、環境問題の経済的な発生メカニズムを解明し、問題を解決するための処方箋を提示する。産業連関表に関する基礎知識を習得するとともに、環境税・排出量取引・資源循環拠点の整備といった対策の経済学的な解釈方法を習得することを目的とする。	隔年
授業科目	環境システム系	環境分析特論	安全な水の供給は、人間生活にとって必要不可欠である。世界の人口増加や産業化に伴って水需要が急増しており、水質を分析する技術・水を処理する技術に対する要求は、年々高まっている。そこで本講義では、河川などの浄化作用および上水道・下水道のプロセスについて教授する。そして、環境基準を中心に主要な水質基準項目について理解し、それぞれの分析手法、水環境・社会環境・人の健康などに対する影響を調査することを通じて、水問題の解決に向けた方策を提案する能力を培うことを目的とする。	隔年
授業科目	都市環境マネジメント系	リモートセンシング特論	地球上の地物、人工物はその物固有の電磁波を反射・放射している。この反射放射を詳細に調べることで地物、人工物を同定することができる。この技術をリモートセンシングと称する。リモートセンシングの特長は人工衛星にセンサーを搭載して地表面の情報を採取し、近赤外、赤外の波長を収集することができるので、人間の目には見えない現象を捉えることができる。環境のモニタリングに多く利用されており、宇宙からの環境診断技術として期待されている。本講義ではこれらの処理過程を学び、どんなことに有効利用できるかを共に考える。	隔年
授業科目	都市環境マネジメント系	都市計画デザイン特論	都市計画に関する計画を立案していく過程では、対象となる地域の実情を的確に把握することのみならず、そこでの課題抽出や対策立案に至るまでの各段階において、主観的・情緒的な議論のみに終始するのではなく、客観的なエビデンスの提示が併せて求められることがしばしばである。ここでは、上記のような各プロセスにおいてしばしば用いられる調査手法論とそれに基づく実態分析方法にフォーカスをあて、その理論的背景の理解にとどまらず、具体的な実践例を介してその理解を深める。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業 科目	都市 環境 マネ ジメン ト系	交通マネジメント特論	都市の交通計画を行っていく際に必要となる将来の交通需要を予測するためには、まずその都市の交通体系や需要構造を理解しなければならない。さらに交通需要の調査方法やゾーン別の発生集中量・OD分布量・交通機関選択率の予測およびネットワークへの配分方法等の各段階における分析手法を理解する必要がある。また、それを公共事業プロジェクトとして実施してゆく場合にはその有効性に関するエビデンスを示すことが求められる。このような観点から本講義では、交通需要予測からプロジェクト評価に至る過程を演習問題を通じて学習する。	隔年
授業 科目	都市 環境 マネ ジメン ト系	社会経営学特論	本講義では、人が安全で安心、健康で快適に過ごすことができる社会を経営するために求められる要件について教授し、時流（ネット社会）に則した新しいビジネスモデルを提案できる柔軟性を養い、地域に密着した社会の一員としての実践能力の育成を目的とする。 具体的には、社会経営と建設事業の関連する要素を整理した上で、社会経営を推進する実在都市を対象として、現在に至る変遷や直面した課題、その課題解決策、今後の方向性等について解説する。最後に、社会を評価する手法を教授し、新しいビジネスモデルの提案能力につなげる。	隔年
授業 科目	都市 環境 マネ ジメン ト系	プロジェクトマネジメント特論	建設プロジェクトを計画・立案していく過程での諸内容は、調査観測と将来予測を踏まえた複数の代替案を作成し、その中から合理的かつシステムティックに最終案を選択する一連の行為であり、これを科学的に遂行することが社会的合意形成の上で強く求められる。このような社会的要請に応えるための種々の手法や技法を紹介し、その習得を目的とする。	隔年
授業 科目	専攻 特別 講義 I	都市環境デザイン特別講義I	廃棄物より発生した材料および溶鉱炉より発生する鉄鋼スラグや石炭火力発電所より発生する石炭灰等の産業副産物材料の特性を述べ、またその応用事例を紹介する。またリサイクル材料の品質を理解し、材料特性の基本条件を関連させて総合現象を把握していく能力と思考法を習得できることを目標とする。	隔年・集中
授業 科目	専攻 特別 講義 II	都市環境デザイン特別講義II	阪神淡路大震災、東日本大震災を経て、自然災害を予測することは不可能であることを技術者は理解した。自然災害に見舞われたとき、いかに災害被害の軽減をはかることができるかを模索することは大変有意義なことである。本講義は、リモートセンシング技術を応用して自然災害による被害軽減対策についてどのような方策があるかを講義する。	隔年・集中
共通 科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通 科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担う人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	都市環境デザイン特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 都市環境デザイン分野の研究について、研究テーマの新奇性や有用性を検証しながら、研究内容と研究方法を議論する。また、修士論文作成に向けて研究の構成手順や論理性について討論しながら指導する。 （1 鈴木 崇伸） 構造解析、地震動分析、都市ライフラインの分析などに関する研究を行い、問題解決のプロセスを修得させる。 （2 田中 修三） リモートセンシングを応用して、環境変化・災害被害の軽減化を目指して研究を進めるに当たり、この分野に関する文献を収集し何が問題となっているかを纏めあげる。問題意識の向上、研究方法の妥当性・適確性を確認し、研究推進のための創造力、思考の自立性を養うことを目的とする。 （3 石田 哲朗） 不飽和土の浸透特性や力学的な特性に関する研究、あるいは廃棄物の再資源化に関する研究を進めながら、これらの分野に関する問題意識、研究遂行のための創造力、思考の自立性を養う指導を行う。 （4 福手 勤） 社会資本マネジメントに関する研究、あるいは社会資本の建設・維持管理に関する研究を進めながら、これらの分野に関する問題意識、研究遂行のための創造力、思考の自立性を養う指導を行う。 （5 須長 誠） リサイクル材料の種類と特性に関する研究あるいは廃棄物のリサイクルに関する研究を進めながら、この分野に関する問題意識、研究遂行のための想像力、思考の自立性を養い、博士論文執筆に必要な能力を養う。 （7 村野 昭人） 資源循環の促進や再生可能エネルギーの利用等を中心とした、環境負荷削減施策を評価する既往研究の調査を通じて、修士論文の研究内容を明確化するとともに、評価手法について学ぶ。 （8 及川 康） 災害社会工学に関する研究、あるいは防災工学・土木計画学・都市計画学などに関する研究を進めながら、この分野に関する問題意識、研究テーマ設定、研究方法の妥当性・適確性の確認し、研究推進のための創造力、思考の自立性を養うことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	都市環境デザインプロジェクト特別演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 都市環境デザイン分野について、研究テーマの設定、研究方法の確定に向けて、問題意識の深化、研究目的の明確化、研究方法の妥当性について演習や研究結果を通じて検証する。研究成果を一定の時間内の的確に伝える発表方法を身につける。 （1 鈴木 崇伸） 設定した研究テーマに関連する資料を収集し、分析内容をブラッシュアップする演習を行う。また図表の作成や文章表現についても演習を行う。 （2 田中 修三） 各自の研究テーマに関係する既往研究文献を収集講読し、環境変化・災害被害の軽減化を目指す研究を進める上で何が問題となっているかを纏めあげながら、研究論文のまとめ方、文章表現能力の向上に努める。 （3 石田 哲朗） 各自の研究テーマに類似した既往研究を講読資料として、新たな方向性を確認しながら、研究論文のまとめ方、文章表現能力の向上に努める。 （4 福手 勤） 各自の研究テーマに関係する既往研究を講読資料として、新たな方向性を確認しながら、研究論文のまとめ方、文章表現能力の向上に努める。 （5 須長 誠） 各自の研究テーマに類似した既往研究を講読資料として、新たな方向性を確認しながら、研究論文のまとめ方、文章表現能力の向上に努める。 （7 村野 昭人） 環境負荷削減施策を評価する既往研究について調査した内容を、発表資料として整理して発表することを通じて、表現能力・他人に伝える能力の向上に努める。 （8 及川 康） 設定した研究テーマに関連する資料を収集し、分析内容をブラッシュアップする演習を行う。また図表の作成や文章表現についても演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業 科目	計画・ デザイン系	空間デザイン特論	異なる文化・習慣・環境の中で、建築の歴史を経ながら様々な現代建築が生み出されている。建築空間は、人間に対しても環境に対しても大きな影響を与えている。このような建築と環境の関係を思考しながら建築設計実務を行う上で、何を大切にすべきか、また、何が未来に対して取り組むべきテーマであるかをしっかり習得する。	
授業 科目	計画・ デザイン系	都市・建築特論	複雑化し、巨大化する都市の中での建築のあり方も変化し続けている。都市と建築の関係について書かれないいくつかの重要なテキストを題材としてとりあげ、その内容にもとづき、実際の建築（群）を分析することで、現在の都市と建築の状況を理解するとともに、これからの建築と都市のあり方について、建築計画、都市計画の視点から考察する。	隔年
授業 科目	計画・ デザイン系	建築計画特論	少子高齢化、災害、情報化、地球環境問題、価値観の多様化、国・地方の財政逼迫等、社会の状況が大きく変化する中、建築には新たな役割が必要とされ、従来とは異なる計画原理や計画方法が求められている。関連するいくつかの今日のテーマを取り上げ、実際の計画例をもとに具体的に解説するとともに、各自が文献・資料の講読、発表を行い、それを通じて建築計画学の新たな視座について考える。本講義を通じて、建築設計実務に必要な高度で実践的な専門知識と専門技術を習得することを到達目標としている。	隔年
授業 科目	計画・ デザイン系	生活空間計画特論	建築の設計にあたって必要となる空間の用途・規模・関係性などについて意匠設計に関わる専門的かつ実務的な内容を講義する。特に日常生活行動に関係する空間や建築類型をとりあげ、事例にもとづく講義を通して、生活の場としての建築が生活行動と空間の相互浸透的な関係の中で存在していることを理解してもらう。複雑化、多様化した現代社会に対応し、利用者の生活の質の向上に資する建築空間についてはもちろん、時代の変化にも耐える建築とはどのようなものであるかについても知ってもらい、社会的ストックとなる建築の設計・計画手法について学ぶ。	隔年
授業 科目	テクニカル デザイン系	構造デザイン特論	時間軸として建築史、技術史、材料史から“もの”としての建築の劣化、経年変化までを扱い、空間軸として長短、高低、平面・曲面など形態を捉えながら、建築空間の創造において構造デザインの大切さとおもしろさを学ぶ。今日では多種の構造材料を用いて多様な建築物が設計され建設されている。それにともない、構造デザイン手法は多岐に分かれ、また高度化されてきた。建築の構造デザインでは建築の形態、用途、規模に応じた材料、構法を適切に選択することが重要となる。構造デザインの手法、プロセス、思想について講義・議論する。	隔年
授業 科目	テクニカル デザイン系	木質構造学特論	木質構造の講義では木質材料の特性を理解して木質構造建築物の建築計画に応じた、構造計画、架構計画を立案できる知識を取得することを目的とする。講義では木質住宅、大規模木造、日・欧の伝統的木造と新木造、ハイブリッド木造などの構法、設計法について事例を通して知り、建築空間の創造において素材の持つ特性を活用する大切さを学ぶ。さらに、木質構造の地球環境負荷低減機能について学ぶ。	隔年
授業 科目	テクニカル デザイン系	構造解析学特論	建築構造設計の流れとその設計法について学び、併せて演習問題を解くことによってさらに理解を深め、実践的知識を習得することを目的とする。前半は建物に作用する風荷重や地震荷重について詳しく学ぶ。建築物の構造計算には、許容応力度計算、保有水平耐力計算及び限界耐力計算があり、これらの流れと建物の規模による計算法の違いについて学ぶ。また、柱と壁の水平剛性と建物の偏心率・剛性率について学び、鉄筋コンクリート4階建の建物について例題問題を解く。一方、鉄筋コンクリート構造の保有水平耐力計算と限界耐力計算法についても例題を通して学ぶ。さらに建物の振動と動的解析についても学び、実務に即した計算法を修得する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業 科目	テク ニ カ ル デ ザ イ ン 系	構造材料学特論	建築構造の設計や施工を行う場合に理解すべき、建築材料に関する高度な知識と設計への適用方法を習得することを目的とする。本科目では、特に「構造材料」と総称されるコンクリート、鋼材、木材を主対象に、一軸応力下や多軸応力下での構造材料の力学的性質、構造材料の耐久性について理論的に習得するよう、講義を中心に演習や実地調査などを織り交ぜて行う。	隔年
授業 科目	テク ニ カ ル デ ザ イ ン 系	防災構造特論	世界的に稀有な災害大国である我が国の建築物は、必然的に「防災構造」であることが求められる。本科目は、その内容を「過去の災害被害の把握」「建築物における防災に対する最先端の配慮の事例学習」に二分し、それぞれの内容を徹底して理解することを目的とする。「過去の災害被害の把握」においては、事例の紹介とその被害要因分析を主に行う。「建築物における防災に対する最先端の配慮の事例学習」においては、大学院の他の講義科目では扱わない最先端の防災配慮策についての事例紹介とその原理の解説、実物の見学を主に行う。	隔年
授業 科目	テク ニ カ ル デ ザ イ ン 系	設備システムデザイン特論	建築設備は空調、電気、給排水・衛生、防災・防犯、情報通信、搬送機械など極めて多岐にわたる。これらの設計には、建築および構造計画などにおける諸特性に対して整合性を図ることが重要である。また、今日の環境問題に対して設備設計はどのような貢献をなすべきか多面的に学び考えることが必要である。本講義は、これら設備の計画設計における実務的知識の修得と技術者の社会的役割と倫理等について深く考察することが主な目的である。	隔年
授業 科目	テク ニ カ ル デ ザ イ ン 系	建築環境工学特論	建築環境工学が最終的に目指すところは、建物内外に形成される熱、音、光、空気、湿気などの物理的環境が人間に及ぼす影響を捉え、最小限のエネルギー使用で、健康で快適に暮らすための計画、設計の方法を定量的に示すことである。まず、都市・建築環境工学の基礎として、熱、音、光、空気、湿気毎に物理法則を解説する。つぎに都市・建築環境工学の最近の動向として、いくつかのキーワードを取り上げ、論文を中心に輪読するとともに、興味あるテーマに絞って文献調査等によって、レポート等としてまとめてもらい、それらの成果をプレゼンテーションしてもらう。	隔年
授業 科目	テク ニ カ ル デ ザ イ ン 系	ファシリティマネジメント特論	ファシリティマネジメントとは何かについて、その概念を学習するとともに、建築計画、建築構造、設備計画の知識、空調調和設備、衛生・防災設備等の知識とファシリティマネジメントとの関連、ファシリティマネジメントの実践例を取り上げ、それらの模擬データを用いて、解析手法を体得する。また、ファシリティマネジメントの企画、立案、評価について、建築計画、建築構造、設備計画、空調調和設備、衛生・防災設備等のそれぞれの切り口で検討するとともに、実践例のプレゼンテーションも体得する。	隔年
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	建築ストックマネジメント特論	世界の中でも高水準を保ってきた日本の建設投資が減少基調で推移し、建設業を支えてきた事業者の高齢化・減少が顕著になっている。縮小する建築市場の中で、建設業界は競争激化の状況となり、雇用問題が顕在化している。今後、ストック型の建築・住宅市場の中で、建築・住宅産業に期待される技術課題のありようや、建築職能にもとめられる機能・役割について論ずる。とりわけ、ハウジングに関連した領域への各自の修士論文等の研究への取り組みの活性化につながるように、関連する既往研究を紹介する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	地域生産システム特論	住宅産業は新築からストック型産業への転換が求められている。これまで個別散在需要に適切に対応してきた小規模な地域の住宅生産システムのありようを具体的に検討することが、この講義のねらいである。ここでは住宅産業を担ってきた多様な主体の役割や活動の特徴をビジネスモデルの発展プロセスとして整理し、理解を深める。合わせて、ストックハウジングに関連した既往研究の流れを概説するとともに、不動産業との連携など今後の住宅生産システムのビジネスモデルのありようを考察する。	隔年
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	まちづくり計画特論	都市計画・まちづくりの理論・考え方・専門知識を習得することを目的とする。授業内容としては、都市計画・まちづくりに関する歴史や思潮を紐解いた上で、人口減少社会における都市計画・まちづくりに必要な、地域計画、インフラの維持管理、緑地・環境保全、防災、住環境、医療・福祉等の多様な論点を提示し、実際の都市を事例に調査・分析を行いながら、討論形式で講義を進める。	隔年
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	建築・都市法規特論	建築設計実務に必要な不可欠な建築基準法を中心に、建築設計実務に必要な建築・都市関連の法規の理論と専門知識を習得することを目的とする。 本講義では、建築及び都市に関する法規制の歴史を紐解いた上で、建築基準法の単体規定・集団規定、建築士法等の建築関連法規、都市計画法等の都市関連法規に関する理論と専門的な知識を講義し、建築・都市法規に関する演習を行う。	隔年
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	ビルディングシステム特論	建築構法としての側面のビルディングシステムはどのような要素によって構成されるか、そして、建築生産としての側面のビルディングシステムはどのような要素によって構成され、要素相互はどのような関連があるかを論ずる。歴史的に先駆的・先端的な構法・生産技術に関する事例を基に、歴史的経緯、施策・制度、計画・設計、構法・ディテール、生産・管理に至る流れをプロジェクトマネジメントとして捉え理解する。	隔年
授業 科目	建 築 ・ 都 市 マ ネ ジ メ ン ト 系	建設産業経営特論	建築士の独占業務である設計と工事監理業務を中心に建築職能が果たすべき役割と専門家として負うべき責任の範囲、設計・工事監理の業務内容についてできるだけ実務に近い視点から理解し、社会の中で専門職能として求められる基礎的な専門知識を習得することを目的とする。講義は理解を深めるための演習を行いながら進める。	隔年
授業 科目	専 攻 特 別 講 義	建築学特別講義 I	ストックへの正しい理解と、ストック活用プロジェクトの実践的な知識の習得を目的とする。500万戸を超える集合住宅ストックの多くは、耐震性や利便性、快適性の面で問題があるが古い建築を壊し新しい建築で需要を受け止める手法は解決とは言えない。人とストックに関する基礎理論であるS・I思想を解説し、講師が実際に携わったプロジェクトや他の話題プロジェクト等を取り上げ、企画から設計、運営に至る全過程を学びの対象とする。建築技術寄りのハード面とともに、不動産取引や契約、制度、マネージメント等のソフトな仕組みにも力点を置く。	隔年・集中

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科建築学専攻博士前期課程)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業 科目	専 攻 特 別 講 義	建築学特別講義Ⅱ	環境としてみる建築ストック。歴史的背景の中で成立してきた建築ストックは、ある特定の集団との間で歴史的に密な応答の結果、共同性のルールを作り上げてきた。与えられた敷地の中で法規制さえ満たせば何を建てても許されるという自由を基本としている我々の社会は、ストックにおける共同性の論理をすっかり見失ってしまっている。震災を契機として建築設計は新たな共同性をどうやって獲得するのかを真剣に模索すべきではないか。「環境」がそのような共同性の一つとして捉えることができる論拠として幾つかの環境建築の事例を取り上げ解説を行う。	隔年・集中
共通 科目		サイエンス・イングリッシュ特論	より広範な科学分野から専門分野までを視野に入れた英語の文献から情報を収集し、概要をまとめ、分析し、発表する能力を実践的に習得し、理工学系分野での英語コミュニケーション能力を高めることを目標とする。理工学系分野に必要な英語の基礎的運用能力を鍛える指導を行う。科学に関する簡単な英文の速読と要約、英語プレゼンテーションの技術や発話の要領を習得する演習を行う。科学に関する英文の文献を速読し、問題点を抽出し、それについて英語で議論する指導を行う。専門分野に関して学会発表を意識し、さらに深化させた英語プレゼンテーションを実践させる。	集中
共通 科目		ベンチャー・サイエンス特論	ものづくり分野の中核を担いうる人材に必要な実践的マネジメント分野の知識を東洋大学産学協同教育センターで実施している中核人材育成講座のワークショップを通じて習得する。プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスの基礎知識を紹介するとともに、ものづくりの管理技術の発展・変遷についての理解を深める。ものづくりに関連した分野における起業や特許取得を前提とした経営戦略の立案の仕方、経営管理手法や会計知識の活用方法などを理解する。	集中
授業 科目	設計 演習 ・ インター ン シ ッ プ 系	特別設計演習Ⅰ	(概要) 教員が指導する学内インターンシップである。特別研究で進めている研究の背景、目的、方法、内容、そこで展開する理論などが建築実務にどのように関係するのかを設計実践を通して理解する。 (1 田中 毅弘) 建築環境・設備に関する設計事例図書一式に基づき、空調調和設備と中心とした高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。 (3 松野 浩一) 木質構造建築の設計事例設計図書一式に基づき、高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。 (4 工藤 和美) 建築の意匠設計事例としての設計図書一式に基づき、高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。	
授業 科目	設計 演習 ・ インター ン シ ッ プ 系	特別設計演習Ⅱ	(概要) 教員が指導する学内インターンシップである。特別研究で進めている研究の背景、目的、方法、内容、そこで展開する理論などが建築実務にどのように関係するのかを設計実践を通して理解する。 (1 田中 毅弘) 建築環境・設備に関する設計事例図書一式に基づき、給排水衛生設備、電気設備と中心とした高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。 (3 松野 浩一) 鉄筋コンクリート構造および鋼構造建築の設計事例設計図書一式に基づき、高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。 (4 工藤 和美) 都市レベルの開発計画を事例として、設計図書一式に基づき、高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業 科目	設計 演習・ インター ンシッ プ系	インターンシップⅠ	（概要） 一級建築設計事務所、建築施工会社、住宅メーカー、建築確認検査事務所等に赴き、一級建築士の監督・指導の下、建築実務研修を行い、職業倫理、実務者の責務を身に付ける。 （1 田中 毅弘） 一級建築士事務所設備設計実務を体験し、関連する講義、演習で学んだ内容を活かし、建築環境設備分野の知識や技術、職業倫理を身に付ける。 （3 松野 浩一） 一級建築士事務所構造設計実務を体験し、関連する講義、演習で学んだ内容を活かし、建築構造分野の知識や技術、職業倫理を身に付ける。 （4 工藤 和美） 概ね90時間（約2週間、原則として夏期休暇中）、一級建築設計事務所、建築施工会社、建築確認検査事務所等に赴き、一級建築士の監督・指導の下、意匠設計にかかる実務研修を行い、建築家の責務を学ぶ。	集中
授業 科目	設計 演習・ インター ンシッ プ系	インターンシップⅡ	（概要） 一級建築設計事務所、建築施工会社、住宅メーカー、建築確認検査事務所等に赴き、一級建築士の監督・指導の下、建築実務研修を行い、実務に関わる専門分野の全体像を把握する中で、基礎的な設計手法、職業倫理を身に付ける。 （1 田中 毅弘） 一級建築士事務所設備設計実務を体験し、関連する講義、演習で学んだ内容を活かし、実際の設備設計手法、職業倫理を身に付ける。 （3 松野 浩一） 一級建築士事務所構造設計実務を体験し、関連する講義、演習で学んだ内容を活かし、構造設計手法、計算書の作成方法、職業倫理を身に付ける。 （4 工藤 和美） 概ね90時間（約2週間、原則として夏期休暇中）、一級建築設計事務所、建築施工会社、建築確認検査事務所等に赴き、一級建築士の監督・指導の下、意匠設計にかかる実務研修を行い、職業倫理を身につける。	集中
授業 科目	設計 演習・ インター ンシッ プ系	インターンシップⅢ	概ね90時間（約2週間、原則として夏期休暇中）、一級建築設計事務所、建築施工会社、建築確認検査事務所等に赴き、一級建築士の監督・指導の下、意匠設計にかかる実務研修を行い、設計図書のまとめ方を身につける。	集中
授業 科目	設計 演習・ インター ンシッ プ系	インターンシップⅣ	概ね90時間（約2週間、原則として夏期休暇中）、一級建築設計事務所等に赴き、比較的大きなプロジェクトの実務に参加し、建築の計画、設計監理の補助業務を行う。一級建築士の監督・指導の下、意匠設計にかかる実務研修を行い、各種申請業務を学ぶ。	集中

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科建築学専攻博士前期課程)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業 科目	設計 演習・ インター ンシッ プ系	インターンシップV	概ね90時間（約2週間、原則として夏期休暇中）、一級建築設計事務所に赴き、比較的大きなプロジェクトの実務に参加し、建築の計画、設計監理の補助業務を行う。一級建築士の監督・指導の下、意匠設計にかかる実務研修を行い、設計監理方法を学ぶ。	集中
研究 指導 科目		建築学特別研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) 建築分野の研究について、問題意識の設定、研究テーマ設定の妥当性の確認、研究方法の的確性の検証、研究の構成手順、研究内容の論理性を含めた研究推進のための創造力、総合力を養うことを目的としている。学生の問題意識に合わせて論文指導を行う。 (1 田中 毅弘) 都市・建築の環境・設備管理、リスクマネジメントに関連した研究テーマを設定して研究指導を行う。 (2 秋山 哲一) 建築生産、建築ストックマネジメントを中心とした研究テーマについて指導を行う。 (3 松野 浩一) 構造計画、構造設計法及び木質構造を中心とした研究テーマについて指導を行う。 (4 工藤 和美) 建築・都市デザイン及び意匠設計を中心とした研究テーマについて指導する。 (5 浦江 真人) 欠陥・瑕疵問題を建築生産における品質確保のための仕組みと業務の在り方の問題として捉え、現状を明らかにするとともに問題の本質を解明し、改善すべき課題を明らかにする。 (6 松下 吉男) 建物の構造性能を高めるための研究テーマを設定し、主に実験を伴う内容の研究を指導する。 (7 野澤 千絵) 都市計画・まちづくりを中心とした研究テーマを設定して研究指導を行う。 (8 篠崎 正彦) 建築計画、建築設計および住環境を中心とした研究テーマについて指導を行う。 (9 香取 慶一) 建築構造のうち主に鉄筋コンクリートなどのコンクリート系構造を主対象として、耐震性や耐風性などの構造安全性や耐久性を確保するための諸方策や設計法の構築に関する研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	建築学特別演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（概要） 建築分野について研究テーマの設定、研究方法の確定に向けて、問題意識の深化、研究目的の明確化、研究方法の妥当性について演習や研究活動を通じて指導する。外国語を含めた論文作成方法と研究成果を的確に伝える発表方法を身につける。 （1 田中 毅弘） 建築環境と空調、給排水衛生、電気設備に関して、高度な設計技術と実践的な専門知識を習得することを目的として、指導する。 （2 秋山 哲一） 実施例を対象とした具体的なディテール図面をトレースしながら、ディテール設計の重要性を理解し、基本的な知識を身につける演習を行う。 （3 松野 浩一） 構造計画、構造設計法及び木質構造を中心とした研究テーマについて指導を行う。 （4 工藤 和美） 建築・都市デザイン及び意匠設計を中心とした研究テーマについて指導する。学外のコンペティションに提案したり、共同設計を行ったりする。 （5 浦江 真人） 実施例を対象とした具体的なディテール図面をトレースしながら、高度な建築設計技術を習得するための演習を行う。 （6 松下 吉男） 鉄筋コンクリート構造物の構造設計の流れを理解し、実際の建物に応用しながら演習を行う。また、既存建物の耐震診断方法などについても指導する。 （7 野澤 千絵） 建築基準法等の関連法制度に適合するように行う高度な建築設計技術と実践的な専門知識を習得するための演習を行う。 （8 篠崎 正彦） 建築計画、建築設計および住環境を中心とした研究テーマについて具体的な課題を設定して演習を行う。 （9 香取 慶一） 建築構造の研究を行う場合に理解すべき、建築材料に関する高度な知識と設計への適用方法および構造材料の力学的性質を数値モデル化する手法を、演習を通じて習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科建築・都市デザイン博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特殊 研究	建築・都市デザイン特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	（概要） 建築・都市デザイン分野の研究について、国内外の研究状況を踏まえ、研究テーマの新奇性や有用性を検証しながら、研究内容と研究方法の確定と深化を図る。学位論文作成に向けて研究の構成手順や論理性について学生と討論しながら検証する。 （1 鈴木 崇伸） 構造解析、地震動分析、都市ライフラインの分析などに関する研究を行い、問題解決のプロセスを修得させ、独自の研究を遂行できる素養を身につける。 （2 田中 修三） リモートセンシングを応用して、環境変化・災害被害の軽減化を目指して研究を進めるに当たり、この分野に関する文献を収集し何が問題となっているかを纏めあげる。問題意識の向上、研究方法の妥当性・適確性を確認し、研究推進のための創造力、思考の自立性を養うことを目的とする。 （3 石田 哲朗） 不飽和土の浸透特性や力学的な特性に関する研究、あるいは廃棄物の再資源化に関する研究を進めながら、これらの分野に関する問題意識、研究遂行のための創造力、思考の自立性を養うと同時に、博士論文をまとめる能力を身につける。 （4 須長 誠） リサイクル材料の種類と特性に関する研究あるいは廃棄物のリサイクルに関する研究を進めながら、この分野に関する問題意識、研究遂行のための想像力、思考の自立性を養い、博士論文執筆のための能力を養う。 （5 田中 毅弘） 都市・建築の環境・設備管理に関連した研究を行う。研究の企画力を身に着けることを基本的な目的とし、分析等研究手段の修得、研究成果の論文へのまとめ方や口頭でのプレゼンテーション能力を養うことも重視する。 （6 秋山 哲一） 建築産業組織、建築ストックマネジメントを中心とした研究テーマについて研究の位置づけを中心に指導を行う。 （7 松野 浩一） 建築物の構造性能評価に関する研究テーマについて社会性を踏まえその有用性を議論しながら研究指導を行う。 （8 工藤 和美） 社会と建築に関して、各自が設定したテーマを専門的に掘り下げながら、その過程において現代の設計に必要な、社会とのかかわりと見方・考え方・技術的な意味・形の構成や創造性、といった思考を養い、討論をしながら指導を行う。 （9 浦江 真人） 建築生産システムが細分化し複雑化し、これらの役割と責任も曖昧になってきている。その結果、建物の品質に関わる大きな事故がおこる可能性が高まっている状況において、現状分析と今後のあるべき姿を明らかにする。 （10 松下 吉男） 鉄筋コンクリート構造物の耐震性やステンレスを用いた耐震補強など幅広くテーマを設定し研究指導を行う。 （11 村野 昭人） 資源循環の促進や再生可能エネルギーの利用等を中心とした、環境負荷削減施策を評価する研究を進めながら、環境政策を評価・提案する能力を養う指導を行う。 （12 及川 康） 災害社会工学に関する研究、あるいは防災工学・土木計画学・都市計画学などに関する研究を進めながら、この分野に関する問題意識、研究テーマ設定、研究方法の妥当性・適確性の確認し、研究推進のための創造力、思考の自立性を養うことを目的とする。 （13 野澤 千絵） 都市計画・まちづくりに関する研究テーマについてその客観性を踏まえながら研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（理工学研究科建築・都市デザイン博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導	建築・都市デザイン研究指導	（概要） 建築・都市デザイン分野の研究について、研究テーマの新奇性や有用性を検証しながら、研究内容と研究方法の深化を図る。学位論文作成に向けて研究の構成手順や論理性についての検討を学生との討論をもとに進める。学会等への論文投稿を指導し、学位論文の速やかな完成を図る。 （1 鈴木 崇伸） 研究成果をとりまとめ、査読論文を作成するテクニックを身につける。また研究内容をわかりやすくまとめる技術も習得させる。 （2 田中 修三） 研究テーマに関連する国内、国外の論文を調査し、研究のオリジナリティを検証する。さらに、研究方法の妥当性・適確性を確認しながら研究結果の解釈や公表方法を指導し、学位論文の完成を図る。 （3 石田 哲朗） 研究テーマの有用性を検証しつつ、研究計画、研究手順、研究方法、研究結果の解釈やその公表方法ならびに査読結果への対応等を指導し、学位論文の完成を図る。 （5 田中 毅弘） 都市・建築の環境・設備管理に関連した研究を行う。研究の企画力を身につけることを基本的な目的とし、分析等研究手段の修得、研究成果の論文へのまとめ方や口頭でのプレゼンテーション能力を養うことも重視し、学位論文の完成を図る。 （6 秋山 哲一） 建築生産・マネジメントを中心とした研究テーマについて指導を行う。 （7 松野 浩一） 建築物の構造性能評価に関する研究テーマについて研究指導を行い、その成果として学位論文完成に導く。 （13 野澤 千絵） 都市計画・まちづくりに関する研究テーマについて研究指導を行い、学位論文の完成を図る。	

著作権者の許諾が得られない書類等

1 (書類等の題名)

「校地校舎等の図面」における「東洋大学関連広域図」【p 1】

2 (出典)

Yahoo!地図

3 (引用範囲)

Yahoo!地図ホームページ <http://map.yahoo.co.jp/>より画像を引用

4 (その他の説明)

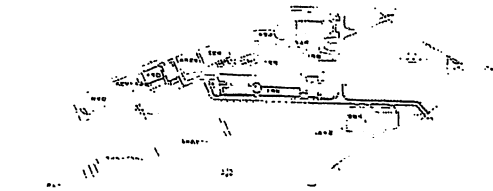
都道府県内における東洋大学キャンパス（白山、朝霞、川越、板倉、総合スポーツセンター）の位置関係を示す図面として、Yahoo!地図からのホームページ画像を利用し、

白山キャンパス	：	東京都文京区白山 5-28-20
朝霞キャンパス	：	埼玉県朝霞市岡 4-8-1
川越キャンパス	：	埼玉県川越市鯨井 2-10-0
板倉キャンパス	：	群馬県邑楽郡板倉町泉野 1-1-1
総合スポーツセンター	：	東京都板橋区清水町 9-2-1

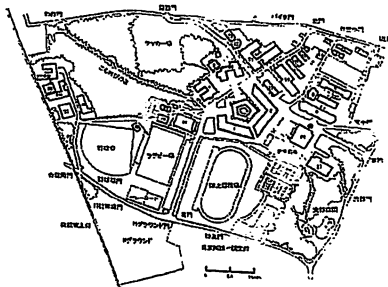
の位置を地図上に示した。

引用している画像の下部には、ホームページの著作権者である Yahoo Japan、及び地図データの著作権者である株式会社ゼンリンのコピーライトマーク記号を付した。

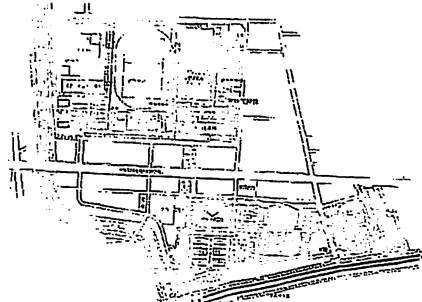
D 板倉団地 生命科学部
 位置 群馬県邑楽郡板倉町
 校地面積 322,921.12㎡
 (内 運動場用地 250,132.12㎡)
 (全部所有)



B 川越団地 理工学部・総合情報学部
 位置 埼玉県川越市鯨井
 校地面積 283,189.36㎡
 (内 運動場用地 144,380.69㎡)
 (全部所有)



C 朝霞団地 福祉社会デザイン研究科
 ラインデザイン学部
 位置 埼玉県朝霞市岡
 校地面積 104,915.00㎡
 (内 運動場用地 69,983.00㎡)
 (全部所有)



(至 森林公園) 1.0km
 徒歩10分
鶴ヶ島駅

【東武東上線】

北朝霞駅

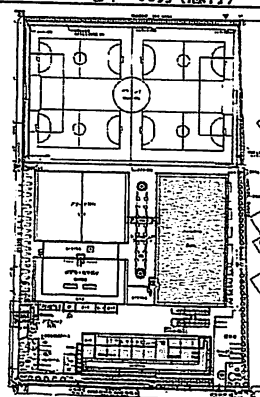
朝霞台駅

【東武東上線】

電車16分(急行)

総合スポーツセンター
 位置 東京都板橋区清水町
 校地面積 16,964.70㎡
 (内 運動場用地 7,416.00㎡)
 (全部所有)

文・経済・経営・法・社会・国際地域学部



(至 高島平)

板橋本町駅

0.5km
 徒歩5分

電車
 12分

巣鴨駅

電車
 5分

【JR山手線】

【都営三田線】

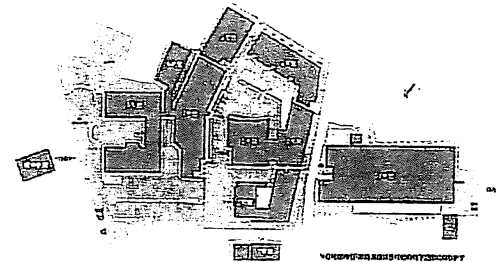
電車 4分

バス 6分 (東洋大前)

0.5km
 徒歩 5分

白山駅

(至 三田)



白山キャンパス
 位置 東京都文京区白山
 校地面積 34,892.43㎡
 (全部所有)

文・経済・経営・法・
 社会・国際地域学部

【JR東北本線】

【JR埼京線】

電車
 61分

大宮駅

栗橋駅

【東武線日光線・伊勢崎線】

浅草駅

A 白山団地

電車 13分

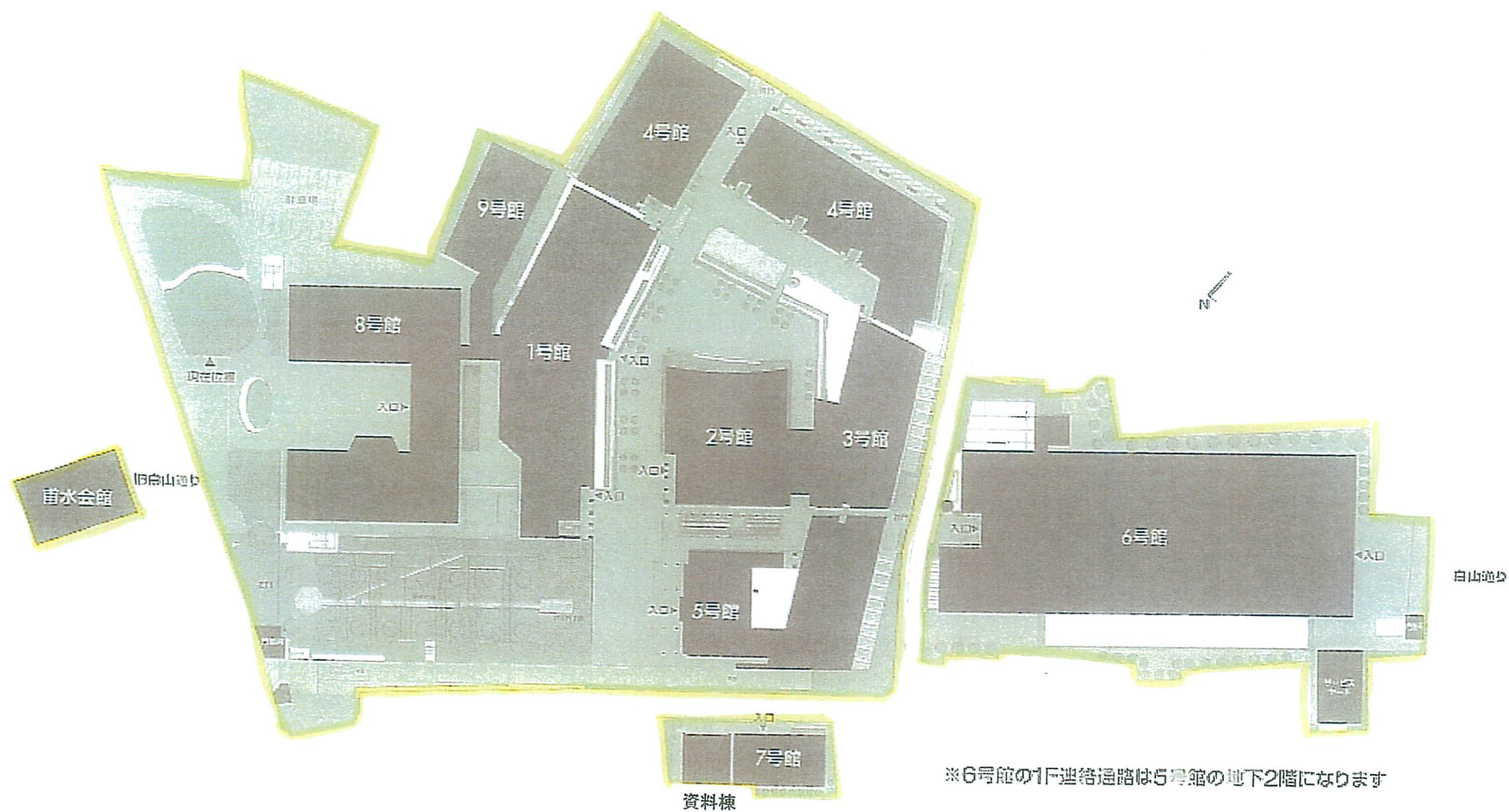
【東武日光線】

板倉東洋大前駅

0.7km
 徒歩7分 (至 日光)

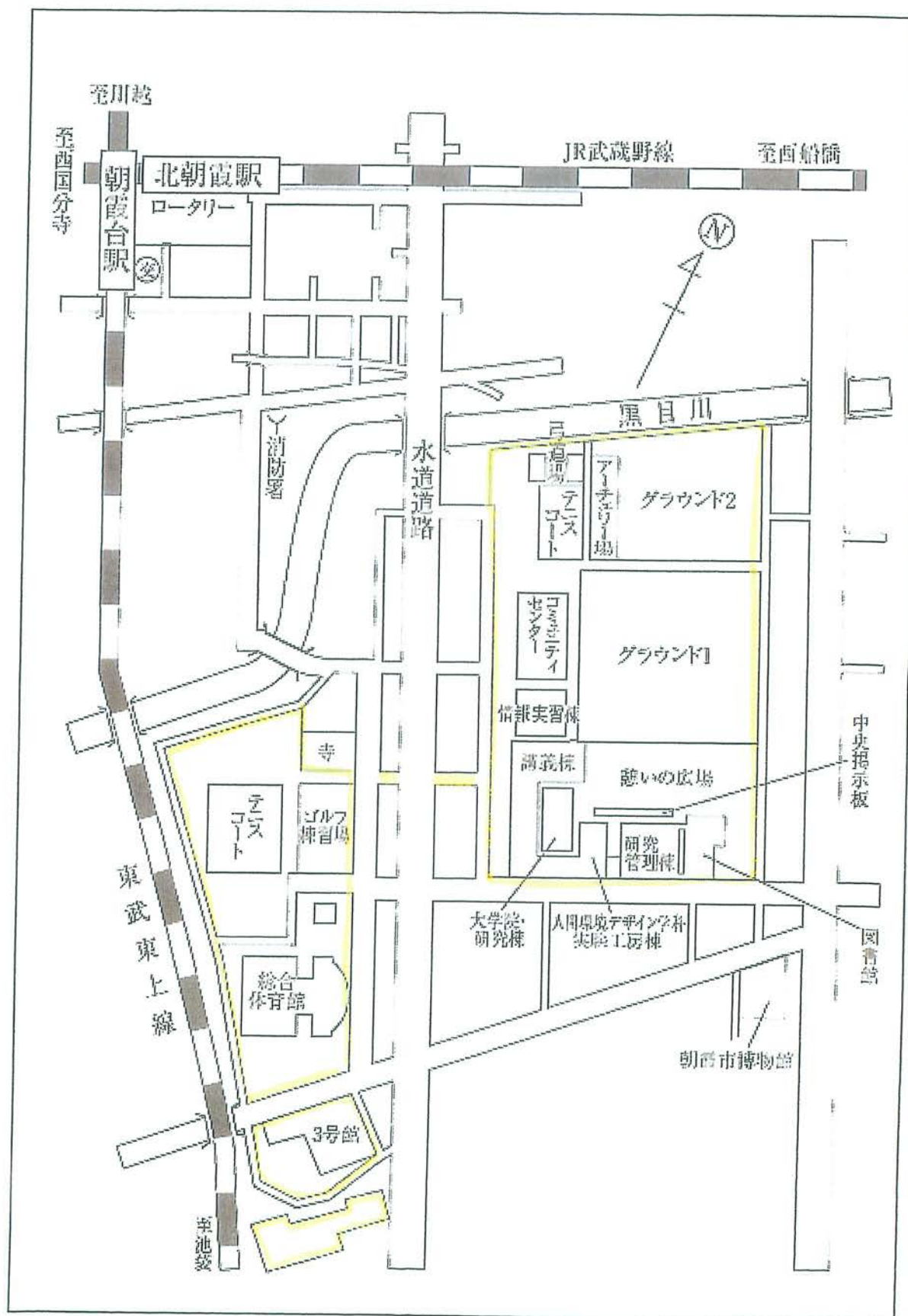
各校舎詳細については校舎配置図を参照

東洋大学 白山キャンパス 校舎配置図



キャンパス名	校地面積	校舎面積
白山キャンパス	34,892.43㎡	99,181.95㎡

東洋大学 朝霞キャンパス 校舎配置図



キャンパス名	校地面積	校舎面積
朝霞キャンパス	104,915.00㎡	31,634.46㎡

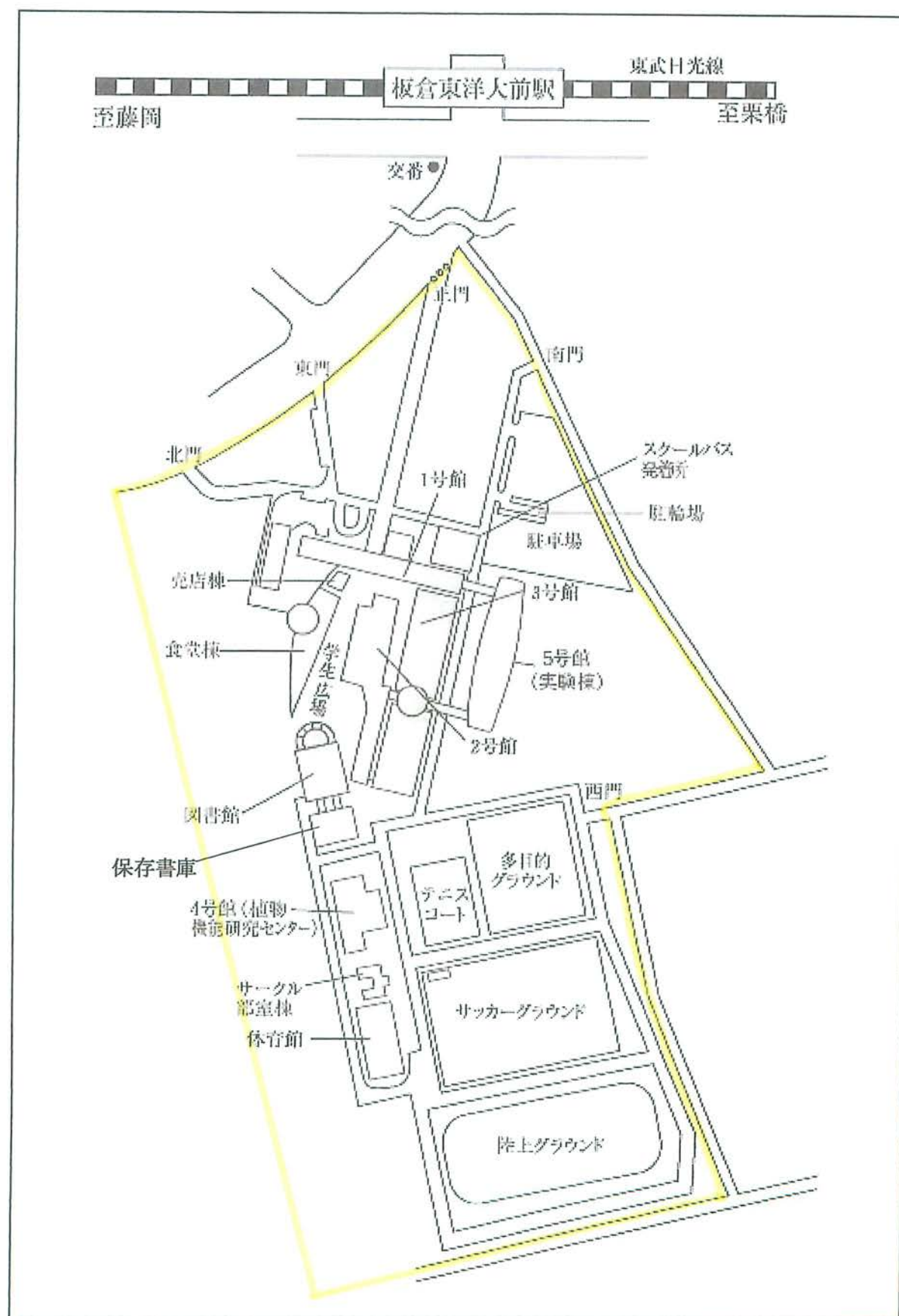
東洋大学川越校舎構内配置図

理工学研究科



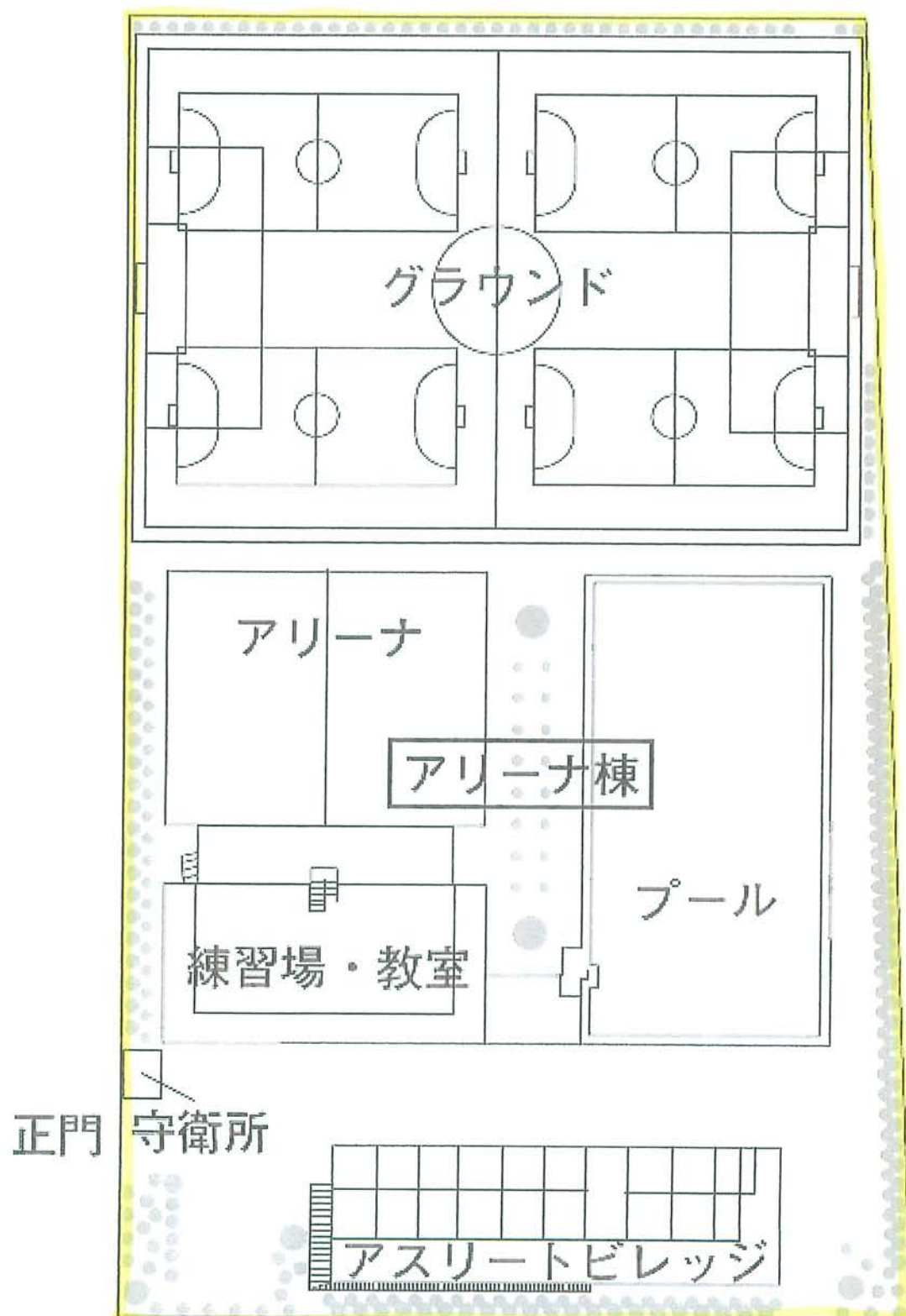
キャンパス名	校地面積	校舎面積
川越キャンパス	283,189.36㎡	73,190.23㎡

東洋大学 板倉キャンパス 校舎配置図



キャンパス名	校地面積	校舎面積
板倉キャンパス	322,921.12㎡	28,391.04㎡

東洋大学 総合スポーツセンター 校舎配置図



キャンパス名	校地面積	校舎面積
総合スポーツセンター	16,964.70㎡	1,752.54㎡

改正 昭和31年4月1日	昭和34年4月1日
昭和37年4月1日	昭和39年4月1日
昭和40年4月1日	昭和41年4月1日
昭和42年4月1日	昭和43年4月1日
昭和44年4月1日	昭和45年4月1日
昭和47年4月1日	昭和49年4月1日
昭和51年4月1日	昭和52年4月1日
昭和53年4月1日	昭和56年4月1日
昭和57年4月1日	昭和58年4月1日
昭和60年4月1日	昭和61年4月1日
昭和62年4月1日	昭和63年4月1日
昭和63年9月26日	平成元年4月1日
平成元年5月30日	平成2年4月1日
平成3年4月1日	平成3年7月1日
平成3年10月1日	平成4年4月1日
平成5年4月1日	平成5年7月1日
平成5年11月1日	平成6年4月1日
平成6年9月5日	平成7年4月1日
平成8年4月1日	平成9年4月1日
平成10年4月1日	平成10年9月1日
平成11年4月1日	平成12年2月1日
平成12年4月1日	平成13年4月1日
平成14年4月1日	平成15年4月1日
平成16年4月1日	平成17年4月1日
平成18年4月1日	平成19年4月1日
平成20年4月1日	平成21年4月1日
平成22年4月1日	平成23年4月1日
平成24年4月1日	平成25年4月1日
平成26年4月1日	

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学院は本学建学の精神に則り、東西学術の理論及び応用を研究・教授しその深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価及び認証評価制度)

第1条の2 本大学院は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営

並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検・評価の実施細目については、別に定める。

3 第1条の2第1項の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法第109条第2項に基づき、政令で定められた期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとし、その結果を公表するものとする。

(教育研究活動等についての情報の公表)

第1条の3 本大学院は、学校教育法施行規則第172条の2に定める教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

2 前項に規定するもののほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。

(課程)

第2条 本大学院に博士課程及び修士課程を置く。

2 博士課程の標準修業年限は5年とし、修士課程の標準修業年限は2年とする。

3 博士課程は、これを前期2年及び後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を博士前期課程、後期3年の課程を博士後期課程という。

4 博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。

(課程の趣旨)

第3条 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

第2章 研究科の構成

(研究科及び専攻)

第4条 本大学院に次の研究科を置く。

(1) 文学研究科

(2) 社会学研究科

(3) 法学研究科

(4) 経営学研究科

(5) 理工学研究科

(6) 経済学研究科

(7) 国際地域学研究科

(8) 生命科学研究科

(9) 福祉社会デザイン研究科

(10) 学際・融合科学研究科

2 前項の研究科に、別表第1に掲げる専攻を置く。

3 前項のうち経営学研究科ビジネス・会計ファイナンス専攻及び経済学研究科公民連携専攻並びに福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻は、専ら夜間において教育を行う課程とする。

ただし、教育上特別の必要があると認められる場合には、昼間その他特定の時間又は時期において

て授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

- 4 本大学院において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(学生定員)

第5条 前条の研究科及び専攻の学生定員は、別表第1に掲げるとおりとする。

第3章 教育課程

(教育課程の編成方針)

第5条の2 本大学院は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

(授業及び研究指導)

第6条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

(成績評価基準等の明示等)

第6条の2 本大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 本大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第6条の3 本大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(メディアを利用して行う授業)

第6条の4 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う。

- 2 前項の授業を実施する科目については、別に定める。

(履修方法等)

第7条 各研究科における授業科目の内容・単位数及び研究指導の内容並びにこれらの履修方法は、別表第2に掲げるとおりとする。

(授業科目の委託)

第8条 各研究科において、教育研究上必要と認めるときは、他の大学（外国の大学を含む。以下同じ。）の大学院とあらかじめ協議の上、その大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修させた単位は10単位を超えない範囲で、これを第12条に規定する単位に充当することができる。

(研究指導の委託)

第9条 各研究科において教育研究上必要と認めるときは他の大学の大学院又は研究所等（外国の研究所等を含む。以下同じ。）とあらかじめ協議の上、学生にその大学院等において研究指導の

一部を受けさせることができる。ただし、博士前期課程及び修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、一年を超えないものとする。

（単位の認定）

第10条 授業科目を履修した者に対しては、試験その他の方法によって、その合格者に所定の単位を与える。

（既修得単位の認定）

第10条の2 研究科委員会は教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院（本学又は他の大学の大学院をいう。）において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、10単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし、博士前期課程又は修士課程の修了に必要な単位数に算入することができる。

（試験及び成績評価）

第11条 試験は各研究科委員会の定める方法によって行う。

2 成績は、S（100点ないし90点）、A（89点ないし80点）、B（79点ないし70点）、C（69点ないし60点）及びD（59点以下）とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。

第4章 課程の修了要件及び学位の授与

（博士前期課程又は修士課程の修了要件）

第12条 博士前期課程又は修士課程の修了要件は本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

（博士課程の修了要件）

第13条 博士課程の修了の要件は、本大学院に5年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

2 標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了した者及び前条第1項のただし書きの規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

3 第1項及び前項の規定にかかわらず、第30条第2項第2号ないし第8号の規定により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了要件は、大学院に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期限を減じた期間）以上在籍すれば足りるものとする。

(最長在学年限)

第14条 本大学院に在学できる最長年限は、博士前期課程又は修士課程にあつては4年、博士後期課程にあつては、6年とする。

(長期にわたる課程の履修)

第14条の2 教育研究上の必要が認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、第2条第2項に定める標準修業年限を超えることができる。ただし、最長在学年限は、前条に定める最長年限を超えることはできない。

(修士の学位授与)

第15条 博士前期課程又は修士課程を修了した者には、次の区分により修士の学位を授与する。

- (1) 文学研究科哲学専攻 修士(文学)
- (2) 文学研究科インド哲学仏教学専攻 修士(文学)
- (3) 文学研究科国文学専攻 修士(文学)
- (4) 文学研究科中国哲学専攻 修士(文学)
- (5) 文学研究科英文学専攻 修士(文学)
- (6) 文学研究科史学専攻 修士(文学)
- (7) 文学研究科教育学専攻 修士(教育学)
- (8) 文学研究科英語コミュニケーション専攻 修士(英語コミュニケーション)
- (9) 社会学研究科社会学専攻 修士(社会学)
- (10) 社会学研究科社会心理学専攻 修士(社会心理学)
- (11) 法学研究科私法学専攻 修士(法学)
- (12) 法学研究科公法学専攻 修士(法学)
- (13) 経営学研究科経営学専攻 修士(経営学)
- (14) 経営学研究科ビジネス・会計ファイナンス専攻 修士(経営学)
- (15) 経営学研究科マーケティング専攻 修士(マーケティング)
- (16) 理工学研究科生体医工学専攻 修士(理工学)
- (17) 理工学研究科応用化学専攻 修士(理工学)
- (18) 理工学研究科機能システム専攻 修士(理工学)
- (19) 理工学研究科電気電子情報専攻 修士(理工学)
- (20) 理工学研究科都市環境デザイン専攻 修士(工学)
- (21) 理工学研究科建築学専攻 修士(工学)
- (22) 経済学研究科経済学専攻 修士(経済学)
- (23) 経済学研究科公民連携専攻 修士(経済学)
- (24) 国際地域学研究科国際地域学専攻 修士(国際地域学)
- (25) 国際地域学研究科国際観光学専攻 修士(国際観光学)
- (26) 生命科学研究科生命科学専攻 修士(生命科学)
- (27) 福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻 修士(社会福祉学)
又は修士(ソーシャルワーク)
- (28) 福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻 修士(社会学)
又は修士(社会福祉学)

- (29) 福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン専攻 修士（社会福祉学）
又は修士（健康デザイン学）
- (30) 福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻 修士（人間環境デザイン学）
- (31) 学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻 修士（バイオ・ナノサイエンス融合）
（博士の学位授与）

第16条 博士課程を修了した者には、次の区分により博士の学位を授与する。

- (1) 文学研究科哲学専攻 博士（文学）
- (2) 文学研究科インド哲学仏教学専攻 博士（文学）
- (3) 文学研究科国文学専攻 博士（文学）
- (4) 文学研究科中国哲学専攻 博士（文学）
- (5) 文学研究科英文学専攻 博士（文学）
- (6) 文学研究科史学専攻 博士（文学）
- (7) 文学研究科教育学専攻 博士（教育学）
- (8) 文学研究科英語コミュニケーション専攻 博士（英語コミュニケーション）
- (9) 社会学研究科社会学専攻 博士（社会学）
- (10) 社会学研究科社会心理学専攻 博士（社会心理学）
- (11) 法学研究科私法学専攻 博士（法学）
- (12) 法学研究科公法学専攻 博士（法学）
- (13) 経営学研究科経営学専攻 博士（経営学）
- (14) 経営学研究科ビジネス・会計ファイナンス専攻 博士（経営学）又は博士（会計・ファイナンス）
- (15) 経営学研究科マーケティング専攻 博士（マーケティング）
- (16) 理工学研究科生体医工学専攻 博士（理工学）
- (17) 理工学研究科応用化学専攻 博士（理工学）
- (18) 理工学研究科機能システム専攻 博士（理工学）
- (19) 理工学研究科電気電子情報専攻 博士（理工学）
- (20) 理工学研究科建築・都市デザイン専攻 博士（工学）
- (21) 経済学研究科経済学専攻 博士（経済学）
- (22) 国際地域学研究科国際地域学専攻 博士（国際地域学）
- (23) 国際地域学研究科国際観光学専攻 博士（国際観光学）
- (24) 生命科学研究科生命科学専攻 博士（生命科学）
- (25) 福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻 博士（社会福祉学）
又は博士（ソーシャルワーク）
- (26) 福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン専攻 博士（社会福祉学）
又は博士（健康デザイン学）
- (27) 福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻 博士（人間環境デザイン学）
- (28) 学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻 博士（バイオ・ナノサイエンス融合）

(課程によらない者の博士の学位授与)

第17条 博士の学位は、前条の規定にかかわらず、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格し、かつ、専攻学術に関し博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

(学位規則)

第18条 学位の授与に関し、必要な事項は、本大学の学位規則の定めるところによる。

第5章 教育職員の免許状

(授与される免許状の所要資格と免許状の種類)

第19条 中学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許状に係る中学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、第12条に規定する要件を充足し、かつ、教育職員免許法および同法施行規則に定める科目および単位を取得しなければならない。

2 本大学院研究科の各専攻において取得できる中学校教諭専修免許状の免許教科の種類は別表第3のとおりとする。

3 高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許状に係る高等学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、第12条に規定する要件を充足し、かつ、教育職員免許法および同法施行規則に定める科目および単位を取得しなければならない。

4 本大学院研究科の各専攻において取得できる高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は別表第3のとおりとする。

5 特別支援学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許状に係る特別支援学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、第12条に規定する要件を充足し、かつ、教育職員免許法および同法施行規則に定める科目および単位を取得しなければならない。

6 本学大学院研究科教育学専攻において取得できる特別支援学校教諭専修免許状の種類は別表3のとおりとする。

7 小学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許状に係る小学校教諭専修免許状の所要資格を取得しようとする者は、第12条に規定する要件を充足し、かつ、教育職員免許法および同法施行規則に定める科目および単位を取得しなければならない。

8 本学大学院研究科教育学専攻において取得できる小学校教諭専修免許状の種類は別表3のとおりとする。

第6章 教員組織

(担当教員)

第20条 本大学院には、教育研究上の目的を達するため、研究科及び専攻の規模並びに学位の種類に応じて、必要な教員を置くものとする。

2 本大学院は、教員の適切な役割分担及び連携体制を確保し、組織的な教育が行われるよう特に留意するものとする。

3 本大学院における授業科目及び研究指導を担当する教員は、別に定める本学大学院教員資格に該当する本学の専任教員又はこれに相当する資格があると認められる客員教授をもってこれに充てる。ただし、特別の事情があるときは非常勤講師に授業科目を担当させることができる。

第7章 運営組織

第21条 削除

(研究科委員会の組織)

第22条 本大学院の学事管理のため研究科毎に研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会は、当該研究科の研究指導を担当する専任教員をもって組織する。ただし、各研究科は必要に応じて専任教員の授業担当者及び第20条に規定する客員教授を加えることができる。

(研究科委員長)

第23条 研究科に研究科委員長を置く。

- 2 研究科委員長は、研究科委員会において互選する。
- 3 研究科委員長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。

(研究科委員会の審議事項)

第24条 研究科委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 入学、退学、休学及び修了等に関する事
 - (2) 単位認定試験に関する事
 - (3) 学位論文審査及び授与に関する事
 - (4) 学生の指導及び賞罰に関する事
 - (5) 教育課程に関する事
 - (6) 授業科目担当者の推薦
 - (7) 大学院教員資格審査に関する事
 - (8) その他必要と認める事
- 2 研究科委員会に関する規則は、別に定める。

(専攻主任)

第25条 研究科の専攻に専攻主任を置く。

- 2 専攻主任は当該専攻において互選し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(研究科委員長会議)

第26条 本大学院運営のために研究科委員長会議を置く。

(研究科委員長会議の組織)

第27条 研究科委員長会議は、次の者をもって組織する。

- (1) 学長
 - (2) 研究科委員長
 - (3) 法科大学院長
- 2 学長は、研究科委員長会議を招集して、その議長となる。

(研究科委員長会議の審議事項)

第28条 研究科委員長会議は、次の事項を審議する。

- (1) 大学院研究科及び専攻課程の設置改廃に関する事
 - (2) 学位授与に関する事
 - (3) 教員組織に関する事
 - (4) 大学院学則及び諸規程の変更に係る事
 - (5) その他大学院の運営に関する重要な事
- 2 研究科委員長会議に関する規則は、別に定める。

第8章 入学、留学、休学、退学及び除籍

(入学の時期)

第29条 入学の時期は、毎学年の始めとする。ただし、経営学研究科各専攻、理工学研究科各専攻、経済学研究科公民連携専攻、国際地域学研究科及び生命科学研究科の各専攻と福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻並びに学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻については、「学年」を「学期」と読み替えるものとする。

(入学の資格)

第30条 博士前期課程又は修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格をもち、所定の試験に合格した者とする。

- (1) 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したものに限る。）を有する者として当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 大学に3年以上在学した者、又は外国において学校教育における15年の課程を修了した者若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者で、本大学院において、所定の単位を優秀な成績をもって修得したものと認めた者
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において当該者を大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
 - (10) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
 - (11) その他本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格をもち、所定の試験に合格した者とする。
- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 専門職学位を有する者
 - (3) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与さ

れた者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

(8) その他本大学院において、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の選考)

第31条 入学志願者については、学力、資質、健康について考査する。

2 外国語については、博士前期課程又は修士課程においては、少なくとも1カ国語以上の外国語に通じていなければならない。博士後期課程においては少なくとも2カ国語以上の外国語に通じていなければならない。

(外国人の学生の入学の選考)

第32条 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者、又はこれに準ずる者は第30条及び第31条の規定にかかわらず、特別の選考を経て入学を許可することがある。

(入学の志願)

第33条 入学志願者は、所定の入学志願書その他の出願書類に入学検定料を添えて所定の期日までに願出しなければならない。

2 入学検定料は、別表第4のとおりとする。

(入学の手続)

第34条 入学を許可された者は、指定期日までに所定の入学手続きをしなければならない。

(留学)

第34条の2 本大学院生が外国の大学で学修することを願出たときは、当該研究科委員会の議を経て留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

3 本大学院の留学に関する事項は、別に定める。

(休学)

第35条 病気その他やむをえない理由で引き続き3カ月以上出席することのできない者は、その理由を付して保証人連署のうえ願出で、許可を受けなければならない。許可を受けた場合は休学とする。

2 休学の期間は、次のとおりとする。

(1) 当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には引き続き1年に限り当該研究科委員会の審議を経て休学を延長させることがある。

(2) 第50条第3項に規定する専攻の休学期間は、当該学期限りとするが、1学期分に限り延期することができる。ただし、特別の事情がある場合には引き続き2学期分に限り当該研究科委員会の審議を経て休学を延長させることがある。

(3) 博士前期課程及び修士課程においては通算して2年間、博士後期課程においては通算して3年間を超えることができない。

3 休学の期間は、在学年数に算入しない。

4 休学した者が、休学の理由が消滅したときは、学年又は学期の始めに限り、保証人連署のうえ

復学を願い出て、許可を受けなければならない。

5 休学を許可された者は、所定の在籍料を納入しなければならない。

(退学)

第36条 病気その他の理由で退学しようとする者は、その理由を付して保証人連署のうえ願い出なければならない。

(除籍)

第37条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 所定の学費の納付を怠った者

(2) 在学できる年数を超えた者

(3) 新入生で指定された期限までに履修届を提出しないこと、その他本大学院において修学の意味がないと認められる者

(再入学)

第38条 退学した者及び第37条の規定（第2号に掲げる者を除く）により除籍された者が再入学を願い出たときは、学年の始めに限り選考のうえこれを許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部又は一部を再び履修させることがある。

2 博士後期課程において所定の研究指導を受けた者が、3年を超えて在学した後退学し、学位論文提出のために再入学する場合の取り扱いは、本大学の学位規則に定めるところによる。

(入学、休学、復学、退学及び再入学の許可)

第39条 入学、休学、復学、退学及び再入学の許可は、当該研究科委員会の議を経て学長が行う。

第9章 学生納付金

(学生納付金)

第40条 学生納付金は、別表第4のとおりとする。

(学生納付金の返還制限)

第41条 一旦納入した学生納付金は、返還しない。

(学位論文審査料)

第42条 学位論文の審査料は、別表第5のとおりとする。

第10章 受託学生、科目等履修生、研究生、特別科目履修生、特別研究生、特別学生、外国人研修生及び交換留学生

(受託学生)

第43条 本大学院においては、他の大学の大学院又は研究所等とあらかじめ協議の上、その大学院の学生又は研究所等の研究員等に本大学院の授業科目を履修し又は研究指導を受けることを認めることができるものとする。

2 前項の場合について、必要な事項は、別に定める。

第43条の2 公の機関、団体又は外国政府等から、本大学院の授業科目又は特定課題について研究指導の委託があるときは、第29条から第32条までの規定にかかわらず、正規の学生の修学を妨げない限り、選考のうえ許可することができる。

2 受託学生は、履修した授業科目について、試験を受けることができる。

3 前項の試験を受けた者には証明書を交付する。

4 受託学生の選考料及び納付金は、別表第4のとおりとする。

5 その他、受託学生は正規の学生に関する規程を準用する。

(科目等履修生)

第44条 本大学院の授業科目について科目履修を希望する者があるときは、正規の学生の修学を妨げない限り、選考のうえ許可することができる。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

(研究生)

第45条 本大学院において、特定の専門領域について研究を希望する者があるときは、正規の学生の修学を妨げない限り、選考のうえ許可することができる。

2 研究生に関する規程は、別に定める。

(特別科目履修生)

第46条 第8条に規定する授業科目の履修を希望する者があるときは、これを特別科目履修生として許可することができる。

2 特別科目履修生に関する規程は、別に定める。

(特別研究生)

第47条 第9条に規定する研究指導を希望する者があるときは、これを特別研究生として許可することができる。

2 特別研究生に関する規程は、別に定める。

(特別学生)

第48条 国内留学者、外国人研究者、外国の大学の大学院学生で特定課題について研究指導を希望する者があるときは、第29条から第32条までの規定にかかわらず、選考のうえ許可することができる。

(外国人研修生)

第49条 外国籍を有する者で、本大学院の課程に入学することを目的として、本大学院において研究指導を希望する者があるときは、選考のうえ許可することができる。

2 外国人研修生に関する規程は、別に定める。

(交換留学生)

第49条の2 交換留学生受け入れは、別に定める受け入れに関する規程により行うことができる。

第11章 学年、学期及び休日

(学年及び学期)

第50条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、経営学研究科各専攻、理工学研究科各専攻、経済学研究科公民連携専攻、国際地域学研究科及び生命科学研究科の各専攻と福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻並びに学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻の秋学期入学生については、学年は、10月1日に始まり、翌年9月30日に終わるものとする。

2 学年は、次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

3 経営学研究科各専攻、理工学研究科各専攻、経済学研究科公民連携専攻、国際地域学研究科、

生命科学研究科、福祉社会デザイン研究科及び学際・融合科学研究科の各専攻については、前期を春学期、後期を秋学期と呼称する。

- 4 学長は、第2項の規定にかかわらず、研究科委員会の議を経て第2項の前期の終了日及び後期の開始日を変更することができる。

(休業日)

第51条 学年中の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 本大学の創立記念日(11月23日)及び学祖祭(6月6日)
- (4) 夏季休業 8月上旬から9月30日まで
- (5) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで
- (6) 春季休業 2月上旬から3月31日まで

- 2 学長は、前項の規定にかかわらず、研究科委員会の議を経て前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を設けることができる。

第11章の2 削除

第51条の2 削除

第12章 奨学制度

(奨学)

第52条 大学院に東洋大学奨学制度を置く。

- 2 前項の奨学に関する規程は、別に定める。

第13章 賞罰

(褒賞)

第53条 学生にして品行方正、学術優秀又は善行のあった者は、次のとおり褒賞する。

- (1) 特待生 一定期間授業料を免除又は減額することがある。
- (2) 優等生 賞状及び賞品を授与する。
- (3) その他の褒賞

(懲戒)

第54条 学生にして本学則若しくはこれに基づいて定められた学内諸規程に違反し、その他学生としての本分に反する行為のあった者に対しては懲戒する。

- 2 懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

- 3 次の各号の一に該当する者は、退学させる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第14章 施設及び設備

(講義室等)

第55条 本大学院にその教育研究に必要な講義室、演習室、実験・実習室、研究室を備えるものとする。

- 2 本大学の学部、附属の研究所等の施設は、その教育研究上支障を生じない場合には必要に応じて共用することができる。
- 3 本大学の附属図書館に本大学院の教育研究に必要な図書及び学術雑誌等を備えるものとする。

第15章 事務組織

(事務組織)

第56条 本大学院の事務を処理するため、必要な事務組織を置く。

附 則

(施行日及び適用)

- 1 この学則は、昭和58年4月1日から施行し、昭和58年度入学者から適用する。
- 2 昭和52年度以前に入学した学生は旧学則を適用する。ただし、当該研究科委員会において研究指導上必要と認めた場合にはこの学則を適用することができる。

附 則

- 1 この学則は、昭和60年4月1日から施行する。
- 2 経過措置

改正後の別表第2は昭和60年度の入学生から適用し、昭和59年度以前の入学生については、なお従前の例による。ただし、次の授業科目については、昭和59年度以前の入学生についても適用する。

○ 博士前期課程・修士課程

文学研究科中国哲学専攻

中国哲学研究Ⅰ、中国哲学研究Ⅱ、中国文学特論Ⅰ
中国文学特論Ⅱ、中国文学演習Ⅰ、中国文学演習Ⅱ
中国語学研究Ⅰ、中国語学研究Ⅱ

社会学研究科社会学専攻

社会学演習Ⅷ（社会工学演習）、社会学研究指導Ⅷ

工学研究科電気工学専攻

システムシミュレーション、推論機構学

工学研究科土木工学専攻

土木工学特別演習Ⅰ、応用力学特論Ⅰ、応用力学特論Ⅱ

○ 博士後期課程

社会学研究科社会学専攻

社会学研究指導Ⅳ

工学研究科機械工学専攻

機械工学特殊研究Ⅴ、機械工学研究指導Ⅴ

工学研究科電気工学専攻

電気工学研究指導

工学研究科応用化学専攻

応用化学研究指導Ⅵ

附 則

- 1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

2 経過措置

- (1) 改正後の別表第2は昭和61年度の入学生から適用し、昭和60年度以前の入学生については、なお従前の例による。ただし、次の授業科目については、昭和60年度以前の入学生についても適用する。

○ 博士前期課程・修士課程

経営学研究科経営学専攻

企業論特論、アジアの企業特論

アジアの企業演習、会計学演習Ⅱ

- (2) 昭和60年度以前の入学生の学生納付金は、第40条別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2は昭和61年度以前の入学生にも適用する。

附 則

- 1 この学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2は昭和62年度以前の入学生にも適用する。

附 則

- 1 この学則は、昭和63年9月26日から施行する。

2 経過措置

昭和63年度以前の入学生の学生納付金は、第40条別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2は昭和63年度以前の入学生にも適用する。

附 則

この学則は、平成元年5月30日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行し、平成2年度入学生から適用する。
- 2 平成元年度以前の入学生については、第40条別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に消費税法第29条に定める税率100分の3を乗じた額を加算する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成3年7月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第40条別表第4については平成3年10月1日から施行し、平成4年度入学生から適用する。

- 3 平成3年度以前の入学生については、第40条別表第4の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、一般施設設備資金については各年度の当該額に103分の100を乗じた額とする。

附 則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表2は平成3年度以前の入学生にも適用する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行し、平成4年度以前の入学生にも適用する。

附 則

この学則は、平成5年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年11月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成6年9月5日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学生の学生納付金については、第40条別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 工学研究科の平成7年度以前の入学生については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 工学研究科の平成8年度以前博士後期課程入学生については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 経済学研究科の平成9年度以前博士前期課程及び博士後期課程入学生については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成10年9月1日から施行する。
- 2 平成10年度受託学生及び科目等履修生の選考料及び登録料については、第40条及び第43条第4項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年2月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に文学研究科日本史学専攻に在学する者については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に工学研究科に在学する者については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第7条別表第2は、平成17年度以前の入学生にも適用する。ただし、次の科目については、平成17年度の新入生から適用する。

○ 博士前期課程

文学研究科史学専攻

資料管理学

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第4条及び第5条別表第1、第7条別表第2、第19条別表第3については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に経営学研究科又は経済学研究科に在学する者については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に経営学研究科経営学専攻に在学する者については、第7条別表第2、第29条並びに第50条第1項及び第3項の規定にかかわらず、従前の例による。
- 3 この学則施行の際、現に経済学研究科経済学専攻に在学する者については、第7条別表第2の規定にかかわらず、従前の例による。
- 4 この学則施行の際、現に福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン専攻に在学する者については、第7条別表第2、第15条並びに第16条の規定にかかわらず、従前の例による。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第40条別表第4は、平成21年度以前の入学生にも適用する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に文学研究科仏教学専攻に在学する者については、第7条別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に工学研究科に在学する者については、第 7 条別表第 2 の規程にかかわらず、なお従前の例による。

別表第 1

研究科名	専攻名	博士課程				修士課程	
		前期課程		後期課程			
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学研究科	哲学専攻	5	10	3	9		
	インド哲学仏教学専攻	4	8	3	9		
	国文学専攻	10	20	3	9		
	中国哲学専攻	4	8	3	9		
	英文学専攻	5	10	3	9		
	史学専攻	6	12	3	9		
	教育学専攻	20	40	4	12		
	英語コミュニケーション専攻	10	20	5	15		
社会学研究科	社会学専攻	10	20	3	9		
	社会心理学専攻	12	24	5	15		
法学研究科	私法学専攻	10	20	5	15		
	公法学専攻	10	20	5	15		
経営学研究科	経営学専攻	10	20	5	15		
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	20	40	5	15		
	マーケティング専攻	10	20	3	9		
理工学研究科	生体医工学専攻	18	36	3	9		
	応用化学専攻	12	24	3	9		
	機能システム専攻	15	30	3	9		
	電気電子情報専攻	11	22	3	9		
	都市環境デザイン専攻	8	16				
	建築学専攻	14	28				
	建築・都市デザイン専攻			3	9		
経済学研究科	経済学専攻	10	20	3	9		
	公民連携専攻					30	60
国際地域学研究科	国際地域学専攻	15	30	5	15		
	国際観光学専攻	10	20	3	9		
生命科学研究科	生命科学専攻	20	40	4	12		
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	20	40	5	15		
	福祉社会システム専攻					20	40
	ヒューマンデザイン専攻	20	40	5	15		
	人間環境デザイン専攻	10	20	4	12		
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	12	24	4	12		
合計		341	682	106	318	50	100

別表第2

○博士前期課程・修士課程

1 文学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
文学研究科	哲学専攻	哲学特論	講義	4	
		哲学演習	演習	4	
		古代中世哲学研究	講義	4	
		古代中世哲学演習	演習	4	
		近世哲学研究	講義	4	
		近世哲学演習Ⅰ	演習	4	
		近世哲学演習Ⅱ	演習	4	
		現代哲学研究	講義	4	
		現代哲学演習Ⅰ	演習	4	
		現代哲学演習Ⅱ	演習	4	
		論理学特論	講義	4	
		倫理学特論	講義	4	
		日本哲学特論	講義	4	
		日本哲学演習	演習	4	
		比較哲学特論	講義	4	
		印度哲学特論	講義	4	
		中国哲学研究	講義	4	
		現代哲学特殊演習	演習	4	
		実践哲学特論	講義	4	
		哲学研究指導Ⅰ			
		哲学研究指導Ⅱ			
		哲学研究指導Ⅲ			
		哲学研究指導Ⅳ			
		哲学研究指導Ⅴ			
		哲学研究指導Ⅵ			
		哲学研究指導Ⅶ			
		哲学研究指導Ⅷ			
	インド哲学仏教学専攻	〔インド哲学領域〕			
		サンスクリット文献研究Ⅰ	講義	4	
		サンスクリット文献研究Ⅱ	講義	4	
		インド哲学研究Ⅰ	講義	4	
		インド哲学研究Ⅱ	講義	4	
		インド哲学研究Ⅲ	講義	4	
		〔インド仏教領域〕			
		初期仏教研究Ⅰ	講義	4	
		初期仏教研究Ⅱ	講義	4	
		大乘仏教研究Ⅰ	講義	4	
		大乘仏教研究Ⅱ	講義	4	
		大乘仏教研究Ⅲ	講義	4	
		〔中国・日本仏教領域〕			
		漢文仏典研究Ⅰ	講義	4	
		漢文仏典研究Ⅱ	講義	4	
		中国仏教研究Ⅰ	講義	4	
		中国仏教研究Ⅱ	講義	4	
		日本仏教研究Ⅰ	講義	4	
		日本仏教研究Ⅱ	講義	4	
		〔研究指導〕			
		インド哲学研究指導Ⅰ			
		インド哲学研究指導Ⅱ			
		インド哲学研究指導Ⅲ			
		仏教学研究指導Ⅰ			
		仏教学研究指導Ⅱ			
		仏教学研究指導Ⅲ			
		仏教学研究指導Ⅳ			
	国文学専攻	国文学特論Ⅰ	講義	4	

		国文学特論Ⅱ	講義	4	
		国文学特論Ⅲ	講義	4	
		国文学特論Ⅳ	講義	4	
		国文学特論Ⅴ	講義	4	
		国文学特論Ⅵ	講義	4	
		国語学特論Ⅰ	講義	4	
		国語学特論Ⅱ	講義	4	
		国文学演習Ⅰ	演習	4	
		国文学演習Ⅱ	演習	4	
		国文学演習Ⅲ	演習	4	
		国文学演習Ⅳ	演習	4	
		国文学演習Ⅴ	演習	4	
		国文学演習Ⅵ	演習	4	
		国文学演習Ⅶ	演習	4	
		国文学演習Ⅷ	演習	4	
		国語学演習Ⅰ	演習	4	
		国語学演習Ⅱ	演習	4	
		日本美術史	講義	4	
		比較文学	講義	4	
		中国文学特論	講義	4	
		国文学研究指導Ⅰ			
		国文学研究指導Ⅱ			
		国文学研究指導Ⅲ			
		国文学研究指導Ⅳ			
		国文学研究指導Ⅴ			
		国文学研究指導Ⅵ			
		国文学研究指導Ⅶ			
		国文学研究指導Ⅷ			
		国文学研究指導Ⅸ			
		国語学研究指導Ⅰ			
		国語学研究指導Ⅱ			
中国哲学専攻	中国哲学特論Ⅰ	講義	4		
	中国哲学特論Ⅱ	講義	4		
	中国哲学特論Ⅲ	講義	4		
	中国哲学演習Ⅰ	演習	4		
	中国哲学演習Ⅱ	演習	4		
	中国哲学演習Ⅲ	演習	4		
	中国哲学研究Ⅰ	講義	4		
	中国哲学研究Ⅱ	講義	4		
	中国哲学研究Ⅲ	講義	4		
	中国文学特論Ⅰ	講義	4		
	中国文学特論Ⅱ	講義	4		
	中国文学演習Ⅰ	演習	4		
	中国文学演習Ⅱ	演習	4		
	中国語学研究Ⅰ	講義	4		
	中国語学研究Ⅱ	講義	4		
	哲学特論	講義	4		
	比較哲学特論	講義	4		
	仏教学特論	講義	4		
	東洋史学特論	講義	4		
	文献研究（東洋）	講義	4		
	中国哲学研究指導Ⅰ				
	中国哲学研究指導Ⅱ				
	中国哲学研究指導Ⅲ				
	中国哲学研究指導Ⅳ				
	中国哲学研究指導Ⅴ				
英文学専攻	英文学演習Ⅰ	演習	4		
	英文学演習Ⅱ	演習	4		
	米文学演習	演習	4		
	比較文学演習	演習	4		
	英語学演習	演習	4		

	英文学特論Ⅰ	講義	4	
	英文学特論Ⅱ	講義	4	
	英文学特論Ⅲ	講義	4	
	米文学特論	講義	4	
	英語学特論Ⅰ	講義	4	
	英語学特論Ⅱ	講義	4	
	英語学特論Ⅲ	講義	4	
	英米文学思想	講義	4	
	英文学研究指導Ⅰ			
	英文学研究指導Ⅱ			
	米文学研究指導Ⅰ			
	米文学研究指導Ⅱ			
	比較文学研究指導			
	英語学研究指導Ⅰ			
	英語学研究指導Ⅱ			
史学専攻	日本史学特論Ⅰ	講義	4	
	日本史学特論Ⅱ	講義	4	
	日本史学特論Ⅲ	講義	4	
	日本史学特論Ⅳ	講義	4	
	日本史学特論Ⅴ	講義	4	
	日本史学演習Ⅰ	演習	4	
	日本史学演習Ⅱ	演習	4	
	日本史学演習Ⅲ	演習	4	
	日本史学演習Ⅳ	演習	4	
	日本史学演習Ⅴ	演習	4	
	東洋史学特論Ⅰ	講義	4	
	東洋史学特論Ⅱ	講義	4	
	東洋史学特論Ⅲ	講義	4	
	東洋史学演習Ⅰ	演習	4	
	東洋史学演習Ⅱ	演習	4	
	東洋史学演習Ⅲ	演習	4	
	西洋史学特論Ⅰ	講義	4	
	西洋史学特論Ⅱ	講義	4	
	西洋史学特論Ⅲ	講義	4	
	西洋史学演習Ⅰ	演習	4	
	西洋史学演習Ⅱ	演習	4	
	西洋史学演習Ⅲ	演習	4	
	考古学特論	講義	4	
	文献研究（日本）	講義	4	
	文献研究（東洋）	講義	4	
	文献研究（西洋）	講義	4	
	史料管理学	講義	4	
	日本史学研究指導Ⅰ			
	日本史学研究指導Ⅱ			
	日本史学研究指導Ⅲ			
	日本史学研究指導Ⅳ			
	日本史学研究指導Ⅴ			
	東洋史学研究指導Ⅰ			
	東洋史学研究指導Ⅱ			
	東洋史学研究指導Ⅲ			
	西洋史学研究指導Ⅰ			
	西洋史学研究指導Ⅱ			
	西洋史学研究指導Ⅲ			
教育学専攻	学校教育研究特殊講義	講義	4	
	学校教育研究演習	演習	4	
	教育学説研究特殊講義	講義	4	
	教育学説研究演習	演習	4	
	教育学説史研究特殊講義	講義	4	
	比較教育史演習	演習	4	
	発達障害児教育研究特殊講義	講義	4	
	発達障害児教育研究演習	演習	4	

	発達障害児臨床心理研究特殊講義	講義	4	
	学習指導論特殊講義	講義	4	
	学習指導論研究演習	演習	4	
	心理査定法特殊講義	講義	4	
	臨床教育心理学特殊講義	講義	4	
	臨床教育心理学研究演習	演習	4	
	臨床教育心理治療法特殊講義	講義	2	
	カウンセリング実習	演習	2	
	心理発達学特殊講義	講義	4	
	心理適応論特殊講義	講義	4	
	心理適応論研究演習	演習	4	
	学習心理学特殊講義	講義	4	
	生徒指導・進路指導特殊講義	講義	2	
	生涯学習の研究特殊講義	講義	4	
	生涯学習計画の研究演習	演習	4	
	教育社会学研究特殊講義	講義	4	
	女性学の研究演習	演習	4	
	生活文化研究特殊講義	講義	4	
	生活文化研究演習	演習	4	
	教育行財政学特殊講義	講義	4	
	教育行財政学研究演習	演習	4	
	授業分析論特殊講義	講義	2	
	環境教育論特殊講義	講義	2	
	教育文化論特殊講義	講義	2	
	比較教育史特殊講義	講義	2	
	教育心理学特殊講義	講義	2	
	教育相談学特殊講義	講義	2	
	国語科教育研究演習	演習	2	
	社会科教育研究演習	演習	2	
	算数・数学科教育研究演習	演習	2	
	理科教育研究演習	演習	2	
	音楽科教育研究演習	演習	2	
	図画工作・美術科教育研究演習	演習	2	
	教育学研究指導Ⅰ			
	教育学研究指導Ⅱ			
	教育学研究指導Ⅲ			
	教育学研究指導Ⅳ			
	教育学研究指導Ⅴ			
	教育学研究指導Ⅵ			
	教育学研究指導Ⅶ			
	教育学研究指導Ⅷ			
	教育学研究指導Ⅸ			
	教育学研究指導Ⅹ			
	教育学研究指導ⅩⅠ			
	教育学研究指導ⅩⅡ			
	教育学研究指導ⅩⅢ			
英語コミュニケーション専攻	英語文法分析演習	演習	4	
	日英対照言語論演習	演習	4	
	語用論演習	演習	4	
	翻訳・通訳論演習	演習	4	
	異文化間コミュニケーション	講義	4	
	スピーチコミュニケーション	講義	4	
	英語文学・英語文化	講義	4	
	テキスト理論	講義	4	
	グローバル英語教育	講義	4	
	英語コミュニケーション教育	講義	4	
	英語文法分析研究指導			
	日英対照言語論研究指導			
	語用論研究指導			
	翻訳・通訳論研究指導			
	異文化間コミュニケーション研究指導			

		スピーチコミュニケーション研究指導 英語文学・英語文化研究指導 テキスト理論研究指導 グローバル英語教育研究指導 英語コミュニケーション教育研究指導			
--	--	--	--	--	--

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は通算10単位を限度とし、その手続きは別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

2 社会学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
社会学研究科	社会学専攻	原書講読Ⅰ	講義	4	
		原書講読Ⅱ	講義	4	
		原書講読Ⅲ	講義	4	
		社会学特論Ⅰ	講義	2	
		社会学特論Ⅱ	講義	4	
		社会学特論Ⅲ	講義	4	
		社会学特論Ⅳ	講義	4	
		社会学特論Ⅴ	講義	2	
		社会学特論Ⅵ	講義	2	
		社会学特論Ⅶ	講義	4	
		社会学特論Ⅷ	講義	4	
		社会学特論Ⅸ	講義	4	
		社会学特論Ⅹ	講義	4	
		社会学特論ⅩⅠ	講義	2	
		文化人類学特論Ⅰ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅱ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅲ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅳ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅴ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅵ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅶ	講義	4	
		文化人類学特論Ⅷ	講義	2	
		文化人類学特論Ⅸ	講義	4	
		社会情報学特論Ⅰ	講義	4	
		社会情報学特論Ⅱ	講義	4	
		社会情報学特論Ⅲ	講義	4	
		社会情報学特論Ⅳ	講義	4	
		社会情報学特論Ⅴ	講義	2	
		社会学演習Ⅰ	演習	4	
		社会学演習Ⅱ	演習	4	
		社会学演習Ⅲ	演習	4	
		社会学演習Ⅳ	演習	4	
		文化人類学演習Ⅰ	演習	4	
		文化人類学演習Ⅱ	演習	4	
		社会情報学演習Ⅰ	演習	4	
		社会情報学演習Ⅱ	演習	4	
		社会情報学演習Ⅲ	演習	4	
		社会情報学演習Ⅳ	演習	4	
		社会学研究指導Ⅰ			
		社会学研究指導Ⅱ			
		社会学研究指導Ⅲ			
		社会学研究指導Ⅳ			
		社会学研究指導Ⅴ			
		社会学研究指導Ⅵ			
		社会学研究指導Ⅶ			

		文化人類学研究指導Ⅰ			
		文化人類学研究指導Ⅱ			
		文化人類学研究指導Ⅲ			
		文化人類学研究指導Ⅳ			
		社会情報学研究指導Ⅰ			
		社会情報学研究指導Ⅱ			
		社会情報学研究指導Ⅲ			
		社会情報学研究指導Ⅳ			
		社会情報学研究指導Ⅴ			
	社会心理学専攻	基礎社会心理学	講義	2	
		社会心理学研究法Ⅰ	講義	4	
		社会心理学研究法Ⅱ	講義	4	
		社会心理学研究法Ⅲ	講義	4	
		社会心理学研究法Ⅳ	講義	2	
		社会心理学研究法Ⅴ	講義	2	
		社会心理学研究法Ⅵ	講義	2	
		社会心理学特論Ⅰ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅱ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅲ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅳ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅴ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅵ	講義	4	
		社会心理学特論Ⅶ	講義	4	
		社会心理学演習Ⅰ	演習	4	
		社会心理学演習Ⅱ	演習	4	
		社会心理学演習Ⅲ	演習	4	
		社会心理学演習Ⅳ	演習	4	
		社会心理学演習Ⅴ	演習	4	
		社会心理学演習Ⅵ	演習	4	
		社会心理学総合研究	演習	2	
		社会心理学研究指導Ⅰ			
		社会心理学研究指導Ⅱ			
		社会心理学研究指導Ⅲ			
		社会心理学研究指導Ⅳ			
		社会心理学研究指導Ⅴ			
		社会心理学研究指導Ⅵ			
		社会心理学研究指導Ⅶ			
		社会心理学研究指導Ⅷ			
		社会心理学研究指導Ⅸ			
		社会心理学研究指導Ⅹ			
		社会心理学研究指導ⅩⅠ			
		社会心理学研究指導ⅩⅡ			

3 法学研究科

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
法学研究科	私法学専攻	民法特論Ⅰ	講義	4	
		民法特論Ⅱ	講義	4	
		民法特論Ⅲ	講義	4	
		民法特論Ⅳ	講義	4	
		民法演習Ⅰ	演習	4	
		民法演習Ⅱ	演習	4	
		民法演習Ⅲ	演習	4	
		民法演習Ⅳ	演習	4	

	民法演習Ⅴ	演習	4	
	商法特論Ⅰ	講義	4	
	商法特論Ⅱ	講義	4	
	商法特論Ⅲ	講義	4	
	商法演習Ⅰ	演習	4	
	商法演習Ⅱ	演習	4	
	商法演習Ⅲ	演習	4	
	企業法演習	演習	4	
	会社法務特論	講義	4	
	民事訴訟法特論	講義	4	
	民事訴訟法演習Ⅰ	演習	4	
	民事訴訟法演習Ⅱ	演習	4	
	法哲学特論	講義	4	
	法制史特論	講義	4	
	外国法（英法）	講義	4	
	外国法（独法）	講義	4	
	外国法（仏法）	講義	4	
	国際私法演習	演習	4	
	知的財産権法演習	演習	4	
	労働法特論	講義	4	
	労働法演習	演習	4	
	労災補償法演習	演習	4	
	経済法特論Ⅰ	講義	4	
	経済法特論Ⅱ	講義	4	
	経済法演習	演習	4	
	建築関係法特論	講義	4	
	英書講読	講義	4	
	行政法特論	講義	4	
	経済原論特論	講義	4	
	刑法演習Ⅰ	演習	4	
	刑法演習Ⅱ	演習	4	
	刑事訴訟法演習	演習	4	
	行政学演習	演習	4	
	政治学演習	演習	4	
	憲法演習Ⅰ	演習	4	
	憲法演習Ⅱ	演習	4	
	憲法演習Ⅲ	演習	4	
	論文表現法	講義	4	
	民法研究指導Ⅰ			
	民法研究指導Ⅱ			
	民法研究指導Ⅲ			
	民法研究指導Ⅳ			
	民法研究指導Ⅴ			
	商法研究指導Ⅰ			
	商法研究指導Ⅱ			
	商法研究指導Ⅲ			
	民事訴訟法研究指導Ⅰ			
	民事訴訟法研究指導Ⅱ			
	企業法研究指導			
	国際私法研究指導			
	知的財産権法研究指導			
	労働法研究指導			
	労災補償法研究指導			
	経済法研究指導			
	破産法研究指導			
公法学専攻	憲法演習Ⅰ	演習	4	
	憲法演習Ⅱ	演習	4	
	憲法演習Ⅲ	演習	4	
	未成年者保護法演習	演習	4	
	行政法演習Ⅰ	演習	4	
	行政法演習Ⅱ	演習	4	

		行政学演習	演習	4	
		租税法特論Ⅰ	講義	4	
		租税法特論Ⅱ	講義	4	
		租税法演習	演習	4	
		社会保障法特論	講義	4	
		刑法特論	講義	4	
		刑法演習Ⅰ	演習	4	
		刑法演習Ⅱ	演習	4	
		刑事訴訟法特論	講義	4	
		刑事訴訟法演習	演習	4	
		刑事政策特論	講義	4	
		法哲学特論	講義	4	
		政治学演習	演習	4	
		比較法思想史演習	演習	4	
		国際公法特論	講義	4	
		国際公法演習	演習	4	
		外国法（英法）	講義	4	
		外国法（独法）	講義	4	
		外国法（仏法）	講義	4	
		法制史特論	講義	4	
		英書講読	講義	4	
		行政法特論	講義	4	
		経済原論特論	講義	4	
		民法特論Ⅱ	講義	4	
		民法特論Ⅲ	講義	4	
		民法演習Ⅳ	演習	4	
		商法演習Ⅰ	演習	4	
		商法演習Ⅱ	演習	4	
		商法演習Ⅲ	演習	4	
		民事訴訟法演習Ⅱ	演習	4	
		論文表現法	講義	4	
		憲法研究指導Ⅰ			
		憲法研究指導Ⅱ			
		憲法研究指導Ⅲ			
		未成年者保護法研究指導			
		行政法研究指導Ⅰ			
		行政法研究指導Ⅱ			
		行政学研究指導			
		刑法研究指導			
		刑事訴訟法研究指導			
		租税法研究指導			
		政治学研究指導			
		比較法思想史研究指導			
		国際公法研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は通算10単位を限度とし、その手続きは別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

4 経営学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
経営学研究科	経営学専攻	経営学特論A	講義	2	
		経営学特論B	講義	2	
		経営学演習A	演習	2	
		経営学演習B	演習	2	
		経営史特論A	講義	2	

	経営史特論 B	講義	2	
	経営史演習 A	演習	2	
	経営史演習 B	演習	2	
	経営管理特論 A	講義	2	
	経営管理特論 B	講義	2	
	経営管理演習 A	演習	2	
	経営管理演習 B	演習	2	
	経営組織特論 A	講義	2	
	経営組織特論 B	講義	2	
	経営組織演習 A	演習	2	
	経営組織演習 B	演習	2	
	企業論特論 A	講義	2	
	企業論特論 B	講義	2	
	企業論演習 A	演習	2	
	企業論演習 B	演習	2	
	経営労務特論 A	講義	2	
	経営労務特論 B	講義	2	
	経営労務演習 A	演習	2	
	経営労務演習 B	演習	2	
	経営財務特論 A	講義	2	
	経営財務特論 B	講義	2	
	経営財務演習 A	演習	2	
	経営財務演習 B	演習	2	
	国際経営論特論 A	講義	2	
	国際経営論特論 B	講義	2	
	国際経営論演習 A	演習	2	
	国際経営論演習 B	演習	2	
	情報管理特論 A	講義	2	
	情報管理特論 B	講義	2	
	情報管理演習 A	演習	2	
	情報管理演習 B	演習	2	
	国際金融特論 A	講義	2	
	国際金融特論 B	講義	2	
	国際金融演習 A	演習	2	
	国際金融演習 B	演習	2	
	商業史特論 A	講義	2	
	商業史特論 B	講義	2	
	商業史演習 A	演習	2	
	商業史演習 B	演習	2	
	証券論特論 A	講義	2	
	証券論特論 B	講義	2	
	証券論演習 A	演習	2	
	証券論演習 B	演習	2	
	財務会計論特論 A	講義	2	
	財務会計論特論 B	講義	2	
	財務会計論演習 A	演習	2	
	財務会計論演習 B	演習	2	
	管理会計論特論 A	講義	2	
	管理会計論特論 B	講義	2	
	管理会計論演習 A	演習	2	
	管理会計論演習 B	演習	2	
	監査論特論 A	講義	2	
	監査論特論 B	講義	2	
	監査論演習 A	演習	2	
	監査論演習 B	演習	2	
	税務会計論特論 A	講義	2	
	税務会計論特論 B	講義	2	
	税務会計論演習 A	演習	2	
	税務会計論演習 B	演習	2	
	原価計算論特論 A	講義	2	
	原価計算論特論 B	講義	2	

		原価計算論演習A 原価計算論演習B システム論特論A システム論特論B システム論演習A システム論演習B 経営学研究指導A 経営学研究指導B 経営史研究指導A 経営史研究指導B 経営管理研究指導A 経営管理研究指導B 経営組織研究指導A 経営組織研究指導B 企業論研究指導A 企業論研究指導B 経営労務研究指導A 経営労務研究指導B 経営財務研究指導A 経営財務研究指導B 国際経営論研究指導A 国際経営論研究指導B 情報管理研究指導A 情報管理研究指導B 国際金融研究指導A 国際金融研究指導B 商業史研究指導A 商業史研究指導B 証券論研究指導A 証券論研究指導B 財務会計論研究指導A 財務会計論研究指導B 管理会計論研究指導A 管理会計論研究指導B 監査論研究指導A 監査論研究指導B 税務会計論研究指導A 税務会計論研究指導B 原価計算論研究指導A 原価計算論研究指導B システム論研究指導A システム論研究指導B	演習 演習 講義 講義 演習 演習	2 2 2 2 2 2	
専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位		備考
			必修	選択	
ビジネス・会計ファイナンス専攻	<企業家・経営幹部養成コース> 経営哲学 コーポレートガバナンス論 企業倫理 I R 論 グループ経営論 グループ戦略論 経営システム論 企業理念論 企業文化論 ビジネスプラン I 国際スモールビジネス論 人的資源開発論 経営環境論 執行役員制度論 社外取締役論	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	

	ベンチャーキャピタル論	講義		2	
	企業家論（アントレプレヌール論）	講義		2	
	NPO論	講義		2	
	病院経営論	講義		2	
	公益事業経営論	講義		2	
	企業社会貢献論	講義		2	
	テクノロジー評価論	講義		2	
	研究開発論	講義		2	
	IT論	講義		2	
	<会計ファイナンス専門家養成コース>				
	基礎財務会計論	講義		2	
	上級財務会計論	講義		2	
	基礎簿記論	講義		2	
	上級簿記論	講義		2	
	基礎原価計算論	講義		2	
	上級原価計算論	講義		2	
	基礎管理会計論	講義		2	
	上級管理会計論	講義		2	
	基礎監査論	講義		2	
	上級監査論	講義		2	
	基礎税務会計論	講義		2	
	上級税務会計論	講義		2	
	企業法Ⅰ	講義		2	
	企業法Ⅱ	講義		2	
	租税法Ⅰ	講義		2	
	租税法Ⅱ	講義		2	
	会計実践演習Ⅰ	演習		2	
	会計実践演習Ⅱ	演習		2	
	会計実践演習Ⅲ	演習		2	
	会計実践演習Ⅳ	演習		2	
	基礎コーポレート・ファイナンス論	講義		2	
	上級コーポレート・ファイナンス論	講義		2	
	基礎ファイナンス論	講義		2	
	上級ファイナンス論	講義		2	
	上級財務分析論	講義		2	
	金融論	講義		2	
	金融システム論	講義		2	
	M&A論	講義		2	
	バイアウト論	講義		2	
	資本調達論	講義		2	
	資本コスト論	講義		2	
	投資決定論	講義		2	
	リスクマネジメント論	講義		2	
	デリバティブ論	講義		2	
	<中小企業診断士登録養成コース>				
	ビジネスプランⅡ	演習		1	
	生産マネジメント	演習	2		
	生産戦略	演習	1		
	中小企業現代課題Ⅰ	演習	2		
	中小企業現代課題Ⅱ	演習	2		
	中小企業現代課題Ⅲ	演習	1		
	経営診断実習Ⅰ	実習			
	経営診断実習Ⅱ	実習			
	経営診断実習Ⅲ	実習			
	経営診断実習Ⅳ	実習			
	経営診断実習Ⅴ	実習			
	<企業家・経営幹部養成コース、会計ファイナンス専門家養成コース、中小企業診断士登録養成コース共通科目>				

	経営学Ⅱ	講義	2	
	マーケティング戦略論	講義	2	
	流通戦略論	講義	2	
	＜企業家・経営幹部養成コース、会計ファイナ ンス専門家養成コース共通科目＞			
	経営学Ⅰ	講義	2	
	環境マネジメント論	講義	2	
	環境監査論	講義	2	
	広告戦略論	講義	2	
	消費者行動論	講義	2	
	知的財産権	講義	2	
	＜企業家・経営幹部養成コース、中小企業診断 士登録養成コース共通科目＞			
	中小企業経営論	講義	2	
	人的資源管理論	講義	2	
	経営戦略論	講義	2	
	情報システム論	講義	2	
	経営戦略演習	演習	2	
	＜会計ファイナンス専門家養成コース、中小企 業診断士登録養成コース共通科目＞			
	基礎財務分析論	講義	2	
	＜企業家・経営幹部養成コース、中小企業診断 士登録養成コース共通科目＞			
	ビジネス演習Ⅰ	演習	2	
	ビジネス演習Ⅱ	演習	2	
	ビジネス研究指導			
	＜会計ファイナンス専門家養成コース＞			
	会計ファイナンス演習Ⅰ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅱ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅲ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅳ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅴ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅵ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅶ	演習	2	
	会計ファイナンス演習Ⅷ	演習	2	
	会計ファイナンス演習ⅩⅠ	演習	2	
	会計ファイナンス演習ⅩⅡ	演習	2	
	会計ファイナンス演習ⅩⅢ	演習	2	
	会計ファイナンス演習ⅩⅣ	演習	2	
	会計ファイナンス研究指導Ⅰ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅱ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅲ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅳ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅴ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅵ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅶ			
	会計ファイナンス研究指導Ⅷ			
	会計ファイナンス研究指導ⅩⅠ			
	会計ファイナンス研究指導ⅩⅡ			
	会計ファイナンス研究指導ⅩⅢ			
	会計ファイナンス研究指導ⅩⅣ			
専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
マーケティング専攻	マーケティング特論A	講義	2	
	マーケティング特論B	講義	2	
	広告特論A	講義	2	
	広告特論B	講義	2	
	流通特論A	講義	2	
	流通特論B	講義	2	
	ブランド戦略特論A	講義	2	

	ブランド戦略特論B	講義	2	
	サービス・マーケティング特論A	講義	2	
	サービス・マーケティング特論B	講義	2	
	リレーションシップ・マーケティング特論A	講義	2	
	リレーションシップ・マーケティング特論B	講義	2	
	マーケティング・リサーチ特論A	講義	2	
	マーケティング・リサーチ特論B	講義	2	
	グローバル・マーケティング特論A	講義	2	
	グローバル・マーケティング特論B	講義	2	
	グローバル戦略特論A	講義	2	
	グローバル戦略特論B	講義	2	
	グローバル・ファイナンス特論A	講義	2	
	グローバル・ファイナンス特論B	講義	2	
	経営学特論A	講義	2	
	経営学特論B	講義	2	
	経営財務特論A	講義	2	
	経営財務特論B	講義	2	
	情報管理特論A	講義	2	
	情報管理特論B	講義	2	
	システム論特論A	講義	2	
	システム論特論B	講義	2	
	マーケティング演習A	演習	2	
	マーケティング演習B	演習	2	
	広告演習A	演習	2	
	広告演習B	演習	2	
	流通演習A	演習	2	
	流通演習B	演習	2	
	ブランド戦略演習A	演習	2	
	ブランド戦略演習B	演習	2	
	サービス・マーケティング演習A	演習	2	
	サービス・マーケティング演習B	演習	2	
	グローバル・マーケティング演習A	演習	2	
	グローバル・マーケティング演習B	演習	2	
	グローバル戦略演習A	演習	2	
	グローバル戦略演習B	演習	2	
	マーケティング研究指導A			
	マーケティング研究指導B			
	広告研究指導A			
	広告研究指導B			
	流通研究指導A			
	流通研究指導B			
	ブランド戦略研究指導A			
	ブランド戦略研究指導B			
	サービス・マーケティング研究指導A			
	サービス・マーケティング研究指導B			
	グローバル戦略研究指導A			
	グローバル戦略研究指導B			

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程又は修士課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は通算10単位を限度とし、その手続きは別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 5 ビジネス・会計ファイナンス専攻中小企業診断士登録養成コースにおいては、上記にかかわらず次の科目は必ず履修しなければならない。

経営診断実習Ⅰ、経営診断実習Ⅱ、経営診断実習Ⅲ、経営診断実習Ⅳ、経営診断実習Ⅴ、
経営学Ⅱ、マーケティング戦略論、流通戦略論、中小企業経営論、ビジネスプランⅠ、
ビジネスプランⅡ、人的資源管理論、経営戦略論、情報システム論、経営戦略演習Ⅰ、
基礎財務分析論、ビジネス演習Ⅰ、ビジネス演習Ⅱ、ビジネス研究指導

5 理工学研究科

(1) 授業科目及び単位数

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位		備考
				必修	選択	
理工学研究科	生体医工学専攻	<理工学共通分野>				
		解析学	講義		2	
		光科学	講義		2	
		シミュレーション学	講義		2	
		応用物理学	講義		2	
		プラズマ物理学	講義		2	
		物性物理学	講義		2	
		ナノサイエンス	講義		2	
		エコロジーと化学	講義		2	
		<生物科学分野>				
		数理生物学特論	講義		2	
		生物模倣特論	講義		2	
		生体流体力学特論	講義		2	
		運動科学特論	講義		2	
		人間工学特論	講義		2	
		生理学特論	講義		2	
		生物学特論	講義		2	
		生体防御学特論	講義		2	
		分子・遺伝生物学特論	講義		2	
		<医工学分野>				
		医用システム工学特論	講義		2	
		医療機器安全学特論	講義		2	
		医工学特論	講義		2	
		基礎医学特論	講義		2	
		計測科学特論	講義		2	
		生体情報工学特論	講義		2	
		ナノメディスン特論	講義		2	
		医工材料力学特論	講義		2	
		量子ビーム医工学特論	講義		2	
		<共通科目>				
		サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
		ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
		<生物科学分野>				
		生物科学特別研究Ⅰ	演習	2		
		生物科学特別研究Ⅱ	演習	2		
		生物科学特別研究Ⅲ	演習		2	
		生物科学特別研究Ⅳ	演習		2	
		生物科学特別輪講Ⅰ	演習	2		
		生物科学特別輪講Ⅱ	演習	2		
		生物科学特別輪講Ⅲ	演習		2	
		生物科学特別輪講Ⅳ	演習		2	
		<医工学分野>				
		医工学特別研究Ⅰ	演習	2		
		医工学特別研究Ⅱ	演習	2		
		医工学特別研究Ⅲ	演習		2	
		医工学特別研究Ⅳ	演習		2	
		医工学特別輪講Ⅰ	演習	2		
		医工学特別輪講Ⅱ	演習	2		
		医工学特別輪講Ⅲ	演習		2	
		医工学特別輪講Ⅳ	演習		2	
	応用化学専攻	<理工学共通分野>				
		解析学	講義		2	
		光科学	講義		2	
		シミュレーション学	講義		2	
		応用物理学	講義		2	
		プラズマ物理学	講義		2	

	物性物理学	講義		2	
	ナノサイエンス	講義		2	
	エコロジーと化学	講義		2	
	<基礎化学系>				
	無機化学特論	講義		2	
	有機化学特論	講義		2	
	物理化学特論	講義		2	
	分析化学特論	講義		2	
	<環境化学系>				
	大気化学特論	講義		2	
	環境化学特論	講義		2	
	フォトケミストリー特論	講義		2	
	グリーンエンジニアリング特論	講義		2	
	グリーン合成化学特論	講義		2	
	反応化学特論	講義		2	
	<バイオ・健康化学系>				
	遺伝子工学特論	講義		2	
	応用生物有機化学特論	講義		2	
	バイオプロセスエンジニアリング特論	講義		2	
	応用微生物化学特論	講義		2	
	バイオ・食品機器分析特論	講義		2	
	食品・バイオ特論	講義		2	
	<物質化学系>				
	有機材料科学特論	講義		2	
	無機材料化学特論	講義		2	
	結晶化学特論	講義		2	
	固体材料化学特論	講義		2	
	高分子材料科学特論	講義		2	
	<共通科目>				
	サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
	ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
	<環境化学分野>				
	環境化学特別研究Ⅰ	演習	2		
	環境化学特別研究Ⅱ	演習	2		
	環境化学特別研究Ⅲ	演習		2	
	環境化学特別研究Ⅳ	演習		2	
	環境化学特別輪講Ⅰ	演習	2		
	環境化学特別輪講Ⅱ	演習	2		
	環境化学特別輪講Ⅲ	演習		2	
	環境化学特別輪講Ⅳ	演習		2	
	<バイオ・健康化学>				
	バイオ・健康化学特別研究Ⅰ	演習	2		
	バイオ・健康化学特別研究Ⅱ	演習	2		
	バイオ・健康化学特別研究Ⅲ	演習		2	
	バイオ・健康化学特別研究Ⅳ	演習		2	
	バイオ・健康化学特別輪講Ⅰ	演習	2		
	バイオ・健康化学特別輪講Ⅱ	演習	2		
	バイオ・健康化学特別輪講Ⅲ	演習		2	
	バイオ・健康化学特別輪講Ⅳ	演習		2	
	<物質化学分野>				
	物質化学特別研究Ⅰ	演習	2		
	物質化学特別研究Ⅱ	演習	2		
	物質化学特別研究Ⅲ	演習		2	
	物質化学特別研究Ⅳ	演習		2	
	物質化学特別輪講Ⅰ	演習	2		
	物質化学特別輪講Ⅱ	演習	2		
	物質化学特別輪講Ⅲ	演習		2	
	物質化学特別輪講Ⅳ	演習		2	
機能システム専攻	<理工学共通分野>				
	解析学	講義		2	
	光科学	講義		2	

	シミュレーション学	講義		2	
	応用物理学	講義		2	
	プラズマ物理学	講義		2	
	物性物理学	講義		2	
	ナノサイエンス	講義		2	
	エコロジーと化学	講義		2	
	<機械科学分野>				
	ダイナミクス特論	講義		2	
	材料科学特論	講義		2	
	エアロスペース科学特論	講義		2	
	流体物理学特論	講義		2	
	熱統計力学特論	講義		2	
	電磁気学特論	講義		2	
	形の科学特論	講義		2	
	<機械融合分野>				
	ロボット工学特論	講義		2	
	制御工学特論	講義		2	
	知能システム工学特論	講義		2	
	先端生産加工システム特論	講義		2	
	センシング工学特論	講義		2	
	マイクロメカトロニクス特論	講義		2	
	情報記憶機構特論	講義		2	
	<共通科目>				
	サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
	ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
	<機械科学分野>				
	機械科学特別研究Ⅰ	演習	2		
	機械科学特別研究Ⅱ	演習	2		
	機械科学特別研究Ⅲ	演習		2	
	機械科学特別研究Ⅳ	演習		2	
	機械科学特別輪講Ⅰ	演習	2		
	機械科学特別輪講Ⅱ	演習	2		
	機械科学特別輪講Ⅲ	演習		2	
	機械科学特別輪講Ⅳ	演習		2	
	<機械融合分野>				
	機械融合特別研究Ⅰ	演習	2		
	機械融合特別研究Ⅱ	演習	2		
	機械融合特別研究Ⅲ	演習		2	
	機械融合特別研究Ⅳ	演習		2	
	機械融合特別輪講Ⅰ	演習	2		
	機械融合特別輪講Ⅱ	演習	2		
	機械融合特別輪講Ⅲ	演習		2	
	機械融合特別輪講Ⅳ	演習		2	
電気電子情報専攻	<理工学共通分野>				
	解析学	講義		2	
	光科学	講義		2	
	シミュレーション学	講義		2	
	応用物理学	講義		2	
	プラズマ物理学	講義		2	
	物性物理学	講義		2	
	ナノサイエンス	講義		2	
	エコロジーと化学	講義		2	
	<基礎分野>				
	電磁気学特論	講義		2	
	電気回路特論	講義		2	
	電子回路特論	講義		2	
	応用解析学特論	講義		2	
	<エネルギー・制御分野>				
	高電圧・放電物理特論	講義		2	
	パワーエレクトロニクス特論	講義		2	
	電力システム工学特論	講義		2	

	エネルギー変換工学特論	講義		2	
	＜エレクトロニクス分野＞				
	半導体工学特論	講義		2	
	光エレクトロニクス特論	講義		2	
	固体電子物性特論	講義		2	
	電子デバイス特論	講義		2	
	＜情報通信分野＞				
	情報通信科学特論	講義		2	
	画像情報処理特論	講義		2	
	電磁波工学特論	講義		2	
	色彩科学特論	講義		2	
	＜専攻特別講義＞				
	電気電子情報特別講義	講義		2	
	＜共通科目＞				
	サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
	ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
	＜エネルギー・制御分野＞				
	エネルギー・制御特別研究Ⅰ	演習	2		
	エネルギー・制御特別研究Ⅱ	演習	2		
	エネルギー・制御特別研究Ⅲ	演習		2	
	エネルギー・制御特別研究Ⅳ	演習		2	
	エネルギー・制御特別輪講Ⅰ	演習	2		
	エネルギー・制御特別輪講Ⅱ	演習	2		
	エネルギー・制御特別輪講Ⅲ	演習		2	
	エネルギー・制御特別輪講Ⅳ	演習		2	
	＜エレクトロニクス分野＞				
	エレクトロニクス特別研究Ⅰ	演習	2		
	エレクトロニクス特別研究Ⅱ	演習	2		
	エレクトロニクス特別研究Ⅲ	演習		2	
	エレクトロニクス特別研究Ⅳ	演習		2	
	エレクトロニクス特別輪講Ⅰ	演習	2		
	エレクトロニクス特別輪講Ⅱ	演習	2		
	エレクトロニクス特別輪講Ⅲ	演習		2	
	エレクトロニクス特別輪講Ⅳ	演習		2	
	＜情報通信分野＞				
	情報通信特別研究Ⅰ	演習	2		
	情報通信特別研究Ⅱ	演習	2		
	情報通信特別研究Ⅲ	演習		2	
	情報通信特別研究Ⅳ	演習		2	
	情報通信特別輪講Ⅰ	演習	2		
	情報通信特別輪講Ⅱ	演習	2		
	情報通信特別輪講Ⅲ	演習		2	
	情報通信特別輪講Ⅳ	演習		2	
都市環境デザイン専攻	＜サステイナブル工学系＞				
	コンクリート工学特論	講義		2	
	都市メンテナンス特論	講義		2	
	耐震設計特論	講義		2	
	都市ライフライン工学特論	講義		2	
	地盤工学特論	講義		2	
	地盤環境学特論	講義		2	
	＜環境システム系＞				
	水圏環境工学特論	講義		2	
	流域圏環境システム特論	講義		2	
	環境材料工学特論	講義		2	
	都市環境政策学特論	講義		2	
	環境経済特論	講義		2	
	環境分析特論	講義		2	
	＜都市環境マネジメント系＞				
	リモートセンシング特論	講義		2	
	都市計画デザイン特論	講義		2	
	交通マネジメント特論	講義		2	

	社会経営学特論	講義		2	
	プロジェクトマネジメント特論	講義		2	
	<専攻特別講義>				
	都市環境デザイン特別講義Ⅰ	講義		2	
	都市環境デザイン特別講義Ⅱ	講義		2	
	<共通科目>				
	サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
	ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
	都市環境デザイン特別研究Ⅰ	演習	2		
	都市環境デザイン特別研究Ⅱ	演習	2		
	都市環境デザイン特別研究Ⅲ	演習		2	
	都市環境デザイン特別研究Ⅳ	演習		2	
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅰ	演習	2		
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅱ	演習	2		
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅲ	演習		2	
	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅳ	演習		2	
建築学専攻	<計画・デザイン系>				
	空間デザイン特論	講義		2	
	都市・建築特論	講義		2	
	建築計画特論	講義		2	
	生活空間計画特論	講義		2	
	<テクニカルデザイン系>				
	構造デザイン特論	講義		2	
	木質構造学特論	講義		2	
	構造解析学特論	講義		2	
	構造材料学特論	講義		2	
	防災構造特論	講義		2	
	設備システムデザイン特論	講義		2	
	建築環境工学特論	講義		2	
	ファシリティマネジメント特論	講義		2	
	<建築・都市マネジメント系>				
	建築ストックマネジメント特論	講義		2	
	地域生産システム特論	講義		2	
	まちづくり計画特論	講義		2	
	建築・都市法規特論	講義		2	
	ビルディングシステム特論	講義		2	
	建設産業経営特論	講義		2	
	<専攻特別講義>				
	建築学特別講義Ⅰ	講義		2	
	建築学特別講義Ⅱ	講義		2	
	<共通科目>				
	サイエンス・イングリッシュ特論	講義		2	
	ベンチャー・サイエンス特論	演習		2	
	<設計演習・インターンシップ系>				
	特別設計演習Ⅰ	演習		2	
	特別設計演習Ⅱ	演習		2	
	インターンシップⅠ	演習		2	
	インターンシップⅡ	演習		2	
	インターンシップⅢ	演習		2	
	インターンシップⅣ	演習		2	
	インターンシップⅤ	演習		2	
	建築学特別研究Ⅰ	演習	2		
	建築学特別研究Ⅱ	演習	2		
	建築学特別研究Ⅲ	演習		2	
	建築学特別研究Ⅳ	演習		2	
	建築学特別演習Ⅰ	演習	2		
	建築学特別演習Ⅱ	演習	2		
	建築学特別演習Ⅲ	演習		2	
	建築学特別演習Ⅳ	演習		2	

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から必修・選択授業科目を合わせて30単位

以上を履修しなければならない。

2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。

3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。

ただし、授業科目の履修は通算10単位を限度とし、その手続きは別に定める。

4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

6 経済学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位		備考
				基礎	専門	
経済学研究科	経済学専攻	<経済学研究コース>				
		上級マクロ経済学	講義	4		
		経済学方法論	演習	2		
		[理論・歴史]				
		上級経済理論	講義		4	
		上級経済理論Ⅱ	講義		4	
		経済学説	講義		4	
		統計・計量経済学Ⅱ	講義		4	
		日本経済史	講義		4	
		西欧経済史	講義		4	
		経済発展論	講義		4	
		[政策]				
		国際経済	講義		4	
		公共経済	講義		4	
		地域経済	講義		4	
		中小企業論	講義		4	
		産業組織	講義		4	
		社会保障	講義		4	
		労働経済	講義		4	
		[金融]				
		金融論	講義		4	
		金融論Ⅱ	講義		4	
		[社会・情報]				
		社会経済システム	講義		4	
		情報経済	講義		4	
		特講Ⅰ	講義		4	
		環境経済	講義		4	
		アジア経済	講義		4	
		[理論・歴史]				
		上級経済理論研究指導				
		上級経済理論研究指導Ⅱ				
		現代政治経済学研究指導				
		経済学説史研究指導				
		データ解析研究指導				
		実証経済分析研究指導				
		日本経済史研究指導				
		西欧経済史研究指導				
		経済発展論研究指導				
		[政策]				
		経済政策論研究指導				
		中小企業論研究指導				
		貿易論研究指導				
		国際経済論研究指導				
		公共政策研究指導				
		公共システム論研究指導				
		アジア経済論研究指導				
		農業経済論研究指導				
		日本経済論研究指導				
		産業組織論研究指導				
		社会保障研究指導				

[illegible]

	P P P ビジネスⅡ	講義	2	
	P P P ビジネスⅢ	講義	2	
	P P P ビジネスⅣ	講義	2	
	P P P ビジネスⅤ	講義	2	
	P P P ビジネスⅥ	講義	2	
	民間プロジェクト論	講義	2	
	地域金融論	講義	2	
	金融論基礎	講義	2	
	財務分析論	講義	2	
	公共経済学	講義	2	
	政策評価論	講義	2	
	知的財産マネジメント論	講義	2	
	日本の経済財政	講義	2	
	財政学基礎	講義	2	
	P P P ビジネスマネジメント論	講義	2	
	経済学基礎	講義	2	
	環境経済学	講義	2	
	ビジネス英語	講義	2	
	P P P 論文研究	講義	2	
	P P P プロジェクト演習	講義	2	
	P P P 経済理論	講義	2	
	P P P 制度手法論	講義	2	
	P P P ファイナンス論	講義	2	
	P P P デザイン論	講義	2	
	エネルギー経済論	講義	2	

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程又は修士課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から基礎・専門授業科目及び研究指導を合わせて30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は、通算10単位を限度とし、その手続きは、別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

7 国際地域学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
国際地域学研究科	国際地域学専攻	都市・社会基盤計画特論	講義	2	
		都市・社会基盤計画演習	演習	2	
		エネルギー資源管理特論	講義	2	
		エネルギー資源管理演習	演習	2	
		国際都市環境特論	講義	2	
		国際都市環境演習	演習	2	
		災害・危機管理特論	講義	2	
		災害・危機管理演習	演習	2	
		地球環境特論	講義	2	
		地球環境演習	演習	2	
		都市開発特論	講義	2	
		都市開発演習	演習	2	
		科学技術政策特論	講義	2	
		科学技術政策演習	演習	2	
		居住環境計画特論	講義	2	
		居住環境計画演習	演習	2	
		国際環境衛生特論	講義	2	
		国際環境衛生演習	演習	2	
		開発経済学特論	講義	2	
		開発経済学演習	演習	2	
		公共経済学特論	講義	2	
		公共経済学演習	演習	2	
		国際経済特論	講義	2	

		国際経済演習	演習	2	
		アジア地理学特論	講義	2	
		アジア地理学演習	演習	2	
		国際協力特論	講義	2	
		国際協力演習	演習	2	
		社会システム特論	講義	2	
		社会システム演習	演習	2	
		地域社会学特論	講義	2	
		地域社会学演習	演習	2	
		地域情報マネジメント特論	講義	2	
		地域情報マネジメント演習	演習	2	
		開発人類学特論	講義	2	
		開発人類学演習	演習	2	
		公共経営特論	講義	2	
		公共経営演習	演習	2	
		ジェンダー特論	講義	2	
		ジェンダー演習	演習	2	
		社会保障・地域福祉特論	講義	2	
		社会保障・地域福祉演習	演習	2	
		国際地域応用学特論	講義	2	
		国際地域応用学演習Ⅰ	演習	2	
		国際地域応用学演習Ⅱ	演習	2	
		国際地域応用学演習Ⅲ	演習	2	
		国際地域応用学演習Ⅳ	演習	2	
		国際地域学研究指導		2	
	国際観光学専攻	観光交通特論	講義	2	
		観光交通演習	演習	2	
		情報ネットワーク特論	講義	2	
		情報ネットワーク演習	演習	2	
		観光交流特論	講義	2	
		観光交流演習	演習	2	
		国際交通経営特論	講義	2	
		国際交通経営演習	演習	2	
		旅行産業特論	講義	2	
		旅行産業演習	演習	2	
		観光・ホテル事業特論	講義	2	
		観光・ホテル事業演習	演習	2	
		ホスピタリティ・マネジメント特論	講義	2	
		ホスピタリティ・マネジメント演習	演習	2	
		サービス産業特論	講義	2	
		サービス産業演習	演習	2	
		観光資源特論	講義	2	
		観光資源演習	演習	2	
		都市観光システム特論	講義	2	
		都市観光システム演習	演習	2	
		環境保護特論	講義	2	
		環境保護演習	演習	2	
		地域経営特論	講義	2	
		地域経営演習	演習	2	
		国際観光応用学特論	講義	2	
		国際観光応用学演習Ⅰ	演習	2	
		国際観光応用学演習Ⅱ	演習	2	
		国際観光応用学演習Ⅲ	演習	2	
		国際観光応用学演習Ⅳ	演習	2	
		国際観光学研究指導		2	

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程又は修士課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 4 第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、32単位以上を修得し、特定

の課題についての研究の成果により審査を受けることとする。

8 生命科学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位		備考
				必修	選択	
生命科学研究科	生命科学専攻	極限環境生命科学特論	講義		2	
		地球環境科学特論	講義		2	
		生命情報制御学特論	講義		2	
		植物病理学特論	講義		2	
		植物機能制御学特論	講義		2	
		生物物理学特論	講義		2	
		神経細胞機能学特論	講義		2	
		脳神経科学特論	講義		2	
		機能性高分子材料科学特論	講義		2	
		生物機能調節化学特論	講義		2	
		細胞制御学特論	講義		2	
		バイオナノフォトニクス特論	講義		2	
		極限環境微生物学特論	講義		2	
		環境微生物学特論	講義		2	
		酵素工学特論	講義		2	
		応用極限生命科学特論	講義		2	
		植物代謝工学特論	講義		2	
		植物バイオテクノロジー特論	講義		2	
		エコテクノロジー特論	講義		2	
		環境分析化学特論	講義		2	
		環境工学特論	講義		2	
		動物細胞工学特論	講義		2	
		情報分子科学特論	講義		2	
		応用ゲノム情報学特論	講義		2	
		バイオエネルギー代謝制御工学特論	講義		2	
		食物科学特論	講義		2	
		フードアセスメント特論	講義		2	
		食品微生物学特論	講義		2	
		糖質生命機能科学特論	講義		2	
		分子病態制御学特論	講義		2	
		微生物制御・食品衛生学特論	講義		2	
		食品計測工学特論	講義		2	
		植物分子制御学特論	講義		2	
		植物細胞工学特論	講義		2	
		地球情報学特論	講義		2	
		生物情報学特論	講義		2	
		食品流通経済学特論	講義		2	
		生命科学特別研究Ⅰ	演習	2		
		生命科学特別研究Ⅱ	演習	2		
		生命科学特別研究Ⅲ	演習		2	
		生命科学特別研究Ⅳ	演習		2	
		生命科学特別輪講Ⅰ	演習	2		
		生命科学特別輪講Ⅱ	演習	2		
		生命科学特別輪講Ⅲ	演習		2	
		生命科学特別輪講Ⅳ	演習		2	

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

9 福祉社会デザイン研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
福祉社会デザイン研	社会福祉学専攻	社会福祉基礎特論Ⅰ	講義	2	

究科		社会福祉基礎特論Ⅱ	講義	2	
		社会福祉基礎特論Ⅲ	講義	2	
		社会福祉基礎特論Ⅳ	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅠA	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅠB	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅡA	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅡB	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅢA	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅢB	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅣA	講義	2	
		社会福祉原理歴史特論ⅣB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅠA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅠB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅡA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅡB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅢA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅢB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅣA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅣB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅤA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅤB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅥA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅥB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅦA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅦB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅧA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅧB	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅨA	講義	2	
		社会福祉政策計画特論ⅨB	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅠA	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅠB	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅡA	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅡB	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅢA	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅢB	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅣA	講義	2	
		ソーシャルワーク特論ⅣB	講義	2	
		社会福祉実務演習A	演習	2	
		社会福祉実務演習B	演習	2	
		社会福祉学研究指導ⅠA			
		社会福祉学研究指導ⅠB			
		社会福祉学研究指導ⅡA			
		社会福祉学研究指導ⅡB			
		社会福祉学研究指導ⅢA			
		社会福祉学研究指導ⅢB			
		社会福祉学研究指導ⅣA			
		社会福祉学研究指導ⅣB			
		社会福祉学研究指導ⅤA			
		社会福祉学研究指導ⅤB			
		社会福祉学研究指導ⅥA			
		社会福祉学研究指導ⅥB			
		社会福祉学研究指導ⅦA			
		社会福祉学研究指導ⅦB			
		社会福祉学研究指導ⅧA			
		社会福祉学研究指導ⅧB			
		社会福祉学研究指導ⅨA			
		社会福祉学研究指導ⅨB			
福祉社会システム専攻	福祉社会システム基礎特論Ⅰ	講義	2		
	福祉社会システム基礎特論Ⅱ	講義	2		
	福祉社会システム基礎特論Ⅲ	講義	2		
	福祉社会システム基礎特論Ⅳ	講義	2		

	福祉社会システム基礎特論Ⅴ	講義	2
	福祉社会システム基礎特論Ⅵ	講義	2
	福祉社会システム基礎特論Ⅶ	講義	2
	地域社会システム特論ⅠA	講義	2
	地域社会システム特論ⅠB	講義	2
	地域社会システム特論ⅡA	講義	2
	地域社会システム特論ⅡB	講義	2
	地域社会システム特論ⅢA	講義	2
	地域社会システム特論ⅢB	講義	2
	地域社会システム特論ⅣA	講義	2
	地域社会システム特論ⅣB	講義	2
	地域社会システム特論Ⅴ	講義	2
	地域社会システム特論Ⅵ	講義	2
	地域社会システム特論Ⅶ	講義	2
	地域社会システム特論Ⅷ	講義	2
	地域社会システム特論Ⅸ	講義	2
	地域社会システム特論Ⅹ	講義	2
	地域社会システム特論ⅩⅠ	講義	2
	地域社会システム特論ⅩⅡ	講義	2
	保健福祉システム特論ⅠA	講義	2
	保健福祉システム特論ⅠB	講義	2
	保健福祉システム特論ⅡA	講義	2
	保健福祉システム特論ⅡB	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅲ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅳ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅴ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅵ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅶ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅷ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅸ	講義	2
	保健福祉システム特論Ⅹ	講義	2
	保健福祉システム特論ⅩⅠ	講義	2
	保健福祉システム特論ⅩⅡA	講義	2
	保健福祉システム特論ⅩⅡB	講義	2
	地域福祉システム特論ⅠA	講義	2
	地域福祉システム特論ⅠB	講義	2
	地域福祉システム特論ⅡA	講義	2
	地域福祉システム特論ⅡB	講義	2
	地域福祉システム特論ⅢA	講義	2
	地域福祉システム特論ⅢB	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅳ	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅴ	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅵ	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅶ	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅷ	講義	2
	地域福祉システム特論Ⅸ	講義	2
	福祉社会システム研究指導ⅠA		
	福祉社会システム研究指導ⅠB		
	福祉社会システム研究指導ⅡA		
	福祉社会システム研究指導ⅡB		
	福祉社会システム研究指導ⅢA		
	福祉社会システム研究指導ⅢB		
	福祉社会システム研究指導ⅣA		
	福祉社会システム研究指導ⅣB		
	福祉社会システム研究指導ⅤA		
	福祉社会システム研究指導ⅤB		
	福祉社会システム研究指導ⅥA		
	福祉社会システム研究指導ⅥB		
	福祉社会システム研究指導ⅦA		
	福祉社会システム研究指導ⅦB		
	福祉社会システム研究指導ⅧA		

	福祉社会システム研究指導Ⅷ B			
	福祉社会システム研究指導Ⅸ A			
	福祉社会システム研究指導Ⅸ B			
	福祉社会システム研究指導Ⅹ A			
	福祉社会システム研究指導Ⅹ B			
	福祉社会システム研究指導Ⅹ I A			
	福祉社会システム研究指導Ⅹ I B			
ヒューマンデザイン 専攻	ヒューマンデザイン基礎特論Ⅰ	講義	2	
	ヒューマンデザイン基礎特論Ⅱ	講義	2	
	ヒューマンデザイン実践研究 A	講義	2	
	ヒューマンデザイン実践研究 B	講義	2	
	アジア福祉社会調査演習Ⅰ	演習	2	
	アジア福祉社会調査演習Ⅱ	演習	2	
	子ども支援学特論Ⅰ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅰ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅱ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅱ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅲ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅲ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅳ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅳ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅴ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅴ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅵ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅵ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅶ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅶ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅷ	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅸ	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ I A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ I B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ II A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ II B	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ III A	講義	2	
	子ども支援学特論Ⅹ III B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅰ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅰ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅱ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅱ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅲ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅲ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅳ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅳ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅴ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅴ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅷ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅸ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ I A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ I B	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ II A	講義	2	
	高齢者・障害者支援学特論Ⅹ II B	講義	2	
	健康デザイン学特論Ⅰ A	講義	2	
	健康デザイン学特論Ⅰ B	講義	2	
	健康デザイン学特論Ⅱ A	講義	2	
	健康デザイン学特論Ⅱ B	講義	2	

	健康デザイン学特論Ⅲ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅲ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅳ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅳ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅴ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅴ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅵ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅵ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅶ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅶ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅷ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅷ B	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅸ A	講義	2		
	健康デザイン学特論Ⅸ B	講義	2		
	健康デザイン学演習Ⅰ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅰ B	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅱ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅱ B	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅲ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅲ B	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅳ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅳ B	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅴ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅴ B	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅵ A	演習	2		
	健康デザイン学演習Ⅵ B	演習	2		
	ヒューマンデザイン研究指導Ⅰ A		2		
	ヒューマンデザイン研究指導Ⅰ B		2		
	ヒューマンデザイン研究指導Ⅱ A		2		
	ヒューマンデザイン研究指導Ⅱ B		2		
専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位		備考
			必修	選択	
人間環境デザイン専攻	人間環境デザイン基礎特論	講義	2		
	地域計画特論	講義		2	
	建築計画特論	講義		2	
	生活空間計画特論	講義		2	
	医療福祉建築特論	講義		2	
	建築設計特論	講義		2	
	建築意匠特論	講義		2	
	建築構法特論	講義		2	
	建築環境特論	講義		2	
	生活支援工学特論	講義		2	
	生活支援デザイン特論	講義		2	
	生活支援ロボット工学特論	講義		2	
	住居計画特論	講義		2	
	コミュニケーション支援技術特論	講義		2	
	製品デザイン特論	講義		2	
	アクセシブルコミュニケーション特論	講義		2	
	インテリアデザイン特論	講義		2	
	ヒューマンインターフェイス特論	講義		2	
	認知心理学特論	講義		2	
	産学協同特別実習Ⅰ A	演習		2	
	産学協同特別実習Ⅰ B	演習		2	
	産学協同特別実習Ⅱ	演習		2	
	建築計画特別演習 A	演習		2	
	建築計画特別演習 B	演習		2	
	建築設計特別演習 A	演習		2	
	建築設計特別演習 B	演習		2	
	生活支援デザイン特別演習 A	演習		2	
	生活支援デザイン特別演習 B	演習		2	
	製品デザイン特別演習 A	演習		2	

	製品デザイン特別演習 B	演習	2	
	人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A	2		
	人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B	2		
	人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A	2		
	人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B	2		

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程又は修士課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は、通算10単位を限度とし、その手続きは、別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 5 福祉社会システム専攻において、第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、36単位以上を修得し、特定の課題についての研究成果（400字30枚以上のもの3本）により審査を受けることとする。
- 6 ヒューマンデザイン専攻及び人間環境デザイン専攻において、第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、30単位以上を修得し、特定の課題についての研究成果により審査を受けることとする。

10 学際・融合科学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	備考
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	バイオ・ナノサイエンス融合概論	講義	2	
		科学技術英語	講義	2	
		基礎数学	講義	2	
		基礎物理	講義	2	
		基礎化学	講義	2	
		基礎バイオテクノロジー	講義	2	
		極限環境微生物学	講義	2	
		ナノエレクトロニクス	講義	2	
		ナノ材料概論	講義	2	
		生体材料およびナノテクノロジー	講義	2	
		微生物学	講義	2	
		先端機器ワークショップⅠ	実験・実習	2	
		先端機器ワークショップⅡ	実験・実習	2	
		ウェブ教育Ⅰ	演習	2	
		ウェブ教育Ⅱ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合研究Ⅰ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合研究Ⅱ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合研究Ⅲ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合研究Ⅳ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合輪講Ⅰ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合輪講Ⅱ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合輪講Ⅲ	演習	2	
		バイオ・ナノサイエンス融合輪講Ⅳ	演習	2	

(2) 履修方法

- 1 博士前期課程においては、2カ年以上在学し、授業科目の中から必修・選択授業科目を合わせて30単位以上を履修しなければならない。
- 2 授業科目の履修に当たっては、指導教授の指示を受けなければならない。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科又は交流協定校の授業科目の中から履修することができる。
ただし、授業科目の履修は通算10単位を限度とし、その手続きは別に定める。
- 4 修士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。

○博士後期課程

1 文学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	備考
------	-----	-----------	---------	----	----

文学研究科	哲学専攻	哲学特殊研究Ⅰ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅱ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅲ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅳ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅴ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅵ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅶ	講義	4		
		哲学特殊研究Ⅷ	講義	4		
		哲学研究指導Ⅰ				
		哲学研究指導Ⅱ				
		哲学研究指導Ⅲ				
		哲学研究指導Ⅳ				
		哲学研究指導Ⅴ				
		哲学研究指導Ⅵ				
		インド哲学仏教学専攻	〔インド哲学領域〕			
	インド哲学特殊研究Ⅰ		講義	4		
	インド哲学特殊研究Ⅱ		講義	4		
	インド哲学特殊研究Ⅲ		講義	4		
	〔仏教学領域〕					
	仏教学特殊研究Ⅰ		講義	4		
	仏教学特殊研究Ⅱ		講義	4		
	仏教学特殊研究Ⅲ		講義	4		
	仏教学特殊研究Ⅳ		講義	4		
	インド哲学研究指導Ⅰ					
	インド哲学研究指導Ⅱ					
	インド哲学研究指導Ⅲ					
	仏教学研究指導Ⅰ					
	仏教学研究指導Ⅱ					
	仏教学研究指導Ⅲ					
	仏教学研究指導Ⅳ					
	国文学専攻	国文学特殊研究Ⅰ	講義	4		
		国文学特殊研究Ⅱ	講義	4		
		国文学特殊研究Ⅲ	講義	4		
国文学特殊研究Ⅳ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅴ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅵ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅶ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅷ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅸ		講義	4			
国文学特殊研究Ⅹ		講義	4			
国文学特殊研究ⅩⅠ		講義	4			
国文学特殊研究ⅩⅡ		講義	4			
国文学特殊研究ⅩⅢ		講義	4			
国文学特殊研究ⅩⅣ		講義	4			
国語学特殊研究Ⅰ		講義	4			
国語学特殊研究Ⅱ		講義	4			
国語学特殊研究Ⅲ		講義	4			
国語学特殊研究Ⅳ		講義	4			
国文学研究指導Ⅰ						
国文学研究指導Ⅱ						
国文学研究指導Ⅲ						
国文学研究指導Ⅳ						
国文学研究指導Ⅴ						
国文学研究指導Ⅵ						
国文学研究指導Ⅶ						
国文学研究指導Ⅷ						
国文学研究指導Ⅸ						
国語学研究指導Ⅰ						
国語学研究指導Ⅱ						
中国哲学専攻	中国哲学特殊研究Ⅰ	講義	4			
	中国哲学特殊研究Ⅱ	講義	4			

	中国哲学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	中国哲学特殊研究Ⅳ	講義	4	
	中国哲学特殊研究Ⅴ	講義	4	
	中国哲学研究指導Ⅰ			
	中国哲学研究指導Ⅱ			
	中国哲学研究指導Ⅲ			
	中国哲学研究指導Ⅳ			
	中国哲学研究指導Ⅴ			
英文学専攻	英文学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	英文学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	英文学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	米文学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	米文学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	比較文学特殊研究	講義	4	
	英語学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	英語学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	英文学研究指導Ⅰ			
	英文学研究指導Ⅱ			
	米文学研究指導Ⅰ			
	米文学研究指導Ⅱ			
	比較文学研究指導			
	英語学研究指導Ⅰ			
	英語学研究指導Ⅱ			
史学専攻	日本史学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	日本史学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	日本史学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	日本史学特殊研究Ⅳ	講義	4	
	日本史学特殊研究Ⅴ	講義	4	
	東洋史学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	東洋史学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	東洋史学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	西洋史学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	西洋史学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	西洋史学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	日本史学研究指導Ⅰ			
	日本史学研究指導Ⅱ			
	日本史学研究指導Ⅲ			
	日本史学研究指導Ⅳ			
	日本史学研究指導Ⅴ			
	東洋史学研究指導Ⅰ			
	東洋史学研究指導Ⅱ			
	東洋史学研究指導Ⅲ			
	西洋史学研究指導Ⅰ			
	西洋史学研究指導Ⅱ			
	西洋史学研究指導Ⅲ			
教育学専攻	教育学特殊研究Ⅰ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅱ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅲ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅳ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅴ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅵ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅶ	講義	4	
	教育学特殊研究Ⅷ	講義	4	
	教育学研究指導Ⅰ			
	教育学研究指導Ⅱ			
	教育学研究指導Ⅲ			
	教育学研究指導Ⅳ			
	教育学研究指導Ⅴ			
	教育学研究指導Ⅵ			
	教育学研究指導Ⅶ			
	教育学研究指導Ⅷ			

英語コミュニケーション専攻	英語文化特殊研究	講義		
	英語構造分析特殊研究	講義		
	日英対照語学特殊研究	講義		
	テキスト理論特殊研究	講義		
	英語コミュニケーション特殊研究	講義		
	グローバル英語教育特殊研究	講義		
	語用論特殊研究	講義		
	英語文化研究指導			
	英語構造分析研究指導			
	日英対照語学研究指導			
	テキスト理論研究指導			
	英語コミュニケーション研究指導			
	グローバル英語教育研究指導			
	語用論研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

2 社会学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	備考
社会学研究科	社会学専攻	社会学特殊研究Ⅰ	講義	4	
		社会学特殊研究Ⅱ	講義	4	
		社会学特殊研究Ⅲ	講義	4	
		社会学特殊研究Ⅳ	講義	4	
		社会学特殊研究Ⅴ	講義	4	
		文化人類学特殊研究	講義	4	
		社会情報学特殊研究Ⅰ	講義	4	
		社会情報学特殊研究Ⅱ	講義	4	
		社会情報学特殊研究Ⅲ	講義	4	
		社会学研究指導Ⅰ			
		社会学研究指導Ⅱ			
		社会学研究指導Ⅲ			
		社会学研究指導Ⅳ			
		社会学研究指導Ⅴ			
		文化人類学研究指導			
		社会情報学研究指導Ⅰ			
		社会情報学研究指導Ⅱ			
		社会情報学研究指導Ⅲ			
社会学研究科	社会心理学専攻	社会心理学特殊研究Ⅰ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅱ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅲ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅳ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅴ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅵ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅶ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅷ	講義	4	
		社会心理学特殊研究Ⅸ	講義	4	
		社会心理学研究指導Ⅰ			
		社会心理学研究指導Ⅱ			
		社会心理学研究指導Ⅲ			
		社会心理学研究指導Ⅳ			
		社会心理学総合研究	演習	2	

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

3 法学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
法学研究科	私法学専攻	民法特殊研究Ⅰ	講義	4	
		民法特殊研究Ⅱ	講義	4	
		民法特殊演習Ⅰ	演習	4	
		民法特殊演習Ⅱ	演習	4	
		民法特殊演習Ⅲ	演習	4	
		民法特殊演習Ⅳ	演習	4	
		商法特殊研究Ⅰ	講義	4	
		商法特殊研究Ⅱ	講義	4	
		商法特殊演習Ⅰ	演習	4	
		商法特殊演習Ⅱ	演習	4	
		企業法特殊演習	演習	4	
		民事訴訟法特殊研究	講義	4	
		民事訴訟法特殊演習Ⅰ	演習	4	
		民事訴訟法特殊演習Ⅱ	演習	4	
		比較法学特殊研究	講義	4	
		国際私法特殊研究	講義	4	
		知的財産権法特殊演習	演習	4	
		労働法特殊演習	演習	4	
		経済法特殊演習	演習	4	
		英米財産法特殊研究	講義	4	
		倒産法特殊研究	講義	4	
		民法研究指導Ⅰ			
		民法研究指導Ⅱ			
		民法研究指導Ⅲ			
		民法研究指導Ⅳ			
		商法研究指導Ⅰ			
		商法研究指導Ⅱ			
		民事訴訟法研究指導Ⅰ			
		民事訴訟法研究指導Ⅱ			
		企業法研究指導			
		国際私法研究指導			
		知的財産権法研究指導			
		労働法研究指導			
		経済法研究指導			
	公法学専攻	憲法特殊研究Ⅰ	演習		
		憲法特殊研究Ⅱ	演習		
		憲法特殊研究Ⅲ	演習		
		国際公法特殊研究	講義		
		政治学特殊研究	演習		
		比較法思想史特殊研究	講義		
		法哲学特殊研究	講義		
		行政法特殊研究Ⅰ	演習		
		行政法特殊研究Ⅱ	演習		
		行政学特殊研究	演習		
		租税法特殊研究	講義		
		社会保障法特殊研究	講義		
		刑法特殊研究Ⅰ	講義		
		刑法特殊研究Ⅱ	演習		
		刑事訴訟法特殊研究	演習		
		刑事政策特殊研究	講義		
		憲法研究指導Ⅰ			
		憲法研究指導Ⅱ			
		憲法研究指導Ⅲ			
		国際公法研究指導			
		政治学研究指導			
		行政法研究指導Ⅰ			
		行政法研究指導Ⅱ			

		行政学研究指導 刑法研究指導 刑事訴訟法研究指導 租税法研究指導			
--	--	---	--	--	--

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

4 経営学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
経営学研究科	経営学専攻	経営学特殊研究 A	講義	2	
		経営学特殊研究 B	講義	2	
		経営組織論特殊研究 A	講義	2	
		経営組織論特殊研究 B	講義	2	
		経営史特殊研究 A	講義	2	
		経営史特殊研究 B	講義	2	
		経営管理論特殊研究 A	講義	2	
		経営管理論特殊研究 B	講義	2	
		経営財務論特殊研究 A	講義	2	
		経営財務論特殊研究 B	講義	2	
		意思決定システム論特殊研究 A	講義	2	
		意思決定システム論特殊研究 B	講義	2	
		企業論特殊研究 A	講義	2	
		企業論特殊研究 B	講義	2	
		税務会計論特殊研究 A	講義	2	
		税務会計論特殊研究 B	講義	2	
		財務会計論特殊研究 A	講義	2	
		財務会計論特殊研究 B	講義	2	
		監査論特殊研究 A	講義	2	
		監査論特殊研究 B	講義	2	
		商業史特殊研究 A	講義	2	
		商業史特殊研究 B	講義	2	
		証券論特殊研究 A	講義	2	
		証券論特殊研究 B	講義	2	
		マーケティング論特殊研究 A	講義	2	
		マーケティング論特殊研究 B	講義	2	
		経営学研究指導 A			
		経営学研究指導 B			
		経営組織論研究指導 A			
		経営組織論研究指導 B			
		経営史研究指導 A			
		経営史研究指導 B			
		経営管理論研究指導 A			
		経営管理論研究指導 B			
		経営財務論研究指導 A			
		経営財務論研究指導 B			
		意思決定システム論研究指導 A			
		意思決定システム論研究指導 B			
		企業論研究指導 A			
		企業論研究指導 B			
		税務会計論研究指導 A			
		税務会計論研究指導 B			
		財務会計論研究指導 A			
		財務会計論研究指導 B			
		監査論研究指導 A			
		監査論研究指導 B			
		商業史研究指導 A			

[illegible]

	マーケティング・リサーチ特殊研究 A	講義	2	
	マーケティング・リサーチ特殊研究 B	講義	2	
	グローバル・ファイナンス論特殊研究 A	講義	2	
	グローバル・ファイナンス論特殊研究 B	講義	2	
	情報管理論特殊研究 A	講義	2	
	情報管理論特殊研究 B	講義	2	
	リレーションシップ・マーケティング特殊研究 A	講義	2	
	リレーションシップ・マーケティング特殊研究 B	講義	2	
	マーケティング研究指導 A			
	マーケティング研究指導 B			
	流通研究指導 A			
	流通研究指導 B			
	広告研究指導 A			
	広告研究指導 B			
	ブランド戦略論研究指導 A			
	ブランド戦略論研究指導 B			
	サービス・マーケティング研究指導 A			
	サービス・マーケティング研究指導 B			
	流通戦略論研究指導 A			
	流通戦略論研究指導 B			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

5 理工学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・実験 の別	単位	備考
理工学研究科	生体医工学専攻	生体医工学特殊研究 I	講義		
		生体医工学特殊研究 II	講義		
		生体医工学特殊研究 III	講義		
		生体医工学特殊研究 IV	講義		
		生体医工学特殊研究 V	講義		
		生体医工学特殊研究 VI	講義		
		生体医工学研究指導	演習		
	応用化学専攻	応用化学特殊研究 I	講義		
		応用化学特殊研究 II	講義		
		応用化学特殊研究 III	講義		
		応用化学特殊研究 IV	講義		
		応用化学特殊研究 V	講義		
		応用化学特殊研究 VI	講義		
		応用化学研究指導	演習		
	機能システム専攻	機能システム特殊研究 I	講義		
		機能システム特殊研究 II	講義		
		機能システム特殊研究 III	講義		
		機能システム特殊研究 IV	講義		
		機能システム特殊研究 V	講義		
		機能システム特殊研究 VI	講義		
		機能システム研究指導	演習		
	電気電子情報専攻	電気電子情報特殊研究 I	講義		
		電気電子情報特殊研究 II	講義		
		電気電子情報特殊研究 III	講義		
		電気電子情報特殊研究 IV	講義		
		電気電子情報特殊研究 V	講義		
		電気電子情報特殊研究 VI	講義		
		電気電子情報研究指導	演習		
	建築・都市デザイン専攻	建築・都市デザイン特殊研究 I	講義		
		建築・都市デザイン特殊研究 II	講義		
		建築・都市デザイン特殊研究 III	講義		

		建築・都市デザイン特殊研究Ⅳ	講義		
		建築・都市デザイン特殊研究Ⅴ	講義		
		建築・都市デザイン特殊研究Ⅵ	講義		
		建築・都市デザイン研究指導	演習		

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

6 経済学研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
経済学研究科	経済学専攻	理論経済学研究指導 現代政治経済学研究指導 日本経済史研究指導 経済学説史研究指導 統計・計量経済学研究指導 財政学研究指導Ⅰ 財政学研究指導Ⅱ 経済政策研究指導 金融論研究指導 農業経済研究指導 中小企業論研究指導 日本経済論研究指導 貿易論研究指導 地方財政論研究指導 西欧経済史研究指導 社会経済システム総論研究指導 社会経済思想論研究指導 情報経済システム論研究指導 公共システム論研究指導 公共政策研究指導 環境学研究指導 環境経済論研究指導 環境経済学研究指導 労働経済論研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

7 国際地域学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
国際地域学研究科	国際地域学専攻	国際地域学特殊研究Ⅰ	演習	2	
		国際地域学特殊研究Ⅱ	演習	2	
		国際地域学特殊研究Ⅲ	演習	2	
		国際地域学特殊研究Ⅳ	演習	2	
		国際地域学特殊研究Ⅴ	演習	2	
		国際地域学特殊研究Ⅵ	演習	2	
		国際地域学研究指導			
	国際観光学専攻	国際観光学特殊研究Ⅰ	演習	2	
		国際観光学特殊研究Ⅱ	演習	2	
		国際観光学特殊研究Ⅲ	演習	2	
		国際観光学特殊研究Ⅳ	演習	2	
		国際観光学特殊研究Ⅴ	演習	2	
		国際観光学特殊研究Ⅵ	演習	2	
		国際観光学研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

8 生命科学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・実験 の別	単位	備考
生命科学研究科	生命科学専攻	生命科学特殊研究Ⅰ	講義・実験	2	
		生命科学特殊研究Ⅱ	講義・実験	2	
		生命科学特殊研究Ⅲ	講義・実験	2	
		生命科学特殊研究Ⅳ	講義・実験	2	
		生命科学特殊研究Ⅴ	講義・実験	2	
		生命科学特殊研究Ⅵ	講義・実験	2	
		生命科学研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

9 福祉社会デザイン研究科

(1) 授業科目及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・演習 の別	単位	備考
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会福祉原理歴史研究ⅠA	講義	2	
		社会福祉原理歴史研究ⅠB	講義	2	
		社会福祉原理歴史研究ⅡA	講義	2	
		社会福祉原理歴史研究ⅡB	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅠA	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅠB	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅡA	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅡB	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅢA	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅢB	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅣA	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅣB	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅤA	講義	2	
		社会福祉政策計画研究ⅤB	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅠA	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅠB	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅡA	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅡB	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅢA	講義	2	
		ソーシャルワーク研究ⅢB	講義	2	
		社会福祉学研究指導ⅠA			
		社会福祉学研究指導ⅠB			
		社会福祉学研究指導ⅡA			
		社会福祉学研究指導ⅡB			
		社会福祉学研究指導ⅢA			
		社会福祉学研究指導ⅢB			
		社会福祉学研究指導ⅣA			
		社会福祉学研究指導ⅣB			
		社会福祉学研究指導ⅤA			
		社会福祉学研究指導ⅤB			
		社会福祉学研究指導ⅥA			
		社会福祉学研究指導ⅥB			
		社会福祉学研究指導ⅦA			
		社会福祉学研究指導ⅦB			
		社会福祉学研究指導ⅧA			
		社会福祉学研究指導ⅧB			

ヒューマンデザイン 専攻	子ども支援学研究ⅠA	講義	2	
	子ども支援学研究ⅠB	講義	2	
	子ども支援学研究ⅡA	講義	2	
	子ども支援学研究ⅡB	講義	2	
	子ども支援学研究ⅢA	講義	2	
	子ども支援学研究ⅢB	講義	2	
	子ども支援学研究ⅣA	講義	2	
	子ども支援学研究ⅣB	講義	2	
	子ども支援学研究ⅤA	講義	2	
	子ども支援学研究ⅤB	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅠA	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅠB	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅡA	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅡB	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅢA	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅢB	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究Ⅳ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究Ⅴ	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅥA	講義	2	
	高齢者・障害者支援学研究ⅥB	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅠA	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅠB	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅡA	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅡB	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅢA	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅢB	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅣA	講義	2	
	健康デザイン学研究ⅣB	講義	2	
	ヒューマンデザイン研究指導			
人間環境デザイン専攻	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	演習	2	
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	演習	2	
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	演習	2	
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	演習	2	
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	演習	2	
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	演習	2	
	人間環境デザイン学研究指導			

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

10 学際・融合科学研究科

(1) 授業科目・単位数及び研究指導

研究科名	専攻名	授業科目・研究指導	講義・実験 の別	単位	備考
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエ ンス融合専攻	バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅰ バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅱ バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅲ バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅳ バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅴ バイオ・ナノサイエンス融合特殊研究Ⅵ バイオ・ナノサイエンス融合研究指導	講義・実験 講義・実験 講義・実験 講義・実験 講義・実験 講義・実験		

(2) 履修方法

- 1 博士論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けなければならない。
- 2 授業科目は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目を履修することができる。

別表第3

研究科・専攻	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	その他
文学研究科 哲学専攻 インド哲学仏教学専攻 国文学専攻 中国哲学専攻 英文学専攻 史学専攻 教育学専攻 英語コミュニケーション専攻	公民 公民・宗教 国語 国語 英語 地理歴史 地理歴史・公民	社会 社会・宗教 国語 国語 英語 社会 社会	特別支援学校 教諭専修免許状 小学校 教諭専修免許状
社会学研究科 社会学専攻 社会心理学専攻	公民 公民	社会	
法学研究科 私法学専攻 公法学専攻	公民 公民	社会 社会	
経営学研究科 経営学専攻	商業		
理工学研究科 生体医工学専攻 応用化学専攻 機能システム専攻 電気電子情報専攻 都市環境デザイン専攻 建築学専攻	理科 理科 理科 理科 工業 工業	理科 理科 理科 理科	
経済学研究科 経済学専攻	地理歴史・公民	社会	
国際地域学研究科 国際地域学専攻 国際観光学専攻	公民 公民	社会 社会	
生命科学研究科 生命科学専攻	理科	理科	

別表第4

(1) 博士前期課程・修士課程

(単位：円)

		文学、社会学、法学、経営学 (ビジネス・会計ファイナンス 専攻中小企業診断士登録養成 コース除く。)、経済学(公民 連携専攻除く。)、国際地域 学、福祉社会デザイン各研究科	理工学、生命科学、学際・融合 科学各研究科
入学検定料		35,000	35,000
入学金		270,000	270,000
授業料		450,000	550,000
一般施設設備資金		90,000	130,000
実験実習費			120,000
委託学生並 びに科目等 履修生	選考料	20,000	20,000
	登録料	10,000	10,000
	科目等履修料(1科目につき)	43,000	43,000

(単位：円)

		経営学研究科ビジネス・会計 ファイナンス専攻中小企業診断 士登録養成コース	経済学研究科公民連携専攻
入学検定料		35,000	35,000
入学金		270,000	270,000
授業料		900,000	600,000
一般施設設備資金		90,000	300,000
実験実習費		160,000	
委託学生並 びに科目等 履修生	選考料		20,000
	登録料		10,000
	科目等履修料(1科目につき)		43,000

(2) 博士後期課程

(単位：円)

		文学、社会学、法学、経営学、 経済学、国際地域学、福祉社会 デザイン各研究科	理工学、生命科学、学際・融合 科学各研究科
入学検定料		35,000	35,000
入学金		270,000	270,000
授業料		450,000	550,000
一般施設設備資金		70,000	80,000
実験実習費			120,000
委託学生並 びに科目等 履修生	選考料	20,000	20,000
	登録料	10,000	10,000
	科目等履修料(1科目につき)		

別表第 5

(単位：円)

	学位論文審査料
修士	5,000
博士甲	20,000
博士乙	(1) 20,000 (2) 200,000

(注、(1)は本大学院博士後期課程満期退学者、(2)は学外者)

改正	平成8年7月1日	平成13年4月1日
	平成15年4月1日	平成17年4月1日
	平成19年4月1日	平成20年4月1日
	平成23年4月1日	平成26年4月1日

第1条 この規程は、大学院研究科委員会（以下「本委員会」という。）の組織・運営に関する事項を定めるものである。

第2条 本委員会は、次の者をもつて組織する。

- (1) 研究指導を担当する専任教員
- (2) 前項の外、必要に応じて授業を担当する専任教員及び学則第20条に規定する客員教授を加えることができる。

第3条 本委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究科委員長の推薦に関する事。
 - (2) 研究科委員の選出に関する事。
 - (3) 入学、退学、休学及び修了等に関する事。
 - (4) 単位認定試験に関する事。
 - (5) 学位論文審査及び授与に関する事。
 - (6) 学生の指導及び賞罰に関する事。
 - (7) 教育課程に関する事。
 - (8) 授業科目担当者の推薦に関する事。
 - (9) 大学院教員資格審査に関する事。
 - (10) 人材の養成及び教育研究上の目的の公表等に関する事。
 - (11) 成績評価基準等の明示に関する事。
 - (12) 教育内容の改善のための組織的な研修に関する事。
 - (13) その他必要と認める事。
- 2 前項第10号ないし第12号については、各研究科専攻でこれを定め大学院研究科委員長会議及び学長に報告するものとする。
- 3 前項において定めたもののうち、第10号については、別表に掲げるとおりとする。

第4条 本委員会は、研究科委員長が毎月1回定期に招集する。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

第5条 本委員会は、定員の3分の2以上出席しなければ、これを開くことができない。

第6条 本委員会の議決は、出席者の過半数で決し、賛否同数の場合は、議長の決するところによる。

第7条 本委員会の幹事は、大学院教務課長、書記は同課員をもつてこれにあてる。

2 理工学研究科委員会、学際・融合科学研究科の幹事は、川越事務部教学課長、書記は同課員をもつてこれにあてる。

3 国際地域学研究科委員会、生命科学研究科委員会の幹事は、板倉事務部教学課長、書記は同課員をもつてこれにあてる。

附 則

この規程は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則（平成8年規程第120号）

この規程は、平成8年7月1日から施行する。

附 則（平成13年規程第21号）

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成15年規程第13号抄）

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成17年規程第8号抄）

1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成18年規程第43号）

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年規程第2号）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第98号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表

東洋大学大学院 研究科・専攻の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的

研究科	専攻	目的
文学	哲学	理論哲学と実践哲学との区別された統合を理念として掲げ、この理念を社会において実現する人材の養成を目的とする。 博士前期課程 哲学理論を核心に据えながらも、精神医学・身体医学などに渡る多面的思考を要請される各種境界領域において、さまざまな人的・知的資源を有効に組み立てることのできるコーディネータの養成を目指す。 博士後期課程 テキスト研究・哲学史・解釈史研究を中軸に据え、伝統的な哲学の場に立って現実社会に対して提言をする専門的研究者の養成を目指す。
	仏教学	インド・チベット・中国・日本等の仏教の思想・文化、及びインドの思想・文化の分野において、高度の研究能力と豊かな学識ないし幅広い教養を有し、現実社会の諸問題の解決策をも追究して、学界や社会に大きく貢献できる研究者や専門家を育成することを目的とする。 博士前期課程 仏教の思想・文化、及びインドの思想・文化に関して、文献読解や調査等のための十分な訓練や研究法等の教授を通じて、当該分野の専門的な研究者の育成を図るとともに、当該分野の幅広い教養や語学を身につけ、それらを実社会での活動に活用・実践していけるような人材の育成を図る。 博士後期課程 仏教の思想・文化、及びインドの思想・文化に関して、卓越した研究能力を一層涵養して、当該分野の自立しうる研究者の育成を図るとともに、当該分野に係る高度な専門的業務に従事しうる豊かな学識を備えた、有為の人材の育成を図る。
	国文学	自国の言葉の粹として集積された文学文化遺産の研究実践を通じて、現代に生起する文学文化事象に創造的に立ち会うための高度な研究能力を養成することを目的とする。 博士前期課程 各自の研究課題を軸として広く専門分野の考究を体験し、専門研究を生かした教職教員の育成や現代各界に要請される高度教養人、高度職業人の養成を図る。 博士後期課程 専門知識を学術的に展開する研究者としての自立を促し、研究能力を生かした国文学の業務に関わる教員及び高度な専門的業務に従事する人材の育成を図る。

文学	中国哲学	東アジア漢字文化圏の主役であった漢民族の哲学遺産を、その文学を介在させて理解し、それが日本ではいかに活学されたのかを併せ考察して、現代的な意義を明らかにする。 博士前期課程 特に原典読解力を涵養し、論議されている問題を的確に把握し、それが歴史的にいかなる意味を持ち、今日的価値があるのか否かを考察する力を養う。 博士後期課程 研究課題を哲学史の中で理解する演習に主力を注ぎ、研究論文を作成する実力を付けさせ、研究者として自立できるように博学・見識を涵養する。
	英文学	英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を有し、これを教育、研究或いは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。 博士前期課程 近代英語で書かれた文学テキストを読み、必要な文献を参照して、学術スタイルの論文・レポートを書くことができるようにし、これを通して修了後の多方面なキャリアのために十分な英語運用能力と英米文化についての基礎知識を身に付けさせる。具体的には、中等教育の英語教員試験に合格する程度の能力を持たせることを指標とする。 博士後期課程 前期課程で養われた能力をさらに発展させ、英米文学・語学において博士号を取得できる水準の自立的な研究能力を育成する。このために文学テキスト・語学資料はもちろん、多方面の研究書を読みこなし、これらの諸資料を適切に処理することによって、独創的な論文を書き、発表できる力を持てるよう指導する。こうして得られた学識と英語力を生かして、主として高等教育（大学）レベルの教職・研究職に就けるだけの能力を付けさせる。
	史学	博士前期課程と博士後期課程の双方に、日本史学コース、東洋史学コース、西洋史学コースの3コースを置き、史学を幅広く理解するとともに、専門領域を深く探求する機会を提供し、高度の専門性を持つ職業人・教養人及び専門研究者の育成を目指している。 博士前期課程 学校教育、社会教育、並びに情報産業などの分野で活躍する人材の育成と後期課程進学のための研究能力を培うことを目的とする。 博士後期課程 研究者として自立した研究活動を行うための学識を養うことを目的とする。
	教育学	社会における教育に関わる諸問題について幅広い視野から問題解決に取り組む高度の専門性を有する職業人並びに当該問題についての自立した研究能力を有する人材を育成することを目的とする。 博士前期課程 教育諸問題について広い視野に立つことを可能にする精深な学識を授けるとともに、教育関連諸分野における実践的能力の育成による高度の職業的専門性の形成を目的とする。 博士後期課程 教育諸問題について幅広い視野を習得し、自立できる研究能力の

文学	教育学	形成を図るとともに、教育関連諸分野において指導的立場で活躍できる高度の専門性を修得した人材の育成を図る。
	英語コミュニケーション	異文化とコミュニケーションに対する自覚的な関心に根ざしつつ、高度な英語能力を教育指導や実務に生かす実践的行動人を育成する。 博士前期課程 英語研究、英語教育及び英語コミュニケーションの分野でより高度な知識と技能を身に付けさせ、高度専門職業人を養成することを目指す。 博士後期課程 英語研究、英語教育及び英語コミュニケーションの分野において、自立的に研究活動を行い、これらの分野で研究・教育を通して社会に貢献する人材の養成を目指す。
社会学	社会学	高度な専門知識・能力を基盤に、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探究する優れた職業人、研究者、教育者の養成を目的とする。 博士前期課程 現代社会の多様な問題の解明に係る3つのコース、現代社会学コース、社会文化共生学コース、メディアコミュニケーション学コースを設け、高度な専門知識・能力を身につけた研究者、及び高度な能力を身につけた専門職業人の養成を目指す。 博士後期課程 現代社会の多様な問題について、倫理性を重視しつつ、理論、実証、応用にわたって、高度な専門的知識・能力により、国際的な視野をもって独創的な研究を行う研究者及び大学教員の養成を目指す。
	社会心理学	家庭や職場など社会のあらゆる場面における人間の社会行動を深く理解し、現代社会の諸問題を解決するために幅広く社会心理学の成果を活用できる人材の育成を目指す。 博士前期課程 社会心理学の多様な知見に基づいてあらゆる社会状況における人間行動を深く理解し、必要があればそれらを改善できる人材の育成を目指す。そのための方法論として実証的研究の実践を重視し、その基本的能力を養うことを目的とする。 博士後期課程 現代社会に生じるさまざまな問題に関心を持ち、その理解と解決に向け、高度な専門的知識と能力をもとに研究と教育を行う優れた人材を養成することを目的とする。同時に、研究の倫理性及び社会関連性を重視し、多様な研究法の習得、国際性の涵養に向けた教育研究を推進する。
法学	私法学	高度な実践的法学教育を目指すという大前提の下に、私法学分野における法理論と法実務の研究を通じて、これからの法治社会に相応しい高邁なる人格と識見を備えた人材を養成することを目的とする。 博士前期課程 ① 高度な実践的法学教育により、専門的私法学の素養を身につけた専門的職業人を育成する。 ② 変動の激しい現代社会にあつて、社会人を積極的に受け入れ、リカレント教育を施すことにより、時代の求める私法学の知識を備えた専門的職業人として再び社会に送り出す。

法学	私法学	③ 主としてアジア諸国から、外国人留学生を積極的に受け入れ、専門的私法学の素養を身に付けた専門的職業人として母国で活躍できる人材を育成する。 博士後期課程 「諸学の基礎は哲学にあり」の教育理念に沿って、広く社会の諸問題を根底的に考え抜く、私法学分野の専門家を養成し、高度な研究職に相応しい人材として社会に送り出す。
	公法学	高度な実践的法学教育を目指すという大前提の下に、公法学分野における法理論と法実務の研究を通じて、これからの法化社会に相応しい高邁なる人格と識見を備えた人材を養成することを目的とする。 博士前期課程 ① 高度な実践的法学教育により、専門的公法学の素養を身に付けた専門的職業人を育成する。 ② 変動の激しい現代社会にあつて、社会人を積極的に受け入れ、リカレント教育を施すことにより、時代の求める公法学の知識を備えた専門的職業人として再び社会に送り出す。 ③ 主としてアジア諸国から、外国人留学生を積極的に受け入れ、専門的公法学の素養を身に付けた専門的職業人として母国で活躍できる人材を育成する。 博士後期課程 「諸学の基礎は哲学にあり」の教育理念に沿って、広く社会の諸問題を根底的に考え抜く、公法学分野の専門家を養成し、高度な研究職に相応しい人材として社会に送り出す。
経営学	経営学	「高度な実践経営学」の理念のもとに、専門的な経営の理論と実践を研究し、グローバルな社会の発展と人類の福祉に貢献できる人材を養成し、併せて、国際性豊かで道徳的意識の高い人材を養成することを目的とする。 博士前期課程 広い視野に立って、清深な学識を修得し、経営学専攻分野における高度の専門性を有する研究者の養成、又は、経営学及びその関連分野における高度職業専門家を養成する。 博士後期課程 経営・マーケティング・会計等の経営学及びその関連領域において、創造性豊かでかつ高度な研究能力を有する人材を養成する。
	ビジネス・会計ファイナンス	修士課程 「高度な実践経営学」の理念のもとにグローバル化・IT化・多様化する経営システムに対応できるビジネスリーダーや経営幹部の養成及び会計・監査・税務やファイナンス領域の新分野に対応できる高度職業専門家の養成を目的とする。
経済学	経済学	経済学分野における総合的な学識と理論・実証・応用面での高度な研究能力を養い、また、高度専門職に必要な能力を育成することにより、構造変革が進められつつある現今の社会経済で貢献活躍できる人材を育成する。 博士前期課程 経済学に関する標準的な学力と論文作成力を習得させ、経済学に関する高度で総合的な学識と理解力を備えた研究者を養成し、さらに実社会で必要とされる技能・知見を存分に発揮して社会に貢献できる高度職業人（プロフェッショナル）を養成する。 博士後期課程

経済学	経済学	将来、研究者として自立し、大学及び他の研究機関において研究活動を継続する上で必要とされる、或はより高度の専門職に就くための、一層の研究能力と専門性、及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、前期課程での基礎学力を前提に、より個別・専門領域における研究能力の開発を教育目標とする。
	公民連携	修士課程 「公」、「民」双方の立場の社会人等を対象に、公民連携・地域再生の論点を具体的に考案しつつ、「公」と「民」双方の行動原理を理解し連携を円滑に進めうる人材の養成を行う。
理工学	生体医工学	生体医工学分野における諸問題を実践的問題と捉え、理学的探求心を培い、自然界の営みに学び、環境に負荷の少ないエネルギー利用方法、環境と活動との共生、心身の健康管理・維持、体に負担の少ない医療・検査技術など、新たな方策を見いだせる人材を育成することを本専攻の目的とする。 博士前期課程 生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と技術を修得し、問題設定・解決能力を備えた技術者の育成を目的とする。 博士後期課程 生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と創造的な研究能力を修得し、広い視野をもち、問題設定・解決能力およびリーダーシップを備えた研究者の育成を目的とする。
	応用化学	化学は物質の製造、性質と変化を扱う重要な学問分野であり、環境問題、生命科学、資源・エネルギー、高機能材料開発などの先端的分野においても、化学の深い知識が必要とされる。また、近年の地球環境の悪化は、より一層の環境低負荷技術の必要性を高めている。こうした社会環境の変化に対応でき、化学に精通し、社会からの新たな要請にも応えられる環境倫理観を備えた技術者・研究者を育成することを目的とする。 博士前期課程 有機化学、無機化学、物理化学、分析化学をベースにして、物質化学、生物化学、環境化学を深く学び、環境倫理観を養うとともに、国際的視野も備えた高度な専門性を有する化学の技術者・研究者を育成することを目的とする。 博士前後期課程 物質化学、生物化学、環境化学などの広範な化学分野のテーマについて、独自の視点に基づいた極めて高度な研究を独立して遂行し、その成果を広く社会に発信できる研究者の育成を目的とする。
	機能システム	自然・社会環境の激変を真摯に受け止め、旧来を凌駕する新たな社会規範の構築において、科学技術の側面からの強いリーダーシップ発揮が不可避である。かつて自然科学の先駆的知見を実利に資する主たる役割を機械工学が負ってきた事実を重く受け止め、根幹を異とする広範な学問分野の連携と協調の基盤に立って、未開の科学技術の地平を切り開く人材を、間断なく輩出することを最重点の教育目標に据える。 博士前期課程 機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分

理工学	機能システム	野における物質・材料、基礎諸力学等にかかわる確たる見識と強固な研究推進力を修め、自発的な問題所在の探索力とその解決・提案、そして表現能力を備えた者の育成を目的とする。 博士後期課程 機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分野における物質・材料・基礎諸力学等にかかわる深く確かな見識と独創的な研究敷衍力を涵養するとともに、広範かつ透徹した視野を有し、問題設定・解決能力および異技術分野間の仲立ちとなり得るリーダー的資質を備えた研究者の育成を目的とする。
	電気電子情報	近年の電気エネルギーシステム、電子システム、情報システムは電気関連分野の複合技術である。これからの研究者・技術者はこのような分野間の境界領域や融合領域にも携われる必要がある。このような人材を養成するために、電気関連分野が本来持っている理学的側面と工学的側面の両方から基礎学力と専門知識、および、研究能力を修得させることを教育研究の目的とする。 博士前期課程 エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。 博士後期課程 エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野、あるいはそれらの境界領域や融合領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。
	都市環境デザイン	健全な都市システムの実現と、都市が持続的に発展するためには、人々が安全で安心、健康で快適に生活できる基盤を造り出すことが不可欠である。この都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる都市環境創出のスペシャリストを育成することを教育目標としている。 博士前期課程 土木工学・環境学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた者の育成を目的とする。
	建築学	建築およびその集合体であるまち・都市の在り方について、根本的な価値観の見直しとそれらのサステイナブルな再構築を、地球的規模からひとりの人間まで幅広い視点をおきながら、総合的に建築・まち・都市の課題を捉え、安全、快適、機能的かつ人々の心に響く建築の形態と空間、そしてその延長線上にあるまち・都市の景観を創造できる実務者、技術者、研究者の人材養成を目的とする。 博士前期課程 建築学・都市工学・環境学の専門領域における先端の知識と技術、総合化する高度なプロデュース、デザイン、マネジメント能力を修得し、課題設定・解決能力を持ち、責任感と倫理観を備えた人材の育成を目的とする。
	建築・都市デザイン	建築・都市の計画、デザイン、建設、保全、マネジメントに関わる研究、実務は、多種多様な条件を整理しながら実施されるが、そこには相矛盾する要素が多く存在する。その中で、目指す目標を堅持しながら、他者

理工学	建築・都市デザイン	と協調し柔軟性と創造力をもって最適解を見出し、実現に導く強い責任感と倫理感を兼ね備えた研究者の育成を教育目標とする。 博士後期課程 建築学・土木工学・都市工学・環境学などの専門領域における高度な知識と創造的、独創的な研究能力を修得し、関連専門分野を横断的に捉えながら課題設定・解決能力および課題解決へ向けてのリーダーシップを備えた人材の育成を目的とする。
国際地域学	国際地域学	国内外における地域づくりに係る諸問題の解決のために、国際的に通用する高度な専門的知識を有する専門家や研究者を養成することを目的とする。 博士前期課程 研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う。 博士後期課程 研究者として自立して研究活動を行うに足る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。
	国際観光学	修士課程 国際観光の発展のために、高度な専門業務に必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を持ち、かつ国際的な感覚を身に付けた専門家や研究者を養成することを目的とし、国内外の観光関係の実務担当可能な人材を育てることを目指して内外の学生を幅広く受け入れるとともに、観光関係の業務に携わってきた社会人のリフレッシュ教育を推進する。
生命科学	生命科学	生命現象を理解するための高度な知識を習得し、広い視野と高い倫理観を持って人類が直面している地球規模の課題に果敢に挑戦し、地球社会に貢献する研究能力を持つ人材を育成する。 博士前期課程 広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培う。 博士後期課程 生命科学の高度な専門知識と国際的な幅広い視野を習得し、研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的業務に従事する研究能力を持つ人材を育成する。
福祉社会デザイン	社会福祉学	社会福祉学の原理・歴史、社会福祉の法制・政策の立案や実施、ソーシャルワークの基礎理論等を踏まえた社会福祉学の体系的・総合的な研究を基礎とし、現代社会が要請する諸課題に積極的に対応できる研究者・実務者の養成を行う。 博士前期課程 社会福祉のみならず他のディシプリンを学んだ人材、社会福祉の現場で専門職として指導的な役割を担っている人材に対して、社会福祉の視点、対象、方法、評価などに関わる一貫した教育を行い、研究・実践の両面で貢献できる人材を養成する。 博士後期課程 社会福祉の体系的な理論と方法を基礎とし、価値、制度、政策、運営、実践の諸分野における高度な研究を遂行できる人材を育成するとともに、社会福祉の現場で専門職として指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

福祉社会デザイン	福祉社会システム	修士課程 新たな実践的社会学・社会福祉学の発展を志し、社会学と社会福祉学を中心とした学際的研究・教育を行い、福祉社会の形成に貢献する高度に専門的な実務者と研究者を養成する。
	ヒューマンデザイン	社会の要請に応え、子ども支援学、高齢者・障害者支援学、健康デザイン学及び人間環境デザイン学の各コースを置き、それぞれの専門領域に関する学問研究を基礎として、学際的な教育研究を行うことを目指す。 博士前期課程 保育、福祉、健康増進及び人間環境デザイン各分野において、高度で知的な素質のある専門従事者の養成を図るとともに、博士後期課程進学希望者に対しても研究能力の基礎トレーニングを行う。 博士後期課程 各分野において独立した研究者若しくは教育者として活躍できる能力を持つ人物を養成することを目的とする。
学際・融合科学	バイオ・ナノサイエンス融合	バイオサイエンスとナノサイエンスを融合した新しい研究分野を切り開くことを教育研究理念とし、新しい視野を持った科学技術者及び研究後継者を育成し、研究拠点としての責務を担う。バイオ・ナノサイエンス融合分野を支え、博士前期課程においては企業などに就職して科学技術者を、博士後期課程においては第一線の研究者としてこの分野を主導する研究者を育成し、国内外の研究機関や、その研究成果を実用化する産業界で活躍できる人材を輩出する。 博士前期課程 バイオ・ナノサイエンス融合分野の基礎となる学問、及び、研究の核となる先端の実験技術の修得を目的とする。 博士後期課程 博士前期課程で修得したものをさらに発展させ、第一線の研究者となる能力の獲得を目的とする。

東洋大学大学院理工学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

教育研究上の理念、目的

本学では昭和 36 年に川越キャンパスに工学部を設置し、産学協同を重視し、中堅技術者の養成とその教育に努めてきた。昭和 40 年には工学部教育を基礎として、技術の理論と応用を体系的に教育・研究し、高度で幅広い専門分野はもとより、問題発見・解決能力および、独創性を養い、関連分野の先端的な専門知識の吸収と消化能力を身に付けた技術者・研究者を養成し、科学技術の発展と社会に役立つことを理念・目的とする理工学研究科を設置して現在に至っている。

日本のものづくり力の復活のためには、「ものづくり」を、従来の「工学」という枠組みの中でだけで考えるのではなく、自然から学ぶ「ものづくり」や、新しい科学理論をベースにした技術開発、異分野の知識の融合を積極的に展開し、これまでにない新製品・新サービス・新プロセスを作り出していくことが急務である。

現在、本学川越キャンパスではこの考えに基づき、平成 21 年度より工学部を理工学部に改組した。より専門的な理工融合の技術職、研究職を育成するためには、理工学研究科を理工学研究科に改組して、学部との連続性・一貫性を再構築する必要がある。

理工学研究科では、理工学部と一貫した教育体制を確立することで、本学の建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」を重視するとともに、理学に基づいた基礎的な自然科学の法則や考え方を理解し、それを科学・技術の分野に応用することにより、環境と調和のとれた高度な専門能力・創造力・人間性豊かな倫理観を備えた人材を養成する。

博士前期課程においては高度の専門的職業人材および教育者の養成、博士後期課程においては研究者の養成に重点をおく。

学部での 4 年間の学習を基礎とし、それらを発展させる大学院教育を実践するため、理工学研究科博士前期課程 6 専攻、博士後期課程 5 専攻を設置する。各専攻の設置の趣旨及び目指す養成人材像は以下のとおりである。

(1) 生体医工学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

生体医工学専攻は、理工学部生体医工学科の教育を基礎として、それらを発展させるために設置する専攻である。

高度に発達した社会構造を持つ 21 世紀に求められるのは、多元因子からなる難題を解決し、人類の健康的な生活の確保である。そこで、自然界の営みに学び、環境に負荷の少な

いエネルギー利用方法、環境と活動との共生、心身の健康管理・維持、体に負担の少ない医療・検査技術など、新たな方策を見いだせる人材を育成することを本専攻の目的とする。生体医工学分野における諸問題を実践的問題と捉え、理学的探求心を培う。細胞、分子レベルにおける医療技術の要求に応え、ナノ・センシング、ナノマテリアル、免疫学、ナノテクノロジー、プラズマエレクトロニクスを身につけ、幅広い視野を持った人材を育成する。健康・生活の質向上の飛躍的発展のためには、広い基盤的な理学的知見を持って先端的な科学分野を創造的に切り開くことが出来る人材を輩出することが重要であるとの認識に立って、生体医工学の基礎を担う生物科学分野と応用を担う医工分野によって教育研究を行う。

（２）応用化学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

応用化学専攻は、理工学部応用化学の教育を基礎として、それらを発展させるために設置する専攻である。

化学は物質の製造、性質と変化を扱い、科学技術の根幹をなす重要な学問分野であり、環境問題、生命科学、資源・エネルギー、高機能材料開発などの先端的分野においても、化学の知識による問題解決が求められている。さらに、近年の地球環境の悪化に伴い、低環境負荷を目指した技術の開発が求められている。これを実現するには、環境に対する深い知識と自然界における化学の知識が必要とされ、今後、これらを身に付けた技術者・研究者の社会的ニーズが増大すると考えられる。加えて、近年の経済・産業の国際化は目覚ましいものがあり、化学分野においても著しく国際化が進んでおり、国際化への対応能力を備えていることが望まれている。

化学に精通し、国際的視野を持ち、哲学的思考と環境倫理観を備えた技術者・研究者を育成することの重要性は社会に広く認知されている。本専攻はこうした社会環境の変化に対応でき、社会からの新たな要請にも応えられる人材を育成することを目的とする。

（３）機能システム専攻（博士前期課程・博士後期課程）

機能システム専攻は、物理とりわけ諸力学にその基盤をおく機械工学の分野を礎に、原理原則の探求を志す多彩な分野までも有機的に融合・包含しつつ、これを応用展開させることを狙いとして設置する専攻である。そもそも、機械工学は、物質・材料からさらに、広く機構の動作を支配する諸法則・原理の探査に立脚して、実用に資する機器やシステムを社会に提示することを目標とする「創成大循環」を、根底から支えている。その対象は、大は宇宙構造物からマイクロ・ナノオーダの超微小な構成要素にまでおよび、いまやエレクトロニクスはもとより、バイオ科学や情報科学など根幹を異にする分野とも、相互理解と連携を深めつつ、新たな展開を見せている。このような時代の潮流に対応し、本専攻は諸力学を基軸に、制御・センシング・情報処理とこれらの派生・融合領域をも広く包括した境界分野に展開した教育・研究を目指す。具体的には実用に向けたデバイス、機器、シ

システムの創成などシンセシスに主体をおく機械融合分野、およびこれを支えるインフラとも位置づけられ、新原理・原則の探査やアナリシスに主体をおく機械科学分野における自発的な問題探索力とその解決・提案能力を備えた人材を育成する。

（４）電気電子情報専攻（博士前期課程・博士後期課程）

電気電子情報専攻は、理工学部電気電子情報工学科での教育を基礎として、それらを発展させるために設置する専攻である。

電気は現代社会・生活のほとんどすべてと密接に関係している。電力システムはすべての基盤であり、また、コンピュータや情報通信などの電気・電子システムは社会活動に広く普及している。大規模なシステムから自動車などの小規模のものまで、今日のシステムは多くの分野の技術が、特に情報技術によって、結合されてきている。このように、現代における電気・電子・情報通信分野の領域は多岐にわたるが、そのシステム技術は複合技術であり、個々の技術或いは一つの技術領域だけでは実現困難である。このため、これからの技術者は自身の専門分野だけでなく、それに関連する領域にも携わる必要があり、その関連領域にも対応できることが求められる。

電気の学問分野には物質物性とそれに起因する電磁界、および、電磁界から発生するエネルギーを扱う理学色の濃い分野と、エネルギーを直接または間接的に利用して物を創造する工学色の濃い分野とがある。電気電子情報専攻では、これらの分野の学部レベルの教育課程を基礎として、その上に更に高度な教育課程を展開する。そこでは、専門分野に共通する基礎にも重点を置きながら、理学と工学のそれぞれの内容を充実させて授業科目を設定する。このような教育・研究を行うことにより、電気分野の理学と工学両方の高いレベルの基礎を持ち、分野・領域間の境界や融合領域でも貢献できる人材を育成する。

（５）都市環境デザイン専攻（博士前期課程）

都市環境デザイン専攻は、理工学部都市環境デザイン学科の教育を基礎として、それらを発展させるために設置する専攻である。

エネルギー問題や温暖化問題を始めとする地球環境問題の重要性が高まるにつれ、建設業界も「ものありき」から科学面が重視される時代となった。国内においては社会基盤の新規建設は一段落したとみなされているが、高度経済成長期に造られた多くの公共物は更新時期を迎え、長寿命化対策や再構築を迫られている。さらに地震などの自然災害多発国の日本にとって、道路や橋、上下水道の配備などには確かな技術力が求められる。安全を大前提としつつも、設計・施工における省資源・省エネルギー化の取り組み、解体における副産物の再資源化の取り組みなど、環境面の付加価値を高める取り組みが不可欠のものとなっている。しかも、少子高齢化が進行し人口減少時代を迎えた厳しい社会経済状況の下、そういった取り組みを費用効率的に進める必要がある。加えて、東日本大震災により、人が安全で安心して暮らせる都市環境の在り方について根底から見直すことが迫られてい

る。被災地の速やかな復旧・復興と、エネルギー問題や地球環境問題に対して、ライフスタイルの転換を含めて、都市環境の構築およびマネジメント力の構築が急務であると考えている。

こうした価値観の転換を伴う総合的な課題に対して、学部・大学院の一貫教育を前提とした教育プログラムを展開する。プログラムには第一線で活躍する技術者などを客員教員として招聘し、プロジェクト型の特別講義を実施することも含まれる。都市・社会基盤施設の構築方法、環境技術、マネジメント技術ならびに環境政策、社会経営学などの社会科学をあわせて学び、良好な社会環境の実現に向けた新工法や新技術を駆使でき、人々が安全で安心、健康で快適な生活を支える健全な都市システムの実現と、都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる都市環境創出のスペシャリストを育成する。

（６）建築学専攻（博士前期課程）

建築学専攻は、理工学部建築学科の教育を基礎として、それらを発展させるために設置する専攻である。

20 世紀最後の四半世紀、世界的に警鐘が打ち鳴らされた地球温暖化と資源・エネルギー問題への具体的な提案とその着実な実施が求められる時を迎えている。さらに少子化、高齢化にともなう人口構成の急激な変化、経済の激動と国際化、そして東日本大震災の教訓から社会基盤である建築およびその集合体であるまち・都市の在り方について根本的な価値観の見直しとそれらのサステイナブルな再構築が求められている。こうした地球的規模からひとりの人間まで幅広い視点をおきながら総合的に建築・まち・都市の課題を捉え、安全、快適、機能的かつ人々の心に響く建築の形態と空間、そしてその延長線上にあるまち・都市の景観を創造していくことが必要である。

本専攻はこれら時代的、社会的な要請に応え、期待される役割を果たしていくことの重要性を理解し、本学が掲げる哲学を根底として、建築・まち・都市をプロデュース、デザイン、マネジメントする技術を研究開発することを理念とする。そして、学部・大学院の建築学 6 年間教育により専門知識・技術とそれに関わる多くの事柄を総合化する高度な能力を身につけ、責任感と倫理観を備え、国際的にも活躍できる人材の育成を目的とする。

（７）建築・都市デザイン専攻（博士後期課程）

建築学専攻と都市環境デザイン専攻の 2 つの博士前期課程を統合し、建築学、土木工学、都市工学、環境学を基盤とした高度で発展的、独創的な研究を展開する博士後期課程を設置する。博士前期課程の 2 専攻は、それぞれの領域においては学部・前期課程で 6 年間教育を展開し、社会で必要とされる職能と課題解決への研究能力の修得を目的に掲げている。

博士前期課程における研究をさらに深化、発展させるとともに、建築・都市・地域をめぐって関連する幅広い研究領域を包含する特長を生かし、各専門領域を横断的に結びつけ

ながら地球規模および日本国内における今日的課題に対して総合的に捉え、先進的、独創的研究の上に価値観と技術を再構築することを本専攻の理念とする。

建築・都市の計画、デザイン、建設、保全、マネジメントに関わる研究、実務は、多種多様な条件を整理しながら実施されるが、そこには相矛盾する要素が多く存在する。その中で、目指す目標を堅持しながら、他者と協調し柔軟性と創造力をもって最適解を見出し、実現に導く強い責任感と倫理感を兼ね備えた研究者の育成を目的とする。

イ 学生確保の見通しと社会的な人材需要

学生確保の見通し

理工学研究科の博士前期課程の合計入学定員は、6 専攻で 78 名である。博士後期課程の入学定員は 5 専攻で 15 名である。本学大学院で新たな分野を扱うことになる生体医工学専攻においては、基礎となる学部の生体医工学科内で進学希望者が学部入学時から多いことに配慮し定員を設定している。また、他大学で同分野を扱った学部学科が少ないことから、学外からの進学者も見込んでいる。生体医工学研究センターと合同で実施する国際シンポジウムを通じて研究内容を海外へも発信することで、本学で進めているグローバル化に対応すべく、外国人留学生の獲得にもつながる取り組みを行う。その他の専攻では、研究科の構成や分野において理工学部との連続性を明確にすることにより、内部進学率の向上を図る。具体的には、4 年生を対象に行っていた進学説明会を拡大し、2 年生・3 年生を対象として進級ガイダンス時に進学に関する説明を組み込み、また、学部講義の中で扱う発展的な分野では、大学院生が実際に取り組んでいる内容を紹介するなど、学部との協力関係の下、学部学生の進学意識を高める活動を推進する。

また、外国人留学生の獲得のため、今年度より、日本語学校等の外国人留学生への広報活動や、外国人留学生進学説明会への参加に積極的に取り組む。海外大学とのダブル・ディグリー・プログラムの整備を大学全体で取り組んでおり、将来的には海外大学への学生派遣と、海外大学からの受入も視野に入れている。

さらに、社会人に対しても、地域に根ざした産学連携事業拠点である産学協同教育センターの活動や、教員個人による企業との共同研究等を通じて、地域産業界からの要望に答えると共に、社会人学生の入学促進を図る。

本学では、前身である工学研究科への過去 5 年間の志願状況が示すように、博士前期課程への志願者数は、本学工学部・理工学部卒業生数に対して 10%前後で推移している。このうち学内進学者は全志願者に対して毎年 95%前後で推移しており、ほぼ学内進学者が占めている。基礎となる学部志願者は、理工学部となってから順調に上昇基調にある。理工学部卒業生の受け入れが始まった平成 25 年度大学院入試では工学研究科志願者数においても増加傾向が見られる。

理工学部及び理工学研究科を開設している他大学の進学状況を鑑みると、理工学研究科開設による他大学からの進学に加え、本学学部生の進学率増加の余地が十分にある。

本学の前身である私立「哲学館」は、「余資なく優暇なき者のために教育の機会を開放する」の趣旨のもとに創立している。その趣旨を引き継いだ本研究科は、納付金の面で理工学研究科を開設している他大学と比較し、優位にあると考える。これらのことから、博士前期課程では約 90 名の志願者、80 名強の合格者を見込んでいる。

博士後期課程においては、各専攻の前期課程修了者の中から研究者を志す学内の進学者のニーズを満たし、学外からの外国人留学生や社会人には高度な研究に取り組む機会を提供する。学内での志願者獲得に向けた具体的な取り組みとしては、本学奨励金を積極的に活用して学会発表や論文投稿等の経験を積ませることで素養を高め、博士後期課程へ進学し研究活動を継続することに意識を向けさせる。各専攻の専門分野毎に 1 名の志願者を目指すものとする。

今までの実績を踏まえ、さらに学生募集の取り組みを強化することで、設定した入学定員数での学生の確保は可能であると考ええる。

資料① 入学定員設定の根拠となる学生確保の見通し

資料② 理工学部・理工学研究科を持つ他大学の進学率

資料③ 入学金及び授業料等の比較

社会的な人材需要（主な進路先）

本研究科では学部の学科構成との連続性を活かし、就職支援においても学部と連携した支援の継続・強化を図る。具体的には、学部で実施しているセミナーや説明会を大学院でも発展的に展開し、教員によるフォローも学部生の延長として一貫して実施する。ものづくりを中心とした産業（製造業・建設業・関連したサービス業など）の基幹的な技術職・研究開発職のほか、次世代のものづくり産業の展開を踏まえたフロンティア領域にかかわる企業との共同研究等を積極的に行うことによって人材需要の発掘を促し、学生の進路開拓を合わせて行う。次世代のものづくりを中心とした産業構造は、中核的な生産技術はもとより、製品開発やマーケティングなどの川上側ヘシフトしており、それらのもとになる基礎研究とともに、今後の各専攻の人材需要はより幅広い広がりを見せるものと考えている。理工学教育を受けた学生には、教職を進路として希望するものがおり、教育職員免許状の資格取得を可能にすることにより、就職先の幅を広げる対応をとっている。また、建築学専攻については 1 級建築士試験受験資格要件（実務の経験とみなされる 2 年又は 1 年の実務）の資格取得を可能にすることにより、即戦力としての人材需要にこたえる。

前身である工学研究科では、博士前期課程修了者の中に研究活動の継続を希望し、博士後期課程へ進学する学生が一定数存在している。課程修了後、大学や研究所等に採用され

た実績がある。

理工学研究科の各専攻で想定する業種と職種への求人、及び過去の就職実績を前身となる工学研究科の資料を元に示す。

生体医工学専攻では、主要な業種である製造業（科学・医療・化粧品、精密・工学・レンズ・医療、一般機械・産業機械など）、商社（医薬・化学・化粧品など）、サービス業（病院・医院・医療・保健衛生など）のほか、関連業種として、情報通信、公務員、輸送関連を進路先としてあげることができる。

応用化学専攻では、主要な業種である製造業（化学・医療・化粧品、食品・食糧、繊維製品・医療、繊維工業、プラスチック製品など）、商社（医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック、食品・飲料など）のほか、関連業種として、情報通信、サービス業、公務員を進路先としてあげることができる。

機能システム専攻では、主要な業種である製造業（化学・医療・化粧品、食品・食糧、繊維製品・医療、繊維工業、プラスチック製品など）、商社（医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック、食品・飲料など）のほか、関連業種として、情報通信、サービス業、公務員を進路先としてあげることができる。

電気電子情報システム専攻では、主要な業種である製造業（電気機械・照明、電子・デバイス、情報通信機械器具、自動車・輸送機器関連など）、情報通信（ソフトウェア・情報処理・情報サービス）、商社（機械器具、OA 機器等）のほか、関連業種として、サービス業、公務員を進路先としてあげることができる。

都市環境デザイン専攻では、主要な業種である建設業（総合（土木・建築）、建築・建設、土木・橋梁・造園・鉄骨、設備工事・プラント・内装など）、サービス業（コンサルタント・設計事務所など）、公務員のほか、関連業種として、メーカー、不動産業などを進路先としてあげることができる。

建築学専攻では、主要な業種である建設業（総合（土木・建築）、建築・建設、住宅など）、サービス業（コンサルタント・設計事務所など）のほか、関連業種として、公務員、不動産業、メーカー、商社、流通業、専門的サービス業などを進路先としてあげることができる。

いずれの専攻に対しても、定員に対して多くの企業からの求人があり、進路は質・量ともに十分に確保されている。前身である工学研究科での就職実績に示すように、学生の希

望に沿った多様な企業先への就職斡旋について実績がある。

資料④ 求人状況から見た専攻毎の人材需要「想定する進路（業種・職種）と過去の実績」

ウ 修士までの構想か、又は、博士課程の設置を目的とした構想か

工学研究科を発展的に改組し、理工学部との教育の連携性を高めるため、学生確保の見通しと社会的な人材需要に基づき、理工学研究科を設置する。

博士前期課程においては高度の専門的職業人材および教育者の養成を、博士後期課程においては研究者の養成を目的とする。

博士前期課程については、理工学共通分野科目を配置し、さらに理工学専門科目群や理工学研究指導科目群を配置した 4 専攻と、工学専門科目群と工学研究指導科目群を配置した 2 専攻とする。

博士後期課程については理工学系 4 専攻と工学系 1 専攻から構成する。

エ 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

研究科名称は、川越キャンパスを構成する理工学部をベースとし、修士（理工学）博士（理工学）を授与する 4 つの専攻（博士前期課程・博士後期課程）と、修士（工学）を授与する 2 つの専攻（博士前期課程）と、博士（工学）を授与する 1 つの専攻（博士後期課程）からなることを鑑み、理工学研究科とする。

本研究科の専攻名称および学位名称は以下のとおり、学部学科との連続性や一貫性を確立する。

研究科

研究科名称	英文名称
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering

博士前期課程

専攻名	専攻名（英文）	授与学位	授与学位（英文）
生 体 医 工 学	Master Course of Biomedical Engineering	修士（理工学）	Master of Science and Engineering
応 用 化 学	Master Course of Applied Chemistry	修士（理工学）	Master of Science and Engineering
機 能 シ ス テ ム	Master Course of Advanced Mechatronics Systems	修士（理工学）	Master of Science and Engineering

電 気 電 子 情 報	Master Course of Electricity, Electronics and Communications	修士（理工学）	Master of Science and Engineering
都 市 環 境 デ ザ イン	Master Course of Civil and Environmental Engineering	修士（工学）	Master of Engineering
建 築 学	Master Course of Architecture	修士（工学）	Master of Engineering

博士後期課程

専攻名	専攻名（英文）	授与学位	授与学位（英文）
生 体 医 工 学	Doctor Course of Biomedical Engineering	博士（理工学）	Doctor of Science and Engineering
応 用 化 学	Doctor Course of Applied Chemistry	博士（理工学）	Doctor of Science and Engineering
機 能 シ ス テ ム	Doctor Course of Advanced Mechatronics Systems	博士（理工学）	Doctor of Science and Engineering
電 気 電 子 情 報	Doctor Course of Electricity, Electronics and Communications	博士（理工学）	Doctor of Science and Engineering
建 築 ・ 都 市 デ ザ イン	Doctor Course of Architecture, Civil and Environmental System Design	博士（工学）	Doctor of Engineering

専攻名称については専攻の趣旨や目的に、学位に付記する名称については専攻のカリキュラムに沿うものとした。

（１）生体医工学専攻 ：修士（理工学）・博士（理工学）

生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と技術を修得し、細胞、分子レベルにおける医療技術の要求に応えることを目的とするため、専攻名称を生体医工学専攻とする。最先端技術である、ナノ・センシング、ナノマテリアル、免疫学、ナノテクノロジー、プラズマエレクトロニクスなど生体医工学分野と、理学的側面を重視した理工学共通分野を合わせたカリキュラムであり、学位に付記する「理工学」は適当である。

（２）応用化学専攻 ：修士（理工学）・博士（理工学）

広範な化学の基礎となる有機化学、無機化学、物理化学、分析化学をベースにした先端的材料の研究、開発や、生物化学、環境化学に立脚したセンサ技術の開発、エネルギー・

環境問題などへの対応を目的とするため、専攻名称を応用化学専攻とする。基礎化学系、環境化学系、バイオ・健康化学系、物質化学系にまたがる専門分野と、理工学共通分野からなるカリキュラムを実践することから、学位に付記する「理工学」は適当である。

(3) 機能システム専攻 : 修士(理工学)・博士(理工学)

諸力学に基礎をおく機械工学を基軸に、制御・センシング・情報処理とこれらの発展・融合領域をも包括した境界分野と、理学的側面を重視した理工学共通分野を合わせたカリキュラムであることから、学位に付記する「理工学」は適当である。機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分野における材料・基礎諸力学等にかかわる確かな見識と創造的な研究力を涵養することを目的とし、専攻名称は機能システム専攻とする。

(4) 電気電子情報専攻 : 修士(理工学)・博士(理工学)

現代における電気・電子・情報通信分野の領域は多岐にわたるが、そのシステム技術は複合技術であり、個々の技術或いは一つの技術領域だけでは実現困難である。専門分野に関連する領域にも対応できる人材養成を目的とするため、専攻名称は電気電子情報専攻とする。エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野と、それらの境界領域や融合領域と、理学的側面を重視した理工学共通分野を統合的に学ぶカリキュラムであることから、学位に付記する「理工学」は適当である。

(5) 都市環境デザイン専攻 : 修士(工学)

高度経済成長期に造られた公共物は更新時期を迎え、長寿命化対策や再構築を迫られている。地震などの自然災害多発国の日本にとって、道路や橋、上下水道の配備などには確かな技術力が求められる。これらの条件を満たしつつ、エネルギー問題を始めとする地球環境問題に対応した解決策を見出していく必要がある。人々が安全で安心、健康で快適な生活を支える健全な都市システムの実現と、都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる都市環境創出のスペシャリストの育成を目的とするため、専攻名称は都市環境デザイン専攻とする。建設関連分野をサステイナブル工学系、環境システム系、都市環境マネジメント系に分けたカリキュラムから学び、学位に付記する「工学」は適当である。

(6) 建築学専攻 : 修士(工学)

社会基盤である建築およびその集合体であるまち・都市の在り方について根本的な価値観の見直しとそれらのサステイナブルな再構築が求められている。こうした地球的規模からひとりの人間まで幅広い視点をおきながら総合的に建築・まち・都市の課題を捉え、安全、快適、機能的かつ人々の心に響く建築の形態と空間、そしてその延長線上にあるまち・

都市の景観を創造していくことを目的としていることから、専攻名称は建築学専攻とする。

建築学、都市工学、環境学の専門領域における先端の知識と技術、総合化する高度なプロデュース、デザイン、マネジメント能力を修得するカリキュラムを学ぶため、学位に付記する「工学」は適当である。

(7) 建築・都市デザイン専攻 : 博士(工学)

建築学、土木工学、都市工学、環境学を基盤とした高度で発展的、独創的な研究を展開する。建築・都市の計画、デザイン、建設、保全、マネジメントに関わる研究、実務は、多種多様な条件を整理しながら実施されるが、そこには相矛盾する要素が多く存在する。その中で、目指す目標を堅持しながら、他者と協調し柔軟性と創造力をもって最適解を見出し、実現に導く強い責任感と倫理感を兼ね備えた人材育成を目的とするため、専攻名称は、建築・都市デザイン専攻とする。博士前期課程の都市環境デザイン専攻と建築学専攻を発展・深化させた内容を扱うため、学位に付記する「工学」は適当である。

なお英語名称については、学部学科の英語名称との連続性を元に、各分野の国際学会等研究領域名を参照し、通用性を踏まえた名称としている。

オ 教育目標

研究科の教育目標

本研究科では、本学の教育理念「諸学の基礎は哲学にあり」を受け継ぐとともに、基礎的な自然科学の法則や考え方を理解し、それを応用することにより、環境と調和のとれた高度な専門能力と創造力を持つとともに、人間性豊かで倫理観を備えた研究者と高度の専門的な職業を担うことのできる能力を持つ人材の養成を目的としている。

【博士前期課程】

博士前期課程では、人材養成目的を踏まえ、次のような人材を育成することを教育目標とする。

- 1、理学と工学の融合した理工学の専門知識を踏まえた理工学の研究能力を有する人材
 - ・理工学の基礎となる専門知識を習得し、専門分野の先進的研究領域の広がり認識
 - ・独創的視点からの問題発見や科学的問題解決能力
 - ・専門的な知識のみならず、境界領域や新しい分野をも開拓しうる柔軟性
- 2、研究者・技術者・教育者として研究活動推進や研究発表などの実践能力を有する人材
 - ・グローバルな視点とローカルな価値観を理解する国際的視野
 - ・社会人として自らの考えを伝えるコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力

【博士後期課程】

博士後期課程では、人材養成目的を踏まえ、次のような人材を育成することを教育目標とする。

1、理工学の専門知識を踏まえ自律した理工学の研究推進能力を有する人材

- ・自ら研究プロジェクトを立ち上げ、研究リーダーとして独創的視点からの問題発見や科学的問題解決能力
- ・専門的な知識のみならず、境界領域や新しい分野をも開拓しうる柔軟性

2、研究者として研究活動推進や研究発表などのリーダーシップを持った実践能力を有する人材

- ・グローバルな視点とローカルな価値観を理解する国際的視野
- ・海外の研究者・技術者に対して自らの考えを伝えるコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力

各専攻が設定している教育目標は、以下のとおりである。

専攻の教育目標

【博士前期課程】

[生体医工学専攻]

生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と技術を修得し、問題設定・解決能力を備え、論理的思考とプレゼンテーションが行える人材の育成を教育目標とする。

[応用化学専攻]

広範な化学の基礎となる有機化学、無機化学、物理化学、分析化学をベースにした先端的材料の研究、開発や、生物化学、環境化学に立脚したセンサ技術の開発、エネルギー・環境問題などへの対応もできる、高度な専門性を有する人材を育成することを教育目標とする。

[機能システム専攻]

機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分野における材料、基礎諸力学等にかかわる確かな見識と研究推進能力を修め、自発的な問題探索力とその解決・提案能力を備えた人材の育成を教育目標とする。

[電気電子情報専攻]

エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた人材の育成を教育目標とする。

[都市環境デザイン専攻]

土木工学・環境学などの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を備えた人材の育成を教育目標とする。

[建築学専攻]

建築学・都市工学・環境学の専門領域における先端の知識と技術、総合化する高度なプロデュース、デザイン、マネジメント能力を修得し、課題設定・解決能力を持ち、責任感と倫理観を備えた人材の育成を教育目標とする。

【博士後期課程】

[生体医工学専攻]

生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と創造的な研究能力を修得し、広い視野をもち、問題設定・解決能力およびリーダーシップを備えた人材の育成を教育目標とする。

[応用化学専攻]

先端材料、生物化学、環境化学などの広範な化学分野のテーマについて、哲学的思考と環境倫理観を備え、独自の視点に基づいた極めて高度な研究を独立して遂行できる人材の育成を教育目標としている。

[機能システム専攻]

機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域と、機械科学分野における材料・基礎諸力学等にかかわる確かな見識と創造的な研究力を涵養するとともに、広範な視野を有し、問題設定・解決能力および異技術分野間の仲立ちとなり得るリーダー的資質を備えた人材の育成を教育目標とする。

[電気電子情報専攻]

エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野、あるいはそれらの境界領域や融合領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた人材の育成を教育目標とする。

[建築・都市デザイン専攻]

建築学・土木工学・都市工学・環境学などの専門領域における高度な知識と創造的、独創的な研究能力を修得し、関連専門分野を横断的に捉えながら課題設定・解決能力および課題解決へ向けてのリーダーシップを備えた人材を育成する。

教育課程編成方針 カリキュラム・ポリシー

本研究科が教育目標に定める能力を養うため、以下の方針に沿ったカリキュラムを編成する。

(1) 理学と工学の融合した理工学の専門知識

- ・理工学の基礎となる専門知識の習得
- ・専門分野の先進的研究領域の広がり理解
- ・問題発見・解決能力、独創的視点の習得
- ・科学的問題解決能力
- ・専門的な知識のみならず、境界領域や新しい分野をも開拓しうる柔軟性

(2) 実践能力

- ・グローバルな視点とローカルな価値観を理解する国際的視野
- ・社会人として自らの考えを伝えるコミュニケーション及びプレゼンテーション能力
- ・研究活動を通じて実践的な語学力
- ・学内での具体的な調査・研究活動、国内外での学会発表・論文投稿
- ・インターンシップを通じた体験的実践能力

各専攻でのカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである。

	専攻名	専攻でのカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）
博士前期課程	生 体 医 工 学	理工学、生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における科目を配置し、知識と技術を体系的に修得できるカリキュラムを編成する。
	応 用 化 学	基礎化学系、環境化学系、バイオ・健康化学系、物質化学系の4つの分野の科目を配置し、社会の諸問題に自発的に対応できる基礎学力と応用力を身に付けることを目的に、基礎科目と先端の科目の両方を配置している。
	機 能 シ ス テ ム	機械科学分野における材料・基礎諸力学等の専門領域における科目と機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域を配置し、確かな見識と研究手法を体系的に修得できるカリキュラムを編成する。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各専門分野における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
	都 市 環 境 デ ザ イ ン	サステナブル工学、環境システム、都市環境マネジメントの各専門分野における科目を配置し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
	建 築 学	計画・デザイン、テクニカルデザイン、建築・都市マネジメントの専門

		分野における科目を配置し、先端の知識と技術、建築設計手法、マネジメント手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
博士 後期 課程	生 体 医 工 学	生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域あるいはそれらの境界領域や融合領域における科目を配置し、知識と創造的な研究能力を体系的に修得できるカリキュラムを編成する。
	応 用 化 学	独自の視点に基づいた極めて高度な研究を独立して遂行できる能力とその成果を広く社会に発信できる能力とを備えた人材の育成が可能となるように、環境化学系、バイオ・健康化学系、物質化学系の3つの分野のカリキュラムを編成している。
	機 能 シ ス テ ム	機械科学分野における材料・基礎諸力学等の専門領域における科目と機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域あるいはそれらの境界領域や融合領域における科目を配置し、高度な見識と創造的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野、あるいはそれらの境界領域や融合領域における科目を配置し、高度な知識と創造的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン	建築学・土木工学・都市工学・環境学などの専門分野における科目あるいはそれらの境界領域や融合領域における科目を配置し、高度な知識と創造的、独創的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。

なお、授業および研究指導の方法及び計画、成績評価の基準等については、シラバスに明示する。

カ 教育課程の編成の考え方及び特色

理学と工学の融合を進めるため、4専攻「修士(理工学)」は理工学共通分野科目(8科目)をベースとし、その思考を専門科目群で学習展開していけるように科目配置する。2専攻「修士(工学)」は建築・都市・環境分野のエキスパートを育成するため、分野に特化した専門科目を数多く配置する。

学生は、研究科共通科目群、理工学共通科目群、専門科目群という授業科目の中から特定の専門分野の科目を選択・履修し、指導教員の研究指導のもとに研究課題に取り組むことにより、論理的な思考能力、自ら問題を発見しそれを解決していく姿勢とその方法論を身につける。

本研究科では、春学期と秋学期のセメスタ制を取っている。各専攻で定めた分野ごとに、春学期と秋学期でバランスよく科目を配置しており、年間を通じ学生が目指す方向性に合わせて、体系的かつ柔軟に科目を組み合わせることで履修することが可能である。同時に、時間的

自由度を確保する必要がある実験・調査を含めた各自の研究活動、学外でのインターンシップ活動などができるよう、年間のスケジュールでも配慮している。

学部教育との連続性・一貫性を構築するため、各専攻での教育・研究の狙い・意義・位置付けが学部の段階から学生にとって分かりやすいよう、学部と博士前期課程と合わせて6年間を見通し、系統的、一貫性を持って学習を進め、研究活動に取り組めるように設定している。大学院の科目は、学部カリキュラムを発展・深化させることでより高度な内容かつ、専門性を高める科目と位置付けて配置することで学習に連続性を持たせている。加えて、研究科レベルとして応用的な展開をするため、関連する周辺領域の学習にも配慮した科目を配置している。博士前期課程の授業科目では、本学が教育方針に掲げる“国際化”“キャリア教育”に対応した実践的な科目（サイエンス・イングリッシュ特論、ベンチャー・サイエンス特論）を共通科目に配置する。

【理工学共通分野科目】

・理学に基づいた基礎的な自然科学の法則や考え方を習得するために、解析学、物性物理学、医用物理学、プラズマ物理学、ナノサイエンス、エコロジーと化学、光科学、シミュレーション学といった理工学共通分野科目を配置し、選択必修科目とする。

【国際化対応】

・英語による学術論文作成のための論文作成法・校正、国際学会等での発表を意識した英語によるプレゼンテーション技法を習得するための「サイエンス・イングリッシュ特論」を研究科共通科目として配置する。

・専門科目等において、1セメスタの教育のうち複数回にわたり英語による教育を盛り込む科目を配置する。研究指導においても、論文投稿できる記述や国際学会等で発表できる素養を身につけるよう、適宜指導を行う。

【キャリア形成対応】

・起業や特許取得を前提としたワークショップ型の「ベンチャー・サイエンス特論」を研究科共通科目として配置する。

・教育者の輩出を目指した、専修免許取得のための教科に関する科目の設定、一級建築士の実務経験認定のためのインターンシップ科目等について、単位認定を実施する。

・キャリア形成での展開可能性を見据え、「各専攻の主要な就職分野としての核となる職種」、「今後社会や産業が次世代に向けて強化を図ろうとしている関連周辺領域職種」の、両者に展開可能な教育内容を専門科目の中で盛り込む工夫をする。

【教職課程の対応】

・高等学校教諭専修免許状（理科、工業）、中学校教諭専修免許状（理科）取得に対応する

ため、それぞれの学習指導要領に定められた内容についても配慮し、シラバスで定めた講義を行う。

資料⑤ 博士前期課程修了までのスケジュール

資料⑥ 博士後期課程修了までのスケジュール

各専攻が設定している教育課程の編成の考え方及び特色は、以下のとおりである。

【博士前期課程】

〔生体医工学専攻〕

- 1) 生物科学分野では、健康・生活の質向上に対応する学問領域の総合的教育と研究を行う。生理学、人体の仕組み、生体防御学といった人体の仕組みに関する学際的領域と生物流体力学、分子・遺伝生物学といった生物にかかわる学問領域を体系的に学ぶ。
- 2) 医工学分野では、最先端医療工学に関する総合的な教育と研究を行う。医用システム工学、生体情報工学、ナノメディシン、量子ビーム医工学など細胞、分子レベルにおける医療技術に対応する最先端工学領域を体系的に学ぶ。

〔応用化学専攻〕

- 1) 物理化学、分析化学、無機化学、有機化学をはじめとする基礎系科目を明示して分かりやすく配置し、先端的科目も数多く開講する。
- 2) 環境倫理意識向上を目的に、地球科学的視点に立った環境動態の把握や生物化学的観点からの物質循環の理解を深めるため、生物化学系科目や環境化学系科目を配置し、低環境負荷実現に向けた技術、考え方を学ぶ。

〔機能システム専攻〕

- 1) 機械融合分野においては、先端的メカトロニクスのシンセシスに必須の学問領域について、総合的な教育と実践的な研究を行う。具体的には、制御工学・ロボット工学および、これらに付随した情報処理の手法と、センシング工学、マイクロメカトロニクス等の情報採取や基本機構のシンセシスにかかわる学問領域を体系的に学ぶ。
- 2) 機械科学分野においては、材料とその基礎物性、種々の場の特性などに関する総合的な教育とこれに対応した研究を行う。具体的には、機能材料学、航空宇宙科学、流体・熱統計物理学など、ミクロからマクロにわたる材料・場のアナリシスに対応する科学領域を体系的に学ぶ。

〔電気電子情報専攻〕

電気・電子・情報通信の学問領域における専門分野と、分野に共通の基盤となる基礎分

野を体系的に学ぶ。基礎分野では、学部教育においても重要な基礎である専門科目をさらに充実させた発展的な内容で学ぶ。専門分野はエネルギー・制御、エレクトロニクス、および、情報通信の 3 つとし、それぞれにおける専門的教育と研究を行うが、専門科目は複数の分野に渡って学ぶことができる。エネルギー・制御分野では電力を始めとするエネルギーに関わる学問領域を学ぶ。エレクトロニクス分野では電子デバイスや光エレクトロニクスなど物性に関わる学問領域を学ぶ。情報通信分野では情報通信技術、情報処理技術、コンピュータ技術などを中心に関連するテーマを幅広く学ぶ。

[都市環境デザイン専攻]

サステナブル工学系、環境システム系、都市環境マネジメント系における基礎から応用までの総合的な教育と研究を行う。交通マネジメントを含む都市計画の段階から、設計、施工管理、メンテナンスへと連続したプロセスに沿って各論を学び、全体の流れをまとめ、実践することのできるマネジメント能力の育成をはかる。また、環境システムに関係した幅広い科学的知識を基盤とし、環境政策、社会経営学などの社会科学をあわせて学ぶことにより、良好な社会環境のあり方についての学識を得て、都市環境デザイン分野のスペシャリストに相応しい専門スキルを身につける。

[建築学専攻]

建築計画、建築デザイン分野から編成する計画・デザイン系、構造・材料、環境・設備分野から編成するテクニカルデザイン系、都市計画・まちづくり分野、建築生産、建築経済分野から編成する建築・都市マネジメント系により教育課程を構成している。これらの専門科目と研究科共通科目、専攻特別講義を組み合わせ、専門領域の高度な知識とそれらを横断的に捉え展開する手法を学ぶ。さらに、特別設計演習、インターンシップにより建築・都市のプロデュース、デザイン、マネジメントの実践教育を実施することで建築・都市分野の専門能力とスキルを学ぶ。

【博士後期課程】

[生体医工学専攻]

1) 生物科学分野では、生物に関わる学問領域および人体の仕組みに関する学際的学問領域の教育と研究を行う。生物流体力学、分子・遺伝生物学といった生物に関わる学問分野と生理学、人体の仕組み、生体防御学といった人体の機能に関わる学問分野を体系的に深いレベルで学び、専門能力を養う。

2) 医工学分野では、最先端医療工学に関する総合的な教育と研究を行う。医用システム工学、生体情報工学、ナノメディスン、量子ビーム医工学など細胞、分子レベルにおける医療技術に対応する最先端工学領域を体系的に、かつ十分な深さで学ぶ。

[応用化学専攻]

- 1) 環境化学系では、環境汚染に関わる研究や野外での調査研究、二酸化炭素の固定化反応、環境低負荷材料の開発、環境汚染物質の新規分析法などについて、独創的でオリジナルな研究が出来るよう、能力を身に付ける。
- 2) バイオ・健康化学系では、バイオプロセスの設計および運転に役立つ研究や、微生物毒の制御を主題とした生物化学・分子生物学・分析化学におよぶ広い範囲の研究を、独創的かつオリジナルに行う。
- 3) 物質化学系では、無機固体蛍光材料に関する研究や、新炭素系材料の合成法開発ならびにその物性研究を、独創的かつオリジナルに行う。

[機能システム専攻]

機械工学分野を基盤としつつ、さらに高度かつ広範な教育と研究を行う。従来の機械工学の範疇を超えた新分野を包含しつつ、機械の諸力学・ロボティクス、制御・情報処理、機能材料をベースとした境界領域に関連する先端的な領域に関して系統的に学ぶ。

[電気電子情報専攻]

電気・電子・情報通信分野における高度な学際的教育と研究を行う。エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信のそれぞれの専門分野からその境界領域や融合領域にまで渡る広い学問分野を、体系的でかつ十分なレベルまで学ぶ。

[建築・都市デザイン専攻]

建築学・土木工学・都市工学・環境学分野における高度な教育と研究を行う。建築分野における都市マネジメント、計画・デザイン及びテクニカルデザインにおける各論と、土木工学・環境工学分野のそれに対応する都市環境マネジメント、サステナブル工学及び環境システム工学における各論、それらを発展させたマネジメント能力の育成、環境政策をはじめとする社会科学、さらには、建築デザイン領域と都市デザイン領域の融合分野までを深いレベルで系統的に学び、専門能力とスキルを養う。

キ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織は、本学理工学部には所属する専任教員を中心に、教員資格審査により適格と認められた教員で構成する。専任教員数は大学院設置基準に定める教員数を確保できている。また、産学連携教育センターの構成員や学外の研究機関との連携を密にする。客員教員などの制度を活用し、国内外の産学界・実業界で活躍している研究者・実務経験者と連携して教育を行う。

教員組織の編成

以下に示す構成のとおり、大学院設置基準に定める研究指導教員数 4 名以上、および、研究指導教員数と研究指導補助（講義科目担当）教員数合わせて 7 名以上の条件を満たしている。

専攻	博士前期課程				博士後期課程			
	教 授	准教授	講 師	合 計	教 授	准教授	講 師	合 計
生 体 医 工 学	9 (0)	1 (0)	0 (0)	10 (0)	8 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (0)
応 用 化 学	8 (1)	1 (0)	0 (0)	9 (1)	6 (1)	1 (0)	0 (0)	7 (1)
機 能 シ ス テ ム	7 (0)	4 (0)	1 (0)	12 (0)	5 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (3)
電 気 電 子 情 報	9 (1)	3 (0)	0 (0)	12 (1)	6 (2)	2 (0)	0 (0)	8 (2)
都 市 環 境 デ ザ イ ン	5 (0)	2 (0)	0 (0)	7 (0)	—	—	—	—
建 築 学	4 (0)	5 (0)	0 (0)	9 (0)	—	—	—	—
建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン	—	—	—	—	8 (2)	5 (4)	0 (0)	13 (6)

※博士前期課程教員数は博士後期課程教員数を含む

※（ ）内は研究指導補助「講義科目担当」教員数（内数）

完成年度での専任教員 60 名中、58 名の教員が博士学位を所持し、うち 1 名は複数の博士学位を所持している。残る 2 名は修士学位を所持している。

理工学研究科の教員は学部教授会で採用されており、基本的には学部学科の教員のうち、大学院の教員資格審査で認められた教員が、大学院教育を担っている。

なお、教員の定年年齢は本学の就業規則により規定されている。完成年度まで担当教員の手当てはできており、本研究科設置後に特定の年度で退職者が集中する状況にはない。

担当科目との関係

教員資格審査において、当該教員が担当する授業科目に関係ある研究業績の内容、質、件数を踏まえて、慎重な審査を実施する。各教員の担当講義科目数は年間 1 ないし 2 科目とし、特定の教員に偏らないように配慮する。教員が複数科目を受け持つ場合には、学生が在学中に必ず履修できる時間割となることを念頭に、隔年開講科目や春学期と秋学期のセメスタで出来る限り重複を避けて設定し、教員の負担を分散する。ただし、専攻における中核的な科目は毎年開講する。インターンシップ科目などは、学生の参加が他の授業に支障を来さないよう、長期休暇等に設定する。必修を含む研究指導科目における各教員と学生定員との関係は、学生の希望分野に配慮しつつ、教員一人当たりの指導学生数が適切な人数の配分となるようにする。

資料⑦ 授業の分類と時間割、分野を受け持つ専任教員数（除く 共通分野）

ク 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

教育方法及び研究指導

修士学位論文又は特定課題研究及び博士学位請求論文の作成にあたっては、指導教員を決めて、研究内容を相談し、研究題目を決める。博士前期課程においては学生 1 名につき主指導教授 1 名・副指導教授 1 名の計 2 名、博士後期課程においては主指導教授 1 名・副指導教授 2 名の計 3 名の体制で指導に当たる。

研究の倫理審査体制については、「東洋大学生命科学部・総合情報学部・理工学部ヒト及びヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会」、「東洋大学動物実験委員会」を設置し、個々の研究の取り組みについて必要な審査を実施した上で取り組むことと定めている。

履修指導

入学直後にガイダンスを実施し、本研究科での円滑な学修及び研究にいち早く専念できるよう、各種手続き等について説明を行う。教育課程表や時間割、年間行事予定等を中心とした標準修了年限までのスケジュールの確認、修了要件や学位論文の提出要件、図書館の利用法や奨学金の申請など、説明は多岐にわたる。授業および研究指導の方法及び計画、成績評価の基準等については、本学ホームページに公開するシラバスに明記する。所属研究室の指導教員からは、研究題目の内容に沿った履修指導を個別に実施し、修了へ向けた研究等の進め方について必要な助言を行う。セメスタ制を導入していることから、学修状況に問題が発生した場合、半年毎に進捗状況を把握し、改善に向けた支援を図る。

資料⑧ 履修モデル

修了要件及び学位審査体制

【博士前期課程 修士(理工学・工学)】

本課程に 1 年以上在学し、本研究科のカリキュラム・ポリシーに沿って設定した博士前期課程・修士課程プログラムが定める授業科目を履修して、基準となる単位数（30 単位）以上を修得すると共に修士論文または特定課題研究の審査及び試験に合格することが、修士（理工学）・修士（工学）の学位授与の必要要件である。

論文指導または特定課題研究指導においては、主指導教授の他に副指導教授を 1 名以上

つける体制をとる。主指導教授は学生の論文題目の設定を補助し、題目に沿った履修科目のアドバイスを行う。修士論文または特定課題研究作成に向け、学会発表や論文投稿の機会を整え、外部との意見交換を促進し、論文内容の水準向上を図る。

修士論文または特定課題研究の審査及び試験は、主査の他に副査を 1 名以上とする体制をとりその論文が研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、修士学位申請者が研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する幅広い専門的知識を有しているかどうか等を基に行われる。

なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士前期課程を修了することができ、1 年以上在学すれば足りるものとする。

他大学（協定校）や本学の他研究科、他専攻における授業科目の履修については 10 単位まで修了単位認定科目に加算することができる。（同一名称の科目は 1 回のみ単位修得できる）

学位論文の作成に関する研究活動を研究指導科目として単位認定を行う。特別研究は分野のテーマに沿って研究を行い、それによって、研究の進め方、すなわち、文献調査、問題点の発見・設定、研究・実験方法の構成、結果の検証など、日々の研究活動を研究室・実験室で指導する。特別輪講・特別演習は、個別テーマに関する文献調査結果、研究計画、研究結果などについて、毎週時間を設定して受講者にプレゼンテーションを行わせ、論理性やその妥当性を議論し、学力を向上させるとともに、研究プロセスに必須なプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。また、専門分野の文献調査を通じて、修士論文作成や専門学会での発表に必要な高度な学力を修得させる。これらの学修の成果を評価して単位を授与する。

【博士後期課程 博士(理工学・工学)】

本課程に 5 年以上（博士前期課程・修士課程を修了したものは、当該課程における在学期間を含む）在学し、本研究科のカリキュラム・ポリシーに沿って設定した博士後期課程プログラムが定める研究指導を受けると共に博士論文の審査及び試験に合格することが、博士(理工学・工学)の学位授与の必要要件である。

論文指導においては、主指導教授の他に副指導教授を 2 名以上つける体制をとる。主指導教授は学生と論文題目を設定し、博士論文作成に向け、国内外での学会発表や論文投稿の機会を整え、外部の意見による論文内容の水準向上を促す。分野によっては、指導教員の指示で学生に外部研究機関での学外研究を勧め、研究所等での専門機器を使用して研究員の指導を受けさせ、高度な解析等に取り組ませる。

博士論文の審査及び試験は、主査の他に副査を 2 名以上とする体制をとり、その論文が研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、博士学位申請者が研究企画・推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識を有しているかどうか等を基に行われる。専攻の指導教員による審査のみならず、

外部審査員の招聘も積極的に取り組む。審査の過程では公聴会を行い、学位請求者が論文内容の発表を行う。

なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士後期課程を修了することができ、大学院に3年間（博士前期課程・修士課程を修了したものにあっては、当該課程における在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

学位授与方針 ディプロマ・ポリシー

【博士前期課程】

- ・学士課程での基礎・専門教育によって得た成果を発展させ、研究分野に関する幅広い専門的知識とともに、既成の専門分野にとらわれずに分野横断的に理解する広い学識を身につける。
- ・研究を通じた教育を介して、研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性等を備え、自ら課題を発見し解決する能力を身につける。

【博士後期課程】

- ・研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識の修得に加え、研究企画・推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における高い倫理性等を備えるとともに、新しい研究分野を国際的に先導することのできる自立した研究能力やリーダーシップを身につける。

各専攻でのディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

	専攻名	専攻でのディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
博士前期課程	生 体 医 工 学	生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と技術を修得し、問題設定・解決能力を身につける。
	応 用 化 学	環境化学、バイオ・健康化学、物質化学の講義や研究指導を通じて、学部教育で培った基礎学力を発展させて大学院における高度な専門知識を修得し、自己の専攻分野の諸問題に対する研究および対処能力を身につける。
	機 能 シ ス テ ム	機械科学分野における材料、基礎諸力学等にかかわる確かな見識と機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域における研究推進能力を修め、自発的な問題探索力とその解決・提案能力を身につける。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を身につける。
	都 市 環 境 デ ザ イン	サステイナブル工学、環境システム、都市環境マネジメントの専門領域における確かな知識と研究能力を修得し、問題設定・解決能力を身につける。

	建 築 学	計画・デザイン、テクニカルデザイン、建築・都市マネジメントの専門分野における先端の知識と技術、総合化する高度なプロデュース、デザイン、マネジメント能力を修得し、課題設定・解決能力を持ち、責任感と倫理観を身につける。
博士 後期 課程	生 体 医 工 学	生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と創造的な研究能力を修得し、広い視野をもち、問題設定・解決能力およびリーダーシップを身につける。
	応 用 化 学	環境化学、バイオ・健康化学、物質化学の各分野の研究指導を通じて、極めて高度な研究を独立して遂行できる能力を身につけ、その成果を社会に広く発信できる能力も身につける。
	機 能 シ ス テ ム	機械科学分野における材料、基礎諸力学等にかかわる確かな見識と機械融合分野における先端メカトロニクス関連領域における創造的な研究力を涵養するとともに、広範な視野を有し、問題設定・解決能力および異技術分野間の仲立ちとなり得るリーダー的資質を身につける。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野、あるいはそれらの境界領域や融合領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを身につける。
	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン	建築学・土木工学・都市工学・環境学などの専門領域における高度な知識と創造的、独創的な研究能力を修得し、課題設定・解決能力および課題解決へ向けてのリーダーシップを身につける。

学位論文の公表方法等

博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

特定課題についての研究成果の審査を行う場合

建築学専攻において、特定の課題についての研究の成果をまとめることで、修士学位論文に代えて修士設計としての審査を行うことができる。本専攻で修士設計を特定の課題の内容として課すことは、本専攻が建築学を活かし社会貢献する人材育成および一級建築士実務認定を目的としていることから、修士学位論文に代えることは適当である。特定の課題の内容として課すことに係る教育研究水準を確保するため、企画・設計能力、プレゼンテーション能力という点について十分配慮し、調査・研究遂行能力という点についても考慮した上で審査を行う。

専修免許状に関する概要

教員免許に必要な教職関連科目を学部で取得して教員一種免許状を持つ学生が、各専攻の履修表の科目（資料）で指定された 24 単位以上を取得すると、中学校と高校の「専修免許状」（資料）を得ることができる。（「中学校教諭専修免許状」、「高等学校教諭専修免許状」）
理工学研究科での専修免許状の種類は、以下のとおりである。

専攻	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	開講科目数
生 体 医 工 学	理 科	理 科	21 科目
応 用 化 学	理 科	理 科	23 科目
機 能 シ ス テ ム	理 科	理 科	15 科目
電 気 電 子 情 報	理 科	理 科	16 科目
都 市 環 境 デ ザ イン	工 業		14 科目
建 築 学	工 業		14 科目

資料⑨ 教育職員免許状 免許状取得に関する科目

インターンシップにおける学外実習の具体的な計画

建築学専攻では、国土交通省・建築教育普及センターに登録済のインターンシップ科目及び関連講義・演習科目を履修し、所定の単位数を修得すると、国家資格である 1 級建築士試験受験資格要件（大学院における実務経験要件）を満たせるカリキュラムになっている。修了時にその成績証明書により、実務経験を証明できる。履修したインターンシップの期間や修得単位数によって実務経験 1 年分あるいは 2 年分のどちらに相当するか定められている。

大学院生を引き受ける建築設計事務所等とのインターンシップ協定書を締結し、インターンシップを実施する。具体的には、インターンシップを希望する学生は大学からの紹介を受け、希望する建築設計事務所等に出向き、先方から受け入れの了承を取り付ける。了承された時点で、先方事業所と大学間で協定書を結び、それぞれ書面を保管する。成績については先方事業所から報告を受け、担当教員が成績評価する。成績評価及び単位認定は、単位数に必要とされるインターンシップ時間数により、その活動報告書、活動所見等に基づいて、インターンシップ担当教員が総合的に評価する。インターンシップ受け入れ先となる建築設計事務所は、前身である工学研究科での実績を踏まえ、学生の希望に基づいて、大規模組織建築設計事務所とアトリエ系建築設計事務所を準備する。

実習期間中のフォローについては、学生からの質問や相談に対して電話及びメールを活用し、適切なアドバイスを行う。

資料⑩ 一級建築士実務経験認定科目

ケ 施設・設備等の整備計画

校舎等施設の整備計画

本研究科の教育研究活動に必要な施設・設備等については、川越キャンパスにある理工学部配属されている施設・設備を共同で活用することから、新たな施設・設備等の整備は予定していない。前身である工学研究科が使用している施設・設備を継続して使用する。

大学院専有の部屋として、理工学研究科大学院実験・演習室（12 室 696.25 m²）、理工学研究科大学院講義室（7 室 315.3 m²）を用意しており、収容定員の（博士前期課程 78 名+博士後期課程 15 名）の専有スペースが確保されている。専攻ごとの施設・設備等は学部との共有部分を含め、大学設置基準上の所定の施設面積を十分に確保している。

研究教育活動にかかわる機械・器具は、生体医工学研究センターや木と建築で創造する共生社会研究センターなどの機器も含め、研究教育活動を行うための施設・設備が十分に備わっている。

資料⑪ 大学院専有スペース

図書等の資料及び図書館の整備計画

図書資料については、川越キャンパスの図書館（東洋大学図書館川越図書館）に約 19 万冊（図書、学術雑誌及び視聴覚資料 平成 25 年 3 月 31 日現在）の蔵書がある。広さは 2,896 m²であり、閲覧席 447 席を有し、十分な座席数が確保されている。

これまでの経緯から理工学系の図書が多く整備されており、それぞれの分野の図書資料についてはほぼ十分に備わっているが、さらに専攻分野の図書資料の充実に努める。本研究科に係る資料数は、現時点での川越図書館だけで、図書：約 5 万冊、学術雑誌：約 1 千冊、電子ジャーナル：約 5 万冊がある。

これらの図書および雑誌等の資料は、本学の所蔵検索システム（OPAC）で学内はもとより学外からも検索することが可能である。さらに、他キャンパス図書館資料の取り寄せ申込および予約も可能である。さらに国立情報学研究所（NII）が提供している NACSIS Webcat により総合目録データベースの情報検索が可能であり、相互貸借システムである NACSIS ILL により他大学図書館および他機関の文献複写や図書資料の取寄せも実施している。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム（青山学院大学、学習院大学、國學院大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、立教大学）をはじめとして、埼玉県大学・短期大学

図書館協議会の加盟大学・短期大学とも協定を結び、本学図書館にない文献についても利用可能である。

利用者に最新の情報を速やかに提供するため、毎年、データベース・電子ジャーナルの充実・整備を図っている。データベース・電子ジャーナルはホームページを通して公開しており、図書館内はもちろん各教員の研究室や PC 実習室からも利用できる。（一部、学外からも利用可。）なお、契約タイトルは本学図書館のホームページにより確認ができる。

(<http://www.toyo.ac.jp/site/library/>)

コ 既設の学部（修士課程）との関係

学部と大学院の関係

本研究科は川越キャンパスにある理工学部を基礎とする研究科であり、その上位教育機関である。学部教育を踏まえた更なる専門教育を目指す学生の受け皿になることを想定する。学部、博士前期課程、博士後期課程と、連続性を持った構成となっている。専任教員、内部進学者、教育内容の理工学部との関係は、資料のとおりである。

資料⑫ 既設学部・研究科との関係

外部研究機関等との連携

その他の機関との関係として、前身である工学研究科では、研究教育指導の委託先として、理化学研究所、海洋研究開発機構、国立身体障害者リハビリテーションセンター、埼玉工業大学との協力・連携関係があった。本研究科においても客員教授委嘱のほか、共同研究プロジェクトの実施を通じて、この関係を継続する。

本研究科を設置する川越キャンパスでは、工業技術研究所と産学協同教育センターを設置し、活発な研究・教育活動を行っている。本研究科の専任教員は、両研究所・センターの活動を支える構成員でもあり、大学院生の教育・研究活動において、連携して成果を共有する。両研究所・センターは、産業界と連携して研究・教育を進める上での窓口として機能する。学内組織である知的財産・産学連携推進センターでは、大学発ベンチャーの支援業務などで協力関係をより密にする。

資料⑬ 外部研究機関等との関係

サ 入学者選抜の概要

入学試験

春学期と秋学期で入学試験を年 2 回実施する。それぞれの試験において、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、学内推薦入試を設定する。入学時期は 4 月入学及び秋入学とし、博士前期課程の学内推薦入試については 4 月入学のみとする。

入試ごとの特徴は以下の通りである。

- ・一般入学試験は、「東洋大学大学院学則」第 30 条に定める者を対象とし、博士前期課程は英語試験、専門試験、面接、書類審査を課す。博士後期課程は英語試験、面接、書類審査を課す。
- ・社会人入試は、企業・法人に所属し、入学後も引き続き在職の意思がある者を対象とし、小論文試験（英語の設問含む）、面接、書類審査を課す。
- ・外国人留学生入試は、「東洋大学大学院学則」第 32 条に定める者を対象とし、面接、書類選考を課す。
- ・学内推薦入試は、本学理工学部学生で成績評定平均が 4.1 以上の者を対象とし、面接と書類審査を課す。ただし、原級者と学部の秋卒業者は除く。

資料⑭ 入学試験 種別と科目

個別の入学資格審査を要する受験者については、志望する専攻において書類審査の実施により、一般入学試験受験の可否を判断する。

飛び級による進学希望者については、志望する専攻において学業成績・修得単位数を確認し、面接の実施により一般入学試験受験の可否を判断する。

科目等履修生については、面接、書類審査を課す。研究生及び外国人研修生については、書類審査を課す。受入れ人数はいずれも若干名とし、選考試験は 9 月と 3 月に行う。科目等履修生の受講期間は半年とする。研究生及び外国人研修生の研究期間は半年もしくは 1 年間のどちらかを選択する。

入学者受け入れ方針 アドミッション・ポリシー

研究科としてのアドミッション・ポリシーは、設立の趣旨、教育理念・目標に基づき、次のような入学者を求める。

- ・理工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と意欲をもつ人。
- ・自然科学分野における基礎的な教養を身につけており、かつ特定の専門分野において十

分な基礎学力を備えている人。また、それらをもとに論理的に思考する姿勢と能力をもっている人。

- ・創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。
- ・研究活動に必要な英語力、コミュニケーション能力を身につけている人。
- ・積極的に研究課題に取り組む意欲と探究心に溢れている人。

以下の各専攻アドミッション・ポリシーに従い、本研究科各専攻の研究に関心があり、勉学・研究に情熱と意欲がある者に、広く門戸を開く。

各専攻のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

	専攻名	専攻でのアドミッション・ポリシー（求める学生像）
博士前期課程	生 体 医 工 学	数学、生物学、物理学または化学の基礎的学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。
	応 用 化 学	化学と専門英語の基礎学力を十分に持ち合わせ、勉学および研究に情熱と意欲を有する者。
	機 能 シ ス テ ム	諸力学、数学、電磁気学等にわたる十分な基礎的学力を有し、問題探索および解決能力を修得するに際し、強い意欲と困難を乗り越える強靱な意志を有する者。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信などの専門分野における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。
	都 市 環 境 デ ザ イン	土木工学・環境学などの専門領域における基礎的な学力を有し、問題設定・解決能力を修得することに強い意欲を有する者。
	建 築 学	建築学・都市工学・環境学の専門領域における基礎的な学力を有し、先端の知識と技術、建築設計手法、マネジメント手法を体系的に修得することに強い意欲を有する者。
博士後期課程	生 体 医 工 学	生物科学分野における基礎領域と医工学分野の先端応用領域における知識と創造的な研究能力を有し、広い視野をもち、問題設定・解決能力およびリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。
	応 用 化 学	化学と英語の学力を十分に持ち、新規の学問分野にチャレンジできる積極性と十分な基礎学力を有する者。
	機 能 シ ス テ ム	機械融合分野における先端メカトロニクス領域と機械科学分野における材料・基礎諸力学等の見識と創造的な研究能力を有するとともに、広範な視野を持ち、問題設定・解決能力および異分野間の仲立ちとなり得るリーダー的資質を体得することに強い意欲を有する者。
	電 気 電 子 情 報	エネルギー・制御、エレクトロニクス、情報通信の各分野、あるいはそ

		れらの境界領域や融合領域における確かな知識と研究能力を有し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。
	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン	建築学・土木工学・都市工学・環境学などの専門領域における確かな知識と研究能力を有し、課題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えることに強い意欲を有する者。

シ 管理運営

「東洋大学大学院学則」第7章の規定により、研究科委員会が設置されている。本研究科においても研究科委員会を設置し、「東洋大学大学院研究科委員会規程」に基づき運営することにより、一定の独立性を確保し、カリキュラムや人事等で独自の運営ができる体制となっている。

(研究科委員会の組織)

- 1) 本大学院の学事管理のため研究科毎に研究科委員会を置く。
- 2) 研究科委員会は当該研究科の研究指導を担当する専任教員をもって組織する。ただし、各研究科は必要に応じて専任教員の授業担当者および本学大学院学則第20条に規定する客員教授を加えることができる。

(研究科委員長)

- 1) 研究科に研究科委員長を置く。
- 2) 研究科委員長は研究科委員会において互選する。
- 3) 研究科委員長は研究科委員会を招集し、その議長となる。
- 4) 研究科の専攻に専攻主任を置く。
- 5) 専攻主任は当該専攻において互選し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(研究科委員会の審議事項)

- 1) 研究科委員長の推薦に関すること。
- 2) 研究科委員の選出に関すること。
- 3) 入学、退学、休学及び修了等に関すること。
- 4) 単位認定試験に関すること。
- 5) 学位論文審査及び授与に関すること。
- 6) 学生の指導及び賞罰に関すること。
- 7) 教育課程に関すること。
- 8) 授業科目担当者の推薦に関すること。

- 9) 大学院教員資格審査に関すること。
- 10) 人材の養成及び教育研究上の目的の公表等に関すること。
- 11) 成績評価基準等の明示に関すること。
- 12) 教育内容の改善のための組織的な研修に関すること。
- 13) その他必要と認めること。

ス 自己点検・評価

本学では、学校教育法第 109 条に対応して、東洋大学学則第 3 条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする」と定めている。

平成 7 年度に「東洋大学自己点検・評価基本構想委員会」のもと、全学的な自己点検・評価活動を実施し、その後、同委員会を「東洋大学自己点検・評価委員会」に改編するとともに、各学部・研究科にも自己点検・評価委員会を設置し、平成 19 年度には、全学的な自己点検・評価を実施して、その結果をホームページで公表している。

さらに平成 23 年度からは、従来の「東洋大学自己点検・評価委員会」を発展的に解消し、新たに「東洋大学自己点検・評価活動推進委員会」を設置した。同委員会は、副学長を委員長として、各学部・各研究科の自己点検・評価に係る委員会の委員長、教務部長、学生部長により構成され、本学全体及び各部署の自己点検・評価活動を支援するための方策、指針の決定や、本学各部署の自己点検・評価活動の検証を行うこととしている。

この体制のもとで、平成 23 年度からは、「学科・専攻等における自己点検・評価の実施ガイドライン」を定め、全学科全専攻において、毎年度、統一フォーマットによる自己点検・評価を行っている。評価項目については、大学基準協会の新評価システムに対応したものとし、各学科・各専攻が実施した自己点検・評価結果については、同委員会内で相互検証（ピア・レビュー）を実施することで、自己点検・評価の精度の向上に努めるとともに、全学的な集約・分析を行ったうえで、学長に報告を行っている。

また、各学科・各専攻の自己点検・評価結果において、目標への達成度が低かった項目については、自己点検・評価の実施後に、改善方策と改善時期の提出を各学科・専攻に求め、そのことを通じて内部質保証システムの構築を図っている。なお、この平成 24 年度の自己点検・評価結果については、現在、ホームページで公表されている。

上記のことから、本学では、学校教育法第 109 条に則して、本学の教育研究水準の向上に資するために、自己点検・評価に取り組んでいるといえる。

セ 情報の公開

本学では、平成 23 年 4 月に改正された学校教育法第 113 条及び学校教育法性向規則第 172

条の2に対応して、東洋大学学則第2条の2に「本学は、学校教育法施行規則第172条の2に定める教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする」、また、同第2項に「前項に規定するもののほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする」と定め、教育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第172条の2に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップ>大学紹介>情報公開>教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html>)

- 1) 大学の教育研究上の目的に関すること
 - ・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標
- 2) 教育研究上の基本組織に関すること
 - ・組織図 (<http://www.toyo.ac.jp/site/oc/>)
- 3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - ・教員数（職名・性別別、年齢別）
 - ・役職一覧（教員）
 - ・東洋大学研究者情報データベース
 - ・教員一人当たりの学生数
 - ・専任教員と非常勤教員の比率
- 4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - ・アドミッション・ポリシー
 - (各学科のページ、例 <http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html>)
 - ・入学者数（学部・学科別（1部／2部）、大学院、通信・附属高校）
 - ・定員数（学部・学科別（1部／2部）、大学院、通信・附属高校）
 - ・学生数（学部・学科別（1部／2部）、大学院研究科・専攻別、通信・附属高校・キャンパス別）
 - ・収容定員充足率 学部・学科別（1部／2部）
 - ・卒業者数・修了者数（学部（1部／2部）、大学院、法科大学院、通信）
 - ・就職データ・就職状況
- 5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - ・カリキュラム・シラバス紹介
- 6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
 - ・各学部・研究科・専門職大学院の履修要覧（抜粋）

- 7) 校地・校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境に関すること
 - ・各キャンパスの校地・校舎等 学生の教育研究環境
- 8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
 - ・納付金（学費等）
- 9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
 - ・学生生活、キャリア形成支援
 - ・留学生支援
 - ・障がい学生支援

また本学では、教育活動の情報提供について、ステークホルダーにより方法、媒体に工夫を加えており、特に、父母等に対しては、上記の公表のみではなく、年 5 回発行される上記の「東洋大学報」を毎号発送したり、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科主任等が教育活動を中心に大学の活動を報告するなど、積極的に情報の提供を行っている。

ソ 教員の資質の維持向上の方策

本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に対応して、東洋大学学則第 3 条の 3 に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」と定め、教育活動の継続的な改善の推進と支援を目的とした「東洋大学 F D 推進センター」「F D 推進委員会」を設置している。「東洋大学 F D 推進センター」では、以下の 6 点を中心に事業を行っている。

- 1) 教育内容・方法改善のための調査、研究及び支援
- 2) F D の研究会、研修会及び講演会等の企画・実施・支援
- 3) F D の啓発活動及び情報収集・提供
- 4) 教育活動改善のための教育環境の整備の検討
- 5) 各学部、研究科での F D 活動の情報交換及び調整・支援
- 6) F D 推進センターの P D C A サイクルの確立

また、F D 推進委員会では委員会全体での活動のほかに、5 つの部会（研修部会、大学院部会、授業改善対策部会、授業評価手法検討部会、編集部会）を設け、部会単位でも活動を行っている。各部会の活動概要は以下のとおりである。

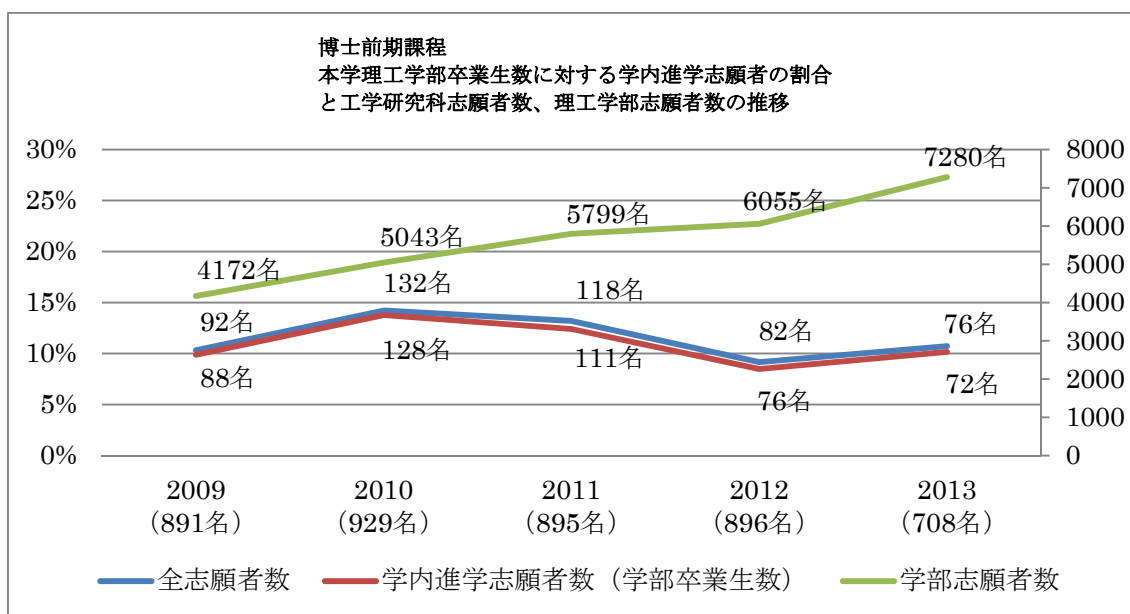
（1）研修部会

- 1) 新任教員の研修会の立案、実施
- 2) 一般教員の研修会の立案、実施
- 3) T A 研修会の立案、実施

- 4) F D 関連研修会、講演会の立案、実施
- (2) 大学院部会
 - 1) 大学院の F D の概念構築
 - 2) F D の実施内容の検討及び実施計画の立案
 - 3) 大学院各研究科の F D 活動状況報告会の立案、実施
- (3) 授業改善対策部会
 - 1) 授業改善のための情報や機会の提供
 - 2) 各学部 of F D 活動状況報告会の立案、実施
 - 3) 授業改善事例シンポジウムの立案、実施と教員優秀教員の評価法の検討、確立
 - 4) 成績評価及び教育業績評価の検討
- (4) 授業評価手法検討部会
 - 1) 全学的な授業アンケートの構築と運用
 - 2) 授業アンケートのフィードバックシステムの構築
- (5) 編集部会
 - 1) 事業計画書及び事業報告書の編集
 - 2) 出版物の企画・編集
 - 3) F D 関連研修会等の報告書のデータベース化

これらの「東洋大学 F D 推進センター」、「F D 推進委員会」及び各部会での活動に加えて、各学部・研究科での F D 活動がある。各学部・研究科は学部・研究科内に F D 委員会を設けたり、また自己点検・評価委員会と連携したりしながら F D 活動を進めており、全学で年に 1 回、「F D 活動状況報告会」を開催して、各学部の状況の共有化も進めている。上記のことから、本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に則して、「当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を実施しているといえる。

資料① 入学定員設定の根拠となる学生確保の見通し



※工学部（2012 年卒まで）と理工学部（2013 年卒）で入学定員数が異なる

※2009 年 4 月に理工学部を開設

※2013 年度入学の工学研究科志願者数は、2013 年 4 月入学までの数字

（秋入学の志願者数及び学部卒業生に秋卒業生数は含まない）

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

「大学の設置等の趣旨等を記載した書類」における「資料② 理工学部・理工学研究科を持つ他大学の進学率」【p 35 下半分】

2（出典）

蛭雪時代 2013（平成 25）年度用 大学の真の実力情報公開 BOOK 旺文社

3（引用範囲）

蛭雪時代 2013（平成 25）年度用 大学の真の実力情報公開 BOOK 旺文社の卒業生データより、理工学部及び理工学研究科を持ち、本学に近い専攻・分野を持つ大学の卒業生総数と進学者数を引用

4（その他の説明）

理工学部及び理工学研究科を持ち、本学に近い専攻・分野を持つ大学を本学近県で抽出し、それらの大学の卒業生総数と進学者数から進学率を算出して比較表を作成した。
表の下部に、出典を明記した。

著作権者の許諾が得られない書類等

1 (書類等の題名)

「大学の設置等の趣旨等を記載した書類」における「資料③ 入学金及び授業料等の比較」【p 36】

2 (出典)

東京電機大学、法政大学、慶応義塾大学、東京理科大学、明治大学、日本大学、中央大学、青山学院大学、上智大学 各大学ホームページ

3 (引用範囲)

東京電機大学 <http://web.dendai.ac.jp/>

法政大学 <http://www.hosei.ac.jp/>

慶応義塾大学 <http://www.keio.ac.jp/index-jp.html>

東京理科大学 <http://www.tus.ac.jp/>

明治大学 <http://www.meiji.ac.jp/>

日本大学 <http://www.nihon-u.ac.jp/>

中央大学 http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/index_j.html

青山学院大学 <http://www.aoyama.ac.jp/>

上智大学 <http://www.sophia.ac.jp/>

より、各大学の理工学研究科 平成 25 年 4 月入学向けの学費・入学金等の額について、平成 25 年 3 月時点の情報を引用

4 (その他の説明)

理工学部及び理工学研究科を持ち、本学に近い専攻・分野を持つ大学を本学近県で抽出した。それらの大学の理工学研究科平成 25 年 4 月入学向けの学費・入学金等を参照し、博士前期課程・博士後期課程、学内進学者・学外進学者毎に、平成 25 年 3 月時点の情報で比較表を作成した。入試区分や専攻により複数の金額設定があった場合は、一番低い額で算出した。

表の下部に、出典と情報を参照した時点の年月を明記した。

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

「大学の設置等の趣旨等を記載した書類」における「資料④ 求人状況から見た専攻毎の人材需要「想定する進路（業種・職種）と過去の実績」」【p 37～p 39】

2（出典）

J-NET 就職課向けシステム：<https://www2.kyujin-navi.com/position/index.asp>

（学内システム）

進路先一覧

（学内資料）

3（引用範囲）

J-NET 就職課向けシステムより、本学大学院工学研究科学生への求人情報から、理工学研究科の各専攻で想定する業種・職種を抽出し、求人企業数 2 年分を算出・引用
学内資料「進路先一覧」より、本学工学研究科修了生の就職先企業名を引用

4（その他の説明）

理工学研究科の各専攻が想定する業種・職種について、本学への求人情報（2013 年度採用、2014 年度採用）を元に、平成 25 年 3 月時点の求人企業数を算出した。各専攻が主要と位置付ける主な業種毎・年度毎に求人企業数と、本学工学研究科の実績から具体的な企業名から、想定する進路（業種・職種）と過去の実績の表を作成した。

表の下部に、引用元の説明と情報を参照した時点の年月、入学定員を明記した。

資料④ 求人状況から見た専攻毎の人材需要「想定する進路（業種・職種）と過去の実績」

機能システム専攻

機械科学分野、機械融合分野

想定する職種				
企画・プランニング職/デザイン関連職/コンピュータ関連職/プログラマー/システムエンジニア/管理・マネジメント職/生産管理・品質管理職/施工管理職/技術職/開発・研究職/機械・電気設計職/建築・土木設計職/製造・生産関連職/配送・物流関連職/専門・資格職(整備士含む)				
求人企業数 実績 ※1		過去の就職先 ※2		
主要業種		2013	2014	
製造業	a 一般機械・産業機械	212	265	㈱加藤製作所/㈱東京機械製作所/㈱不二越/㈱牧野フライス製作所/THK㈱/井関農機㈱/三井精機工業㈱/大森機械工業㈱/日立建機㈱/共同印刷㈱/大日本印刷㈱/凸版印刷㈱/㈱カネボウ化粧品/大成化工㈱/㈱アイチコーポレーション/スズキ㈱/日野自動車㈱/富士重工業㈱/グリコ乳業㈱/ネスレ日本㈱/ペンタックス㈱/東京計器㈱/理研計器㈱/㈱チノール/㈱東芝/㈱日立産機システム/オリエンタルモーター㈱/シナノケンシ㈱/船井電機㈱/㈱アルバック/㈱富士通ゼネラルエレクトロニクス/アルバック成膜㈱/新日本無線㈱/日本電波工業㈱/電源開発㈱
	b 電気機械・照明	101	100	
	c 自動車・輸送機器関連	69	99	
	d 情報通信機械器具	45	45	
	e その他	599	566	
建設業	a 設備工事・プラント・内装	190	291	東洋電装㈱/㈱巴コーポレーション
	b その他	186	361	
主要業種計		1402	1727	
その他(技術と社会の接点)				
輸送	a 陸上	27	45	東京エレクトロン㈱/オリンパスシステムズ㈱/富士ゼロックスアドバンステクノロジー㈱/日本放送協会
流通	b 機械器具・OA製品	147	164	
サービス	c メンテナンス・保守・修理	25	33	
	d その他	128	212	
その他計		327	454	
合計		1729	2181	

※入学定員 15 名（機能システム専攻 博士前期課程）

※1 2013 年 3 月時点で本学への求人企業数をカウント

※2 工学研究科での 2007 年度以降の主な就職先

電気電子情報専攻

エネルギー・制御分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野

想定する職種				
企画・プランニング職/コンピュータ関連職/プログラマー/システムエンジニア/生産管理・品質管理職/施工管理職/技術職/開発・研究職/機械・電気設計職/製造・生産関連職/専門・資格職(整備士含む)/教員(小学・中学・高校)/講師(塾など)/インストラクター				
求人企業数 実績 ※1		過去の就職先 ※2		
主要業種		2013	2014	
製造業 (メーカー)	a 電気機械・照明	100	72	㈱東芝/富士通㈱/㈱日立製作所/富士ゼロックス東京㈱/東芝ITコントロールシステム㈱/アイコム㈱/凸版印刷㈱
	b 電子・デバイス	54	39	
	c 情報通信機械器具	45	39	
	d 自動車・輸送機器・関連	68	58	
	e その他	26	12	
情報通信	a ソフトウェア・情報処理・情報サービス	942	680	日本アイ・ビー・エム㈱/NTTアドバンステクノロジ㈱/NECソフト㈱/マイクロソフト㈱/NECマイクロスシステム㈱/日立ソフトウェアエンジニアリング㈱/ジャパンケーブルネット㈱/東芝ITコントロールシステム㈱/アイコム㈱
	b 映像・TV番組・音楽 製作配給	30	24	
商社	c 機械器具・OA製品	143	99	
	d その他	38	18	
主要業種計		1446	1041	
その他(技術と社会の接点)				
サービス	a 学校・学習塾・教育支援	78	48	埼玉県中学校教員/学校美林学園
公務員	b 公務員	10	2	
	c その他	52	27	
その他計		88	50	
合計		1534	1091	

※入学定員 11 名（機能システム専攻 博士前期課程）

※1 2013 年 3 月時点で本学への求人企業数をカウント

※2 工学研究科での 2007 年度以降の主な就職先

資料④ 求人状況から見た専攻毎の人材需要「想定する進路（業種・職種）と過去の実績」

都市環境デザイン専攻

サステナブル工学分野、環境システム分野、都市環境マネジメント分野

想定する職種				
管理・マネジメント職/生産管理・品質管理職/施工管理職/技術職/開発・研究職/建築・土木設計職/教員(中学・高校)/総合職/総合職(地域限定)/一般職				
主要業種		求人企業数 実績 ※1		過去の就職先 ※2
		2013	2014	
建設業	a 総合(土木・建築)、建築・建設	356	268	五洋建設㈱/東亜建設工業㈱/前田道路㈱//高砂熱学工業㈱/三機工業㈱/㈱エム・テック/伊田テクノス/丸藤シートバイル㈱
	b 土木・橋梁・造園・鉄骨	120	100	
	c 設備工事・プラント・内装	458	295	
	d 住宅	86	63	
サービス	a コンサルタント・設計事務所	218	128	JFE環境㈱/㈱日建アクトデザイン/㈱オオバ/㈱建設企画コンサルタント/㈱第一地研開発//信和設計㈱/㈱データベース㈱/国土交通省 関東地方整備局/東京都庁/東京消防庁/茨城県庁/群馬県庁/埼玉県庁/埼玉県教育委員会/松戸市役所/上尾市役所/(独)国立環境研究所/
公務員	b 公務員	17	4	
主要業種計		1255	858	
その他(技術と社会の接点)				
メーカー	a 不動産取引業、不動産賃貸業	138	95	ヒューリック㈱/東海旅客鉄道㈱/JFEエンジニアリング㈱/コスモ・サイエンティフィック・システム/リコーロジスティクス㈱
流通	b 総合、建材・木材・再生資源	67	44	
サービス	c 学校・専門学校	46	4	
	e その他	41	17	
その他計		292	160	
合計		1547	1018	

※入学定員 8 名（都市環境デザイン専攻 博士前期課程）

※1 2013 年 3 月時点で本学への求人企業数をカウント

※2 工学研究科での 2007 年度以降の主な就職先

建築学専攻

計画・デザイン分野、テクニカルデザイン分野、建築・都市マネジメント分野

想定する職種				
営業職/企画・プランニング職/デザイン関連職/管理・マネジメント職/生産管理・品質管理職/施工管理職/技術職/開発・研究職/建築・土木設計職/教員(中学・高校)/総合職/総合職(地域限定)				
主要業種		求人企業数 実績 ※1		過去の就職先 ※2
		2013	2014	
建設業	a 建設業	301	519	ボラス㈱/清水建設㈱/川口土木建築工業㈱/大成建設㈱/鉄建建設㈱/日本国土開発㈱/林建設㈱/ジョンソンコントロールズ㈱/エス・バイ・エル㈱/大和ハウス工業㈱
	b 住宅	59	71	
	c その他	158	224	
サービス(建築系)	a コンサルタント・設計事務所	133	128	UAO一級建築士事務所/マナ建築設計室(株)/奥野公章建築設計室/㈱梓設計/㈱伊藤建築設計事務所/㈱教育施設研究所/㈱計画設計研究所/㈱建設企画コンサルタント/㈱荒井設計/㈱三上建築事務所/㈱中島工務店/㈱豊建築事務所/山辺構造設計事務所/津野建築設計室/㈱小川博央建築都市設計事務所/㈱スペースユニオン
主要業種計		651	942	
その他(技術と社会の接点)				
公務員	a 公務員	17	4	大和リース㈱/㈱さいたま住宅検査センター/ジェイアール東日本ビルテック㈱ジョンソンコントロールズ㈱
不動産業	b 不動産取引	140	158	
メーカー	c メーカー	39	39	
流通	d 商社・流通	112	158	
	e その他(専門サービス)	182	161	
その他計		490	520	
合計		1141	1462	

※入学定員 14 名（建築学専攻 博士前期課程）

※1 2013 年 3 月時点で本学への求人企業数をカウント

※2 工学研究科での 2007 年度以降の主な就職先

資料⑤ 博士前期課程修了までのスケジュール

理工学研究科 博士前期課程

1
セ
メ
ス
タ

1
年
次

4月上旬 : 入学・就学手続き・履修ガイダンス
4月中旬 : 履修登録
5月上旬 : 論文題目提出・指導教員届出

9月上旬 : 成績発表

※論文題目に合わせ、基礎科目・専門科目を履修指導する。
※研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2
セ
メ
ス
タ

9月下旬 : 履修登録

3月上旬 : 成績発表

※自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等の
レビュー作成を指導する。
※到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
※研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと
討論を経験させ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3
セ
メ
ス
タ

2
年
次

4月上旬 : 進級手続き
4月中旬 : 履修登録・中間発表
5月上旬 : 論文題目提出
9月上旬 : 成績発表

※確定した研究テーマに基づいて調査、実験を行い、研究方法の妥当性を
検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。
※国内外の学会発表・論文投稿等、積極的に取り組むよう指導する。

4
セ
メ
ス
タ

9月下旬 : 履修登録
1月下旬 : 修士論文提出・主査副査決定
2月上旬 : 修士論文等審査
2月中旬 : 修士学位論文等口述試験
3月上旬 : 成績発表・修了要件充足者発表
3月中旬 : 修了決定者発表
3月下旬 : 学位記授与式・修了

※修士論文の骨子について、検討する。
※研究精度を高め、修士学位論文にまとめる。

資料⑥ 博士後期課程修了までのスケジュール

理工学研究科 博士後期課程

1 年次	1 セメスタ	4月上旬 : 入学・就学手続き・履修ガイダンス 4月中旬 : 履修登録 5月上旬 : 論文題目提出・指導教員届出 9月上旬 : 成績発表 ※論文題目に合わせ、実験装置の操作技術を修得する。 ※研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法を確認する。
	2 セメスタ	9月下旬 : 履修登録 3月上旬 : 成績発表 ※国際学会での論文投稿や学会発表を視野に、研究に関連する英語のレビュー作成を指導する。 ※研究テーマに関連した英語によるプレゼンテーションと討論を経験させ、英語のプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。
2 年次	3 セメスタ	4月上旬 : 進級手続き 4月中旬 : 履修登録 5月上旬 : 論文題目提出・指導教員届出 9月上旬 : 成績発表 ※確定した研究テーマに基づいて調査、実験を行う。 ※研究方法の妥当性を検証し、研究成果のとりまとめと評価を行う。
	4 セメスタ	9月下旬 : 履修登録 3月上旬 : 成績発表 ※自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成を指導する。 ※研究精度を高め、博士論文に活かす指導を行う。国内外の学会発表等に積極的に取り組むよう指導する。
3 年次	5 セメスタ	4月上旬 : 進級手続き 4月中旬 : 履修登録 5月上旬 : 論文題目提出・指導教員届出 9月上旬 : 成績発表 ※国内外での論文投稿、学会発表を通じて、研究の精度や内容の充実を図る。
	6 セメスタ	9月下旬 : 履修登録 1月下旬 : 博士学位論文提出・主査副査決定 2月上旬 : 博士論文審査 2月中旬 : 博士学位論文口述試験・公聴会 3月上旬 : 成績発表・修了要件充足者発表 3月中旬 : 修了決定者発表 3月下旬 : 学位授与式・修了 ※掲載論文数を確認し、博士論文の骨子を検討する。 ※研究精度を高め、博士学位論文にまとめる。

資料⑦ 授業の分類と時間割、分野を受け持つ専任教員数（除く 理工学共通・共通科目）
生体医工学専攻

分 野 (教員数:10名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
理 工 学 共 通	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 物 性 物 理 学	解 析 学 シミュレーション学 ナノサイエンス	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 エコロジーと化学	解 析 学 光 科 学 シミュレーション学
生 物 科 学 (5名)	数 理 生 物 学 特 論 生 物 模 倣 特 論 人 間 工 学 特 論 生 理 学 特 論 生 体 防 御 学 特 論	分子・遺伝生物学特論 生体流体力学特論 運 動 科 学 特 論 生 物 学 特 論	数 理 生 物 学 特 論 生 物 模 倣 特 論 人 間 工 学 特 論 生 理 学 特 論 生 体 防 御 学 特 論	分子・遺伝生物学特論 生体流体力学特論 運 動 科 学 特 論 生 物 学 特 論
医 工 学 (5名)	医用システム工学特論 基 礎 医 学 特 論 生 体 情 報 工 学 特 論 医 工 材 料 力 学 特 論	医療機器安全学特論 医 工 学 特 論 計 測 科 学 特 論 ナノメディシン特論 量子ビーム医工学特論	医用システム工学特論 基 礎 医 学 特 論 生 体 情 報 工 学 特 論 医 工 材 料 力 学 特 論	医療機器安全学特論 医 工 学 特 論 計 測 科 学 特 論 ナノメディシン特論 量子ビーム医工学特論
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

応用化学専攻

分 野 (教員数:9名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
理 工 学 共 通	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 物 性 物 理 学	解 析 学 シミュレーション学 ナノサイエンス	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 エコロジーと化学	解 析 学 光 科 学 シミュレーション学
基 礎 化 学 (4名) ※1	分 析 化 学 特 論	無 機 化 学 特 論	物 理 化 学 特 論	有 機 化 学 特 論
環 境 化 学 (4名) ※2	大 気 化 学 特 論 グリーンエンジニアリング特論	フォトケミストリー特論	環 境 化 学 特 論 グリーン合成化学特論	反 応 化 学 特 論
バイオ・健康化学 (3名)	遺 伝 子 工 学 特 論 バイオ・食品機器分析特論	応用生物有機化学特論	応用微生物化学特論 食 品 ・ バ イ オ 特 論	バイオプロセスエンジニアリング特論
物 質 化 学 (3名)	有 機 材 料 科 学 特 論	無 機 材 料 化 学 特 論	高 分 子 材 料 科 学 特 論	結 晶 化 学 特 論 固 体 材 料 化 学 特 論
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

※1「基礎化学」の教員のうち3名は、他の分野を兼ねている

※2「環境化学」の教員のうち2名は、他の分野を兼ねている

資料⑦ 授業の分類と時間割、分野を受け持つ専任教員数（除く 理工学共通・共通科目）

機能システム専攻

分 野 (教員数:12名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
理 工 学 共 通	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 物 性 物 理 学	解 析 学 シミュレーション学 ナノサイエンス	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 エコロジーと化学	解 析 学 光 科 学 シミュレーション学
機 械 科 学 (6名)	ダイナミクス特論 エアロスペース科学特論 電 磁 気 学 特 論	材 料 科 学 特 論 熱統計力学特論	ダイナミクス特論 流体物理学特論	材 料 科 学 特 論 熱統計力学特論 形 の 科 学 特 論
機 械 融 合 (6名)	ロボット工学特論 知能システム工学特論 マイクロメカトロニクス特論	制 御 工 学 特 論 先端生産加工システム特論 センシング工学特論	ロボット工学特論 知能システム工学特論 情報記憶機構特論	制 御 学 特 論 先端生産加工システム特論 センシング工学特論
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

電気電子情報専攻

分 野 (教員数:12名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
理 工 学 共 通	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 物 性 物 理 学	解 析 学 シミュレーション学 ナノサイエンス	応 用 物 理 学 プラズマ物理学 エコロジーと化学	解 析 学 光 科 学 シミュレーション学
基 礎 (4名)※1	電 磁 気 学 特 論	電 子 回 路 特 論 応 用 解 析 学 特 論	電 気 回 路 特 論	応 用 解 析 学 特 論
エネルギー・制御 (3名)	高電圧・放電物理特論 電力システム工学特論	パワーエレクトロニクス特論	電力システム工学特論	エネルギー変換工学特論
エレクトロニクス (4名)	半 導 体 工 学 特 論	光エレクトロニクス特論 電 子 デ バ イ ス 特 論	半 導 体 工 学 特 論 固体電子物性特論	光エレクトロニクス特論 電 子 デ バ イ ス 特 論
情 報 通 信 (4名)	情報通信科学特論	画像情報処理特論	情報通信科学特論 電 磁 波 工 学 特 論	画像情報処理特論 色 彩 工 学 特 論
専攻特別講義 (1名)※2	電気電子情報特別講義			
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

※1「基礎」の教員のうち3名は、他の分野を兼ねている

※2「専攻特別講義」の教員は、他の分野を兼ねている

資料⑦ 授業の分類と時間割、分野を受け持つ専任教員数（除く 理工学共通・共通科目）

都市環境デザイン専攻

分 野 (教員数:7名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
サステナブル工学 (3名)	コンクリート工学特論	都市ライフライン工学特論 地 盤 工 学 特 論	都市メンテナンス特論	地 盤 環 境 学 特 論 耐 震 設 計 特 論
環 境 シ ス テ ム (3名)	流域圏環境システム特論 都市環境政策学特論	水 圏 環 境 工 学 特 論	環 境 経 済 特 論 環 境 材 料 工 学 特 論	環 境 分 析 特 論
都市環境マネジメント (3名) ※1		社 会 経 営 学 特 論 都市計画デザイン特論	交通マネジメント特論 プロジェクトマネジメント特論	リモートセンシング特論
専 攻 特 別 講 義 (2名) ※2	都市環境デザイン特別講義Ⅰ		都市環境デザイン特別講義Ⅱ	
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

※「都市環境マネジメント」の教員2名は、他の分野を兼ねている

※「専攻特別講義」の教員は、他の分野を兼ねている

※完成年度前に定年を迎える教員は含めない

建築学専攻

分 野 (教員数:9名)	春学期	秋学期	次年度春学期	次年度秋学期
計画・デザイン (2名)	空間デザイン特論	建 築 計 画 特 論	空間デザイン特論	都 市 ・ 建 築 特 論 生活空間計画特論
テクニカルデザイン (4名)	構造デザイン特論 設備システムデザイン特論	構 造 材 料 学 特 論 建 築 環 境 工 学 特 論	木 質 構 造 学 特 論 ファシリティマネジメント特論	構 造 解 析 学 特 論 防 災 構 造 特 論
建築・都市マネジメント (3名)	建築ストックマネジメント特論 まちづくり計画特論	ビルディングシステム特論	地域生産システム特論 建築・都市法規特論	建 設 産 業 経 営 特 論
専 攻 特 別 講 義 (0名) ※		建 築 学 特 別 講 義 Ⅰ		建 築 学 特 別 講 義 Ⅱ
共 通 科 目	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論	サイエンス・イングリッシュ特論	ベンチャー・サイエンス特論

※「専攻特別講義」の教員は、兼任教員を予定

資料⑧ 履修モデル

生体医工学専攻 生物科学分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	生物科学分野研究指導科目	2		生物科学特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 自然界の営みに目を向け、そこから命を守る人に優しい方法を見だし、それを実現できる能力を身につけた人材 ・身につける能力 生物科学分野における基礎領域における知識と技術を身につけ、直面する問題に対し、創造的解決方法を見だし実行できる能力
		生物科学分野研究指導科目	2		生物科学特別輪講Ⅰ	
		生物科学分野授業科目		2	生物模倣工学特論	
		医工学分野授業科目		2	生体情報工学特論	
		理工学共通分野授業科目		2	物性物理学特論	
	2	生物科学分野研究指導科目	2		生物科学特別研究Ⅱ	
		生物科学分野研究指導科目	2		生物科学特別輪講Ⅱ	
		生物科学分野授業科目		2	運動科学特論	
		医工学分野授業科目		2	医工学特論	
2	3	生物科学分野研究指導科目		2	生物科学特別研究Ⅲ	
		生物科学分野研究指導科目		2	生物科学特別輪講Ⅲ	
		生物科学分野授業科目		2	生体防御学特論	
		医工学分野授業科目		2	医用システム工学特論	
	4	生物科学分野研究指導科目		2	生物科学特別研究Ⅳ	
		生物科学分野研究指導科目		2	生物科学特別輪講Ⅳ	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

生体医工学専攻 医工学分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	医工学分野研究指導科目	2		医工学特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 医工学分野の専門性を身に付け、人間性に富む医療環境、社会環境の実現に貢献し得る高い倫理観をもった人材 ・身につける能力 医工学分野の先端応用領域における知識と技術を身につけ、多元因子からなる諸問題の解決策を見出し、実行できる能力
		医工学分野研究指導科目	2		医工学特別輪講Ⅰ	
		医工学分野授業科目		2	基礎医学特論	
		医工学分野授業科目		2	医工材料力学特論	
		理工学共通分野授業科目		2	応用物理学	
	2	医工学分野研究指導科目	2		医工学特別研究Ⅱ	
		医工学分野研究指導科目	2		医工学特別輪講Ⅱ	
		医工学分野授業科目		2	医療機器安全学特論	
		医工学分野授業科目		2	計測科学特論	
2	3	医工学分野研究指導科目		2	医工学特別研究Ⅲ	
		医工学分野研究指導科目		2	医工学特別輪講Ⅲ	
		生物科学分野授業科目		2	生体流体力学特論	
		医工学分野授業科目		2	量子ビーム医工学特論	
	4	医工学分野研究指導科目		2	医工学特別研究Ⅳ	
		医工学分野研究指導科目		2	医工学特別輪講Ⅳ	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

資料⑧ 履修モデル

応用化学専攻 環境化学分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考	
			必修	選択			
1	1	環境化学分野研究指導科目	2		環 境 化 学 特 別 研 究Ⅰ	・ 目標とする人材像 環境に関する深い知識を有し、社会の様々な問題に適切に対処できる高度な専門性を有する人材 ・ 身につける能力 化学の基礎と自然の物質循環を理解して、地球科学的視点から環境低負荷実現の技術開発や考え方ができる	
		環境化学分野研究指導科目	2		環 境 化 学 特 別 輪 講Ⅰ		
		共 通 科 目	2		サイエンス・イングリッシュ特論		
		基 礎 化 学 系 授 業 科 目	2		分 析 化 学 特 論		
		環 境 化 学 系 授 業 科 目	2		大 気 化 学 特 論		
		環 境 化 学 系 授 業 科 目	2		グリーンエンジニアリング特論		
	2	環境化学分野研究指導科目	2		環 境 化 学 特 別 研 究Ⅱ		化学の基礎と自然の物質循環を理解して、地球科学的視点から環境低負荷実現の技術開発や考え方ができる
		環境化学分野研究指導科目	2		環 境 化 学 特 別 輪 講Ⅱ		
		環 境 化 学 系 授 業 科 目	2		フォトケミストリー特論		
		理工学共通分野授業科目	2		ナ ノ サ イ エ ン ス		
2	3	環境化学分野研究指導科目		2	環 境 化 学 特 別 研 究Ⅲ		
		環境化学分野研究指導科目		2	環 境 化 学 特 別 輪 講Ⅲ		
		環 境 化 学 系 授 業 科 目		2	グ リ ー ン 合 成 化 学 特 論		
	4	環境化学分野研究指導科目		2	環 境 化 学 特 別 研 究Ⅳ		
		環境化学分野研究指導科目		2	環 境 化 学 特 別 輪 講Ⅳ		
修得単位数	小計		8	22			
	合計		30				

応用化学専攻 バイオ・健康化学分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考	
			必修	選択			
1	1	バイオ・健康化学分野研究指導科目	2		バイオ・健康化学特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 健康に関わる化学と生物科学を理解し、社会の様々な問題に適切に対処できる高度な専門性を有する人材 ・身につける能力 化学の基礎、食の安全やバイオ技術の本質を理解して、環境低負荷実現の技術開発や考え方ができる	
		バイオ・健康化学分野研究指導科目	2		バイオ・健康化学特別輪講Ⅰ		
		共通科目	2		サイエンス・イングリッシュ特論		
		基礎化学系授業科目	2		分析化学特論		
		バイオ・応用化学系授業科目	2		遺伝子工学特論		
		バイオ・応用化学系授業科目	2		バイオ・食品機器分析特論		
	2	バイオ・健康化学分野研究指導科目	2		バイオ・健康化学特別研究Ⅱ		化学の基礎、食の安全やバイオ技術の本質を理解して、環境低負荷実現の技術開発や考え方ができる
		バイオ・健康化学分野研究指導科目	2		バイオ・健康化学特別輪講Ⅱ		
		理工学共通分野授業科目	2		ナノサイエンス		
		バイオ・応用化学系授業科目	2		応用生物有機化学特論		
2	3	バイオ・健康化学分野研究指導科目		2	バイオ・健康化学特別研究Ⅲ		
		バイオ・健康化学分野研究指導科目		2	バイオ・健康化学特別輪講Ⅲ		
		バイオ・応用化学系授業科目		2	応用微生物化学特論		
	4	バイオ・健康化学分野研究指導科目		2	バイオ・健康化学特別研究Ⅳ		
		バイオ・健康化学分野研究指導科目		2	バイオ・健康化学特別輪講Ⅳ		
修得単位数	小計		8	22			
	合計		30				

資料⑧ 履修モデル

応用化学専攻 物質化学分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	物質化学分野研究指導科目	2		物質化学特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 材料開発・研究の基礎をマスターし、社会の様々な問題に適切に対処できる高度な専門性を有する人材 ・身につける能力 化学の基礎、材料開発・物性研究の本質を理解し、環境低負荷の材料開発や研究ができる
		物質化学分野研究指導科目	2		物質化学特別輪講Ⅰ	
		共通科目		2	サイエンス・イングリッシュ特論	
		基礎化学系授業科目		2	分析化学特論	
		物質化学系授業科目		2	有機材料科学特論	
	2	物質化学分野研究指導科目	2		物質化学特別研究Ⅱ	
		物質化学分野研究指導科目	2		物質化学特別輪講Ⅱ	
		理工学共通分野授業科目		2	ナノサイエンス	
		物質化学系授業科目		2	無機材料化学特論	
2	3	物質化学分野研究指導科目		2	物質化学特別研究Ⅲ	
		物質化学分野研究指導科目		2	物質化学特別輪講Ⅲ	
		基礎化学系授業科目		2	無機化学特論	
		物質化学系授業科目		2	高分子材料科学特論	
	4	物質化学分野研究指導科目		2	物質化学特別研究Ⅳ	
		物質化学分野研究指導科目		2	物質化学特別輪講Ⅳ	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

機能システム専攻 機械科学分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	機械科学分野研究指導科目	2		機械科学特別研究Ⅰ	・目標とする人材 物質・材料および基礎力学を機軸として、現象背後のメカニズムの解明や新たな原理原則を創成できる人材 ・身につける能力 物質・材料および基礎力学等に関する知識能力と関係する電気・電子・物理・化学分野およびこの知識をフルに生かすための情報分析処理の能力
		機械科学分野研究指導科目	2		機械科学特別輪講Ⅰ	
		機械科学分野授業科目		2	ダイナミクス特論	
		機械科学分野授業科目		2	エアロスペース科学特論	
		機械科学分野授業科目		2	電磁気学特論	
	2	機械科学分野研究指導科目	2		機械科学特別研究Ⅱ	
		機械科学分野研究指導科目	2		機械科学特別輪講Ⅱ	
		機械科学分野授業科目		2	材料科学特論	
		機械科学分野授業科目		2	熱統計力学特論	
		理工学共通分野授業科目		2	シミュレーション学	
2	3	機械科学分野研究指導科目		2	機械科学特別研究Ⅲ	
		機械科学分野研究指導科目		2	機械科学特別輪講Ⅲ	
		機械科学分野授業科目		2	流体物理学特論	
	4	機械科学分野研究指導科目		2	機械科学特別研究Ⅳ	
		機械科学分野研究指導科目		2	機械科学特別輪講Ⅳ	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

資料⑧ 履修モデル

機能システム専攻 機械融合分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	機械融合分野研究指導科目	2		機 械 融 合 特 別 研 究 I	・目標とする人材像 基礎力学・制御・信号処理等を機軸として、新たな原理原則に基づく斬新な機構・システムを創成できる人材 ・身につける能力 基礎力学、制御、信号処理等に関する知識能力と関係する電気・電子・物理・化学分野およびこの知識をフルに生かすための情報分析処理の能力
		機械融合分野研究指導科目	2		機 械 融 合 特 別 輪 講 I	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	ロ ボ ッ ト 工 学 特 論	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	知 能 シ ス テ ム 工 学 特 論	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	マ イ ク ロ メ カ ト ロ ニ ク ス 特 論	
	2	機械融合分野研究指導科目	2		機 械 融 合 特 別 研 究 II	
		機械融合分野研究指導科目	2		機 械 融 合 特 別 輪 講 II	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	制 御 工 学 特 論	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	先 端 生 産 加 工 シ ス テ ム 特 論	
		機 械 融 合 分 野 授 業 科 目		2	セ ン シ ン グ 工 学 特 論	
2	3	機械融合分野研究指導科目		2	機 械 融 合 特 別 研 究 III	
		機械融合分野研究指導科目		2	機 械 融 合 特 別 輪 講 III	
		理 工 学 共 通 分 野 授 業 科 目		2	光 科 学	
	4	機械融合分野研究指導科目		2	機 械 融 合 特 別 研 究 IV	
		機械融合分野研究指導科目		2	機 械 融 合 特 別 輪 講 IV	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

電気電子情報専攻 エネルギー・制御分野

学年	セメスター	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	エネルギー・制御分野研究指導科目	2		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 研 究 I	・目標とする人材像 エネルギー・制御分野の専門知識を柱として、その分野で活躍できるとともに、他分野の技術が関わる領域にも貢献できる人材 ・身につける能力 電力・電気エネルギーに関する高度な専門知識、および、複合技術による電気システムの研究・開発にも通用するだけの基礎学力と研究能力
		エネルギー・制御分野研究指導科目	2		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 輪 講 I	
		基 礎 分 野 授 業 科 目		2	電 磁 気 学 特 論	
		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 分 野 授 業 科 目		2	高 電 圧 ・ 放 電 物 理 特 論	
	2	エネルギー・制御分野研究指導科目	2		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 研 究 II	
		エネルギー・制御分野研究指導科目	2		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 輪 講 II	
		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 分 野 授 業 科 目		2	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス 特 論	
		理 工 学 共 通 分 野 授 業 科 目		2	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 学	
	3	エネルギー・制御分野研究指導科目		2	エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 研 究 III	
		エネルギー・制御分野研究指導科目		2	エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 輪 講 III	
		基 礎 分 野 授 業 科 目		2	電 気 回 路 特 論	
		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 分 野 授 業 科 目		2	電 力 シ ス テ ム 工 学 特 論	
2	4	エネルギー・制御分野研究指導科目		2	エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 研 究 IV	
		エネルギー・制御分野研究指導科目		2	エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 特 別 輪 講 IV	
		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御 分 野 授 業 科 目		2	エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学 特 論	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

資料⑧ 履修モデル

電気電子情報専攻 エレクトロニクス分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	エレクトロニクス分野研究指導科目	2		エレクトロニクス特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 エレクトロニクス分野の専門知識を柱として、その分野で活躍できるとともに、他分野の技術が関わる領域にも貢献できる人材 ・身につける能力 半導体や電子デバイスなどに関する高度な専門知識、および、複合技術による電気システムの研究・開発にも通用するだけの基礎学力と研究能力
		エレクトロニクス分野研究指導科目	2		エレクトロニクス特別輪講Ⅰ	
		基礎分野授業科目		2	電磁気学特論	
		理工学共通分野授業科目		2	物性物理学	
	2	エレクトロニクス分野研究指導科目	2		エレクトロニクス特別研究Ⅱ	
		エレクトロニクス分野研究指導科目	2		エレクトロニクス特別輪講Ⅱ	
		基礎分野授業科目		2	電子回路特論	
		エレクトロニクス分野授業科目		2	光エレクトロニクス特論	
2	3	エレクトロニクス分野研究指導科目		2	エレクトロニクス特別研究Ⅲ	
		エレクトロニクス分野研究指導科目		2	エレクトロニクス特別輪講Ⅲ	
		エレクトロニクス分野授業科目		2	半導体工学特論	
		エレクトロニクス分野授業科目		2	固体電子物性特論	
	4	エレクトロニクス分野研究指導科目		2	エレクトロニクス特別研究Ⅳ	
		エレクトロニクス分野研究指導科目		2	エレクトロニクス特別輪講Ⅳ	
		エレクトロニクス分野授業科目		2	電子デバイス特論	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

電気電子情報専攻 情報通信分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	情報通信分野研究指導科目	2		情報通信特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 情報通信分野の専門知識を柱として、その分野で活躍できるとともに、他分野の技術が関わる領域にも貢献できる人材 ・身につける能力 情報通信・伝送などに関する高度な専門知識、および、複合技術による電気システムの研究・開発にも通用するだけの基礎学力と研究能力
		情報通信分野研究指導科目	2		情報通信特別輪講Ⅰ	
		基礎分野授業科目		2	電磁気学特論	
		理工学共通分野授業科目		2	応用物理学	
	2	情報通信分野研究指導科目	2		情報通信特別研究Ⅱ	
		情報通信分野研究指導科目	2		情報通信特別輪講Ⅱ	
		基礎分野授業科目		2	応用解析学特論	
		情報通信分野授業科目		2	画像情報処理特論	
2	3	情報通信分野研究指導科目		2	情報通信特別研究Ⅲ	
		情報通信分野研究指導科目		2	情報通信特別輪講Ⅲ	
		情報通信分野授業科目		2	情報通信科学特論	
		情報通信分野授業科目		2	電磁波工学特論	
	4	情報通信分野研究指導科目		2	情報通信特別研究Ⅳ	
		情報通信分野研究指導科目		2	情報通信特別輪講Ⅳ	
		情報通信分野授業科目		2	色彩工学特論	
修得単位数		小計	8	22		
		合計		30		

資料⑧ 履修モデル

都市環境デザイン専攻 サステイナブル工学分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考	
			必修	選択			
1	1	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅰ	・ 目標とする人材像 社会基盤を通じて持続可能な国土・地域の創造・発展に寄与できる公務員、設計エンジニア、施工管理技術者	
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅰ		
		サステイナブル工学系授業科目			2		コンクリート工学特論
		専 攻 特 別 講 義 授 業 科 目			2		都市環境デザイン特別講義Ⅰ
		共 通 科 目			2		サイエンス・イングリッシュ特論
	2	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅱ	・ 身につける能力 調査、実験、数値解析など、自ら手を動かすことを通じて、今後の社会基盤のあり方を考え、社会基盤の設計、施工、維持管理ができる能力	
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅱ		
		サステイナブル工学系授業科目			2		都市ライフライン工学特論
		サステイナブル工学系授業科目			2		地 盤 工 学 特 論
2	3	研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅲ		
		研 究 指 導 科 目			2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅲ
		サステイナブル工学系授業科目			2		都 市 メ ン テ ナ ン ス 特 論
	4	研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅳ		
		研 究 指 導 科 目			2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅳ
		サステイナブル工学系授業科目			2		耐 震 設 計 特 論
修得単位数	小計		8	22			
	合計		30				

都市環境デザイン専攻 環境システム分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅰ	・ 目標とする人材像 多くの要素が複雑に絡まる 環境問題のメカニズムを理 解した上で、自らの専門を活 かしつつ、その解決策を体系 的に提案できる技術者 ・ 身につける能力 複雑な事象における因果関 係の構造化、要素技術の開 発・調査、対応策の定量的評 価などのプロセスを通じて、 問題の解決に寄与できる能 力
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅰ	
		環 境 シ ス テ ム 系 授 業 科 目	2		流域圏環境システム特論	
		環 境 シ ス テ ム 系 授 業 科 目	2		都 市 環 境 政 策 学 特 論	
		専 攻 特 別 講 義 授 業 科 目	2		都市環境デザイン特別講義Ⅰ	
	2	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅱ	
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅱ	
		環 境 シ ス テ ム 系 授 業 科 目	2		水 圏 環 境 工 学 特 論	
		共 通 科 目	2		ベンチャー・サイエンス特論	
2	3	研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅲ	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅲ	
		環 境 シ ス テ ム 系 授 業 科 目		2	環 境 経 済 特 論	
		環 境 シ ス テ ム 系 授 業 科 目		2	環 境 材 料 工 学 特 論	
	4	研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅳ	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅳ	
修得単位数	小計		8	22		
	合計		30			

資料⑧ 履修モデル

都市環境デザイン専攻 都市環境マネジメント分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅰ	・目標とする人材像 公共プロジェクトの必要性の判断から計画立案に至る各プロセスについての的確にマネジメントできる公務員や建設コンサルタントなどの土木技術者 ・身につける能力 対象地域における課題抽出、実態調査、問題構造の把握・分析、代替案作成、住民合意形成などの各プロセスを遂行できるマネジメント能力
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅰ	
	2	研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザイン特別研究Ⅱ	
		研 究 指 導 科 目	2		都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅱ	
		都市環境マネジメント系授業科目		2	社 会 経 営 学 特 論	
		都市環境マネジメント系授業科目		2	都 市 計 画 デ ザ イ ン 特 論	
2	3	共 通 科 目		2	ベンチャー・サイエンス特論	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅲ	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅲ	
		都市環境マネジメント系授業科目		2	交 通 マ ネ ジ メ ン ト 特 論	
		都市環境マネジメント系授業科目		2	プロジェクトマネジメント特論	
	4	専 攻 特 別 講 義 授 業 科 目		2	都市環境デザイン特別講義Ⅱ	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザイン特別研究Ⅳ	
		研 究 指 導 科 目		2	都市環境デザインプロジェクト特別演習Ⅳ	
		都市環境マネジメント系授業科目		2	リ モ ー ト セ ン シ ン グ 特 論	
		修得単位数	小計	8	22	
合計	30					

建築学専攻 計画・デザイン分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考			
			必修	選択					
1	1	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 I	・目標とする人材像 建築ものづくりを通して時代、社会そして人に貢献できる建築家、建築・都市プロデューサー、コーディネーター ・身につける能力 建築と都市のあり方について調査、分析、考察に基づいて自身の考えを提案できるプレゼンテーション能力			
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 I				
		計 画 ・ デ ザ イ ン 系 授 業 科 目			2		空 間 デ ザ イ ン 特 論		
		テクニカルデザイン系授業科目			2		設備システムデザイン特論		
	2	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 II				
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 II				
		計 画 ・ デ ザ イ ン 系 授 業 科 目			2		建 築 計 画 特 論		
		専 攻 特 別 講 義 授 業 科 目			2		建 築 学 特 別 講 義 I		
		2	3		研 究 指 導 科 目			2	建 築 学 特 別 研 究 III
					研 究 指 導 科 目			2	建 築 学 特 別 演 習 III
テクニカルデザイン系授業科目				2	木 質 構 造 学 特 論				
4	研 究 指 導 科 目				2	建 築 学 特 別 研 究 IV			
	研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 演 習 IV					
	計 画 ・ デ ザ イ ン 系 授 業 科 目		2	都 市 ・ 建 築 特 論					
	計 画 ・ デ ザ イ ン 系 授 業 科 目		2	生 活 空 間 計 画 特 論					
修得単位数	小計		8	22					
	合計		30						

資料⑧ 履修モデル

建築学専攻 テクニカルデザイン分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	1	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 I	・目標とする人材像 建築ものづくりを通して時代、社会そして人に貢献できる建築エンジニア、構造デザイナー、建築設備デザイナー、施工管理エンジニア ・身につける能力 調査、実験、測定、解析などエンジニアリングに基づいて安全、快適な建築空間を創出するテクニカルデザイン能力、施工管理能力
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 I	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	構 造 デ ザ イ ン 特 論	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	設備システムデザイン特論	
	2	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 II	
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 II	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	構 造 材 料 学 特 論	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	建 築 環 境 工 学 特 論	
2	3	研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 研 究 III	
		研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 演 習 III	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	木 質 構 造 学 特 論	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	ファシリティマネジメント特論	
	4	研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 研 究 IV	
		研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 演 習 IV	
		テクニカルデザイン系授業科目		2	構 造 解 析 学 特 論	
修得単位数	小計		8	22		
	合計		30			

建築学専攻 建築・都市マネジメント分野

学年	セメスタ	科目区分	単位数		授業科目	備考	
			必修	選択			
1	1	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 I	・目標とする人材像 建築ものづくりを通して時代、社会そして人に貢献できる建築・都市のプロデューサー、施工管理エンジニア、公務員 ・身につける能力 調査、分析など客観的知見に基づいてサステナブルな建築、都市を創出するマネジメント能力、施工管理能力	
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 I		
		建築・都市マネジメント系授業科目			2		建 築 ストックマネジメント特 論
		建築・都市マネジメント系授業科目			2		ま ち づ くり 計 画 特 論
	2	研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 研 究 II		
		研 究 指 導 科 目	2		建 築 学 特 別 演 習 II		
		建築・都市マネジメント系授業科目			2		ビルディングシステム特 論
		専 攻 特 別 講 義 授 業 科 目			2		建 築 学 特 別 講 義 I
	2	3	研 究 指 導 科 目		2		建 築 学 特 別 研 究 III
			研 究 指 導 科 目		2		建 築 学 特 別 演 習 III
			建築・都市マネジメント系授業科目		2		地 域 生 産 システム特 論
			建築・都市マネジメント系授業科目		2		建 築 ・ 都 市 法 規 特 論
4		研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 研 究 IV		
		研 究 指 導 科 目		2	建 築 学 特 別 演 習 IV		
		建築・都市マネジメント系授業科目		2	建 設 産 業 経 営 特 論		
修得単位数	小計		8	22			
	合計		30				

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

「大学の設置等の趣旨等を記載した書類」における「資料⑨ 教育職員免許状 免許状取得に関する科目」

【 p 53】

2（出典）

東洋大学大学院課程認定申請書（研究科専攻等の課程）

3（引用範囲）

東洋大学大学院課程認定申請書（研究科専攻等の課程）の理工学研究科の教科に関する科目の授業科目名を転記

4（その他の説明）

教職課程認定申請中であり、認可されるまでは授業科目に変更が生じる可能性がある。

資料⑩ 一級建築士実務経験認定科目

専攻	授業科目	
建 築 学	空 間 デ ザ イ ン 特 論	建 築 環 境 工 学 特 論
	生 活 空 間 計 画 特 論	建 築 ス ト ッ ク マ ネ ジ メ ン ト 特 論
	建 築 計 画 特 論	ビ ル デ ィ ン グ シ ス テ ム
	構 造 解 析 学 特 論	建 築 ・ 都 市 法 規 特 論
	構 造 材 料 学 特 論	特 別 設 計 演 習 I ・ II
	木 質 構 造 学 特 論	イ ン タ ー ン シ ッ プ I ～ V
	設 備 シ ス テ ム デ ザ イ ン 特 論	建 築 学 特 別 演 習 I ～ IV

著作権者の許諾が得られない書類等

1（書類等の題名）

「大学の設置等の趣旨等を記載した書類」における「資料⑪ 大学院専有スペース」
【 p 55～ p 59】

2（出典）

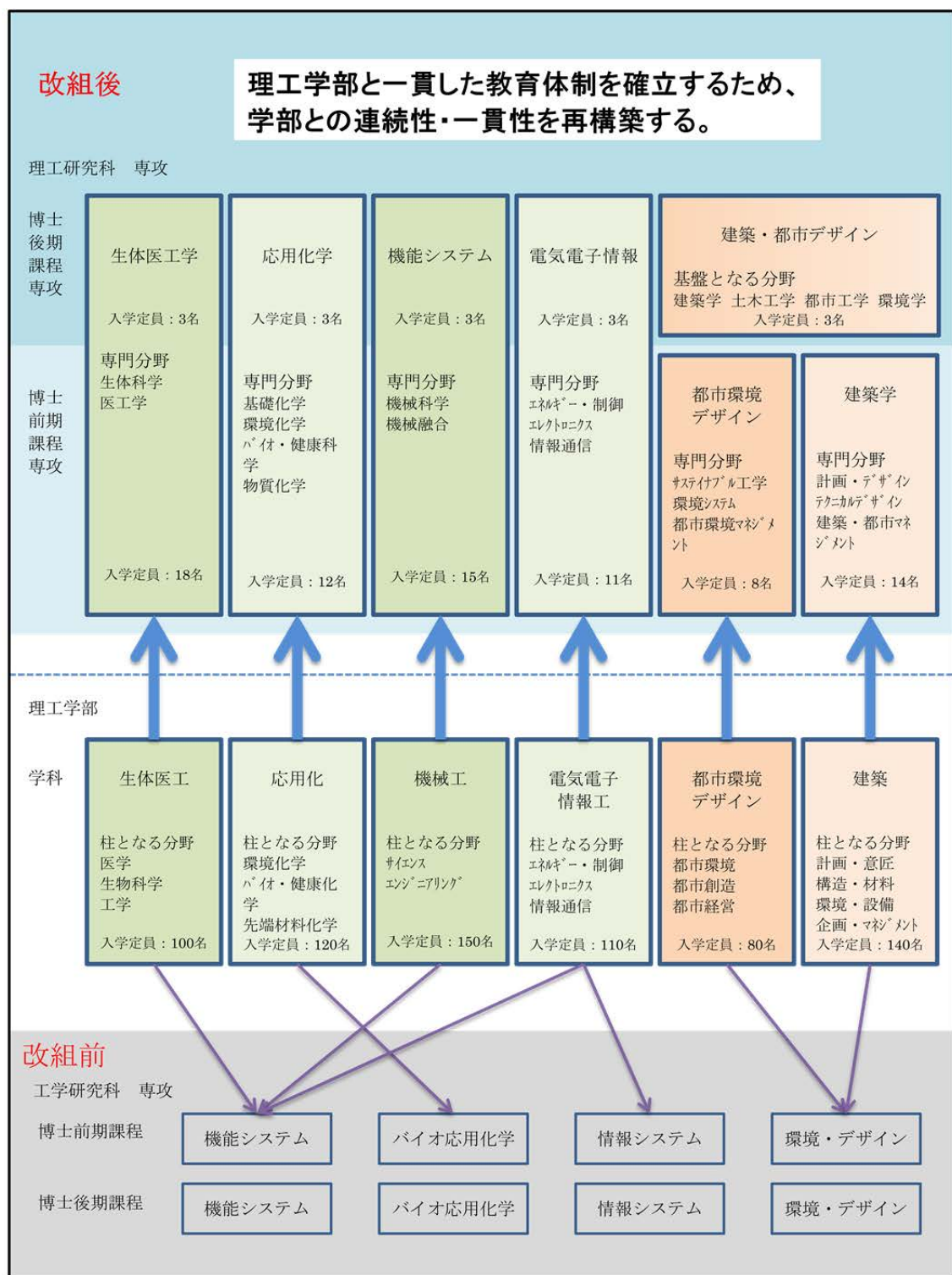
東洋大学大学院学生生活ハンドブック 2013 年度（平成 25 年度）版

3（引用範囲）

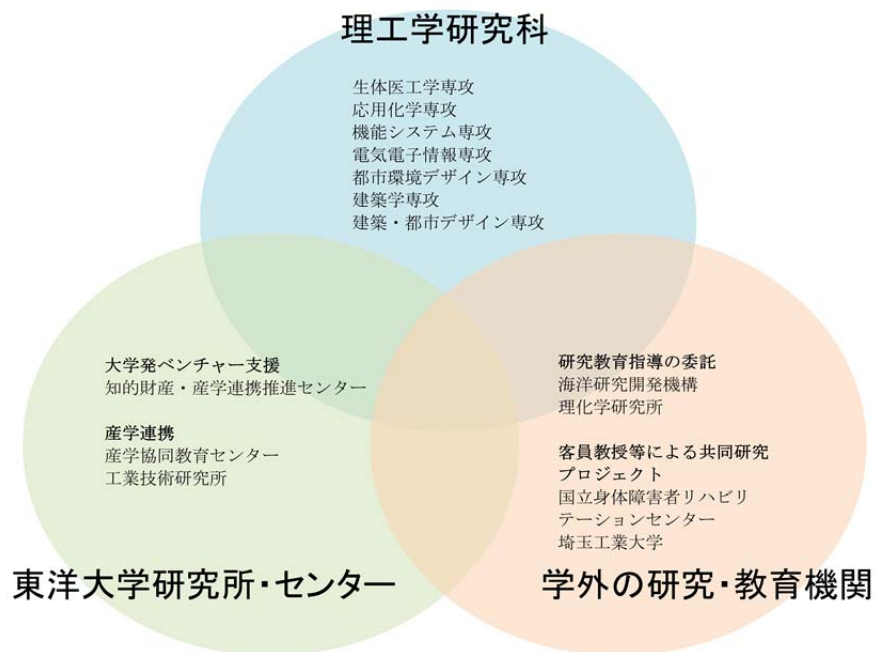
東洋大学大学院学生生活ハンドブック p 121、p 123、p 130、p 131、p 133 のうち、川越キャンパス 1 号館、2 号館、都市環境・建築実験棟、応化・情報実験棟、機械・電子情報実験棟に関する図面

4（その他の説明）

大学院専有教室の位置関係・個数を示す図面として、専有教室に色を塗って示した。
校舎内の図面であるため、差し替えた。



資料⑬ 外部研究機関等との関係



資料⑭ 入学試験 種別と科目

入試の種類	課程	専攻	試験内容	備考・専門科目の内容
一般	博士前期	生 体 医 工 学	・英語 ・専門※ ・面接 ・書類審査	※2 科目選択 生理学、医工学、免疫学、バイオメカニクス、医用電子工学、人間工学、流体力学、生体情報学
		応 用 化 学		※3 科目選択 物理化学、分析化学、有機化学、無機化学、生化学、化学工学
		機 能 シ ス テ ム		※2 科目選択 材料力学、機械力学、熱力学、流体力学、制御工学、計測工学
		電 気 電 子 情 報		※2 科目選択 数学、電磁気学、電気回路、電子回路、プログラミング
		都市環境デザイン		※2 科目選択 コンクリート工学、構造力学、地盤工学、水環境工学、環境創成学、土木計画学、測量学、都市マネジメント学、環境材料工学
		建 築 学		※2 科目選択 建築計画・意匠、構造力学、環境設備、建築生産、都市計画、建築一般
	博士後期	生 体 医 工 学	・英語 ・面接 ・書類審査	(修士研究の発表を含む)
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報 建築・都市デザイン		

入試の種類	課程	専攻	試験内容	備考
社会人	博士前期	生 体 医 工 学	・小論文 ・面接 ・書類審査	(英語の設問含む)
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報		
		都市環境デザイン		
		建 築 学		
	博士後期	生 体 医 工 学	・小論文 ・面接 ・書類審査	(英語の設問含む)
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報 建築・都市デザイン		

入試の種類	課程	専攻	試験内容	備考
外国人留学生	博士前期	生 体 医 工 学	・面接 ・書類審査	
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報		
		都市環境デザイン		
		建 築 学		
	博士後期	生 体 医 工 学	・面接 ・書類審査	
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報 建築・都市デザイン		

入試の種類	課程	専攻	試験内容	備考
学内推薦	博士前期	生 体 医 工 学	・面接 ・書類審査	
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報		
		都市環境デザイン		
		建 築 学		
	博士後期	生 体 医 工 学	・面接 ・書類審査	
		応 用 化 学		
		機 能 シ ス テ ム		
		電 気 電 子 情 報 建築・都市デザイン		

昭和34年4月1日
施行

改正 昭和39年9月1日

昭和40年9月1日

昭和47年4月1日

平成8年4月1日

平成14年4月1日

平成23年4月1日

第1条 学校法人東洋大学の設置する学校の専任の教員及び専任の事務職員の定年は、大学及び附属高等学校等に在職する教員については65才とし、事務職員については60才とする。

第2条 前条に該当する教職員は、定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

第3条 この規程の改正は、大学協議委員会の意見を聞き理事会の同意を経なければならない。

附 則

1 この規程は、平成8年4月1日から施行する。

2 第1条の規定にかかわらず、平成7年度以前に専任教員として採用された者については、なお従前の例による。

附 則（平成14年規程第18号）

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第42号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

年俸契約雇用制度に関する要綱

(目的)

- 1 この制度は、本学が特に必要と認めた場合に、年俸契約雇用制により専任教員を任用することを目的とする。

(適用対象)

- 2 年俸契約制は、次の場合に適用する。
 - (1) 原則として大学院の科目担当者（修士課程研究指導担当以上）を任用する場合
 - (2) 全国的に評価の高い学者などを任用する場合
 - (3) その他、本学が特に必要と認めた場合

(契約期間)

- 3 契約期間は1年とし、原則として契約更改の限度は4回とする。

(雇用年齢)

- 4 雇用年齢は、原則として70才までとする。ただし、この制度により他機関から任用する場合、雇用開始年齢は65歳未満とすることができる。

(年俸額)

- 5 年俸額は、在職時（前職時）の給与支給額を勘案し定める。

(退職金)

- 6 退職金は支給しない。

(契約)

- 7 契約については別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	タケムラ マキオ 竹村 牧男 ＜平成21年9月＞		博士 (文学)		文学部東洋思想文化学科教授 (平成25.4)

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科生体医工学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	オボウ シダヒコ 小川 繁彦 ＜平成26年4月＞		博士 (人間環境学)		運動科学特論 人間工学特論 生物科学特別研究Ⅰ 生物科学特別研究Ⅱ 生物科学特別研究Ⅲ 生物科学特別研究Ⅳ 生物科学特別輪講Ⅰ 生物科学特別輪講Ⅱ 生物科学特別輪講Ⅲ 生物科学特別輪講Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅰ 生体医工学特殊研究Ⅱ 生体医工学特殊研究Ⅲ 生体医工学特殊研究Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅴ 生体医工学特殊研究Ⅵ 生体医工学研究指導	1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後 2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － － － －	1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平22. 4)	5日
2	専	教授	コヤマ シンヤ 小山 信也 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		数理生物学特論 解析学 生物科学特別研究Ⅰ 生物科学特別研究Ⅱ 生物科学特別研究Ⅲ 生物科学特別研究Ⅳ 生物科学特別輪講Ⅰ 生物科学特別輪講Ⅱ 生物科学特別輪講Ⅲ 生物科学特別輪講Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅰ 生体医工学特殊研究Ⅱ 生体医工学特殊研究Ⅲ 生体医工学特殊研究Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅴ 生体医工学特殊研究Ⅵ 生体医工学研究指導	1・2前 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － － －	1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平22. 4)	5日
3	専	教授	クナカ ナオキ 田中 尚樹 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		計測科学特論 生体情報工学特論 医工学特別研究Ⅰ 医工学特別研究Ⅱ 医工学特別研究Ⅲ 医工学特別研究Ⅳ 医工学特別輪講Ⅰ 医工学特別輪講Ⅱ 医工学特別輪講Ⅲ 医工学特別輪講Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅰ 生体医工学特殊研究Ⅱ 生体医工学特殊研究Ⅲ 生体医工学特殊研究Ⅳ 生体医工学特殊研究Ⅴ 生体医工学特殊研究Ⅵ 生体医工学研究指導	1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2	1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日

[illegible]

[illegible]

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

4

5

[illegible]

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

[illegible]

教 員 の 氏 名 等												
（理工学研究科応用化学専攻）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
17	兼任	准教授	モトハシ ケンジ 本橋 健次 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		プラズマ物理学	1・2 前	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	
18	兼任	准教授	シバタ ジュンヤ 柴田 純也 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		物性物理学 【隔年】	1・2 前	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平22. 4)	
19	兼任	准教授	モノノベシユウジ 物部 秀二 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		光科学 【隔年】	1・2 後	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	
20	兼任	准教授	ヨシノ タカシ 吉野 隆 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		シミュレーション学	1・2 後	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	
21	兼任	非常勤 講師	アライ ミツル 新井 充 ＜平成26年4月＞		工学 博士		反応化学特論 【隔年】	1・2 後 集中	2	1	東京大学 環境 安全研究セン ター 教授 (平17. 9)	
22	兼任	非常勤 講師	ウエダ タカヒロ 上田 貴洋 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		分析化学特論 【隔年】	1・2 前 集中	1	1	大阪大学総合学 術博物館 教授 (平24. 4)	
23	兼任	客員 教授	カメクラマサヒロ 亀倉 正博 ＜平成26年4月＞		農学 博士		応用微生物化学特論 【隔年】 バイオ・食品機器分析特 論 【隔年】	1・2 前 1・2 前	2 2	1 1	(財)野田産業 科学研究所主任 研究員 (平18. 10ま で)	
24	兼任	客員 教授	ハギワラ トキオ 萩原 時男 ＜平成26年4月＞		工学 博士		高分子材料科学特論 【隔年】 有機化学特論 【隔年】	1・2 前 集中 1・2 後 集中	2 2 1	1 1	埼玉工業大学大 学院工学研究科 教授 (平10. 4)	

[illegible]

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科機能システム専攻)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
4	専	教授	ハラヤマ タカヒサ 原山 卓久 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		熱統計力学特論 機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特別研究Ⅲ 機械科学特別研究Ⅳ 機械科学特別輪講Ⅰ 機械科学特別輪講Ⅱ 機械科学特別輪講Ⅲ 機械科学特別輪講Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅰ 機能システム特殊研究Ⅱ 機能システム特殊研究Ⅲ 機能システム特殊研究Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅴ 機能システム特殊研究Ⅵ 機能システム研究指導	1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － －	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平23. 4)	5日
5	専	教授	カンダ ユウイチ 神田 雄一 ＜平成26年4月＞		工学博士		先端生産加工システム特論 ベンチャー・サイエンス特論 機械融合特別研究Ⅰ 機械融合特別研究Ⅱ 機械融合特別研究Ⅲ 機械融合特別研究Ⅳ 機械融合特別輪講Ⅰ 機械融合特別輪講Ⅱ 機械融合特別輪講Ⅲ 機械融合特別輪講Ⅳ	1・2後 1・2後集中 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
6	専	教授	マツモト アキヒロ 松元 明弘 ＜平成26年4月＞		工学博士		ロボット工学特論 機械融合特別研究Ⅰ 機械融合特別研究Ⅱ 機械融合特別研究Ⅲ 機械融合特別研究Ⅳ 機械融合特別輪講Ⅰ 機械融合特別輪講Ⅱ 機械融合特別輪講Ⅲ 機械融合特別輪講Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅰ 機能システム特殊研究Ⅱ 機能システム特殊研究Ⅲ 機能システム特殊研究Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅴ 機能システム特殊研究Ⅵ	1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － －	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
7	専	教授	ワタ ノボル 和田 昇 ＜平成26年4月＞		Ph. D. in Physics (米国)		材料科学特論 機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特別研究Ⅲ 機械科学特別研究Ⅳ 機械科学特別輪講Ⅰ 機械科学特別輪講Ⅱ 機械科学特別輪講Ⅲ 機械科学特別輪講Ⅳ	1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
8	専	准教授	モノノベシユウジ 物部 秀二 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		電磁気学特論 【隔年】 光学 【隔年】 機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特別研究Ⅲ 機械科学特別研究Ⅳ 機械科学特別輪講Ⅰ 機械科学特別輪講Ⅱ 機械科学特別輪講Ⅲ 機械科学特別輪講Ⅳ	1・2前 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	5日

別記様式第3号（その2の1）

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科機能システム専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	准教授	ヤマカワ サトコ 山川 聡子 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		制御工学特論 機械融合特別研究Ⅰ 機械融合特別研究Ⅱ 機械融合特別研究Ⅲ 機械融合特別研究Ⅳ 機械融合特別輪講Ⅰ 機械融合特別輪講Ⅱ 機械融合特別輪講Ⅲ 機械融合特別輪講Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅰ 機能システム特殊研究Ⅱ 機能システム特殊研究Ⅲ 機能システム特殊研究Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅴ 機能システム特殊研究Ⅵ	1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1前 2前 2後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － － －	1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	5日
10	専	准教授	ヨシノ タカシ 吉野 隆 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		形の科学特論 【隔年】 シミュレーション学 機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特別研究Ⅲ 機械科学特別研究Ⅳ 機械科学特別輪講Ⅰ 機械科学特別輪講Ⅱ 機械科学特別輪講Ⅲ 機械科学特別輪講Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅰ 機能システム特殊研究Ⅱ 機能システム特殊研究Ⅲ 機能システム特殊研究Ⅳ 機能システム特殊研究Ⅴ 機能システム特殊研究Ⅵ	1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － － －	1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	5日
11	専	准教授	フジマツ ノブヨシ 藤松 信義 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		エアロスペース科学特論【隔年】 流体物理学特論【隔年】 機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特別研究Ⅲ 機械科学特別研究Ⅳ 機械科学特別輪講Ⅰ 機械科学特別輪講Ⅱ 機械科学特別輪講Ⅲ 機械科学特別輪講Ⅳ	1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平23. 4)	5日
12	専	講師	ヤマダ カズアキ 山田 和明 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		知能システム工学特論 機械融合特別研究Ⅰ 機械融合特別研究Ⅱ 機械融合特別研究Ⅲ 機械融合特別研究Ⅳ 機械融合特別輪講Ⅰ 機械融合特別輪講Ⅱ 機械融合特別輪講Ⅲ 機械融合特別輪講Ⅳ	1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 講師 (平21. 4)	5日
13	兼任	教授	コヤマ シンヤ 小山 信也 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		解析学	1・2後	2	1	東洋大学 理工学部 教授 (平22. 4)	
14	兼任	教授	ヨシダ ヨシカズ 吉田 善一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		応用物理学	1・2前	2	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
15	兼任	教授	ヨシダ ヒロユ 吉田 宏予 ＜平成26年4月＞		修士 (文学)		サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前集中	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
16	兼任	教授	ヨシダ ヤスヒロ 吉田 泰彦 ＜平成26年4月＞		工学 博士		エコロジーと化学【隔年】 ナノサイエンス【隔年】	1・2前 1・2後	1 1	1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
17	兼任	教授	カウヤ オミノリ 川瀬 義矩 ＜平成26年4月＞		工学 博士		エコロジーと化学【隔年】	1・2前	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
18	兼任	教授	Dasappan Nair Sakthi Kumar ＜平成26年4月＞		Ph. D. in Physics (印度)		ナノサイエンス【隔年】	1・2後	1	1	東洋大学大学院学際・融合科学研究科教授 (平25. 4)	

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科機能システム専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
19	兼担	教授	アキヤマ テツカズ 秋山 哲一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス 特論	1・2 後 集中	1	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	
20	兼担	准教授	モトハシ ケンジ 本橋 健次 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		プラズマ物理学	1・2 前	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	
21	兼担	准教授	シバタ ジュンヤ 柴田 絢也 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		物性物理学 【隔年】	1・2 前	2	1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平22. 4)	

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科電気電子情報専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担単 位数	当年 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	イトウ シグオ 伊藤 繁夫 ＜平成26年4月＞		工学博士		電磁気学特論 【隔年】 電磁波工学特論 【隔年】 情報通信特別研究Ⅰ 情報通信特別研究Ⅱ 情報通信特別研究Ⅲ 情報通信特別研究Ⅳ 情報通信特別輪講Ⅰ 情報通信特別輪講Ⅱ 情報通信特別輪講Ⅲ 情報通信特別輪講Ⅳ	1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
2	専	教授	カトウ ショウヘイ 加藤 正平 ＜平成26年4月＞		工学博士		電気回路特論 【隔年】 高電圧・放電物理特論 【隔年】 エネルギー・制御特別研究Ⅰ エネルギー・制御特別研究Ⅱ エネルギー・制御特別研究Ⅲ エネルギー・制御特別研究Ⅳ エネルギー・制御特別輪講Ⅰ エネルギー・制御特別輪講Ⅱ エネルギー・制御特別輪講Ⅲ エネルギー・制御特別輪講Ⅳ	1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
3	専	教授 (専攻主任)	キモト タダヒコ 木本 伊彦 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		画像情報処理特論 電気電子情報特別講義 【隔年】 情報通信特別研究Ⅰ 情報通信特別研究Ⅱ 情報通信特別研究Ⅲ 情報通信特別研究Ⅳ 情報通信特別輪講Ⅰ 情報通信特別輪講Ⅱ 情報通信特別輪講Ⅲ 情報通信特別輪講Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅰ 電気電子情報特殊研究Ⅱ 電気電子情報特殊研究Ⅲ 電気電子情報特殊研究Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅴ 電気電子情報特殊研究Ⅵ 電気電子情報研究指導	1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後 2前 1前 1後 2前 2後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
4	専	教授	コムロ シュウジ 小室 修二 ＜平成26年4月＞		工学博士		電子デバイス特論 エレクトロニクス特別研究Ⅰ エレクトロニクス特別研究Ⅱ エレクトロニクス特別研究Ⅲ エレクトロニクス特別研究Ⅳ エレクトロニクス特別輪講Ⅰ エレクトロニクス特別輪講Ⅱ エレクトロニクス特別輪講Ⅲ エレクトロニクス特別輪講Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅰ 電気電子情報特殊研究Ⅱ 電気電子情報特殊研究Ⅲ 電気電子情報特殊研究Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅴ 電気電子情報特殊研究Ⅵ 電気電子情報研究指導	1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日

[illegible]

[illegible]

(用紙 日本工業規格 A 4 縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科電気電子情報専攻)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 講 義 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	専	准教授	ヤマザキ タケアキ 山崎 大明 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		応用解析学特論 情報通信特別研究Ⅰ 情報通信特別研究Ⅱ 情報通信特別研究Ⅲ 情報通信特別研究Ⅳ 情報通信特別輪講Ⅰ 情報通信特別輪講Ⅱ 情報通信特別輪講Ⅲ 情報通信特別輪講Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅰ 電気電子情報特殊研究Ⅱ 電気電子情報特殊研究Ⅲ 電気電子情報特殊研究Ⅳ 電気電子情報特殊研究Ⅴ 電気電子情報特殊研究Ⅵ 電気電子情報研究指導	1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3前・後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 － － － － － － － － － － － － － － －	1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平23. 4)	5日
13	兼任	教授	コヤマ シンヤ 小山 信也 ＜平成26年4月＞		博士 (理学)		解析学	1・2後	2	1	東洋大学 理工学部 教授 (平22. 4)	
14	兼任	教授	ヨシダ ヨシカズ 吉田 善一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		応用物理学	1・2前	2	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
15	兼任	教授	ヨシダ ヒロヨ 吉田 宏予 ＜平成26年4月＞		修士 (文学)		サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前集中	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
16	兼任	教授	ヨシダ ヤスヒロ 吉田 泰彦 ＜平成26年4月＞		工学 博士		エコロジーと化学【隔年】 ナノサイエンス【隔年】	1・2前 1・2後	1 1	1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
17	兼任	教授	カワセ ノリ 川瀬 義矩 ＜平成26年4月＞		工学 博士		エコロジーと化学【隔年】	1・2前	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
18	兼任	教授	ダサパン Dasappan ナイル サクチ Nair Sakthi クマール Kumar ＜平成26年4月＞		Ph. D. in Physics (印度)		ナノサイエンス【隔年】	1・2後	1	1	東洋大学大学院学際・融合科学研究科教教授 (平25. 4)	
19	兼任	教授	アマコ ジュン 尼子 淳 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		サイエンス・イングリッシュ特論	1・2前集中	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平24. 4)	
20	兼任	教授	カンダ ユウイチ 神田 雄一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス特論	1・2後集中	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
21	兼任	教授	アキヤマ テツカズ 秋山 哲一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス特論	1・2後集中	1	1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	
22	兼任	准教授	モトハシ ケンジ 本橋 健次 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		プラズマ物理学	1・2前	2	1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	
23	兼任	准教授	モノノベシユウジ 物部 秀二 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		光科学 【隔年】	1・2後	2	1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	
24	兼任	准教授	ヨシノ タカシ 吉野 隆 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		シミュレーション学	1・2後	2	1	東洋大学 理工学部 准教授 (平21. 4)	

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
1	専	教授	スズキ タカノブ 鈴木 崇伸 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		耐震設計特論 【隔年】 都市ライフライン工学特 論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 後 1・2 後 1前 2 1後 2 2前 2 2後 1前 2 1後 2 2前 2 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
2	専	教授	タナカ シュウソウ 田中 修三 ＜平成26年4月＞		工学 博士		リモートセンシング特論 【隔年】 都市環境デザイン特別講 義Ⅱ 【隔年】 水圏環境工学特論 【隔年】 流域圏環境システム特論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 後 1・2 前 集中 後 1・2 後 1・2 後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
3	専	教授 (専攻主任)	イシダ テツロウ 石田 哲朗 ＜平成26年4月＞		工学 博士		地盤工学特論 【隔年】 地盤環境学特論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 後 1・2 後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
4	専	教授	フクテ ツトム 福手 勤 ＜平成26年4月＞		工学 博士		コンクリート工学特論 【隔年】 都市メンテナンス特論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
5	専	教授	スナガ マコト 須長 誠 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		環境材料工学特論 【隔年】 都市環境デザイン特別講 義Ⅰ 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
6	専	教授	フクイ ヨシタカ 福井 吉孝 ＜平成26年4月＞		工学 博士		流域圏環境システム特論 【隔年】	1・2 前	2	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
7	専	准教授	ムラノ アキト 村野 昭人 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		都市環境政策学特論 【隔年】 環境経済特論 【隔年】 社会経営学特論 【隔年】 環境分析特論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1・2 後 1・2 後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科都市環境デザイン専攻博士前期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
8	専	准教授	オйкаワヤスシ 及川 康 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		都市計画デザイン特論 【隔年】 交通マネジメント特論 【隔年】 プロジェクトマネジメン ト特論 【隔年】 都市環境デザイン特別研 究Ⅰ 都市環境デザイン特別研 究Ⅱ 都市環境デザイン特別研 究Ⅲ 都市環境デザイン特別研 究Ⅳ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅰ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅱ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅲ 都市環境デザインプロ ジェクト特別演習Ⅳ	1・2 後 1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平24. 4)	5日
9	兼任	教授	ヨシダ ヒロヨ 吉田 宏予 ＜平成26年4月＞		修士 (文学)		サイエンス・イングリッ シュ特論	1・2 前 集中	1	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	
10	兼任	教授	アマコ ジュン 尼子 淳 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		サイエンス・イングリッ シュ特論	1・2 前 集中	1	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平24. 4)	
11	兼任	教授	カンダ ユウイチ 神田 雄一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス 特論	1・2 後 集中	1	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	
12	兼任	教授	アキヤマ テツカズ 秋山 哲一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス 特論	1・2 後 集中	1	1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科建築学専攻博士前期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担単 位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する週当たり平均日数
1	専	教授	タナカ タケヒロ 田中 毅弘 ＜平成26年4月＞		工学 博士 Doctor of Philoso phy on Human behavio r (米国)		建築環境工学特論 【隔年】 ファシリティマネジメント特論 【隔年】 特別設計演習Ⅰ 特別設計演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2前 1・2前 1前 1後 1前 集中 1前 集中 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平24. 4)	5日
2	専	教授 (委員長)	アキヤマ テツカズ 秋山 哲一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		建築ストックマネジメント特論 【隔年】 地域生産システム特論 【隔年】 ベンチャー・サイエンス特論 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2前 1・2前 1・2後 集中 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
3	専	教授	マツノ コウイチ 松野 浩一 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		構造デザイン特論 【隔年】 木質構造学特論 【隔年】 特別設計演習Ⅰ 特別設計演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2後 1・2後 1後 1後 1前 1後 集中 1前 集中 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日
4	専	教授	クドウ カズミ 工藤 和美 ＜平成26年4月＞		工学 修士※		空間デザイン特論 都市・建築特論 【隔年】 特別設計演習Ⅰ 特別設計演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ インターンシップⅢ インターンシップⅣ インターンシップⅤ 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2前 1・2後 1前 1後 1前 1前 集中 1前 集中 2前 集中 2前 集中 2前 集中 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2	1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 (平21. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
（理工学研究科建築学専攻博士前期課程）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 （就任年月）	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
5	専	教授	ウラエ マサト 浦江 真人 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ビルディングシステム特 論 【隔年】 建設産業経営特論 【隔年】 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2 後 1・2 後 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平25. 4）	5日
6	専	教授	マツシタ ヨシオ 松下 吉男 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		構造解析学特論 【隔年】 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2 後 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平25. 4）	5日
7	専	准教授 （専攻主任）	ノザワ チエ 野澤 千絵 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		まちづくり計画特論 【隔年】 建築・都市法規特論 【隔年】 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 （平21. 4）	5日
8	専	准教授	シノザキマサヒコ 篠崎 正彦 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		建築計画特論 【隔年】 生活空間計画特論 【隔年】 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 （平21. 4）	5日
9	専	准教授	カトリ ケイイチ 香取 慶一 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		構造材料学特論 【隔年】 防災構造特論 【隔年】 建築学特別研究Ⅰ 建築学特別研究Ⅱ 建築学特別研究Ⅲ 建築学特別研究Ⅳ 建築学特別演習Ⅰ 建築学特別演習Ⅱ 建築学特別演習Ⅲ 建築学特別演習Ⅳ	1・2 前 1・2 前 1前 1後 2前 2後 2前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 （平21. 4）	5日
10	兼任	教授	ヨシダ ヒロヨ 吉田 宏予 ＜平成26年4月＞		修士 （文学）		サイエンス・イングリッ シュ特論	1・2 前 集中	1 1	1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平21. 4）	
11	兼任	教授	アマコ ジュン 尼子 淳 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		サイエンス・イングリッ シュ特論	1・2 前 集中	1 1	1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平24. 4）	
12	兼任	教授	カンダ ユウイチ 神田 雄一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		ベンチャー・サイエンス 特論	1・2 後 集中	1 1	1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平21. 4）	
13	兼任	非常勤 講師	タカクサギ アキラ 高草木 明 ＜平成26年4月＞		博士 （工学）		設備システムデザイン特 論 【隔年】	1・2 後	2 2	1 1	東洋大学 理工 学部 教授 （平21. 4）	
14	兼任	客員 教授	チカズミシンイチ 近角 真一 ＜平成26年4月＞				建築学特別講義Ⅰ 【隔年】 建築学特別講義Ⅱ 【隔年】	1・2 後 集中 1・2 後 集中	2 2 2 2	1 1 1 1	株式会社建築都 市デザイン研究 所 所長 （昭60. 7）	

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科建築・都市デザイン専攻博士後期課程)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	専	教授	スズキ タカノブ 鈴木 崇伸 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3 前・後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
2	専	教授	タナカ シュウゾウ 田中 修三 ＜平成26年4月＞		工学 博士		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3 前・後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
3	専	教授 (専攻主任)	イシダ テツロウ 石田 哲朗 ＜平成26年4月＞		工学 博士		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3 前・後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
4	専	教授	スナガ マコト 須長 誠 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
5	専	教授	タナカ タケヒロ 田中 毅弘 ＜平成26年4月＞		工学 博士 Doctor of Philoso phy on Human behavio r (米国)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3 前・後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平24. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科建築・都市デザイン専攻博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 た り 平 均 日 数
6	専	教授 (委員長)	アキヤマ テツカズ 秋山 哲一 ＜平成26年4月＞		工学 博士		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・ 2・3 前・ 後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
7	専	教授	マツノ コウイチ 松野 浩一 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・ 2・3 前・ 後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
8	専	教授	クドウ カズミ 工藤 和美 ＜平成26年4月＞		工学 修士※		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平21. 4)	5日
9	専	教授	ウラエ マサト 浦江 真人 ＜平成26年4月＞		工学 博士		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平25. 4)	5日
10	専	教授	マツシタ ヨシオ 松下 吉男 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 教授 (平25. 4)	5日
11	専	准教授	ムラノ アキト 村野 昭人 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(理工学研究科建築・都市デザイン専攻博士後期課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
12	専	准教授	オйкаワヤスシ 及川 康 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	— — — — — —	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平24. 4)	5日
13	専	准教授	ノザワ チェ 野澤 千絵 ＜平成26年4月＞		博士 (工学)		建築・都市デザイン特殊 研究Ⅰ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅱ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅲ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅳ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅴ 建築・都市デザイン特殊 研究Ⅵ 建築・都市デザイン研究 指導	1前 1後 2前 2後 3前 3後 1・2・3 前・後	— — — — — — —	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工 学部 准教授 (平21. 4)	5日

（理工学研究科 生体医工学専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	6 人	3 人	人	人	9 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	7 人	3 人	人	人	10 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 生体医工学専攻 博士後期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4 人	3 人	人	人	7 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	6 人	3 人	人	人	9 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 応用化学専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2 人	2 人	2 人	2 人	8 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	3 人	2 人	2 人	2 人	9 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1 人	2 人	2 人	1 人	6 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	2 人	2 人	2 人	1 人	7 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 機能システム専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3 人	2 人	1 人	1 人	7 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	3 人	1 人	人	人	人	4 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	4 人	4 人	2 人	1 人	1 人	12 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 機能システム専攻 博士後期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3 人	1 人	1 人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1 人	1 人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1 人	4 人	1 人	1 人	人	7 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 電気電子情報専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	5 人	1 人	3 人	人	9 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2 人	1 人	人	人	人	3 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2 人	6 人	1 人	3 人	人	12 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 電気電子情報専攻 博士後期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4 人	1 人	1 人	人	6 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2 人	人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2 人	4 人	1 人	1 人	人	8 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 都市環境デザイン専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1 人	1 人	3 人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2 人	人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2 人	1 人	1 人	3 人	人	7 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 建築学専攻 博士前期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2 人	1 人	2 人	人	5 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2 人	1 人	人	人	人	3 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2 人	3 人	1 人	2 人	人	8 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（理工学研究科 建築・都市デザイン専攻 博士後期課程）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3 人	2 人	4 人	人	9 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	3 人	人	人	人	人	3 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	3 人	3 人	2 人	4 人	人	12 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	